2026年度

大学院シラバス

商　学　研　究　科

明治大学大学院

明治大学校歌

明治大学校歌
児玉花外　作詩
山田耕筰　作曲

一

白雲なびく駿河台
眉秀でたる若人が
撞くや時代の暁の鐘
文化の潮みちびきて
遂げし維新の栄になふ
明治その名ぞ吾等が母校
明治その名ぞ吾等が母校

二

権利自由の揺籃の
歴史は古く今もなほ
強き光に輝けり
独立自治の旗翳し
高き理想の道を行く
我等が健児の意気をば知るや
我等が健児の意気をば知るや

三

霊峰不二を仰ぎつつ
刻苦研鑽他念なき
我等に燃ゆる希望あり
いでや東亜の一角に
時代の夢を破るべく
正義の鐘を打ちて鳴らさむ
正義の鐘を打ちて鳴らさむ

目　　次

2026 年度大学院学年暦・行事予定 …… 2
授業時間割 …… 3
人材養成その他教育研究上の目的 …… 4
入学者受入方針 …… 5
教育課程編成・実施方針 …… 6
学位授与方針 …… 7
修士学位取得のためのガイドライン …… 8
博士学位取得のためのガイドライン …… 11
履修登録について …… 15
科目ナンバリングについて …… 17
他大学大学院の聴講について …… 18

博士前期課程
　履修方法・修了要件、履修にあたっての注意事項 …… 21
　授業科目及び担当者 …… 22
　シラバス …… 29

博士後期課程
　履修方法・修了要件、履修にあたっての注意事項 …… 171
　授業科目及び担当者 …… 172
　シラバス …… 175

交通遅延発生時の授業等の措置について …… 215
大規模地震等災害発生時の対応について …… 215
大地震発生時の避難マニュアル（駿河台キャンパス）［学生用］ …… 218

◎2026年度 大学院学年暦・行事予定（2026年4月～2027年3月）

＜春学期＞

時間割・履修関連書類配布 【学生証有効期限・通学区間】証明（学生証裏面シール）更新 各研究科新年度ガイダンス	2026年 4月1日（水）～
入学式	4月7日（火）
授業開始	4月10日（金）
研究論集提出締切日（9月発刊分）	4月9日（木）10:00まで
履修届・履修計画書提出（M・D）	4月17日（金）～4月20日（月）
WEB履修登録（Mのみ）	4月17日（金）10:00～4月20日（月）10:00
個人別時間割表公開	4月20日（月）12:00～
履修修正期間	4月20日（月）12:00～4月22日（水）15:00
休日授業実施日	4月29日（水）〔昭和の日〕
臨時休業（休講）日	5月1日（金）・5月2日（土）
研究論集予備登録（2月発刊分）	6月22日（月）～6月26日（金）10:00
休日授業実施日	7月20日（月）〔海の日〕
授業終了日	7月22日（水）
夏季休業	8月1日（土）～9月19日（土）
研究論集発刊	9月4日（金）

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

＜秋学期＞

研究論集提出締切日（2月発刊分）	9月18日（金）10:00まで
授業開始	9月20日（日）
履修修正期間	9月21日（月）～9月30日（水）
休日授業実施日	9月21日（月）〔敬老の日〕
休日授業実施日	9月22日（火）〔国民の休日〕
修士論文予備登録	10月1日（木）10:00～10月5日（月）15:00
休日授業実施日	10月12日（月）〔スポーツの日〕
大学祭週間（全日休講）	10月29日（木）～11月3日（火）
大学祭（明大祭・生明祭）	10月30日（金）～11月1日（日）
創立記念祝日	11月1日（日）
休日授業実施日	11月23日（月）〔勤労感謝の日〕
臨時休業（休講）日	12月23日（水）・12月24日（木）
冬季休業	2027年 12月25日（金）～1月7日（木）
修士論文提出日	1月8日（金）10:00～1月12日（火）15:00
創立記念日	1月17日（日）
臨時休業（休講）日	2026年度は1月中の臨時休業日無し
授業終了	1月23日（土）
修士論文面接試問	2月3日（水）
研究論集発刊	2月26日（金）
修了通知	3月初旬
研究論集予備登録（9月発刊分）	3月8日（月）～3月12日（金）10:00
修了式	3月26日（金）

※予定は変更されることがあります。変更や詳細については、Oh-o! Meiji等でお知らせします。

◎授業時間割

〔全キャンパス共通〕

学部・大学院
専門職大学院（法務研究科、会計専門職研究科）
【月～土曜日】

時　　限	時　間　帯
1　時　限	9：00～10：40
2　時　限	10：50～12：30
3　時　限	13：30～15：10
4　時　限	15：20～17：00
5　時　限	17：10～18：50
6　時　限	19：00～20：40

※経営学研究科博士前期課程マネジメントコースは平日夜間および土曜日に授業を実施しています。
　授業時間は下記の表のとおりとなります。（土曜日は上記の表の時間帯です。）

時　　限	時　間　帯
マネジメント１時限（Ｍ１時限）	18：00～19：40
マネジメント２時限（Ｍ２時限）	19：50～21：30

〔駿河台キャンパス〕

専門職大学院（ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科）
【月～金曜日】

時　　限	時　間　帯
1　時　限	9：00～10：30
2　時　限	10：40～12：10
3　時　限	13：00～14：30
4　時　限	14：40～16：10
5　時　限	16：20～17：50
6　時　限	18：55～20：25
7　時　限	20：30～22：00

※ガバナンス研究科、グローバル・ビジネス研究科の平日授業は90分で授業を実施します。

人材養成その他教育研究上の目的

〔商学研究科〕

商学研究科は、我が国における「商学のパイオニア」としての長き伝統を持つ商学部の教育を基礎に、商学の各分野における、より高度な専門的知識を教授することにより、将来第一線の研究者及び高度専門職業人の育成を図ることを目的とする。

博士前期課程では、幅広く高度な商学関連知識を教授することにより優れた問題解決能力及び研究能力の基礎を修得させ、自立して活動できる高度専門職業人と基礎的研究能力を習得した研究者の養成を目的とし、博士後期課程では、グローバルな視野に立脚し最先端の高度な専門的知識を教授することによって、革新的な知識の創造力を持った研究者の養成を目的とする。

【商学専攻】

商学専攻では、商学研究科の目的の下、「商（Commerce）」にかかわる現象及び活動を多面的・多角的に攻究する。専攻には、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の８つの系列を設置し、各系列では、少人数教育を基本とし、学問の進展を考慮して基礎から最先端までの知識と分析手法を効果的に修得できるようになることを目的とする。

明治大学大学院商学研究科
「入学者受入」、「教育課程編成・実施」、「学位授与」方針

【入学者受入方針】

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程は、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の８系列を設置し、少人数教育を通じて、これらの分野における、さらにはこれらの分野を基礎とする学際的研究領域における研究者又は高度専門職業人として自立的に活動できる革新性と創造性に富む人材の養成を目的としています。そこで次のような学生を求めています。

（１）　商学分野における研究を遂行するのに必要な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に社会にとって有用な研究を公正に行うことのできる価値観を有する者。

（２）　商学に関する高度な専門知識を備えた職業人として職務を全うするのに十分な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に自らの職務を通じて社会の発展に寄与する熱意を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験、３年早期卒業予定者入学試験、明治大学商学部卒業生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を次の通り求めます。

（１）　商学分野における基礎的な知識

（２）　研究遂行上の明確な問題意識と達成目標

（３）　自立的な研究活動に必須の計画的行動力と課題解決力

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程は、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の８系列を設置し、少人数教育を通じて、これらの分野における、さらにはこれらの分野を基礎とする学際的研究領域における最新の研究動向とそれに関連するビジネスの実際に通じ、大学ならびに各種研究機関において第一線の専門研究者として世界的に活躍できる人材の養成を目的としています。そこで次のような学生を求めています。

商学分野における第一線の専門研究者として研究を遂行するのに十分な知識と能力を身につけることができ、かつそのための努力を惜しまない者。同時に社会にとって有用な研究を公正に行うことのできる価値観と、研究を通じて社会の発展に寄与する使命感を有する者。

以上の求める学生像に基づき、学内選考入学試験、一般入学試験、外国人留学生入学試験を実施し、入学者選抜を行います。

なお、修得しておくべき知識等の内容・水準を次の通り求めます。

（１）　商学及び隣接分野の幅広い知識に裏づけられた専攻分野に関する専門知識

（２）　論理的に卓越した研究を展開し得る問題解決能力及び課題探究能力

（３）　研究成果を国内外に発信し得るコミュニケーション能力

【教育課程編成・実施方針】

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程は、商学分野における研究者ならびに高度専門職業人を養成するため、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の８系列を設置し、少人数教育を基本とする、特色のある教育・研究活動を行っています。各系列のカリキュラムは最新の研究動向とビジネスの現場における状況を考慮して、必要とされる科目をバランスよく配置し、基礎から最先端までの知識と分析手法を効果的に修得できるように配慮されている一方で、系列、さらには研究科を超えた科目履修も可能であり、幅広い関連知識に基礎づけられた精深な学識を教授し、卓越した研究能力を修得させる体制を整えています。

学生は、指導教員の指導の下、さまざまな講義に出席し定められた単位を修得することで必要な知識を身に付け、あわせて修士論文を作成するための研究指導を受けることを通じて、研究者又は高度専門職業人への第一歩を踏み出すことができます。

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程は、大学ならびに各種研究機関において商学分野の第一線の専門研究者として世界的に活躍できる人材を養成するため、経済、商業、経営、会計、金融・証券、保険、交通及び貿易の８系列を設置し、少人数教育を基本とする、特色のある教育・研究活動を行っています。進展めまぐるしい現代の商学研究を理解し、次世代の研究をリードするのに十分な知識と能力を備えた専門研究者を育成するために必要なカリキュラムが設置されており、また指導教員による論文の執筆と学会・研究会での研究報告という研究者に不可欠な活動に対するマンツーマンの指導が行われます。研究指導は、それぞれの研究分野において第一線の研究者として活躍を続けている教員スタッフが担当します。

学生は、こうした教育体制の下、指導教員を中心とする教員スタッフからの研究指導を受けることを通じて専門研究者としての知識と能力を身につけることができます。

【学位授与方針】

【博士前期課程】

商学研究科博士前期課程において修士学位を取得するためには、所定の期間以上在学し、所定の授業科目の単位（32 単位）を平均「B」以上の成績評価で修得し、指導教員から研究指導を受ける必要があります。この修了要件を充たし、かつ、学業成績及び学位論文から、次に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し、修士（商学）の学位を授与します。

幅広く高度な商学関連知識に基づいた専攻分野における優れた問題解決能力及び研究遂行能力

【博士後期課程】

商学研究科博士後期課程において博士学位を取得するためには、所定の期間以上在学し、指導教員から研究指導を受ける必要があります。また、本研究科の定める修了要件を充たし、博士学位を請求するにふさわしいと認められる研究業績及び学位論文から、次に示す資質や能力を備えたと認められる者に対し、博士（商学）の学位を授与します。

最先端の高度な商学関連知識を修得し、専攻分野における自立した研究者として国内外で研究活動を展開し得る、革新的で論理的な知識の創造力

明治大学大学院商学研究科
修士学位取得のためのガイドライン

【本研究科で授与する学位】

商学専攻　修士（商学）　　Master of Commerce

【修士学位請求の要件】

在学期間

本研究科博士前期課程（修士課程）に２年以上在学し、所定の研究指導を受けていること。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て博士前期課程（修士課程）に１年以上在学すれば足りるものとする（要修業年限短縮申請）。

単位要件

(1)修了要件

ア　本研究科の博士前期課程においては、３２単位以上を修得しなければならない。

イ　本研究科の授業科目の中から専修科目を選定し、その１２単位（講義４単位、演習８単位）を必修するものとする。

ウ　専修科目以外の授業科目から、２０単位以上を修得しなければならない。

エ　前項の履修単位のうち８単位までは、他大学院及び他研究科（専門職学位課程を含む。）の授業科目の単位を含めることができる。

オ※ ウの履修単位のうち８単位までは、別表１の２に規定する研究科間共通科目の単位を含めることができる。

カ　指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

(2)上記に定める単位を修得し、その成績が平均「B」以上の者。

※オについては
入学年度によって異なる
（詳細は P.21 参照）

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導

入学時に決定している指導教員が研究指導の責任を負う。

指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、専修科目によって修士学位請求論文を作成する。

(1) １年次の４月に、指導教員の助言に基づき、修士学位請求論文作成のための研究計画を立てる。

(2) ２年次の４月上旬までに、「研究経過報告書」を提出する。指導教員が必要と認めれば、研究計画の修正・見直しを行う。

(3) ２年次の７月上旬に「修士学位請求論文中間報告」として「論文構想」を発表する。教員、大学院生の指導・助言を研究に反映させるとともに、論文の改善をはかる。

【修士論文に求められる要件】

修士論文は、幅広く高度な商学関連知識に基づいた専攻分野における優れた問題解決能力及び研究遂行能力が認められるものでなければならない。具体的な修士論文の要件として、以下の項目を挙げる。

(1) 研究テーマの適切性
(2) 先行研究調査の綿密性
(3) 理論的または実証的分析の十分性
(4) 論旨・主張の統合性および一貫性
(5) 論理構成上の体系性
(6) 形式的要件の充足性
(7) 研究成果の独創性

【修士学位請求論文等の提出書類・提出期日】※詳細は「修士学位請求論文」等の作成・提出要領参照

予備登録

(1)予備登録時期は論文提出年度の１０月上旬とする。
(2)論文提出予定者は、必ず指導教員と相談のうえ、論文題名（仮題でも可）を登録すること。
(3)予備登録時に「論文作成・提出要領」の他、「修士学位請求書」及び論文用「扉」をホームページからダウンロードすること。

論文提出

(1)論文提出時期は論文提出年度の１月上旬とする。
(2)詳細は予備登録時に公開する「作成・提出要領」にて確認する。
(3)論文提出受付は、指定提出日・指定時間内のみとする。提出締め切り時間経過後は、理由の如何を問わず受け付けない。

提出書類等

(1)「修士学位請求書」【本学所定様式】
必要事項を記入し、指導教員の承認をうけ、提出すること。
※この請求書に記載された論文題名を正とする。
なお、論文題名に副題がある場合は、ダッシュ（―）で最初と最後を括ること。

(2)「修士学位請求論文」（下記①～④により完成されたもの）
①用紙：Ａ４判（横書き又は縦書き）
図表・資料もＡ４判で作成すること。
②字数：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※必ずページ番号を付すこと。
③書式：制限なし（指導教員の指示に従うこと。）
※縦書きの場合は２段組にする等、読みやすいよう配慮すること。（論文要旨も同じ）
④論文用「扉」：必要事項を記入のうえ、論文の表紙とすること。

(3)「修士学位請求論文要旨」
Ａ４判、3,000 字程度で作成し、表紙には論文題名、所属研究科名・専攻名・氏名等を明記すること。

【学位審査の概要】

指導教員による承認

修士学位を請求しようとする者は、修士論文提出要件を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が修士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会での受理

研究科委員会は、学位請求論文に対して受理を決定し、主査１名及び副査２名以上（副査には他研究科・他大学等の研究者を選定することがある）の審査委員を選出する。

審査委員による面接試問

(1) 審査委員は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。

(2) 面接試問は論文提出年度の２月上旬に実施する。

研究科委員会の合否判定

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者には、修士学位が授与される。

【合否判定後の論文の取扱いについて】

審査に合格した論文は、本学大学院で保管し、教育・研究のために活用する。

明治大学大学院商学研究科
博士学位取得のためのガイドライン

課程博士

【本研究科で授与する学位】

商学専攻　博士（商学）　　Doctor of Commerce

【博士学位請求の要件】

在学期間

(1) 本研究科博士後期課程に３年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。

(2) 本研究科博士後期課程に３年以上在学し、所定の研究指導を受けた後退学した者にあっては、入学年月日から起算して８年以内に限り、研究科委員会の許可を得て再入学し、課程博士の学位を請求できるものとする。

修了要件

(1) 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。

(2) 指導教員が担当する授業科目２科目４単位を含む１２単位以上を修得しなければならない。

(3) 指導教員が必要と認めた場合には、研究科間共通科目を履修することができる。

研究業績

原則として、本研究科博士後期課程に入学してから学位請求書の提出時点までにおいて、学外の査読付き学術雑誌、本研究科の『商学研究論集』、本学商学部の『明大商学論叢』、本学社会科学研究所の『明治大学社会科学研究所紀要』等の学内誌に掲載された論文４編以上を必要とする。

ただし、学位請求書の提出時点までにおいて、掲載が決定している論文については、これを含めることができる。

研究倫理教育の受講

本学が定める研究倫理教育を受講していること。

研究指導

以下に掲げる本研究科学位請求までのプロセスを経ているものとする。

【学位請求までのプロセス】

研究指導

入学時に決定している指導教員が研究指導の責任を負う。

指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、専修科目によって博士学位請求論文を作成する。

(1) １年次の４月に、指導教員の助言に基づき、博士学位請求論文作成のための研究計画を立てる。

(2) 研究においては、査読付学術誌等への掲載や、全国的または国際的な学会での発表を目標とする。

(3) ２年次に中間発表を行い、教員、大学院生からコメント・意見を得る。指導教員が必要と認めた場合に、研究計画の修正・見直しを行う。

(4) ３年次の４月に、指導教員と相談の上、博士学位請求予定者登録を行う。

(5) ３年次の７月に研究科主催の「博士学位請求論文事前報告会」で論文内容を報告し、学外研究者（ＯＢなど）、教員、大学院生などからコメント・意見を得る。このことにより、論文の改善をはかる。

【博士論文に求められる要件】

「課程博士の学位」論文は、最先端の高度な商学関連知識を修得し、専攻分野における自立した研究者として国内外で研究活動を展開し得る、革新的で論理的な知識の創造力が認められるものでなければならない。さらに、本研究科の博士論文として、相応の質・量、内容・水準を備えたものでなければならない。具体的な博士論文の要件として、以下の項目があげられる。

(1) 独創性
(2) 研究テーマの学問的意義・適切性
(3) 体系性
(4) 先行研究の綿密な調査
(5) 理論的分析または実証的分析
(6) 論旨・主張の統合性と一貫性
(7) 形式的要件

【博士学位請求時の提出書類・提出期日等】

提出書類

(1) 学位請求論文
(2) 論文要旨（4,000 字程度）
(3) 学位請求書（本学所定様式）※指導教員の署名を得ること。
　論文題名は、邦文、欧文、双方を記すこと。
（欧文が英文以外の場合、英文題名も付すこと。）
(4) 履歴書（本学所定様式）
　暦年は西暦表記とする。
(5) 業績書（本学所定様式）
　暦年は西暦表記とする。
(6) 明治大学学術成果リポジトリ登録・公開許諾書

提出期日等

(1) 提出期日：9 月下旬の別途定める日まで
(2) 提出先：大学院事務室（商学研究科担当）
(3) 審査手数料：不要

【学位審査の概要】

指導教員による承認

博士学位を請求しようとする者は、博士論文提出資格を満たし、指導教員から当該論文の内容・水準・形式について確認及び指導を受け、指導教員が博士学位請求に十分な水準であるとの判断をした場合に、論文を提出することができる。

研究科委員会による受理審査

研究科執行部は提出された学位請求論文について、申請資格と当該論文の形式要件について確認を行う。研究科執行部が提出資格と論文の形式要件を満たすと判断した場合、研究科委員会を開催し、当該論文の受理について指導教員からの推薦をもとに審査し、受理の可否を決定する。

審査委員による本審査

研究科委員会は、学位請求論文としての受理を決定した論文に対して、主査１名及び副査２名以上の審査委員を選出する。

審査委員は、当該学位請求論文を中心としてこれに関連ある科目について、試問の方法により審査を行う。審査終了後、審査委員は研究科委員会に合否の提案とその理由を記した審査結果報告書を提出する。なお、審査委員による審査期間は概ね６ヶ月を標準とする。

学内機関による審査

研究科委員会は審査委員からの報告をもとに、審議のうえ投票により合否を決定する。研究科委員会で合格と認められた者は、大学院委員会の承認を経て、博士学位が授与される。

【学位審査等に関わる教員の責務】

審査委員の構成と責務

審査委員は、指導教員のほか、当該論文に関連ある科目の担当教員２名以上（審査のため必要がある場合は、研究科委員会の議を経て、講師又は他の大学院若しくは研究所等の教員等の協力を求めることがある）により構成し、厳正なる学位審査に努めるものとする。

各教員の責務

各教員は、研究科委員会における審査において、当該学位論文を公正かつ客観的に評価し、当該学位の水準を保つよう努めるものとする。

【博士学位論文の公表】

学位論文・審査要旨の公表

博士学位が授与された場合は、当該学位論文の全文、内容の要旨及び審査結果の要旨を所定のウェブサイト（明治大学学術成果リポジトリ）に公表する。

上記の公表は、本学学位規程第 22 条に準拠してこれを行わなければならない。

明治大学学位規程　第 22 条

本大学において博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から１年以内に、明治大学審査学位論文と明記して、当該学位論文の全文を公表するものとする。ただし、当該博士の学位を授与される前に、既に公表したときは、この限りでない。

2　前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむを得ない事由がある場合には、本大学の承認を受けて、当該学位論文の全文に代えて、その内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を、求めに応じ、閲覧に供するものとする。

3　前２項の規定による公表は、本大学の定めるところに従って、インターネットの利用により行うものとする。

※　上記学位規程 22 条 2 項にある「やむを得ない事由がある場合」とは、客観的に見てやむを得ない特別な理由があると本大学が承認した場合をいう。

例　①　博士論文が、立体形状による表現を含む等の理由により、インターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

②　博士論文が、著作権保護、個人情報保護等の理由により、博士の学位を授与された日から１年を超えてインターネットの利用により公表することができない内容を含む場合

③　出版刊行、多重公表を禁止する学術ジャーナルへの掲載、特許の申請等との関係で、インターネットの利用により博士論文の全文の公表により博士の学位を授与された者にとって明らかな不利益が、博士学位を授与された日から１年を超えて生じる場合

なお、これらの場合においても、やむを得ない事由が解消された際には、速やかに博士論文全文を所定のウェブサイト（明治大学学術成果リポジトリ）に公表しなければならない。

※　博士学位論文提出にあたり、学位請求者は博士学位論文をインターネットの利用により公表することについての著作権関係上の諸問題を解消しておかなければならない。

例　○　刊行物の場合、出版社の了解を得ておくこと。

○　引用の図版・写真がある場合、著作権者の同意を得ておくこと。

※　博士学位論文が、特許などの申請に関連する場合、同申請手続きについては論文提出前に行っておかなければならない。なお、手続き方法等について不明な場合は、指導教員の指示を受けた後、各キャンパスの研究知財事務室に相談すること。

本学及び国立国会図書館における公表

- 博士学位論文の要旨及び全文は「明治大学学術成果リポジトリ」に公表される。
- 明治大学学術成果リポジトリに公表された博士学位論文の要旨及び全文のデータは、国立国会図書館において利用に供される。

履修登録について

1 履修登録

毎年度初めの所定の時期に、履修科目の登録を行う必要があります。この登録を正しく行わなかった場合、受講した科目の単位が認定されないので、注意してください。

2 履修計画書の提出

各自の研究計画に基づき、研究指導教員と相談の上、WEB による履修登録とは別途に履修計画書を提出してください。

3 履修登録方法

(1) ガイダンス時に、時間割表、履修計画書を受け取ってください。
(2) 博士前期課程は WEB により、博士後期課程は専用の届出用紙により、所定の期間に履修登録を行ってください。なお、WEB による履修登録の詳細は WEB 履修登録要領を参照してください。
(3) 履修登録期間後の科目の追加、変更、取消は認められません。
(4) 病気その他やむを得ぬ理由によって履修登録期間に手続きができない場合は、事前に大学院事務室まで連絡してください。
(5) 所定の単位を取得した者は、履修登録の必要はありません。
(6) 履修登録後、個人別時間割表を各自教務システムから、所定の期間に確認してください。この期間を過ぎると修正することはできません。なお、修正は次の場合に限り認めます。その他の場合については、大学院事務室で相談してください。
　〇登録科目の誤り
　〇エラーメッセージ記載事項
　〇修了要件不足
(7) 他研究科履修をしようとする者は、大学院事務室で該当する研究科の時間割等を確認してください。所属研究科以外の時間割等は、配布できません。
(8) 他大学の授業科目を履修する場合は、「他大学大学院の履修の手続」に従ってください。

4 個人別時間割表

履修登録後、4 月下旬に教務システムで配信します。必ず確認してください。

5 履修登録スケジュール

履修計画書・時間割表の配布 ……4 月初旬
WEB 履修登録・履修計画書の提出……4 月中旬
個人別時間割表の確認 ……4 月下旬
履修登録不備の修正 ……4 月下旬
秋学期開講科目履修修正の受付 ……9 月下旬

履修登録スケジュール

各研究科別新入生ガイダンス　**４月上旬**　**※研究科の日程を確認のうえ出席すること**

- 履修計画書・授業時間割表・履修の手引き等の受領、各種事務説明

博士前期課程・修士課程　／　**博士後期課程**

指導教員と履修計画について相談のうえ、履修計画書を作成・提出する（締切：４月中旬）

※博士前期課程在籍者は、履修計画書の提出のみでは履修登録を行ったことにはなりません。以下のとおり、履修計画書に記載した科目をシステムに登録する作業が必要です。
※各手続きの日程は、ガイダンス等案内のある「WEB履修登録要領」を参照すること。

※博士後期課程在籍者は履修計画書の他に、「履修届」も提出する必要があります。（商学研究科、教養デザイン研究科を除く。）

※博士後期課程在籍者はWEB履修登録をする必要はありません。

登録期限　４月中旬

WEB履修登録システムを用いて履修登録を行う
○登録するのは当該年度に履修する科目のみ
○明治大学のホームページ上からWEB履修登録ページにアクセス
（携帯電話・スマートフォンは不可）

WEB履修非対応科目を登録する（該当者のみ）
○「WEB履修非対応科目履修届」を別途作成のうえ提出する

WEB履修非対応科目（例）
・WEBで該当曜日時限に表示されなかった科目
・研究科で履修が認められている学部設置科目

個人別時間割表を確認する（４月下旬）
○教務システムの個人別時間割表から、履修科目が正しく登録できているか必ず確認する

履修エラー等がある場合

履修登録を修正する（４月下旬）
○履修修正願を別途作成する
○履修修正期間中に提出する

履修修正後の個人別時間割表を確認する（４月下旬）
○教務システムの個人別時間割表から、登録にエラーがないかを確認する

履修エラー等がなかった場合

履修計画書の記載科目が正しく登録できているかを必ず確認！

履修登録完了

科目ナンバリングについて

2020 年度のシラバスから、本学の科目ナンバリング制度による科目ナンバーを、各授業科目シラバスに付番しています。この科目ナンバリング導入の目的、概要及び構造については以下のとおりです。

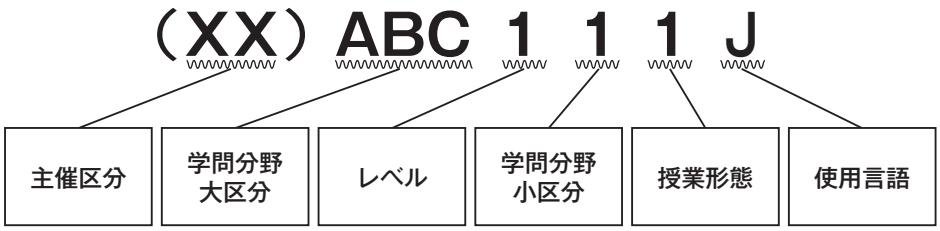
科目ナンバリング導入の目的

明治大学が開講する全ての授業科目を「学問分野」・「レベル」等で分類し、各々に科目ナンバーを付番することで、授業科目個々の学問的位置づけを示すことにより学生の計画的な学修への一助とすること、海外の大学との連携を容易とするためのツールとすること等を目的としています。

明治大学科目ナンバリングの概要及び構造

本大学が開講する全ての授業科目に、以下の科目ナンバリングコード定義に基づき、科目ナンバーを付番します。

＜科目ナンバーの構造＞



＜各ナンバリングコードの定義＞

① 主催区分コード
当該科目を開講する主催機関（学部・研究科・共通など）をアルファベット 2 文字で示しています。

② 学問分野 大区分コード
学問分野を本学が大きく区分した中で、当該科目が分類される学問分野をアルファベット 3 文字で示しています。

③ レベルコード
当該科目のレベルを数字 1 文字で示しています。

④ 学問分野小区分
本学が大区分として分類した学問分野の中で、さらに分類される分野を小区分として数字 1 文字で示しています。

⑤ 授業形態コード
当該授業の実施形態を数字 1 文字で示しています。

⑥ 使用言語コード
当該授業の教授における使用言語を英字 1 文字で示しています。

＜各コードの詳細＞

各ナンバリングコードの詳細及び他学部等の開講科目の科目ナンバーについては、本学ホームページ又は Oh-o! Meiji システムにて確認ください。

＜科目ナンバーの例＞

（CO）CMM５１１J

商学研究科／商学／大学院（修士・専門職）基礎的な内容の科目／マーケティング／講義／日本語

※ 商学研究科が設置する、商学−マーケティング分野の科目で、日本語により行われる大学院（修士・専門職）レベルの基礎的な内容の科目という意味。

以　上

他大学大学院の聴講について

他大学院との学術的提携・交流を促進し、教育・研究の充実をはかることを目的として、「大学院特別聴講制度（単位互換制度）」を設けています。

希望者は大学院事務室にて手続方法を確認してください。

他大学大学院科目履修に関わる本学の受付期間　～4月24日（金）

また、受入大学の受付期間について各自で確認し、その指示に従ってください。

大学院特別聴講生制度（単位互換制度）

これは、大学院学生が研究上の必要から、他の大学院（特別聴講生に関する協定を締結した大学院）に設置されている授業科目を履修して、その履修した単位を所属する大学院に、修了に必要な単位として認定する制度のことです。

現在、本研究科において実施されているものは、次に掲げる制度です。

(1) 明治大学大学院商学研究科商学専攻と文京学院大学（旧文京女子大学）大学院経営学研究科経営学専攻との協定

(2) 経済・経営・商学分野に関する協定

協定校	明治大学大学院	経営学研究科経営学専攻
	同	商学研究科商学専攻
	法政大学大学院	経済学研究科経済学専攻
	同	経営学研究科経営学専攻
	立教大学大学院	経済学研究科経済学専攻
	中央大学大学院	商学研究科商学専攻
	専修大学大学院	経営学研究科経営学専攻
	同	商学研究科商学専攻
		商学研究科会計学専攻

博 士 前 期 課 程

博士前期課程

Ⅰ　履修方法・修了要件

1. 本研究科の博士前期課程においては、原則として、2 年以上在学して 32 単位以上を修得しなければならない。
2. 出願時に選定した専修科目を担当する教授又は准教授を指導教員とする。
3. 指導教員が担当する専修科目 12 単位（演習 8 単位、講義 2 科目 4 単位）を必修とする。
4. 専修科目の講義 2 科目 4 単位は、指導教員以外の教授・准教授又は講師が担当する専修科目と同一授業科目名の講義 2 科目 4 単位によって代替することができる。
5. 特別テーマ研究特論 A ～ D については、4 単位を限度として履修することができる。
6. 履修単位のうち 8 単位以内を、指導教員の承認を得て、他研究科（専門職学位課程を含む）及び単位互換協定を締結している他大学院の授業科目によって代替することができる。
7. 単位の取得に際しては、第 1 年次で 20 単位以上 24 単位以内を履修することを標準とする。標準とされる履修単位を例示すると次の通りとなる。

区分 / 年次	必　修	選　択	計
	専修科目	講義・演習・文献研究	
第 1 年次	講義 4、演習 4	12	20
第 2 年次	演習 4	8	12
計	12	20	32

8. 前項 7 の標準の履修単位について、在学 1 年で特に優れた研究業績をあげうると見込まれる者は、指導教員の推薦のもと、本研究科委員会の承認を得て、2 年次必修の演習 4 単位及び選択科目 8 単位の履修を含め 1 年次において特別に 32 単位を履修することができる。詳細については、別途定める「修業年限短縮による修士学位授与」推薦基準による。
9. 修士学位請求論文は、指導教員による必要な「研究指導」を受けたうえ、専修科目によって作成・提出するものとする。
10. 指導教員が必要と認められるときは、研究科間共通科目を履修することができる。ただし、入学年度によって、次のとおり、修了要件の算入可否が異なる。

【2024年度以前入学者】 修得単位は、修了要件に含めない。

【2025年度以降入学者】 履修及び修了要件に算入できる単位数は 8 単位以内とする。

Ⅱ　履修にあたっての注意事項

履修計画書は自己の研究計画にしたがって、博士前期課程の修了に必要な履修科目のうち当該年度の科目を届け出なければならない。

授業科目及び担当者

（1）経済系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
財政学特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
統計学特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
統計学特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
統計学特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
統計学特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
経済政策論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　山田知明	
経済政策論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　山田知明	
経済政策論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　山田知明	
経済政策論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　山田知明	
産業組織論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(工学)　海老名剛	
産業組織論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(工学)　海老名剛	
産業組織論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(工学)　海老名剛	
産業組織論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(工学)　海老名剛	
国際経済学特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　高浜光信	
国際経済学特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　高浜光信	
国際経済学特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　高浜光信	
国際経済学特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　高浜光信	
計量経済学特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　水野勝之	
計量経済学特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　水野勝之	
財政学特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
統計学特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
統計学特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(経営学)　小林弦矢	
経済政策論特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　山田知明	
経済政策論特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)　山田知明	
産業組織論特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(工学)　海老名剛	
産業組織論特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(工学)　海老名剛	
国際経済学特論A	1・2	2			○		専任教授　高浜光信	
国際経済学特論B	1・2	2				○	専任教授　高浜光信	
経済学外国文献研究A	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　水野勝之	
経済学外国文献研究B	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　水野勝之	

（2）商業系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
商業理論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業理論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業理論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業理論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業経営論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商品学特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商品学特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商品学特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商品学特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
日本流通史特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　商学博士　若林幸男	
日本流通史特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　商学博士　若林幸男	
日本流通史特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　商学博士　若林幸男	
日本流通史特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　商学博士　若林幸男	
流通システム論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
流通システム論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
流通システム論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
流通システム論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
市場調査論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　福田康典	
市場調査論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　福田康典	
市場調査論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　福田康典	
市場調査論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　福田康典	
競争戦略論特論演習ⅠA	1			2	○		専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
競争戦略論特論演習ⅠB	1			2		○	専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
競争戦略論特論演習ⅡA	2			2	○		専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
競争戦略論特論演習ⅡB	2			2		○	専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
商業理論特論A	1・2	2			○		専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業理論特論B	1・2	2				○	専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業経営論特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商品学特論A	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商品学特論B	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
マーケティング管理論特論A	1・2	2			○		専任准教授　博士(経営学)　加藤拓巳	
マーケティング管理論特論B	1・2	2				○	専任准教授　博士(経営学)　加藤拓巳	
日本流通史特論A	1・2	2			○		専任教授　商学博士　若林幸男	
日本流通史特論B	1・2	2				○	専任教授　商学博士　若林幸男	
流通システム論特論A	1・2	2			○		専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
流通システム論特論B	1・2	2				○	専任教授　Dr. rer. pol.　原頼利	
市場調査論特論A	1・2	2			○		専任教授　福田康典	
市場調査論特論B	1・2	2				○	専任教授　福田康典	
競争戦略論特論A	1・2	2			○		専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
競争戦略論特論B	1・2	2				○	専任准教授　博士(経営学)　山﨑喜代宏	
消費者行動論特論A	1・2	2			○		専任准教授　博士(経営学)　佐藤平国	
消費者行動論特論B	1・2	2				○	専任准教授　博士(経営学)　佐藤平国	
商業学外国文献研究A	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商業学外国文献研究B	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	

（３）経営系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
生産管理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
経営情報システム論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　村田　潔	
経営情報システム論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　村田　潔	
経営情報システム論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　村田　潔	
経営情報システム論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　村田　潔	
情報管理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
情報管理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
情報管理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
情報管理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
経営哲学特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　出見世信之	
クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　水野誠	
クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　水野誠	
クリエイティブ・ビジネス論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　水野誠	
クリエイティブ・ビジネス論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　水野誠	
生産管理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
経営情報システム論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　村田　潔	
経営情報システム論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　村田　潔	
情報管理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
情報管理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
経営哲学特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　出見世信之	
クリエイティブ・ビジネス論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　水野誠	
クリエイティブ・ビジネス論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)　水野誠	
経営戦略論特論Ａ	1・2	2			○		専任准教授　博士(商学)　西剛広	
経営戦略論特論Ｂ	1・2	2				○	専任准教授　博士(商学)　西剛広	
経営学外国文献研究Ａ	1・2		2		○		専任准教授　博士(商学)　西剛広	
経営学外国文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任准教授　博士(商学)　西剛広	

（4）会計系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
財務会計論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(経営学)　姚　俊	
財務会計論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(経営学)　姚　俊	2026年度開講せず
財務会計論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(経営学)　姚　俊	
財務会計論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(経営学)　姚　俊	2026年度開講せず
意思決定会計論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　前田　陽	
意思決定会計論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　前田　陽	
意思決定会計論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　前田　陽	
意思決定会計論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　前田　陽	
監査論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
監査論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
経営分析論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　王　志	
経営分析論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　王　志	
経営分析論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　王　志	
経営分析論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　王　志	
国際会計論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　山本昌弘	2026年度開講せず
国際会計論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　山本昌弘	
国際会計論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　山本昌弘	2026年度開講せず
国際会計論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　山本昌弘	
会計情報論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(商学)　名越洋子	
会計情報論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(商学)　名越洋子	
会計情報論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(商学)　名越洋子	
会計情報論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(商学)　名越洋子	
租税法特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　Dr.jur.　松原有里	
租税法特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　Dr.jur.　松原有里	
租税法特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　Dr.jur.　松原有里	
租税法特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　Dr.jur.　松原有里	
企業評価論特論演習ⅠA	1			2	○		専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
企業評価論特論演習ⅠB	1			2		○	専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
企業評価論特論演習ⅡA	2			2	○		専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
企業評価論特論演習ⅡB	2			2		○	専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
財務会計論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(経営学)　姚　俊	
財務会計論特論B	1･2	2			○		専任教授　博士(経営学)　姚　俊	
原価計算論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　千葉修身	
原価計算論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　千葉修身	
意思決定会計論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　前田　陽	
意思決定会計論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　前田　陽	
業績管理会計論特論A	1･2	2			○		兼担教授　博士(経済学)　山口不二夫	
業績管理会計論特論B	1･2	2				○	兼担教授　博士(経済学)　山口不二夫	
監査論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
監査論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
経営分析論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　王　志	
経営分析論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　王　志	
国際会計論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　山本昌弘	2026年度開講せず
国際会計論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　山本昌弘	
会計情報論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(商学)　名越洋子	
会計情報論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(商学)　名越洋子	
租税法特論A	1･2	2			○		専任教授　Dr.jur.　松原有里	
租税法特論B	1･2	2				○	専任教授　Dr.jur.　松原有里	
企業評価論特論A	1･2	2			○		専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
企業評価論特論B	1･2	2				○	専任教授　博士(経営学)　奈良沙織	
会計学外国文献研究A	1･2		2		○		兼任講師　博士(商学)　石川祐二	
会計学外国文献研究B	1･2		2			○	兼任講師　博士(商学)　石川祐二	

（５）金融・証券系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
金融理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　小原英隆	
金融理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　小原英隆	
金融理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　小原英隆	
金融理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　小原英隆	
金融理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融機関論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
金融機関論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
金融機関論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
金融機関論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
証券市場論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
証券市場論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
証券市場論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
証券市場論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
機関投資家論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
機関投資家論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
機関投資家論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
機関投資家論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
国際金融論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
国際金融論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
国際金融論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
国際金融論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
金融取引論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融取引論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融取引論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融取引論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　小原英隆	
金融理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　小原英隆	
金融理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　Ph.D (Economics)　土屋陽一	
金融機関論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
金融機関論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
証券市場論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
証券市場論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
機関投資家論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
機関投資家論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
国際金融論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
国際金融論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　Ph.D. (Economics)　太田塁	
金融取引論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融取引論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融・証券外国文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	
金融・証券外国文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学)　伊藤隆康	

（６）保険系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
保険理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
保険理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
保険理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
保険理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
損害保険論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
損害保険論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
損害保険論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
損害保険論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
保険リスクマネジメント論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	2026年度開講せず
保険リスクマネジメント論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	2026年度開講せず
保険リスクマネジメント論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	2026年度開講せず
保険リスクマネジメント論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	2026年度開講せず
保険理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
保険理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
損害保険論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
損害保険論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(社会経済)　藤井　陽一朗	
保険リスクマネジメント論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	
保険リスクマネジメント論特論Ｂ	1・2	2			○		専任教授　博士(経済学)　浅井　義裕	
保険論外国文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　中林　真理子	
保険論外国文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　中林　真理子	

（７）交通系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
交通理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
交通理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
交通理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
交通理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
国際交通論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
国際交通論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
国際交通論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
国際交通論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
交通理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
交通理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
都市・地域交通論特論Ａ	1・2	2			○		専任准教授　博士(経済学)　恩田　睦	
都市・地域交通論特論Ｂ	1・2	2				○	専任准教授　博士(経済学)　恩田　睦	
国際交通論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
国際交通論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　町田　一兵	
交通論外国文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	
交通論外国文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　藤井　秀登	

（８）貿易系列

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
貿易理論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(商学)　所　康弘	
貿易理論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(商学)　所　康弘	
貿易理論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(商学)　所　康弘	
貿易理論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(商学)　所　康弘	
世界経済論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　小林尚朗	
世界経済論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　小林尚朗	
世界経済論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　小林尚朗	
世界経済論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　小林尚朗	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ＩＡ	1			2	○		専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ＩＢ	1			2		○	専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ⅡＡ	2			2	○		専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論演習ⅡＢ	2			2		○	専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
貿易理論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　所　康弘	
貿易理論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　所　康弘	
世界経済論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　小林尚朗	
世界経済論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　小林尚朗	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
国際ビジネス・コミュニケーション論特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
貿易論外国文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
貿易論外国文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	

（９）特別外国文献研究

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
ドイツ語経済文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　千葉修身	
ドイツ語経済文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　千葉修身	
フランス語経済文献研究Ａ	1・2		2		○		専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
フランス語経済文献研究Ｂ	1・2		2			○	専任教授　博士(商学)　加藤達彦	

(10) 系列共通研究

授業科目	配当年次	単位			開講期		担当教員	備考
		講義	文献研究	演習	春	秋		
実践商学特論Ａ	1・2	2			○		兼任講師　藤森浩樹	
実践商学特論Ｂ	1・2	2				○	兼任講師　藤森浩樹	
技術経営特講Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	2026年度開講せず
技術経営特講Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	2026年度開講せず
特別テーマ研究特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
特別テーマ研究特論Ａ	1・2	2			○		専任教授　博士(商学)　所　康弘	
特別テーマ研究特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
特別テーマ研究特論Ｂ	1・2	2				○	専任教授　博士(商学)　所　康弘	

科目ナンバー：(CO) ECN552J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学･ミクロ経済学の関連項目について学習する。
公的部門の経済活動に関わる理論的･実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。
また，学んだ知識を基にエクササイズを行い，論文作成の基本的テクニックの習得を目指す。

授業内容
第１回　研究の方法(1)
第２回　研究の方法(2)
第３回　研究の方法(3)
第４回　財政学とミクロ経済学(1)
第５回　財政学とミクロ経済学(2)
第６回　財政学とマクロ経済学(1)
第７回　財政学とマクロ経済学(2)
第８回　財政学と計量経済学(1)
第９回　財政学と計量経済学(2)
第10回　研究テーマの事例(1)
第11回　研究テーマの事例(2)
第12回　研究テーマの事例(3)
第13回　既存研究の輪読(1)
第14回　既存研究の輪読(2)

履修上の注意
財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
並行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー(2017)『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー(2018)『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2023)『マクロ経済学･入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司･稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一･堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第2版』日本評論社.
林　正義･小川　光･別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN552J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学・ミクロ経済学の知識をベースに計量経済学の関連項目について学習する。
公的部門の経済活動に関わる理論的・実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。
また，学んだ知識を基に自ら具体的にテーマを定めて，実証分析を行う。

授業内容
第１回　研究テーマの調査報告(1)
第２回　研究テーマの調査報告(2)
第３回　計量分析の演習(1)
第４回　計量分析の演習(2)
第５回　計量分析の演習(3)
第６回　計量分析の演習(4)
第７回　関連研究の紹介(1)
第８回　関連研究の紹介(2)
第９回　計量分析の演習(5)
第10回　計量分析の演習(6)
第11回　研究テーマの分析報告(1)
第12回　研究テーマの分析報告(2)
第13回　残された課題の検討(1)
第14回　残された課題の検討(2)

履修上の注意
財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学、マクロ経済学、計量手法の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー (2017)『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー (2018)『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2023)『マクロ経済学･入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司･稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一･堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.
(計量手法)
伊藤公一朗(2017)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書.
畑農鋭矢･水落正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』有斐閣アルマ.

教科書
受講者の興味を考慮して適宜指示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第2版』日本評論社.
林　正義･小川　光･別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.
Jeffrey M. Wooldridge, (2012) *Introductory Econometrics: A Modern Approach* 5th Edition, South-Western College Publishing.
James H. Stock and Mark W. Watson, (2010) *Introduction to Econometrics* 3rd Edition, Prentice Hall.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN652J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
修士論文を書くために必須となる理論的･実証的研究の重要文献を読み解き，分析手続きと分析手法について理解を深める。また，その手法を修士論文の題材に応用するための実際的な訓練を行う。

授業内容
第１回　修士論文テーマの報告
第２回　ミクロ経済学の確認(1)
第３回　ミクロ経済学の確認(2)
第４回　マクロ経済学の確認(1)
第５回　マクロ経済学の確認(2)
第６回　財政学の確認(1)
第７回　財政学の確認(2)
第８回　履修者による先行研究の紹介(1)
第９回　履修者による先行研究の紹介(2)
第10回　計量手法の確認(1)
第11回　計量手法の確認(2)
第12回　計量手法の確認(3)
第13回　予備的分析結果の報告(1)
第14回　予備的分析結果の報告(2)

履修上の注意
財政学･公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学･マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学、マクロ経済学、計量手法の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017）『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018）『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2023)『マクロ経済学･入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司･稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一･堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.
(計量手法)
伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書.
畑農鋭矢・水落正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』有斐閣アルマ.

教科書
受講者の興味を考慮して適宜指示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第2版』日本評論社.
林　正義･小川　光･別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.
Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz (2015) *Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN652J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
修士論文を書くために必須となる理論的･実証的研究の重要文献を読み解き，分析手続きと分析手法について理解を深める。また，その手法を修士論文の題材に応用するための実際的な訓練を行う。

授業内容
第１回　修士論文構成の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　修士論文中間報告(1)
第８回　修士論文中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文最終報告(1)
第12回　修士論文最終報告(2)
第13回　演習内容の総括，残された課題の検討(1)
第14回　演習内容の総括，残された課題の検討(2)

履修上の注意
財政学･公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学･マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学、マクロ経済学、計量手法の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017）『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018）『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2023)『マクロ経済学･入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司･稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一･堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.
(計量手法)
伊藤公一朗（2017）『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書.
畑農鋭矢・水落正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』有斐閣アルマ.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第2版』日本評論社.
林　正義･小川　光･別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.
Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz (2015) *Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN532J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
ベイズ統計学に関する研究，特に新たなベイズ統計モデルの開発とそれに対する数値計算の手法の開発，実データへの適用等を目指し，必要な知識や技術を得るための論文・専門書の講読を行う。

授業内容
第１回：研究テーマに関する導入
第２回：文献講読1
第３回：文献講読2
第４回：文献講読3
第５回：文献講読4
第６回：文献講読5
第７回：研究テーマに関する検討1
第８回：文献講読6
第９回：文献講読7
第10回：文献講読8
第11回：文献講読9
第12回：文献講読10
第13回：文献講読11
第14回：研究テーマに関する検討2

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
講義内で扱う文献だけでなく関連する文献を広く精査することが望まれる。

教科書

参考書
『標準ベイズ統計学』入江薫 他, 朝倉書店, 2022年
『ベイズデータ解析第3版』Gelman, A. 他（原著）菅澤翔之助他(共訳)森北出版, 2024年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業貢献に基づいて評価する

その他

科目ナンバー：(CO) ECN532J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
IAに引き続き，ベイズ統計学に関する研究，特に新たなベイズ統計モデルの開発とそれに対する数値計算の手法の開発，実データへの適用等を目指し，必要な知識や技術を得るための論文・専門書の講読を行う。また統計モデルに関する研究も行う。

授業内容
第１回：研究テーマに関する検討1
第２回：文献講読1
第３回：文献講読2
第４回：文献講読3
第５回：文献講読4
第６回：文献講読5
第７回：研究テーマに関する検討2
第８回：モデルの検討1
第９回：モデルの検討2
第10回：モデルの検討3
第11回：モデルの検討4
第12回：モデルの検討5
第13回：モデルの検討6
第14回：研究テーマに関する検討3

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
講義内で扱う文献だけでなく関連する文献を広く精査することが望まれる。

教科書

参考書
『標準ベイズ統計学』入江薫 他, 朝倉書店, 2022年
『ベイズデータ解析第3版』Gelman, A. 他（原著）菅澤翔之助他(共訳)森北出版, 2024年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業貢献に基づいて評価する

その他

科目ナンバー：(CO) ECN632J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
IBに引き続き，ベイズ統計学に関する研究，特に新たなベイズ統計モデルの開発とそれに対する数値計算の手法の開発，実データへの適用等を目指す。統計モデルおよび数値計算手法に関する検討，数値実験の実施等を行う。

授業内容
第 1 回:研究テーマに関する検討1
第 2 回:数値計算手法の検討1
第 3 回:数値計算手法の検討2
第 4 回:数値計算手法の検討3
第 5 回:数値計算手法の検討4
第 6 回:数値計算手法の検討5
第 7 回:研究テーマに関する検討2
第 8 回:数値実験1
第 9 回:数値実験2
第10回:数値実験3
第11回:数値実験4
第12回:数値実験5
第13回:数値実験6
第14回:研究テーマに関する検討3

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究遂行のための作業を進め，必要に応じて関連する文献を精査することが求められる。また未習得の場合プログラミング言語(R, Python等)の習得も並行して行うこと。

教科書

参考書
『標準ベイズ統計学』入江薫 他, 朝倉書店, 2022年
『ベイズデータ解析第3版』Gelman, A. 他（原著）菅澤翔之助他(共訳)森北出版, 2024年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業貢献に基づいて評価する

その他

科目ナンバー：(CO) ECN632J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
IIAに引き続き，ベイズ統計学に関する研究，特に新たなベイズ統計モデルの開発とそれに対する数値計算の手法の開発，実データへの適用等を目指す。数値実験，実データへの適用の結果に基づき，提案する手法の改善を試みる。

授業内容
第 1 回:研究テーマに関する検討1
第 2 回:実データへの適用1
第 3 回:実データへの適用2
第 4 回:実データへの適用3
第 5 回:提案手法改善の検討1
第 6 回:提案手法改善の検討2
第 7 回:提案手法改善の検討3
第 8 回:数値実験1
第 9 回:数値実験2
第10回:実データへの適用4
第11回:論文執筆1
第12回:論文執筆2
第13回:論文執筆3
第14回:論文執筆4

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究遂行のための作業を進め，必要に応じて関連する文献を精査することが求められる。

教科書

参考書
『標準ベイズ統計学』入江薫 他, 朝倉書店, 2022年
『ベイズデータ解析第3版』Gelman, A. 他（原著）菅澤翔之助他(共訳)森北出版, 2024年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業貢献に基づいて評価する

その他

科目ナンバー：(CO) ECN542J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. How to Use R.
2. Probability with R.
3. Statistics with R.
4. How to Use Julia.
5. Probability with Julia.
6. Statistics with Julia.
7. Numerical computation with Julia
8. Scientific computations with Julia
9. Deaton, A. (1991): "Saving and Liquidity Constraints," Econometrica, 59, 1221-1248.
10. Replication of Deaton (1991).
11. Mace, B. (1991): "Full Insurance in the Presence of Aggregate Uncertainty," Journal of Political Economy, 99, 928-956.
12. Cochrane, J.H. (1991): "A Simple Test of Consumption Insurance," Journal of Political Economy, 99, 957-976.
13. Deaton, A. and C. Paxson (1994): "Intertemporal Choice and Inequality," Journal of Political Economy, 102, 437-467.
14. Blundell, R. and I. Preston (1998): "Consumption Inequality and Income Uncertainty," Quarterly Journal of Economics, 603-640.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge of undergraduate level macroeconomics, microeconomics, and mathematics, such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for "mathematics for economics" in advance.
For example,
1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN542J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

The followings are "tentative" lists of readings:
1. Hayashi, F. and E.C. Prescott (2002): "The 1990s in Japan: A Lost Decade," Review of Economic Dynamics, 5, 206-235.
2. Replication of Hayashi and Prescott (2002).
3. Kydland, F. and E.C. Prescott (1982): "Time to Build and Aggregate Fluctuations," Econometrica, 50, 1345-1370.
4. Hansen, G. (1985): "Indivisible Labor and the Business Cycle," Journal of Monetary Economics, 16, 309-327.
5. Replication of Hansen (1985).
6. Backus, D.K., P.J. Kehoe and F.E. Kydland (1992): "International Real Business Cycles," Journal of Political Economy, 100, 745-775.
7. Chari, V.V., P.J. Kehoe and E.R. McGrattan (2007): "Business Cycle Accounting," Econometrica, 75, 781-836.
8. Replication of Chari, Kehoe and McGrattan (2007).
9. Kiyotaki, N. and J. Moore (1997): "Credit Cycles," Journal of Political Ecoonmy, 105, 211-248.
10. Mankiw, N.G. and R. Reis (2002): "Sticky Information versus Sticky Prices: A Proposal to Replace the New Keynesian Phillips Curve," Quarterly Journal of Economics, 117, 1295-1328.
11. Gali, J. (2013): "Notes for a New Guide to Keynes (I): Wages, Aggregate Demand, and Employment," Journal of the European Economic Association, 11, 973-1003
12. Christiano, L.J., M. Eichenbaum and C.L. Evans (2005): "Nominal Rigidities and the Dynamic Effects of a Shock to Monetary Policy," Journal of Political Economy, 113, 1-45.
13. Smets, F. and R. Wouters (2003): "An Estimated Dynamic Stochastic General Equilibrium Model of the Euro Area," Journal of the European Economic Association, 1, 1123-1175.
14. Smets, F. and R. Wouters (2007): "Shocks and Frictions in US Business Cycles: A Bayesian DSGE Approach," American Economic Review, 97, 586-606.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge of undergraduate level macroeconomics, microeconomics, and mathematics, such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for "mathematics for economics" in advance.
For example,
1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN642J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. Aiyagari, S.R. (1994): "Uninsured Idiosyncratic Risk and Aggregate Saving," Quarterly Journal of Economics, 109, 659-684.
2. Huggett, M. (1993): "The Risk-Free Rate in Heterogeneous-Agent Incomplete-Insurance Economies," Journal of Economic Dynamics and Control, 17, 953-969.
3. Carroll, C.D. (2006): "The Method of Endogenous Gridpoints for Solving Dynamic Stochastic Optimization Problems," Economics Letters, 91, 312-320.
4. Replication of Aiyagari (1994) and Huggett (1993).
5. Aiyagari, S.R. and E.R. McGrattan (1998): "The Optimum Quantity of Debt," Journal of Monetary Economics, 42, 447-469.
6. Heatocote, J., F. Perri and G.L. Violante (2010): "Unequal We Stand: An Empirical Analysis of Economic Inequality in the United States, 1967-2006," Review of Economic Dynamics, 13, 15-51.
7. Lise, J., N. Sudo, M. Suzuki, K. Yamada and T. Yamada (2014): "Wage, Income and Consumption Inequality in Japan, 1981-2008: From Boom to Lost Decades," Review of Economic Dynamics, 17, 582-612.
8. Hubbard, R., J. Skinner and S. Zeldes (1995): "Precautionary Savings and Social Insurance," Journal of Political Economy, 103, 360-399.
9. Imrohoroglu, A., S. Imrohoroglu, and D. Joines (1995): "A Life Cycle Analysis of Social Security," Economic Theory, 6, 83-115.
10. Huggett, M. (1996): "Wealth Distribution in Life-Cycle Economies," Journal of Monetary Economics, 38, 469-494.
11. Conesa, J.C. and D. Krueger (1999): "Social Security Reform with Heterogeneous Agents," Review of Economic Dynamics, 2, 757-795.
12. Conesa, J.C., S. Kitao and D. Krueger (2009): "Taxing Capital? Not a Bad Idea After Alll," American Economic Review, 99, 25-48.
13. Stoleslette, K., C.I. Telmer and A. Yaron (2004): "Consumption and Risk Sharing over the Life Cycle," Journal of Monetary Economics, 51, 609-633.
14. Heathcote, J., K. Stolesletten and G.L. Violante (2010): "The Macroeconomic Implications of Rising Wage Inequality in the United States," Journal of Political Economy, 118, 681-722.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, preferabley, students have some knowledge about programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for "mathematics for economics" in advance. For example,
1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN642J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

1. Guvenen, Fatih (2011): "Macroeconomics with Heterogeneity: A Practical Guide," Economic Quarterly, 97, 255-326.
2. Krusell, P. and A.A. Smith Jr. (1998): "Income and Wealth Heterogeneity in the Macroeconomy," Journal of Political Economy, 106, 867-896.
3. Maliar, L., S. Maliar and F. Valli (2010): "Solving the Incomplete Markets Model with Aggregate Uncertainty using the Krusell-Smith Algorithm," Journal of Economic Dynamics and Control, 34, 42-49.
4. Den Haan, W.J. (2010): "Comparison of Solutions to the Incomplete Markets Model with Aggregate Uncertainty," Journal of Economic Dynamics and Control, 34, 4-27.
5. Replication of Krusell and Smith (1998).
6. Krueger, D., K. Mitman and F. Perri (2016): "Macroeconomics and Heterogeneity including Inequality," Handbook of Macroeconomics, Vol. 2.
7. Replication of Krueger et al. (2016).
8. Guerrieri, V. and G. Lorenzoni (2017): "Credit Crises, Precautionary Savings, and the Liquidity Trap," Quarterly Journal of Economics, 132, 1427–1467.
9. Replication of Guerrieri and Lorenzoni (2017).
10. McKay, A. and R. Reis (2016): "The Role of Automatic Stabilizers in the U.S. Business Cycle," Econometrica, 84, 141-194.
11. McKay, A., E. Nakamura and J. Steinsson (2016): "The Power of Forward Guidance Revisited," American Economic Review, 106, 3133-3158.
12. Gornemann, N., K. Kuester nad M. Nakajima (2021): "Doves for the Rich, Hawks for the Poor? Distributional Consequences of Monetary Policy," FRB Minneapolis Opportunity and Inclusive Growth Institute (OIGI) Working Paper No.50.
13. Achdou, Y., J. Han, J.M. Lasry, P.L. Lions, and B. Moll (2022): "Income and Wealth Distribution in Macroeconomics: A Continuous-Time Approach," Review of Economic Studies.
14. Ravn, M.O. and V. Sterk (2014): "Macroeconomic Fluctuations with HANK&SAM: An Aalytical Approach," Journal of the European Economic Association, 19, 1162-1202.

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability. In addition, it is preferable to have some knowledge on programming.

準備学習（予習・復習等）の内容

1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN592J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

論文を執筆するうえで基礎となる知識を深めるため、産業組織論とその関連項目について学習する。

理論・実証分析を行っている重要な先行研究を輪読し、最新の研究動向を確認する。また、演習を行い、学習した理論モデルを論文執筆に活用できるよう、学習していく。

授業内容

第１回:研究の方法（１）
第２回:研究の方法（２）
第３回:研究の方法（３）
第４回:産業組織論（１）
第５回:産業組織論（２）
第６回:産業組織論（３）
第７回:産業組織論（４）
第８回:産業組織論（５）
第９回:研究テーマの事例（１）
第10回:研究テーマの事例（２）
第11回:研究テーマの事例（３）
第12回:既存研究の輪読（１）
第13回:既存研究の輪読（２）
第14回:既存研究の輪読（３）

履修上の注意

産業組織論以外としてミクロ経済学、ゲーム理論および基礎的な数学の知識が必要となる場合がある。履修していない場合、講義中に解説するものの相応の自習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に演習問題や課題を課すので、それを次回までに解いてくること。予習については、該当する範囲および内容を講義中に指示する。準備学習(予習・復習等)として、２～３時間の学習が必要となる。

教科書

特定の教科書は指定しない。
受講者の興味を考慮して文献を提示する場合がある。

参考書

・『Industrial Organization, 2nd edition』, Paul Belleflamme and Martin Peitz (Cambridge University Press), 2015.
・『The Theory of Industrial Organization』, Jean Tirole (MIT Press), 1988.

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表50%、授業への貢献50%

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN592J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

論文を執筆するうえで基礎となる知識を深めるため、産業組織論とその関連項目について学習する。

理論・実証分析を行っている重要な先行研究を輪読し、最新の研究動向を確認する。また、シミュレーションに関する演習を行い、学習した理論モデルを実際に解き、論文執筆に活用できるよう学習を進める。

授業内容

第１回:研究テーマの調査報告（１）
第２回:研究テーマの調査報告（２）
第３回:シミュレーションの演習（１）
第４回:シミュレーションの演習（２）
第５回:シミュレーションの演習（３）
第６回:関連文献の紹介（１）
第７回:関連文献の紹介（２）
第８回:関連文献の紹介（３）
第９回:関連文献の紹介（４）
第10回:研究テーマの分析報告（１）
第11回:研究テーマの分析報告（２）
第12回:研究テーマの分析報告（３）
第13回:課題と発展に関する検討（１）
第14回:課題と発展に関する検討（２）

履修上の注意

産業組織論以外としてミクロ経済学、ゲーム理論および基礎的な数学の知識が必要となる場合がある。履修していない場合、講義中に解説するものの相応の自習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に演習問題や課題を課すので、それを次回までに解いてくること。予習については、講義中に指示する。

教科書

特定の教科書は指定しない。
受講者の興味を考慮して文献を提示する場合がある。

参考書

・『Industrial Organization, 2nd edition』, Paul Belleflamme and Martin Peitz (Cambridge University Press), 2015.
・『The Theory of Industrial Organization』, Jean Tirole (MIT Press), 1988.

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表50%、授業への貢献50%

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN692J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

修士論文を書くために必要となる理論的・実証的研究の最新の文献を読み、分析手法や関連研究について理解を深める。

また、学習した分析手法を修士論文の題材に応用するための訓練を行う。

授業内容

第１回：修士論文のテーマ報告（１）
第２回：修士論文のテーマ報告（２）
第３回：産業組織論の該当分野の復習（１）
第４回：産業組織論の該当分野の復習（２）
第５回：該当分野の論文の紹介と発表（１）
第６回：該当分野の論文の紹介と発表（２）
第７回：該当分野の論文の紹介と発表（３）
第８回：該当分野の論文の紹介と発表（４）
第９回：演習および理論分析（１）
第10回：演習および理論分析（２）
第11回：演習および理論分析（３）
第12回：予備的分析結果の報告（１）
第13回：予備的分析結果の報告（２）
第14回：予備的分析結果の報告（３）

履修上の注意

産業組織論以外としてミクロ経済学、ゲーム理論および基礎的な数学の知識が必要となる場合がある。履修していない場合、講義中に解説するものの相応の自習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に演習問題や課題を課すので、それを次回までに解いてくること。予習については、講義中に指示する。

教科書

特定の教科書は指定しない。
受講者の興味を考慮して文献を提示する場合がある。

参考書

・『Industrial Organization, 2nd edition』, Paul Belleflamme and Martin Peitz (Cambridge University Press), 2015.
・『The Theory of Industrial Organization』, Jean Tirole (MIT Press), 1988.

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表50%、授業への貢献50%

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN692J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

修士論文を執筆するうえで必要となる知識を習得したうえで、より最新の研究動向について把握し、論文を執筆する。

授業内容

第１回：修士論文アウトラインに関する報告
第２回：修士論文作成に関する指導（１）
第３回：修士論文作成に関する指導（２）
第４回：修士論文作成に関する指導（３）
第５回：修士論文作成に関する指導（４）
第６回：修士論文作成に関する指導（５）
第７回：修士論文中間報告（１）
第８回：修士論文中間報告（２）
第９回：修士論文作成に関する指導（１）
第10回：修士論文作成に関する指導（２）
第11回：修士論文最終報告（１）
第12回：修士論文最終報告（２）
第13回：演習内容の総括、残された課題の検討（１）
第14回：演習内容の総括、残された課題の検討（２）

履修上の注意

産業組織論以外としてミクロ経済学、ゲーム理論および基礎的な数学の知識が必要となる場合がある。履修していない場合、講義中に解説するものの相応の自習が必要となる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に課題や改善点を伝えるので、それを次回までに検討し対応してくること。

教科書

特定の教科書は指定しない。
受講者の興味を考慮して文献を提示する場合がある。

参考書

受講者の興味を考慮して文献を提示する場合がある。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

論文50%、発表および授業への貢献50%

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN522J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際貿易理論と国際マクロ経済学に別れるが、本演習では後者を中心とする。国際マクロ経済学に関して定評のあるテキストを輪読し、より本格的な国際マクロ経済学のテキストを読破するための基礎作りを行う予定である。

授業内容

国際マクロ経済学の応用文献の講読
第１回　イントロダクション
第２回　国際マクロ経済学の基礎
第３回　国際収支の概念
第４回　国際収支の動態
第５回　長期の開放マクロ経済モデル1
第６回　長期の開放マクロ経済モデル2
第７回　短期の開放マクロ経済モデル1
第８回　短期の開放マクロ経済モデル2
第９回　超短期の為替相場の動態1
第10回　超短期の為替相場の動態2
第11回　通貨危機の経済モデル
第12回　通貨同盟の開放マクロ経済学
第13回　新しい国際通貨体制
第14回　習熟度チェック

履修上の注意

学部レベルのマクロ、ミクロ経済学の知識を前提とする。国際マクロ経済学を理解するためには、標準的なマクロ経済学に加えてやや上級のマクロ経済学の知識、ミクロ経済学の知識を備えていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書は、Feenstra and Taylor（2020）もしくはSchmitte-grohe S., and M. Uribe(2022)を予定している。前者は標準的なものであるが、後者はやや難解である。毎回、事前に目を通しておくことを希望する。

教科書

International Macroeconomics, 5th Editoin, Feenstra R.C. and A.M. Taylor, Worth Pub., 2020.
International Macroeconomics: A Modern Approach, Schmitte-grohe S., and M. Uribe, Princeton Univ. Press, 2022.
『国際金融論のエッセンス』、高浜光信･高屋定美編著、文眞堂、2021年。

参考書

『国際金融論のエッセンス』、高浜光信・高屋定美編著、文眞堂、2021年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度70点、レポート30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には、他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN522J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際貿易理論と国際マクロ経済学に別れるが、本演習では後者を中心とする。国際マクロ経済学に関して定評のある上級テキストのエッセンスを輪読し、これに加えて今日の国際マクロ経済学の最新のトピックを概観することを通じて、本格的な論文を読破するための基礎作りを行う予定である。

授業内容

第１回　異時点間交易の理論(基礎編)
第２回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.1
第３回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.2
第４回　異時点間交易の理論：Obstfeld and Rogoff（1996）ch.3
第５回　グローバルインバランスの現状
第６回　通貨危機のモデルに関する新展開
第７回　通貨統合の理論
第８回　通貨統合の現実
第９回　通貨圏と通貨危機
第10回　為替相場制度選択の問題
第11回　政策協調の理論の新展開
第12回　履修者による研究論文に関する報告１
第13回　履修者による研究論文に関する報告２
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

基礎的な国際マクロ経済学、国際金融論の知識を備えていることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について，事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

International Macroeconomics, Feenstra, R., and A. M. Taylor, Worth Publishers Inc., 2020.
International Macroeconomics: A Modern Approach, Schmitte-grohe S., and M. Uribe, Princeton Univ. Press, 2022.

参考書

『国際金融論のエッセンス』、高浜光信・高屋定美編著、文眞堂、2021年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中のプレゼンテーション70点、ファイナル・ペーパー30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には、他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN622J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際マクロ経済学分野での研究論文の完成を目指す。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　論文作成に際しての注意点の指導
第３回　修士論文テーマの概要報告
第４回　文献検索の指導，論文テーマに関する文献リストの作成
第５回　履修者による関連文献の報告
第６回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第７回　履修者による関連論文の報告
第８回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第９回　履修者による関連文献の整理
第10回　履修者による関連論文の報告
第11回　履修者への講評
第12回　履修者による論文テーマの再報告
第13回　履修者への講評と指導
第14回　今期の総括

履修上の注意
国際マクロ経済学、国際金融論について、ある程度の専門知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
関連の論文については、事前に収集し、概要について調べておくこと。

教科書
特定の教科書は使用しない。

参考書
関連論文を適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への取り組みへの積極性を含めた貢献度（70%）とレポート(30%)で評価する。

その他
科目の性質上、修士論文作成のための授業なので、各自の研究のために最大限生かしてほしい。

科目ナンバー：(CO) ECN622J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際マクロ経済学分野での研究論文の完成を目指す。

授業内容
第１回　研究概要および研究計画の確認
第２回　研究分野の最新動向の検討
第３回　履修者による関連文献の報告
第４回　履修者への講評と新たな関連論文の指示
第５回　履修者による関連文献の報告
第６回　履修者への講評
第７回　履修者による研究の進捗状況の報告
第８回　履修者への講評と新たな関連文献の指示
第９回　履修者による関連文献の整理
第10回　修士論文構成のチェック
第11回　修士論文概要の報告
第12回　概要に基づく最終的な検証
第13回　修士論文における研究の最終報告
第14回　総括

履修上の注意
国際マクロ経済学、国際金融論について、ある程度の専門知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
関連の論文については、事前に収集し、概要について調べておくこと。

教科書
特定の教科書は使用しない。

参考書
関連論文を適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への取り組みへの積極性を含めた貢献度（30%）と最終論文(70%)で評価する。

その他
科目の性質上、修士論文作成のための授業なので、各自の研究のために最大限生かしてほしい。

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

目標
　計量経済学の実際のペーパーを書くための学習を行い，それを通じて各自の論文に計量経済学分析を入れるコツを習得する。
内容
　国内学生の場合は日本または国際経済の計量経済分析を，留学生の場合は自国の経済の計量経済分析を行う。
・計量経済分析の方法について指導する。
・論文の書き方について指導する。
・データの加工方法について指導する。
・学会報告でのプレゼンの方法について指導する。
到達目標
　授業で作ったペーパーを実際に学会で報告する。

授業内容

　計量経済学のペーパーの作成を行う。
　ねらい
　○計量経済学の基礎を学ぶ。
　○計量経済学の用語を英文で学ぶ。
　○専門の英書の読み方を身につける。
　○プレゼンの練習をする。＝学会報告ができる練習をする。
第１回　イントロダクション
第２回　各自のテーマを決める。
第３回　各国の経済事情を分析する。(1)
第４回　各国の経済事情を分析する。(2)
第５回　分析テーマを絞る。(1)
第６回　分析テーマを絞る。(2)
第７回　ペーパーの骨子を作る。(1)
第８回　ペーパーの骨子を作る。(2)
第９回　ペーパーの骨子を作る。(3)
第10回　分析に必要なデータを収集する。(1)
第11回　分析に必要なデータを収集する。(2)
第12回　データを加工する。(1)
第13回　データを加工する。(2)
第14回　データを加工する。(3)

履修上の注意

　各自のテーマに沿った計量経済分析を行い，ペーパーを作成する。

準備学習（予習・復習等）の内容

　各自が独自のデータを用いて自主的に計算すること。

教科書

　水野勝之著「テキスト計量経済学」中央経済出版社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業中の報告内容を評価する。テーマ設定力，データ収集・加工力，英語力などを評価する。
　ペーパー作成50%，オリジナリティの工夫20%，データ分析力20%，質疑が適切か10%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

目標
　計量経済学の実際のペーパーを書くための学習を行い，それを通じて各自の論文に計量経済学分析を入れるコツを習得する。
内容
　国内学生の場合は日本または国際経済の計量経済分析を，留学生の場合は自国の経済の計量経済分析を行う。
・計量経済分析の方法について指導する。
・論文の書き方について指導する。
・データの加工方法について指導する。
・学会報告でのプレゼンの方法について指導する。
到達目標
　授業で作ったペーパーを実際に学会で報告する。

授業内容

　計量経済学のペーパーの作成を行う。
　ねらい
　○計量経済学の基礎を学ぶ。
　○計量経済学の用語を英文で学ぶ。
　○専門の英書の読み方を身につける。
　○プレゼンの練習をする。＝学会報告ができる練習をする。
第１回　イントロダクション
第２回　計量経済モデルを構築する。(1)
第３回　計量経済モデルを構築する。(2)
第４回　計量経済モデルを構築する。(3)
第５回　計量経済モデルを計算する。(1)
第６回　計量経済モデルを計算する。(2)
第７回　計量経済モデルを計算する。(3)
第８回　学会報告アブストラクト作成(1)
第９回　学会報告アブストラクト作成(2)
第10回　学会ペーパー作成(1)
第11回　学会ペーパー作成(2)
第12回　学会ペーパー作成(3)
第13回　学会ペーパー作成(4)
第14回　学会報告練習

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

　各自が独自のデータを用いて自主的に計算すること。

教科書

　水野勝之著「テキスト計量経済学」中央経済社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業中の報告内容を評価する。テーマ設定力，データ収集・加工力，英語力などを評価する。
　ペーパー作成50%，オリジナリティの工夫20%，データ分析力20%，質疑が適切か10%

その他

　英語の専門書をも読む勉強とする。

科目ナンバー：(CO) ECN551J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
市場の失敗や政府の役割についての学部教科書的な理解を超えて，ある程度の数学的証明を理解することが目的である。数学的手続きによって得られた仮説を実証分析に生かす方法についても展望し，関連分野の研究論文を読みこなす能力を身に付けたい。

授業内容
市場経済における政府の役割について，ミクロ経済学的側面を中心に関連文献を輪読する。
主なトピックは以下のとおりであるが，受講者の興味を勘案して取捨選択する。
第１回　財政学とミクロ経済学
第２回　市場の失敗(1)
第３回　市場の失敗(2)
第４回　市場の失敗(3)
第５回　市場の失敗(4)
第６回　市場の失敗(5)
第７回　社会保障(1)
第８回　社会保障(2)
第９回　社会保障(3)
第10回　社会保障(4)
第11回　課税論(1)
第12回　課税論(2)
第13回　課税論(3)
第14回　課税論(4)

履修上の注意
学部レベルの財政学・公共経済学およびミクロ経済学の知識を有することが望ましい。
数学の知識については必要に応じて解説するので，高校数学の知識があれば十分である。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大（2021）『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017）『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018）『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一・照山博司（2023）『マクロ経済学・入門 第６版』有斐閣アルマ.
平口良司・稲葉大（2023）『マクロ経済学　第３版』有斐閣.
二神孝一・堀敬一（2017）『マクロ経済学 第２版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して輪読文献を提示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第２版』日本評論社.
林　正義・小川　光・別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN551J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
市場の失敗や政府の役割についての学部教科書的な理解を超えて，ある程度の数学的証明も含めて習得することが目標である。
また，経済理論から得られる知見を現実経済に適用し，実証研究につなげるための研究例についても学び，関連分野の研究論文を読みこなす能力を身に付けたい。

授業内容
市場経済における政府の役割について，マクロ経済学的側面を中心に関連文献を輪読する。
主なトピックは以下のとおりであるが，受講者の興味を勘案して取捨選択する。
第１回　財政学とマクロ経済学（講義形式）
第２回　成長理論(1)
第３回　成長理論(2)
第４回　成長理論(3)
第５回　成長理論(4)
第６回　成長理論(5)
第７回　財政赤字(1)
第８回　財政赤字(2)
第９回　財政赤字(3)
第10回　財政赤字(4)
第11回　財政支出(1)
第12回　財政支出(2)
第13回　財政支出(3)
第14回　財政支出(4)

履修上の注意
学部レベルの財政学・公共経済学およびマクロ経済学の知識を有することが望ましい。
数学の知識については必要に応じて解説するので，高校数学の知識があれば十分である。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大（2021）『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017）『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018）『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏（2014）『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一・照山博司（2023）『マクロ経済学・入門 第６版』有斐閣アルマ.
平口良司・稲葉大（2023）『マクロ経済学　第３版』有斐閣.
二神孝一・堀敬一（2017）『マクロ経済学 第２版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して輪読文献を提示する。

参考書
土居丈朗(2018)『入門 公共経済学 第２版』日本評論社.
林　正義・小川　光・別所俊一郎(2010)『公共経済学』有斐閣.
チャールズI.ジョーンズ(2011)『マクロ経済学１長期成長編』東洋経済新報社.
チャールズI.ジョーンズ(2011)『マクロ経済学２短期変動編』東洋経済新報社.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50％
授業への貢献50％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
この授業ではベイズ統計学の基本的な内容を習得します。

授業内容
1. イントロダクション
2. ベイズ推定
3. 統計モデリングを始める前に
4. StanとRStan
5. 基本的な回帰モデル
6. 確率分布
7. 演習1
8. 回帰分析の診断
9. 階層モデル
10. 一歩進んだ文法
11. 収束診断
12. 離散値をとるパラメータについて
13. 時系列･空間モデル
14. 演習2

履修上の注意
確率変数，確率分布，微分積分，線形代数の基本的な内容が必要になります。

準備学習（予習・復習等）の内容
教科書・参考書の該当箇所を事前に読んでおき，授業後に復習を行うこと。Rを実行できる環境が必要になります。

教科書
松浦健太郎著『StanとRでベイズ統計モデリング』共立出版

参考書
『ベイズデータ解析（第３版）』森北出版

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業中に課する課題等に基づいて評価します

その他

科目ナンバー：(CO) ECN531J			
経済系列		備 考	
科 目 名	統計学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）小林　弦矢		

授業の概要・到達目標
この授業ではベイズ統計学の考え方，数値計算の方法，ベイズ統計学に基づくデータ分析のフローの基本を習得することを目的とする。

授業内容
1. イントロダクション
2. 信念，確率，交換可能性
3. 二項モデルとポアソンモデル
4. モンテカルロ近似
5. 正規モデル
6. ギブスサンプラーによる事後分布の近似
7. 演習問題1
8. 多変量正規モデル
9. グループ比較と階層モデリング
10. 線形回帰
11. 非共役事前分布とメトロポリスアルゴリズム
12. 線形･一般化線形混合効果モデル
13. 順序データに対する潜在変数法
14. 演習問題2

履修上の注意
確率変数，確率分布，微分積分，線形代数の基本的な内容が必要になります。

準備学習（予習・復習等）の内容
教科書・参考書の該当箇所を事前に読んでおき，授業後に復習を行うこと。

教科書
入江薫･菅澤翔之助･橋本真太郎（訳）『標準ベイズ統計学』朝倉書店，2022年
古澄英男『ベイズ計算統計学』朝倉書店，2015年

参考書
菅澤翔之助・小林弦矢・川久保友超・栗栖大輔・玉江大将（訳）『ベイズデータ解析第3版』森北出版，2024年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業中に課する課題に基づいて評価します

その他

科目ナンバー：(CO) ECN541J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

This is the first course in dynamic macroeconomic theory. The course aims to acquaint students with advanced macroeconomics topics that cover economic growth models, business cycle theories, and overlapping generations models, which are based on modern dynamic general equilibrium theory. In addition, to bridge the gap between theory and empirical, I also teach some computational methods in economics. The final goal of this course is that students can solve dynamic general equilibrium models by themselves and use the models for research purposes.

授業内容

1. Overview
2. Time Series: Markov Chains
3. Time Series: Continuous-state Markov Chain
4. Time Series: Stochastic linear Difference Equations
5. Mathematical Preliminary: Metric Space (1)
6. Mathematical Preliminary: Metric Space (2)
7. Dynamic Programming: Theory (1)
8. Dynamic Programming: Theory (2)
9. Dynamic Programming: Theory (3)
10. Dynamic Programming: Theory (4)
11. Search and Unemployment (1)
12. Search and Unemployment (2)
13. Search and Unemployment (3)
14. Search and Unemployment (4)

履修上の注意

I assume to have a working knowledge of undergraduate level macroeconomics, microeconomics, and mathematics, such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for "mathematics for economics" in advance.
For example,
1. Simon and Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad, and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover.
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press.

are strongly recommended.
1. Ok (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Stinchcombe, and Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.

参考書

* Acemoglu, Daron (2009): "Introduction to Modern Economic Growth," Princeton University Press.
* Alogoskoufis, George (2019): "Dynamic Macroeconomics," The MIT Press.
* Bagliano, Fabio-Cesare and Giuseppe Bertoa (2004): "Models for Dynamic Macroeconomics," Oxford University Press.
* Challe, Edouard (2019): "Macroeconomic Fluctuations and Policies," The MIT Press.
* Cole, Harold (2020): "Monetary and Fiscal Policy Through a DSGE Lens," Oxford University Press.
* Heer, Burkhard (2019): "Public Economics: The Macroeconomic Perspective," Springer.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.
* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Miao, Jianjun (2020): "Economic Dynamics in Discrete Time, second edition," The MIT Press.
* Niepelt, Dirk (2019): "Macroeconomic Analysis," The MIT Press.
* Stachurski, John (2022): "Economic Dynamics, second edition: Theory and Computation," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.
* Wickens, Michael (2012): "Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach Second Edition," Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of a final exam (70%) and presentations (30%).

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN541J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

This is the first course in dynamic macroeconomic theory. The course aims to acquaint students with advanced macroeconomics topics that cover economic growth models, business cycle theories, and overlapping generations models, which are based on modern dynamic general equilibrium theory. In addition, to bridge the gap between theory and empirical, I also teach some computational methods in economics. The final goal of this course is that students can solve dynamic general equilibrium models by themselves and use the models for research purposes.

授業内容

1. Recursive Competitive Equilibrium (1)
2. Recursive Competitive Equilibrium (2)
3. Recursive Competitive Equilibrium (3)
4. Equilibrium with Complete Markets (1)
5. Equilibrium with Complete Markets (2)
6. Equilibrium with Complete Markets (3)
7. Equilibrium with Complete Markets (4)
8. Overlapping Generations (1)
9. Overlapping Generations (2)
10. Overlapping Generations (3)
11. Overlapping Generations (4)
12. Recardian Equivalence
13. Economic Growth (1)
14. Economic Growth (2)

履修上の注意

I assume to have a working knowledge in undergraduate level macroeconomics, microeconomics and mathematics such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for "mathematics for economics" in advance.
For example,
1. Simon and Blume (2010): "Mathematics for Economists," WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), "Essential Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad, and Strom (2008), "Further Mathematics for Economic Analysis," Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), "Introductory Real Analysis," Dover.
5. Sundaram, Rangarajan (1996): "A First Course in Optimization Theory," Cambridge University Press.

are strongly recommended.
1. Ok (2000): "Real Analysis With Economic Applications," Princeton University Press.
2. Corbae, Stinchcombe, and Zeman (2009): "An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics," Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): "Recursive Macroeconomic Theory," The MIT Press.

参考書

* Acemoglu, Daron (2009): "Introduction to Modern Economic Growth," Princeton University Press.
* Alogoskoufis, George (2019): "Dynamic Macroeconomics," The MIT Press.
* Bagliano, Fabio-Cesare and Giuseppe Bertoa (2004): "Models for Dynamic Macroeconomics," Oxford University Press.
* Challe, Edouard (2019): "Macroeconomic Fluctuations and Policies," The MIT Press.
* Cole, Harold (2020): "Monetary and Fiscal Policy Through a DSGE Lens," Oxford University Press.
* Heer, Burkhard (2019): "Public Economics: The Macroeconomic Perspective," Springer.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): "Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications," Springer.
* Judd, Kenneth L. (1998): "Numerical Methods in Economics," The MIT Press.
* Miao, Jianjun (2020): "Economic Dynamics in Discrete Time, second edition," The MIT Press.
* Niepelt, Dirk (2019): "Macroeconomic Analysis," The MIT Press.
* Stachurski, John (2022): "Economic Dynamics, second edition: Theory and Computation," The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), "Recursive Methods in Economic Dynamics," Harvard University Press.
* Wickens, Michael (2012): "Macroeconomic Theory: A Dynamic General Equilibrium Approach Second Edition," Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of a final exam (70%) and presentations (30%).

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN591J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

本講義では、産業組織論に関する標準的な理論を学習する。理論研究を中心に、一部、実証研究についても取り上げる。産業組織論とは、ミクロ経済学を応用した学問であり、対象とする産業について、その参加者（企業、消費者、政府）の行動を分析・評価し、公共政策への理論的・実証的な基礎を与えることを目指す学問である。授業で扱うトピックスについては、下記の授業内容を参照されたい。

授業内容

第 1 回：What is Markets and Strategies (1) (Markets, Strategies)〔対面〕
第 2 回：What is Markets and Strategies (2) (Models)〔対面〕
第 3 回：Firms, Consumers and the Market (1) (Welfare analysis)〔対面〕
第 4 回：Firms, Consumers and the Market (2) (Monopoly)〔対面〕
第 5 回：Static Imperfect Competition (1) (Price Competition)〔対面〕
第 6 回：Static Imperfect Competition (2) (Quantity Competition)〔対面〕
第 7 回：Static Imperfect Competition (3) (Strategic Complements and Substitutes)〔対面〕
第 8 回：Dynamic Aspects of Imperfect Competition (1) (Stackelberg)〔対面〕
第 9 回：Dynamic Aspects of Imperfect Competition (2) (Free Entry)〔対面〕
第10回：Product Differentiation (1) (Horizontal Product Differentiation)〔対面〕
第11回：Product Differentiation (2) (Vertical Product Differentiation)〔対面〕
第12回：Price Discrimination (1) (1st degree, 3rd degree)〔対面〕
第13回：Price Discrimination (2) (2nd degree)〔対面〕
第14回：Price Discrimination (3) (Intertemporal Price Discrimination)〔対面〕

履修上の注意

ミクロ経済学を履修していることが望ましい。また、数学（微分、ラグランジュ未定乗数法等）を用いるため、これらに関連した科目を履修していることが望ましい。履修していない場合、講義中に解説を行うものの、相応の自習が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に演習問題を課すので、それを次回までに解いてくること。予習については、講義中に指示する。それまでの授業で学習した内容を積み上げていく方式であるため、復習に注力してほしい。

教科書

『Industrial Organization, 2nd edition』, Paul Belleflamme and Martin Peitz (Cambridge University Press), 2015.

参考書

・『The Theory of Industrial Organization』, Jean Tirole (MIT Press), 1988.
・『Industrial Organization: Theory and Applications』, Oz Shy (MIT Press), 1996.
・『産業組織論　理論・戦略・政策を学ぶ』、小田切宏之（有斐閣）、2019年。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

課題70%、授業時の発言による貢献度等30%により、評価を行う。

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN591J			
経済系列		備 考	
科 目 名	産業組織論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（工学）　海老名　剛		

授業の概要・到達目標

本講義では、産業組織論に関する応用的な理論を学習する。理論研究を中心に、一部、実証研究についても取り上げる。産業組織論とは、ミクロ経済学を応用した学問であり、対象とする産業について、その参加者（企業、消費者、政府）の行動を分析・評価し、公共政策への理論的・実証的な基礎を与えることを目指す学問である。授業で扱うトピックスについては、下記の授業内容を参照されたい。

授業内容

第 1 回：What is Industrial Organization (Markets, Strategies)〔対面〕
第 2 回：Advertising〔対面〕
第 3 回：Bundling〔対面〕
第 4 回：Cartels and Tacit Collusion (1) (Tacit Collusion)〔対面〕
第 5 回：Cartels and Tacit Collusion (2) (Competition Policy)〔対面〕
第 6 回：Horizontal Mergers (1) (Merger and Welfare Analysis)〔対面〕
第 7 回：Horizontal Mergers (2) (Empirical Merger Analyses)〔対面〕
第 8 回：Strategic Incumbents and Entry (1) (Strategies)〔対面〕
第 9 回：Strategic Incumbents and Entry (2) (Entry Deterrence)〔対面〕
第10回：Vertically Related Markets (1) (Double Marginalization)〔対面〕
第11回：Vertically Related Markets (2) (Exclusive Dealing)〔対面〕
第12回：Innovation and R&D〔対面〕
第13回：Intellectual Properties〔対面〕
第14回：Network Effects〔対面〕

履修上の注意

産業組織論特論Aで学習した内容を応用する分野を学習する。
ミクロ経済学を履修していることが望ましい。また、数学（微分、ラグランジュ未定乗数法等）を用いるため、これらに関連した科目を履修していることが望ましい。履修していない場合、講義中に解説を行うものの、相応の自習が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に演習問題を課すので、それを次回までに解いてくること。予習については、該当する範囲および内容を講義中に指示する。準備学習（予習・復習等）として、2 ～ 3時間の学習が必要となる。

教科書

『Industrial Organization, 2nd edition』, Paul Belleflamme and Martin Peitz (Cambridge University Press), 2015.

参考書

・『The Theory of Industrial Organization』, Jean Tirole (MIT Press), 1988.
・『Industrial Organization: Theory and Applications』, Oz Shy (MIT Press), 1996.
・『産業組織論　理論・戦略・政策を学ぶ』、小田切宏之（有斐閣）、2019年。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時、もしくはOh-o! Meijiを通じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

課題70%、授業時の発言等による貢献度30%により、評価を行う。

その他

講義は原則として、上記の講義計画に沿って進めるが、進捗状況や受講生の理解度に応じて、内容や進度を調整する。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学は国際マクロ経済学と貿易理論に分けられるが、このうち国際マクロ経済学に関するいくつかの重要な基本的テーマを中心に解説する。商学研究科の授業であることも考慮して、講義はマクロ経済学の基本から国際マクロ経済学体系へとスムーズに移行できるよう丁寧に解説するが、内容的には最新の議論まで扱うつもりである。具体的な講義内容は下記のとおりである。なお，受講者は下記の諸テーマに関して後日配布する文献リストから1つないし2つを選択し、講義時間内にプレゼンテーションを行うことを義務づける。

授業内容

第１回　国際収支の理論1（国際収支表の見方）
第２回　国際収支の理論2（国際資金循環の考え方）
第３回　国際収支に関する理論1（弾力性アプローチ）
第４回　国際収支に関する理論2（アブソープション・アプローチ）
第５回　国際収支に関する理論3（ISバランス･アプローチ）
第６回　国際収支のダイナミクス（異時点間の最適化アプローチ）
第７回　長期の開放マクロ経済モデル
第８回　短期の開放マクロ経済モデル1
第９回　短期の開放マクロ経済モデル2
第10回　物価の伸縮性を考慮したマクロ経済体系
第11回　為替相場決定に関する理論と実証1(購買力平価説)
第12回　為替相場決定に関する理論と実証2(資産アプローチ)
第13回　通貨統合の理論
第14回　まとめ

履修上の注意

学部レベルのマクロ・ミクロ経済学の知識を前提とする。経済数学のレベルに関して特に前提条件は設けないが、講義と並行して学習することを強く勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは使用しないが、下記の参考文献をしばしば用いる。

参考書

International Macroeconomics, Feenstra, R., and A. M. Taylor, Worth Publishers Inc., 2020.
International Macroeconomics: A Modern Approach, Schmitte-grohe S., and M. Uribe, Princeton Univ. Press, 2022.
『国際金融論のエッセンス』、高浜光信･高屋定美編著、文眞堂、2021年。
その他は、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への取り組みの積極性70点、レポート30点の合計で評価する。

その他

プレゼンテーションの際には、他の受講者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標

国際経済学特論Aの内容を受けて、近年発展の目覚しい国際マクロ経済学分野からいくつかのトピックを選択して解説する。同時に受講者には講義内で扱う各テーマに関して後日配布する文献リストから論文を選択し、それらの内容に関する詳細なプレゼンテーションを行うことを義務づける。具体的な講義内容は下記の通りである。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　通貨危機の理論と実証(通貨危機のモデル)
第３回　通貨危機の理論と実証(通貨危機と金融危機)
第４回　通貨統合の理論(最適通貨圏理論)
第５回　通貨統合の理論(新しい最適通貨圏理論)
第６回　通貨統合の理論(最適通貨圏の実証)
第７回　通貨統合の実際(ユーロ圏を中心に)
第８回　通貨統合の実際(ユーロ危機を中心に)
第９回　通貨統合の実際(アジア地域の金融協力)
第10回　グローバル･インバランス
第11回　リージョナル･インバランス２
第12回　国際通貨の選択と国際通貨制度改革１
第13回　国際通貨の選択と国際通貨制度改革(近年の動向)
第14回　まとめ

履修上の注意

国際経済学特論Aを履修していることが望ましい。経済数学のレベルに関して特に前提条件は設けないが、講義と並行して学習することを強く勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは使用せず、各テーマに関する重要な論文リストを配布する。

参考書

International Macroeconomics, Feenstra, R., and A. M. Taylor, Worth Publishers Inc., 2020.
International Macroeconomics: A Modern Approach, Schmitte-grohe S., and M. Uribe, Princeton Univ. Press, 2022.
『国際金融論のエッセンス』、高浜光信･高屋定美編著、文眞堂、2021年。
その他は、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度70点、レポート30点の合計で評価する。

その他

各テーマに関しては報告者だけでなく、その他の受講者も予習を怠らないことを強く要望する。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済学外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標
概要
無料配信経済学教科書COREECONを読んで英語で経済学を勉強する。
到達目標
自分で英語の研究書が読めるようにする。

授業内容
次の予定で読んでいく。
第 1 回 Chapter 1 (1)
第 2 回 Chapter 1 (1)
第 3 回 Chapter 2 (1)
第 4 回 Chapter 2 (2)
第 5 回 Chapter 3 (1)
第 6 回 Chapter 3 (2)
第 7 回 Chapter 4 (1)
第 8 回 Chapter 4 (2)
第 9 回 Chapter 5 (1)
第10回 Chapter 5 (2)
第11回 Chapter 6 (1)
第12回 Chapter 6 (2)
第13回 Chapter 7 (1)
第14回 Chapter 7 (2)

履修上の注意
予習、復習が重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
予習としては次回の予定個所をすべて読み、復習としては学習個所をすべて日本語にする。

教科書
The Economy 2.0 The CORE Econ team
An open-access textbook for any first course in economics, whether principles, micro, or macro.
https://books.core-econ.org/the-economy/index.html?_gl=1*1tr4umh*_ga*MTY4NzM5MDI2OS4xNzYzNTE4Mjcz*_ga_64NM9TBYSL*czE3NjM1MTgyNzMkbzEkZzEkdDE3NjM1MTgyOTgkajM1JGwwJGgw?bookmarks=31-139-8-0-0-0-0-0-0-10-171-174-5-0-67-191-166-163-2-0-0-0

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
平常点８０％、授業中の小テスト２０％

その他

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済学外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標
概要
無料配信経済学教科書COREECONを読んで英語で経済学を勉強する。
到達目標
自分で英語の研究書が読めるようにする。

授業内容
次の予定で読んでいく。
第 1 回 Chapter 8 (1)
第 2 回 Chapter 8 (1)
第 3 回 Chapter 9 (1)
第 4 回 Chapter 9 (2)
第 5 回 Chapter 10 (1)
第 6 回 Chapter 10 (2)
第 7 回 Chapter 11 (1)
第 8 回 Chapter 11 (2)
第 9 回 Chapter 12 (1)
第10回 Chapter 12 (2)
第11回 Chapter 13 (1)
第12回 Chapter 13 (2)
第13回 Chapter 14 (1)
第14回 Chapter 14 (2)

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
予習としては次回の予定個所をすべて読み、復習としては学習個所をすべて日本語にする。

教科書
The Economy 2.0 The CORE Econ team
An open-access textbook for any first course in economics, whether principles, micro, or macro.
https://books.core-econ.org/the-economy/index.html?_gl=1*1tr4umh*_ga*MTY4NzM5MDI2OS4xNzYzNTE4Mjcz*_ga_64NM9TBYSL*czE3NjM1MTgyNzMkbzEkZzEkdDE3NjM1MTgyOTgkajM1JGwwJGgw?bookmarks=31-139-8-0-0-0-0-0-0-10-171-174-5-0-67-191-166-163-2-0-0-0

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
平常点８０％、授業中の小テスト２０％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

本演習では、優れた理論研究を達成する方法論を議論します。理論研究とは、現象が生じるメカニズムについて理由を仮説にし、それを何らかの方法で証拠立てることを意味します。これが、理論と説明の違いです。理論研究を実施するためには、研究方法論を厳密にマスターできなければならないでしょう。本演習は、各方法論のテクニカルな技法を提供するわけではないですが、その基本的思考を理解します。

授業内容

第１回　理論研究とは何か
第２回　経済学の理論研究
第３回　経営学の理論研究
第４回　社会学の理論研究
第５回　心理学の理論研究
第６回　実証研究とは何か
第７回　経済学の実証研究
第８回　経営学の実証研究
第９回　社会学の実証研究
第10回　心理学の実証研究
第11回　多様化する方法論
第12回　「方法論」論の陥穽
第13回　方法論の選択方法
第14回　方法論のトレーニング方法

履修上の注意

この演習は、講義ではなく討論を想定しています。受講生の発言が90％を占めるように設計します。予習なく参加することはできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

本演習は講義ではありません。議論の場になります。初回に作業手順を紹介しますが、演習各回の課題が示され、それに基づいて受講生が資料や証拠を集め、演習当日に紹介するという課業を想定しています。

教科書

以下の3冊を読了しておいてください。講義で内容を解説することはありませんが、たびたび引用しますので、図書館から借りださずに、購入すべきだと考えます。
伊丹敬之『創造的論文の書き方』有斐閣、2001年
田村正紀『リサーチ･デザイン』白桃書房、2006年
ハワード･ベッカー『論文の技法』講談社、1996年

参考書

各講義で指示します。英語のジャーナルですので、本学のWeb of Scienceのアカウントを取得しておいてください。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義での発言　50％
タームペーパー　25％
期末試験　25％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

この演習では、実証研究を追試します。大学でのディシプリンにはいくつかのタイプの産出があります。理論研究、実証研究、歴史研究、あるいはフィールドワークです。この演習では､実証研究だけにフォーカスします｡歴史研究やフィールドワークなどは射程外です。本演習2単位の時間で作成可能な実証研究を製作し、その方法を経験することが目標です。

授業内容

第１回　実証研究への誘い
第２回　事実の確認
第３回　仮説の開発
第４回　コンセプトの創造
第５回　コンセプトの測定
第６回　コンセプトの測量化
第７回　モデルの開発
第８回　次元の開発
第９回　指標の開発
第10回　アイテムの開発
第11回　リサーチサイトの選択
第12回　企画書の作成
第13回　サーベイの実施
第14回　集計と分析

履修上の注意

この演習は、講義ではなく討論を想定しています。受講生の発言が90％を占めるように設計します。予習なく参加することはできません。

準備学習（予習・復習等）の内容

実証研究の出発点は、なぜだろう、という問いかけです。そのためには、社会現象に関する事実が必要です。ここで事実とは、デュルケムのいう意味でのそれを想定しています。デュルケムの意味での（社会的）事実は『自殺論』（自殺というタイトルの場合もあります）を読んで、その意味を知っておいてください。講義の最初に、野中先生の（当時の）問題意識を紹介しますが、本演習の支配的な作業は、あくまでも受講生の報告です。できるだけPPT（に準ずるものが適当で、紙媒体は不要だし配布もしない）で､華麗な報告をしてください。

教科書

以下の3冊は読了して講義に参加して下さい。内容を解説することはありませんが、たびたび引用しますので、図書館から借りだしをせず、購入することが必要です。
野中郁次郎『組織と市場』千倉書房
風呂勉『マーケティング･チャネル行動論』千倉書房
田村正紀『現代の市場戦略』日本経済新聞社

参考書

講義中に指示しますが、本学のWeb of scienceからのダウンロードが中心になります。アカウントを獲得しておいてください。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義での発言　50％
タームペーパー　25％
期末試験　25％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

研究テーマの選択は、各学位論文の完成水準に決定的な影響を与えます。研究方法論がどんなに冴えていても、ビビッドでないテーマを選ぶと一生うだつの上がらない研究生活になります。わたくしは研究は自身の関心のみで成立するというスタンスではありますが、それでも、『文学部唯野教授』のいうように、読者2名(厳密には1.5名)の紀要論文にしかならないような研究テーマは、精神衛生上よいものではありません。研究仲間が最低10名ぐらいはいるようなテーマを選びたいものです。この演習では、最新の方法にもとづいて論文を描き上げることが目標です。受講生は各自のテーマを特定し、毎回、何らかの報告を行い、論考を仕上げていきます。

授業内容

第１回　研究テーマの選択
第２回　研究テーマの特定
第３回　特定テーマのレビュー
第４回　テーマの深化
第５回　関連資料のレビュー
第６回　方法論の特定
第７回　調査の設計
第８回　リサーチサイトの選択
第９回　企画書の作成
第10回　代替案の作成
第11回　調査の報告
第12回　追加調査の設計
第13回　構成の修正
第14回　校正･印刷

履修上の注意

この演習は講義は特にありません。受講生の関心と進捗によって各回の内容が異なることがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究報告が課題です。毎回毎回、受講生全員が発表し、全員と質疑応答をします。学会発表を想定するとよいと思います。

教科書

田村正紀『リサーチ･デザイン』白桃書房
Blaikie, Norman (2010), Designing Social Research, 2nd Edition, Polity Press.

参考書

講義中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中の報告　50%
論文仕上がりの程度　30%
論文の影響度　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

近年の情報技術革新を背景に、理論のない主張や枠組みを持たない分析（らしき言説）が、いたるところで読めるようになってきた。それらは、その主張者の見てくれも作用し、支配的な主張とは異なる内容を持っているかのように読めなくもないので、あたかも斬新で、場合によっては新しい理論のような社会的な認知を受けている。残念ながら、それらのアジテートは、理論もなく、主張としても数年前にはやったことを繰り返しているに過ぎないことが多い。本講義は、そういうった理論なき主張を取り上げ、何が不足しているのか、何があれば新しい理論になるのかを、具体例とともに受講者と検討することを課題とする。本講義の到達目標は、理論開発こそが学者の仕事であり、感想や印象を批判的に語ることではないと実感できるようになることである。

授業内容

第１回　研究テーマの選択と議論
第２回　研究テーマの関連領域の検討
第３回　リサーチサイトへのアクセサビリティの調査
第４回　既存研究のレビュー
第５回　既存研究の問題点
第６回　問題点の進化方法の戦略的検討
第７回　問題点の解決方法の特定
第８回　方法論の選択
第９回　方法論のレビュー
第10回　論文の構成の確定
第11回　構成の加筆と修正
第12回　研究進捗報告
第13回　論文の修正
第14回　ゲラの校正

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本演習は特定の講義はありません。受講生の研究テーマに従って、論文を完成させるための手順を示している。受講生は毎回特定のテーマについて報告を義務付けられます。

教科書

内田樹『街場の共同体論』潮出版
津田大介『未来を変える情報の呼吸法』角川書店
常見陽平『意識高い系という病』ベストセラーズ
浜矩子『浜矩子の歴史に学ぶ経済集中講義』集英社
古市憲寿『絶望の国の幸福な若者たち』講談社

参考書

講義中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の報告　50%
報告の内容　30%
報告の達成水準　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

商業経営論特論演習では、小売ビジネス･卸売ビジネスを対象に講義を行う。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化、情報通信技術の発展、法的規制の緩和による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。またデジタル･シフトとしてオムニチャネル化も進展し、顧客生涯価値や顧客エンゲージメントを高める必要性が主張されている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する基本的な視座について検討していく。文献については担当者に割り当てを行い、担当者はその箇所を要約し、発表を行う。参加者は議論を行うことで理解を深めていく。

とくに流通の情報化に焦点を置いて研究を行う。

〈授業の到達目標〉

流通現象への理解
商業経営論の基礎的枠組みへの理解
商業経営論の今後の研究の方向性への理解

授業内容

第１回　商業経営論への扉を開く
第２回　流通機能
第３回　流通機構の変動
第４回　小売営業形態変革の諸理論の新たな方向性
第５回　百貨店の意義
第６回　百貨店の変容
第７回　百貨店の新たな方向性
第８回　スーパーマーケットの意義
第９回　通信販売の進展
第10回　GMSの意義
第11回　GMSの変容
第12回　商業集積の特性と動向
第13回　ショッピングセンターの革新性
第14回　コンビニエンスストアの革新性

履修上の注意

履修者には事前に発表の報告部分を割り当てる。報告者は発表し、他の受講者との議論を行うことにする。

商業総論特論A･商品学特論A･市場調査論特論A･流通システム論特論Aなどの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の講義範囲について、事前に教科書や資料の該当範囲を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べてくること。また講義で紹介した内容については文献等で調べておくこと。復習として、教科書及び参考資料の該当箇所を読むこと。

教科書

『体系小売マネジメント』岸本徹也・菊池一夫（中央経済社）2024年

参考書

『小売経営論』高嶋克義･高橋郁夫（有斐閣）2020年

課題に対するフィードバックの方法

割り当てられた発表内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献度(60%)、発表内容(40%)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

商業経営論特論演習では、小売ビジネス･卸売ビジネスを対象に講義を行う。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化、情報通信技術の発展によるインターネット通販の拡大、法的規制の緩和による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する基本的な視座について検討していく。文献については担当者に割り当てを行い、担当者はその箇所を要約し、発表を行う。参加者は議論を行うことで理解を深めていく。

とくに基礎文献の収集と精読に力を入れて研究を行う。

〈授業の到達目標〉

流通現象への理解
商業経営論の基礎的枠組みへの理解
商業経営論の今後の研究の方向性への理解

授業内容

第１回　商業経営論への扉を開く：業態革新の動向
第２回　コンビニエンス･ストアの躍進
第３回　専門量販店の革新性
第４回　インターネット小売業の躍進
第５回　インターネット小売業の革新性
第６回　SPAの革新性
第７回　中小小売業の動向
第８回　小売の国際化
第９回　小売環境としての立地要因
第10回　小売環境としての国際文化と人間行動
第10回　フランチャイジング･戦略提携
第11回　多国間提携における小売業
第12回　アメリカにおける小売業
第13回　ヨーロッパにおける小売業
第14回　アジアにおける小売業

履修上の注意

履修者には事前に発表の報告部分を割り当てる。報告者は報告を行い、他の受講者との議論ができるようにすること。商業総論特論B･商品学特論B･市場調査論特論B･流通システム論特論Bなどの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと、また講義で紹介した問題などについて調べておくこと。

教科書

『小売マーケティング・ハンドブック』青木均（同文舘出版）2024年。

参考書

『Retailing Management: A Strategic Approach,13th ed.』B.R.Berman,J.R.Evans and P.Chatterjee（Pearson Education Limited.）2018

課題に対するフィードバックの方法

割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献度(60%)、発表内容(40%)を判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

商業経営論特論演習では、小売ビジネス・卸売ビジネスを対象に研究を進めていく。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化、情報通信技術の発展、法的規制の緩和、インターネット通販による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する問題意識と研究方法をもって修士論文の作成に取り組んでいく。

とくに先行研究のリサーチと課題設定に力を置いて研究を行う。

〈授業の到達目標〉

商業経営を対象にした修士論文の作成に向けて、
・文献収集方法
・仮説の設定
・研究アプローチ
の理解と習得にむけて報告を中心に研究を進めていく。

授業内容

第１回　戦略的小売管理の分析枠組み
第２回　マーチャンダイジングの意思決定問題（品揃え）
第３回　マーチャンダイジングの意思決定問題（価格）
第４回　立地戦略の意思決定問題
第５回　プロモーション戦略の意思決定問題
第６回　顧客サービス戦略の意思決定問題
第７回　小売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第８回　小売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第９回　卸売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第10回　卸売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第11回　研究論文作成の進め方
第12回　研究対象としてのテーマの選定
第13回　研究対象としてのテーマの動向
第14回　先行研究の文献収集方法とそのまとめ

履修上の注意

履修者には事前に報告部分を割り当てる。履修者は修士論文作成にあたって、文献収集、論文構成、発表を繰り返し行う。商品学特論A･B･商業総論特論A･B･市場調査論特論A･B･流通システム論特論A･Bなどの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

『リサーチデザイン』田村正紀（千倉書房）2006年。

参考書

『社会科学の考え方』野村康（名古屋大学出版会）2017年。

課題に対するフィードバックの方法

割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献度（60％）、発表内容（40％）を判断して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

商業経営論特論演習では、小売ビジネス・卸売ビジネスを対象に研究を進めていく。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化、情報通信技術の発展，法的規制の緩和による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する問題意識と研究方法をもって修士論文の作成に取り組んでいく。

とくにデータの収集と仮説の検証に力を入れて研究を行う。

〈授業の到達目標〉

商業経営を対象にした修士論文の作成に向けて、
・文献収集方法
・仮説の設定と検証
・研究アプローチ
への理解と習得にむけて報告を中心に研究を進めていく。

授業内容

第１回　先行研究の文献のまとめと報告
第２回　先行研究の検討
第３回　先行研究の検討と仮説の設定
第４回　中間報告
第５回　研究アプローチ（定量的研究）
第６回　研究アプローチ（定量的研究とその進め方）
第７回　研究アプローチ（定性的研究）
第８回　研究アプローチ（定性的研究とその進め方）
第９回　調査結果とその議論
第10回　研究のまとめ
第11回　研究報告
第12回　研究報告とその検討による修正
第13回　研究報告とその検討による再修正
第14回　最終報告

履修上の注意

履修者には事前に報告部分を割り当てる。履修者は修士論文の執筆に向けて研究方法や論文構成、発表を中心に授業を行う。商品学特論A･B･商業総論特論A･B･市場調査論特論A･B･流通システム論特論A･Bなどの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

『マネジメント研究への招待』須田敏子（中央経済社）2019年。

参考書

『社会科学の哲学入門』吉田敬（勁草書房）2021年。

課題に対するフィードバックの方法

割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献度（60％），発表内容（40％）を判断して総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

品質，ブランド，サービスなどの領域についての研究を行う。

授業内容

履修者の研究計画に従い，研究報告を行ってもらう。
また，修士論文作成のために，研究の方法論についても学習する。
基本文献の講読
第１回　商品学のイントロダクション(1)
第２回　商品学のイントロダクション(2)
第３回　研究テーマの検討(1)
第４回　研究テーマの検討(2)
第５回　商品学の基本文献の講読(1)
第６回　商品学の基本文献の講読(2)
第７回　商品学の基本文献の講読(3)
第８回　商品学の基本文献の講読(4)
第９回　商品学の基本文献の講読(5)
第10回　商品学の分析手法等に関する基本文献の講読(1)
第11回　商品学の分析手法等に関する基本文献の講読(2)
第12回　商品学の分析手法等に関する基本文献の講読(3)
第13回　商品学の分析手法等に関する基本文献の講読(4)
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

受動的ではなく能動的に研究に取り組むこと

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること

教科書

高橋昭夫『現代商品知覚論』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

品質，ブランド，サービスなどの領域についての研究を行う。

授業内容

履修者の研究計画に従い，研究報告を行ってもらう。
また，修士論文作成のために，研究の方法論についても学習する。
関連文献の講読
第１回　研究テーマに関する文献の紹介(1)
第２回　研究テーマに関する文献の紹介(2)
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読(1)
第５回　主要関連文献の講読(2)
第６回　主要関連文献の講読(3)
第７回　主要関連文献の講読(4)
第８回　主要関連文献の講読(5)
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討(1)
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討(2)
第11回　分析方法等の関する関連文献の講読(1)
第12回　分析方法等の関する関連文献の講読(2)
第13回　分析方法等の関する関連文献の講読(3)
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

受動的ではなく能動的に研究に取り組むこと

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること

教科書

高橋昭夫『現代商品知覚論』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

品質，ブランド，サービスなどの領域についての研究を行う。

授業内容

履修者の研究計画に従い，研究報告を行ってもらう。
また，修士論文作成のために，研究の方法論についても学習する。
修士論文作成（執筆）の準備（2単位科目の場合の春学期あるいは前半）

第１回　履修者による修士論文テーマの報告(1)
第２回　履修者による修士論文テーマの報告(2)
第３回　分析方法の検討等(1)
第４回　分析方法の検討等(2)
第５回　分析方法の検討等(3)
第６回　分析方法の検討等(4)
第７回　分析方法の検討等(5)
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(1)
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(2)
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討(1)
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討(2)
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討(3)
第13回　予備的分析結果の検討等(1)
第14回　予備的分析結果の検討等(2)

履修上の注意

受動的ではなく能動的に研究に取り組むこと

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること

教科書

高橋昭夫『インターナル・マーケティングの理論と展開』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート（40%）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

品質，ブランド，サービスなどの領域についての研究を行う。

授業内容

履修者の研究計画に従い，研究報告を行ってもらう。
また，修士論文作成のために，研究の方法論についても学習する。
修士論文作成（執筆）指導（2単位科目の場合の秋学期あるいは後半）

第１回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　履修者による修士論文中間報告(1)
第８回　履修者による修士論文中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文執筆に関する指導(3)
第12回　履修者による修士論文最終報告(1)
第13回　履修者による修士論文最終報告(2)
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

受動的ではなく能動的に研究に取り組むこと

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること

教科書

高橋昭夫『インターナル・マーケティングの理論と展開』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート（40%）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士		若林　幸男

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文作成に向けて(1)
第２回　修士論文作成に向けて(2)
第３回　発表とその検討･評価(1)
第４回　発表とその検討･評価(2)
第５回　発表とその検討･評価(3)
第６回　発表とその検討･評価(4)
第７回　発表とその検討･評価(5)
第８回　発表とその検討･評価(6)
第９回　グループ学習(1)
第10回　グループ学習(2)
第11回　グループ学習(3)
第12回　グループ学習(4)
第13回　グループ学習現地踏査(1)
第14回　グループ学習現地踏査(2)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義の準備については，テドロー著『マスマーケティング史』，石井寛治『日本流通史』などの基本的な著書をあらかじめ読破し，予習しておくことをお勧めする。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士		若林　幸男

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文の中間報告(1)
第２回　修士論文の中間報告(2)
第３回　修士論文の中間報告(3)
第４回　修士論文の中間報告(4)
第５回　修士論文の中間報告(5)
第６回　修士論文の中間報告(6)
第７回　テーマ学習(1)
第８回　テーマ学習(2)
第９回　修士論文のためのアンケート調査票作成(1)
第10回　修士論文のためのアンケート調査票作成(2)
第11回　修士論文のためのアンケート調査票作成(3)
第12回　修士論文のためのアンケート調査票作成(4)
第13回　修士論文のためのアンケート調査票作成(5)
第14回　修士論文のためのアンケート調査票作成(6)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

石井寛治『近代日本流通史』東京堂などの文献は読破しておいてもらいたい。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文作成に向けて(1)
第２回　修士論文作成に向けて(2)
第３回　発表とその検討･評価(1)
第４回　発表とその検討･評価(2)
第５回　発表とその検討･評価(3)
第６回　発表とその検討･評価(4)
第７回　発表とその検討･評価(5)
第８回　発表とその検討･評価(6)
第９回　調査結果加工(1)
第10回　調査結果加工(2)
第11回　調査結果加工(3)
第12回　調査結果加工(4)
第13回　調査結果加工(5)
第14回　調査結果加工(6)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　商学博士　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本演習では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文の中間報告(1)
第２回　修士論文の中間報告(2)
第３回　修士論文の中間報告(3)
第４回　修士論文の中間報告(4)
第５回　修士論文の中間報告(5)
第６回　修士論文の中間報告(6)
第７回　テーマ学習(1)
第８回　テーマ学習(2)
第９回　修士論文の最終報告(1)
第10回　修士論文の最終報告(2)
第11回　修士論文の最終報告(3)
第12回　修士論文の最終報告(4)
第13回　修士論文の最終報告(5)
第14回　修士論文の最終報告(6)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
流通論の基礎を学びます。研究の進め方，研究論文の書き方についても学習します。

授業内容
第１回　流通研究の意義
第２回　流通論のテキストの輪読
第３回　流通論のテキストの輪読
第４回　流通論のテキストの輪読
第５回　流通論のテキストの輪読
第６回　流通にかかわる事例分析
第７回　流通にかかわる事例分析
第８回　流通に関する研究書の輪読
第９回　流通に関する研究書の輪読
第10回　流通に関する研究書の輪読
第11回　流通に関する研究書の輪読
第12回　研究の進め方
第13回　研究の進め方
第14回　研究論文の書き方

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM542J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
学術論文に掲載されている流通チャネルやB2Bマーケティングに関する学術論文の講読を通じて，先行研究レビューの方法，分析の方法（データ収集およびデータ解析），分析結果の解釈の方法について学びます。分析方法については，量的研究および質的研究の両方が行えるようになることを目標にしています。

授業内容
第１回　経験的研究(量的研究)の概要
第２回　経験的研究(質的研究)の概要
第３回　垂直統合に関する研究論文輪読
第４回　垂直統合に関する研究論文輪読
第５回　B2Bに関する研究論文輪読
第６回　B2Bに関する研究論文輪読
第７回　信頼およびコミットメント概念に関する研究論文輪読
第８回　信頼およびコミットメント概念に関する研究論文輪読
第９回　組織学習に関する研究論文輪読
第10回　組織学習に関する研究論文輪読
第11回　正当性(Legitimacy)に関する研究論文輪読
第12回　正当性(Legitimacy)に関する研究論文輪読
第13回　組織ディスコースに関する研究論文輪読
第14回　組織ディスコースに関する研究論文輪読

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.		原　頼利

授業の概要・到達目標
流通チャネル研究におけるいくつかのアプローチに関する研究論文を輪読します。研究論文の講読を通じて，論理的な思考を身につけ，修士論文の執筆に必要な知識である研究論文の書き方について学びます。

授業内容
第１回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第２回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第３回　取引費用アプローチの研究論文輪読
第４回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第５回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第６回　関係的交換アプローチの研究論文輪読
第７回　ケイパビリティ･アプローチの研究論文輪読
第８回　ケイパビリティ･アプローチの研究論文輪読
第９回　ケイパビリティ･アプローチの研究論文輪読
第10回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第11回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第12回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第13回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読
第14回　受講生の研究テーマに関する研究論文輪読

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM642J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.		原　頼利

授業の概要・到達目標
修士論文の執筆のための指導を行ないます。学生が各自の研究テーマに関する研究報告を行ない，教員および参加学生からの助言を受けます。

授業内容
第１回　修士論文の概要報告
第２回　修士論文の概要報告
第３回　修士論文の概要報告
第４回　テーマに関する先行研究の報告
第５回　テーマに関する先行研究の報告
第６回　テーマに関する先行研究の報告
第７回　研究の方法についての報告
第８回　研究の方法についての報告
第９回　研究の方法についての報告
第10回　研究成果の報告
第11回　研究成果の報告
第12回　研究成果の報告
第13回　修士論文の添削
第14回　修士論文の添削

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
修士論文の作成を計画的に行ってください。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％と修士論文の研究の質60％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

ICTの発展と人を取り巻く社会的制度の変容により，売り手と買い手，買い手同士，売り手同士のつながり方や接し方が大きく変化してきている昨今，市場という概念に対しても新たな分析視角が必要とされている。本演習は，履修者が独自の分析視角から市場の状態あるいはその動態性を理解･説明できるようになるために，理論と研究技法を学んでいく。

特にＩＡでは，市場やその動態性に関する既存の分析視角を整理しながら，履修者独自の研究関心の涵養を目指す。

授業内容

第１回　市場に関する伝統的なフレームワーク(1)：マーケティングミックス
第２回　市場に関する伝統的なフレームワーク(2)：管理論から戦略論へ
第３回　関連学問領域における市場の捉え方
第４回　関係性概念と市場概念(1)：関係性マーケティングの登場
第５回　関係性概念と市場概念(2)：サービスマーケティングと顧客関係管理
第６回　関係性概念と市場概念(3)：産業財マーケティングと組織購買プロセス
第７回　価値共創概念と市場概念(1)：SDLとGDL
第８回　価値共創概念と市場概念(2)：単数のサービスと複数のサービシーズ
第９回　価値共創概念と市場概念(3)：価値共創者としての顧客
第10回　市場の分析次元(ミクロ)
第11回　市場の分析次元(マクロ)
第12回　市場の分析次元(ネットワーク-1)：消費者間のネットワーク
第13回　市場の分析次元(ネットワーク-2)：エコシステム
第14回　市場に関する分析視角のまとめ

履修上の注意

本演習の履修者は、市場あるいはそこから派生するさまざまな現象に対して、常に学術的あるいは実務的な関心を持っていなければならない。そして、教員からの指示が無くとも、学術誌やビジネス誌などの記事あるいは自分の体験を市場現象という点から解釈･検討していく癖を身につけてほしい。演習という授業形態上、履修者の発表や報告が授業の起点となる。各回の授業テーマに関連した課題を事前に提示するので、それに対する準備学習は受講の前提条件となる。受動的な受講態度は容認しない。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、授業終了時に次回の授業で勉強する内容を明示するので、報告担当者でない者も含めた全員が、当該範囲について事前にさまざまな資料（指定教科書、新聞、雑誌等）を読んでから授業に参加すること。

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。各回の講義資料を配布し、またその内容に関連した文献を授業内で輪読する。当該テーマに沿って適宜文献等を紹介することがある。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に課題の解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で課題内容に立ち返り解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における発表・報告の充実度50%，授業内での発言の積極性30%，提出課題の評価20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

ICTの発展と人を取り巻く社会的制度の変容により，売り手と買い手，買い手同士，売り手同士のつながり方や接し方が大きく変化してきている昨今，市場という概念に対しても新たな分析視角が必要とされている。本演習は，履修者が独自の分析視角から市場の状態あるいはその動態性を理解･説明できるようになるために，理論と研究技法を学んでいく。

特にＩＢでは，履修者の研究関心に関連した領域の良質な既存研究を多く読み，その内容を把握するだけでなく，仮説構築までのプロセスやその検証の仕方についても学んでいく。

授業内容

第１回　市場に関する研究の方法論(理論モデル構築の手順)
第２回　市場に関する研究の方法論(科学的手続き)
第３回　市場に関する研究の方法論(定量的分析手法)
第４回　市場に関する研究の方法論(定性的分析手法)
第５回　既存の定量的実証研究の論読(1)：測定方法
第６回　既存の定量的実証研究の論読(2)：測定モデルの評価
第７回　既存の定量的実証研究の論読(3)：構造モデルの適合度の判断
第８回　既存の定量的実証研究の論読(4)：構造モデルの検討と仮説検証
第９回　定性的分析手法を用いた既存研究の論読(1)
第10回　定性的分析手法を用いた既存研究の論読(2)：グラウンデッドセオリーアプローチ(GTA)の概要
第11回　定性的分析手法を用いた既存研究の論読(3)：GTAの基本フェーズ
第12回　定性的分析手法を用いた既存研究の論読(4)：コーディング作業と信頼性の確認
第13回　履修者の関心領域における研究方法の理解(1)：共分散構造分析
第14回　履修者の関心領域における研究方法の理解(2)：内容分析

履修上の注意

本演習の履修者は，市場あるいはそこから派生するさまざまな現象に対して，常に学術的あるいは実務的な関心を持っていなければならない。そして，教員からの指示が無くとも，学術誌やビジネス誌などの記事あるいは自分の体験を市場現象という点から解釈･検討していく癖を身につけてほしい。演習という授業形態上，履修者の発表や報告が授業の起点となる。各回の授業テーマに関連した課題を事前に提示するので，それに対する準備学習は受講の前提条件となる。受動的な受講態度は容認しない。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，授業終了時に次回の授業で勉強する内容を明示するので，報告担当者でない者も含めた全員が，当該範囲について事前にさまざまな資料（指定教科書，新聞，雑誌等）を読んでから授業に参加すること

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。各回の講義資料を配布し、またその内容に関連した文献を授業内で輪読する。当該テーマに沿って適宜文献等を紹介することがある。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に課題の解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で課題内容に立ち返り解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における発表・報告の充実度50%，授業内での発言の積極性30%，提出課題の評価20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

ICTの発展と人を取り巻く社会的制度の変容により，売り手と買い手，買い手同士，売り手同士のつながり方や接し方が大きく変化してきている昨今，市場という概念に対しても新たな分析視角が必要とされている。本演習は，履修者が独自の分析視角から市場の状態あるいはその動態性を理解・説明できるようになるために，理論と研究技法を学んでいく。

特にⅡAでは，履修者による修士論文作成過程の報告とそれに対する指導を中心に進めていく。また同時に，小規模なデータ収集・分析を行う実践的な演習も実施する。

授業内容

第１回　修士論文の研究テーマに関する報告と指導(1)：作成の概要と要点の解説
第２回　修士論文の研究テーマに関する報告と指導(2)：APAの論文作成マニュアルの解説
第３回　当該論文の作成手順に関する指導(1)：論文構成
第４回　当該論文の作成手順に関する指導(2)：直接引用と間接引用
第５回　研究テーマに関連した既存研究の講読(1)：心理学モデルを中心とした文献のレビュー
第６回　研究テーマに関連した既存研究の講読(2)：行動経済学を中心とした文献レビュー
第７回　研究テーマに関連した既存研究の講読(3)：ブランドを中心とした文献のレビュー
第８回　研究テーマに関連した既存研究の講読(4)：消費者行動を中心とした文献のレビュー
第９回　修士論文に関する中間報告と指導(1)：文献レビューの指導
第10回　修士論文に関する中間報告と指導(2)：仮説抽出部分の指導
第11回　修士論文に関する中間報告と指導(3)：方法論部分の指導
第12回　修士論文に関する中間報告と指導(4)：分析結果の解釈部分の指導
第13回　データの収集と分析に関する実践的練習(1)：欠損値の取り扱い
第14回　データの収集と分析に関する実践的練習(2)：パス解析における修正指標の利用

履修上の注意

本演習の履修者は，市場あるいはそこから派生するさまざまな現象に対して，常に学術的あるいは実務的な関心を持っていなければならない。そして，教員からの指示が無くとも，学術誌やビジネス誌などの記事あるいは自分の体験を市場現象という点から解釈･検討していく癖を身につけてほしい。演習という授業形態上，履修者の発表や報告が授業の起点となる。各回の授業テーマに関連した課題を事前に提示するので，それに対する準備学習は受講の前提条件となる。受動的な受講態度は容認しない。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の修士論文に関する報告の準備を入念に行うこと。論文の作成を随時進めること。

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。基本的に執筆した修士論文とそこで言及されている参考文献に基づきながら指導を行う。また、各回の授業テーマに沿った文献等を適宜紹介していく。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に解答例や解説を行う。また執筆した論文を一緒に読みながら、提示した課題について適宜解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や課題への対応60%，修士論文執筆取り組みへの評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

ICTの発展と人を取り巻く社会的制度の変容により，売り手と買い手，買い手同士，売り手同士のつながり方や接し方が大きく変化してきている昨今，市場という概念に対しても新たな分析視角が必要とされている。本演習は，履修者が独自の分析視角から市場の状態あるいはその動態性を理解・説明できるようになるために，理論と研究技法を学んでいく。

特にⅡBでは，ⅡAに引き続き，履修者による修士論文作成過程の報告とそれに対する指導を中心に進めていき，修士論文の完成を目指す。

授業内容

第１回　修士論文に関する中間報告と指導ii（1）：理論からの仮説導出に関する指導
第２回　修士論文に関する中間報告と指導ii（2）：導出した仮説の明確化に関する指導
第３回　修士論文に関する中間報告と指導ii（3）：測定尺度の作成に関する指導
第４回　修士論文に関する中間報告と指導ii（4）：測定尺度の評価に関する指導
第５回　修士論文に関する中間報告と指導ii（5）：測定尺度の評価指標の解説
第６回　修士論文に関する中間報告と指導ii（6）：AVEおよびCRの算出に関する指導
第７回　修士論文の執筆形式に関する指導(1)：APAマニュアルに基づく表の作成指導
第８回　修士論文の執筆形式に関する指導(2)：APAマニュアルに基づく図の作成指導
第９回　修士論文に関する中間報告と指導iii（1）：分析結果の記載方法に関する指導
第10回　修士論文に関する中間報告と指導iii（2）：分析結果の考察方法に関する指導
第11回　修士論文に関する中間報告と指導iii（3）：分析結果のインプリケーション抽出に関する指導
第12回　修士論文に関する中間報告と指導iii（4）：参考引用リストの作成と整備に関する指導
第13回　修士論文に関する中間報告と指導iii（5）：論文要旨の必要構造と執筆に関する指導
第14回　修士論文の最終報告と研究課題の整理

履修上の注意

本演習の履修者は，市場あるいはそこから派生するさまざまな現象に対して，常に学術的あるいは実務的な関心を持っていなければならない。そして，教員からの指示が無くとも，学術誌やビジネス誌などの記事あるいは自分の体験を市場現象という点から解釈･検討していく癖を身につけてほしい。演習という授業形態上，履修者の発表や報告が授業の起点となる。各回の授業テーマに関連した課題を事前に提示するので，それに対する準備学習は受講の前提条件となる。受動的な受講態度は容認しない。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の修士論文に関する報告の準備を入念に行うこと。論文の作成を随時進めること。

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。基本的に執筆した修士論文とそこで言及されている参考文献に基づきながら指導を行う。また、各回の授業テーマに沿った文献等を適宜紹介していく。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に解答例や解説を行う。また執筆した論文を一緒に読みながら、提示した課題について適宜解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や課題への対応60%，修士論文執筆取り組みへの評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略論とその隣接領域について、文献サーベイとレビューを行い、これまでの先行研究の理論的検討を行う。また、受講者自らのリサーチクエスチョンの洗練を行い、修士論文執筆に向けた準備を行う。
加えて、修士論文の執筆に必要なスキルの習得機会を提供する。
本演習では、経営戦略論に関連する最新の研究成果について検討し、そこから得られる知見と、自らの能動的な研究活動を通じて修士論文作成に向けた研究活動を行う。
学生は、本演習を通じて、先行研究を理解した上で、自らの修士論文の理論的位置づけや実践的意義を見出すことを目標とする。

授業内容

第１回：イントロダクション
第２回：先行研究の報告1-1
第３回：先行研究の報告1-2
第４回：先行研究の報告1-3
第５回：先行研究の報告1-4
第６回：先行研究の報告2-1
第７回：先行研究の報告2-2
第８回：先行研究の報告2-3
第９回：先行研究の報告2-4
第10回：研究の中間報告1-1
第11回：研究の中間報告1-2
第12回：研究の中間報告1-3
第13回：研究の中間報告1-4
第14回：講義の振り返り

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

自らの研究を推進するために事前の学習・研究と、研究指導に基づいた事後学習･研究が必要になる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への参加（欠席する場合にはあらかじめ連絡し、必ず代替して報告は行う）
報告内容、及び演習内での発言･質問･態度による評価

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標

本演習では、経営戦略論とその隣接領域について、文献サーベイとレビューを行い、これまでの先行研究の理論的検討を行う。また、受講者自らのリサーチクエスチョンの洗練を行い、修士論文執筆に向けた準備を行う。
加えて、修士論文の執筆に必要なスキルの習得機会を提供する。
本演習では、経営戦略論に関連する最新の研究成果について検討し、そこから得られる知見と、自らの能動的な研究活動を通じて修士論文作成に向けた研究活動を行う。
学生は、本演習を通じて、先行研究を理解した上で、自らの修士論文の理論的位置づけや実践的意義を見出すことを目標とする。

授業内容

第１回：イントロダクション
第２回：先行研究の報告1-1
第３回：先行研究の報告1-2
第４回：先行研究の報告1-3
第５回：先行研究の報告1-4
第６回：先行研究の報告2-1
第７回：先行研究の報告2-2
第８回：先行研究の報告2-3
第９回：先行研究の報告2-4
第10回：研究の中間報告1-1
第11回：研究の中間報告1-2
第12回：研究の中間報告1-3
第13回：研究の中間報告1-4
第14回：講義の振り返り

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

自らの研究を推進するために事前の学習・研究と、研究指導に基づいた事後学習･研究が必要になる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習への参加（欠席する場合にはあらかじめ連絡し、必ず代替して報告は行う）
報告内容、及び演習内での発言･質問･態度による評価

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標
本演習では、経営戦略論とその隣接領域について、文献サーベイとレビューを行い、これまでの先行研究の理論的検討を行う。また、受講者自らのリサーチクエスチョンの洗練を行い、修士論文執筆に向けた準備を行う。
加えて、修士論文の執筆に必要なスキルの習得機会を提供する。
本演習では、経営戦略論に関連する最新の研究成果について検討し、そこから得られる知見と、自らの能動的な研究活動を通じて修士論文作成に向けた研究活動を行う。
学生は、本演習を通じて、先行研究を理解した上で、自らの修士論文の理論的位置づけや実践的意義を見出すことを目標とする。

授業内容
第１回:イントロダクション
第２回:研究の中間報告1-1
第３回:研究の中間報告1-2
第４回:研究の中間報告1-3
第５回:研究の中間報告1-4
第６回:研究の中間報告2-1
第７回:研究の中間報告2-2
第８回:研究の中間報告2-3
第９回:研究の中間報告2-4
第10回:研究の中間報告3-1
第11回:研究の中間報告3-2
第12回:研究の中間報告3-3
第13回:研究の中間報告3-4
第14回:講義の振り返り

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
自らの研究を推進するために事前の学習・研究と、研究指導に基づいた事後学習･研究が必要になる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
演習への参加（欠席する場合にはあらかじめ連絡し、必ず代替して報告は行う）
報告内容、及び演習内での発言･質問･態度による評価

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標
本演習では、経営戦略論とその隣接領域について、文献サーベイとレビューを行い、これまでの先行研究の理論的検討を行 う。また、受講者自らのリサーチクエスチョンの洗練を行い、修士論文執筆に向けた準備を行う。
加えて、修士論文の執筆に必要なスキルの習得機会を提供する。
本演習では、経営戦略論に関連する最新の研究成果について検討し、そこから得られる知見と、自らの能動的な研究活動を通じて修士論文作成に向けた研究活動を行う。
学生は、本演習を通じて、先行研究を理解した上で、自らの修士論文の理論的位置づけや実践的意義を見出すことを目標とする。
そして、修士論文の完成を目標とする。

授業内容
第１回:イントロダクション
第２回:研究の中間報告1-1
第３回:研究の中間報告1-2
第４回:研究の中間報告1-3
第５回:研究の中間報告1-4
第６回:研究の中間報告2-1
第７回:研究の中間報告2-2
第８回:研究の中間報告2-3
第９回:研究の中間報告2-4
第10回:研究の中間報告3-1
第11回:研究の中間報告3-2
第12回:研究の中間報告3-3
第13回:研究の中間報告3-4
第14回:講義の振り返り

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
自らの研究を推進するために事前の学習・研究と、研究指導に基づいた事後学習･研究が必要になる。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
演習への参加（欠席する場合にはあらかじめ連絡し、必ず報告は行う）
報告内容、修士論文、及び演習内での発言･質問･態度による評価

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

商業理論構築のための方法論について輪読を中心に議論を行う。理論は、ある商業現象がなぜ生じるのか、そのメカニズムの特定と実証的な証拠を示すことである。それには特定の作法があり、科学的研究論文を仕上げるためには、そのマスターが必要である。本特論では、そのマスターを目指す。

授業内容

第１回　よい研究とは何か
第２回　理論とは何か
第３回　理論の構成要素とその関係
第４回　実証研究とは何か
第５回　実証研究の構成要素とその関係
第６回　良い実証研究の鑑賞
第７回　実証研究の設計
第８回　実証研究の実施手順作成
第９回　リサーチサイトの特定
第10回　リサーチサイトへの企画書提出
第11回　調査報告
第12回　調査内容と理論の関係の特定
第13回　仮説の修正
第14回　修正原稿の完成

履修上の注意

この特論は主に受講生の報告によって構成される。特定の講義は行わない。そのため、受講生は毎回特定の課題について報告が、全員に課せられる。

準備学習（予習・復習等）の内容

テキストを熟読することが必要条件です。それに基づいて受講生が報告をしますが、学生の話はまとめといってもそうでないことが多いので、その都度、質問をしたり、論理を確認したりして、その報告自体もエレガントになるように努めます。

教科書

沼上幹『行為の経営学』白桃書房

参考書

講義中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各回の報告　50%
タームペーパー　30%
期末試験　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

優れた研究論文を書くための方法論を輪読し、各自作成する。

授業内容

第１回　優れた研究とは何か
第２回　優れた研究のコツ
第３回　研究テーマの選択方法
第４回　研究テーマの特定
第５回　リサーチサイトへのアクセス方法
第６回　リサーチサイトへの企画書の作成
第７回　仮説の開発
第８回　取材の実施
第９回　調査報告
第10回　仮説の修正
第11回　報告書の作成
第12回　研究論文の発表
第13回　論文の修正
第14回　ゲラの校正

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は受講生の何らかの報告が中心に構成されます。特定の講義はありません。受講生は毎回何らかの課題について報告を義務付けられます。

教科書

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房

参考書

講義中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中の報告　50%
タームペーパー　20%
期末試験　30%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　授業では、小売ビジネスを対象にして、主に小売営業形態論や情報化の進展に焦点を当てて講義を進めていく。特に小売業は近年、情報通信技術の発展に伴って変革が進んでいる。講義は担当者が担当箇所の要約を行い、発表をする。それをもって参加者で議論をしていく。
〈授業の到達目標〉
　小売ビジネスに関する分野の動向を記述した国内外の文献講読を通じて、
・先進的な研究成果への理解
・商業経営論の基本的な理論枠組みや考え方の習得
・商業経営論の今後の研究の方向性
について理解を深めていく。

授業内容

第１回　商業経営論のフレームワークとその意義
第２回　百貨店とチェーンストアの生成と発展
第３回　通信販売の生成と発展
第４回　スーパーマーケットの生成と発展
第５回　ディスカウント･ストアの生成と発展
第６回　ショッピングセンターの生成と発展
第７回　ボランタリー･チェーンの生成と発展
第８回　フランチャイズシステムの生成と発展
第９回　小売営業形態の発展にかかわる理論
第10回　小売営業形態発展にかかわる新たな方向性
第11回　ケース(スーパーマーケット)
第12回　ケース(コンビニエンスストア)
第13回　ケース(SPA)
第14回　ケース(デジタル･プラットフォーム)

履修上の注意

　履修者は商品学特論A・市場調査論A・流通システム論Aなどの関連科目を履修していることが望ましい。
　履修者は割り当てられた箇所の報告を行い、他の履修者との議論ができるようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

　事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

『体系小売マネジメント』岸本徹也・菊池一夫（中央経済社）2024年。

参考書

『プラットフォーマー』ブノワ・レイエほか(日本経済新聞出版）2019年。

課題に対するフィードバックの方法

　割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

　授業への貢献度(60%)、発表内容(40%)を判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　授業では、主に小売ビジネスに焦点を当て、そのなかでも戦略的諸要素に焦点を当てて講義を進めていく。講義は担当者が担当箇所の要約を行い、発表をする。それをもって参加者で議論をしていく。
〈授業の到達目標〉
　小売ビジネスに関する分野の動向を記述した内外の文献講読を通じて、
・先進の研究成果への理解
・商業経営論の基本的な理論枠組みや考え方の習得
・今後の商業経営論の新しい研究領域
を認識し、理解することを目的にする。

授業内容

第１回　小売業とは何か
第２回　小売業の革新と動態
第３回　小売企業の組織
第４回　仕入活動の管理
第５回　販売活動の管理
第６回　小売経営における計数管理
第７回　消費者の店舗選択行動
第８回　消費者の店舗内購買活動
第９回　立地選択と出店戦略
第10回　小売企業戦略
第11回　EC事業
第12回　小売業の情報化
第13回　国際化する小売業
第14回　中小小売業の経営

履修上の注意

　履修者は割り当てられた報告個所を報告し、他の履修者との議論ができるようにする。
　商業総論特論A･B･商品学特論A･B･市場調査論特論A･B･流通システム論特論A･Bなどの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

『流通と商業の基礎理論』岩永忠康ほか著（五絃社）2020年。

参考書

『体系小売マネジメント』岸本徹也・菊池一夫（中央経済社）2024年。

課題に対するフィードバックの方法

　割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

　授業への貢献度(60%)、発表内容(40%)を判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

この講義では、商品学の新しい研究対象であるサービス商品およびデジタル商品に関して検討を加える。伝統的な商品学では、商品体を有した有形商品を主な研究対象としてきたが、いわゆるサービス経済化の動きの中で、先進国では、GDPに占める第3次産業の比率が、６０％を超えている。有形商品と比較しながら、サービス商品とデジタル商品の商品特性ならびに市場特性を明らかにする。この講義の具体的な目標は、サービス・マーケティングおよびデジタル・マーケティングの基本的な概念と理論を習得することである。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　サービス・マーケティングの基本概念(1)
第３回　サービス・マーケティングの基本概念(2)
第４回　デスティネーション・マーケティング組織に関する先行研究(1)
第５回　デスティネーション・マーケティング組織に関する先行研究(2)
第６回　ツーリズム・マーケティング(1)
第７回　ツーリズム・マーケティング(2)
第８回　デジタル社会におけるマーケティング
第９回　デジタル社会における消費者行動
第10回　デジタル社会におけるビジネスモデル(1)
第11回　デジタル社会におけるビジネスモデル(2)
第12回　デジタル・マーケティングサービスの基本概念(1)
第13回　デジタル・マーケティングサービスの基本概念(2)
第14回　ケーススタディ

履修上の注意

学部レベルのマーケティング原理を理解していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

西川・渋谷『１からのデジタル・マーケティング』中央経済社
コトラー『コトラーの起業家的マーケティング』朝日新聞出版、2025

参考書

・高橋昭夫『インターナル・マーケティングの理論と展開』同友館
・コトラーほか、『コトラーのマーケティング 5.0』朝日新聞出版
・白井監修『コトラーのプロフェッショナル・サービス・マーケティング』ピアソン・エデュケーション
・小宮路監訳『サービス・マーケティング原理』白桃書店
・近藤隆雄『新版　サービスマネジメント入門』生産性出版
・「サービス・ロジックによる現代マーケティング理論：消費プロセスにおける価値共創へのノルディック学派アプローチ」2015，クリスチャン グルンルース（著），蒲生　智哉（翻訳），白桃書房。
・高橋一夫ほか編『1からの観光事業論』碩学舎
・小宮路 雅博（編集）『サービス・マーケティング』創成社
・Philip T. Kotler, et al. (2016), Marketing for Hospitality and Tourism, Global Edition
・Lovelock and Wirtz, SERVICES MARKETING, Pearson
・西岡・南『製造業のサービス戦略』中央経済社
・小野・小川編著、森川著『サービス・エクセレンス』生産性出版

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)，報告内容(30%)，それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

マーケティング・マネジメントの観点から，現代のブランドの構築，測定，管理について検討を加える。ブランド論における基本的な概念と理論を習得することを目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　製品・ブランド戦略と価値創造
第３回　新製品開発のマーケティング
第４回　製品開発における顧客志向と顧客代行
第５回　戦略アライアンスと製品開発
第６回　ブランド価値のデザイン
第７回　ブランド要素戦略
第８回　サービスのブランド戦略
第９回　ブランドと経験価値
第10回　ブランディング・ケイパビリティ
第11回　ブランド・マネジメント組織の現状と課題
第12回　ケーススタディ(1)
第13回　ケーススタディ(2)
第14回　ケーススタディ(3)

履修上の注意

学部レベルのマーケティング原理を理解していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

石井・廣田『１からのブランド経営』中央経済社
田中ほか『デジタル時代のブランド戦略』有斐閣

参考書

田中洋編(2014)『ブランド戦略全書』有斐閣
Aaker, D. A., (1991), Managing Brand Equity. Free Press. 陶山ほか訳『ブランドエクイティ戦略』ダイヤモンド社
Aaker, D. A., (1995), Building Strong Brands. Free Press.陶山ほか訳『ブランド優位の戦略』ダイヤモンド社
フィリップ コトラー（著），ヴァルデマール ファルチ（著），杉光 一成（翻訳）(2014)『コトラーのイノベーション・ブランド戦略』白桃書房
矢作敏行編著『デュアル・ブランド戦略』有斐閣
余田 拓郎（著）『BtoB事業のための成分ブランディング』中央経済社
Keller, K. L., Strategic Brand Management, Prentice-Hall.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)，報告内容(30%)，それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	マーケティング管理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）加藤　拓巳		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
マーケティングの本質的な役割は、「販売を不要にする価値づくり」である。本講義では、価値づくりという明確な１つの目的に対して、根源的な理論を理解し、その実践能力を養うとともに、研究の仮説検証能力を育成する。
［到達目標］：消費者からマーケター・研究者へ
市場の商品・サービスの問題点を特定し、仮説立案とその科学的実証を実行できる人材。
［講義方法］
すべての講義にて，グループ議論・発表を行う。
(注)プレゼンテーション・質問での発言がないと，評価対象とならない。
また，グループワークではPCでの作業が必須のため，PCを持参していない学生は評価対象とならない。

授業内容

1つのテーマは、講義回とグループ議論会の2回でセットとする。
第 1 - 2回：マーケティングは「販売を不要にする価値づくり」
第 3 - 4回：商品・サービスのブランドマネジメント
第 5 - 6回：利益の源泉である顧客ロイヤルティの獲得
第 7 - 8回：客観的に状況を把握する市場調査
第 9 -10回：言行が一致しない消費者の行動
第11-14回：研究プロジェクト

履修上の注意

マーケティングは個人で完結する仕事ではない。研究開発部、生産管理部、品質保証部、営業部、広報部などのあらゆる部門を巻き込み、多くの関係者と協業して商品・サービスを開発する。よって，本講義においても，グループで協力して成果を創出する能力を重視し、すべての講義でグループ議論を行い、成績は発言をもとに評価する。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義を聞くだけでは、決して自ら実践する能力は身に付かないため，本講義ではグループ議論・発表における自ら考える力・周囲を巻き込む力を重視している。それに加えて，日常で接する商品・サービスや広告に関して，問題点・あるべきコンセプト・具現化方法に関する考察を習慣化することを推奨する。

教科書

資料をデジタル媒体で配布する。

参考書

資料に記載の文献を参照すること。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する講評を授業内で行う

成績評価の方法

出席10回以上を成績評価の条件とする。
公欠扱いはしないため、各自の予定や体調を調整して、10回以上出席すること。
＜成績評価＞
(1) 個人評価：普段の講義における発言
(2) グループ評価：研究プロジェクト
・成果：100点満点で採点
・発表：1-10点をグループ全員に加算
＜成績判定＞
・S：90以上
・A：80以上90未満
・B：70以上80未満
・C：60以上70未満
・F：60未満
(注)プレゼンテーション・質問での発言がないと，評価対象とならない。
また，グループワークではPCでの作業が必須のため，PCを持参していない学生は評価対象とならない。

その他

本講義は、
・企業における商品/サービスの企画・開発
・研究機関におけるマーケティングの調査・研究
・行政における政策立案・効果測定
に将来従事したいと考える学生に特に推奨する。

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	マーケティング管理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）加藤　拓巳		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
マーケティングの本質的な役割は、「販売を不要にする価値づくり」である。本講義では、価値づくりという明確な１つの目的に対して、根源的な理論を理解し、その実践能力を養うとともに、研究の仮説検証能力を育成する。
［到達目標］：消費者からマーケター・研究者へ
市場の商品・サービスの問題点を特定し、仮説立案とその科学的実証を実行できる人材。
［講義方法］
すべての講義にて，グループ議論・発表を行う。
(注)プレゼンテーション・質問での発言がないと，評価対象とならない。
また，グループワークではPCでの作業が必須のため，PCを持参していない学生は評価対象とならない。

授業内容

1つのテーマは、講義回とグループ議論会の2回でセットとする。
第 1 - 2回：コンセプト具現化の要諦である知覚品質
第 3 - 4回：マーケティングにおける科学的検証の方法
第 5 - 6回：消費者の感性を科学する感性工学・人工知能
第 7 - 8回：価値づくりを支える戦略と組織能力
第 9 -10回：クチコミの影響力と効果測定
第11-14回：研究プロジェクト

履修上の注意

マーケティングは個人で完結する仕事ではない。研究開発部、生産管理部、品質保証部、営業部、広報部などのあらゆる部門を巻き込み、多くの関係者と協業して商品・サービスを開発する。よって，本講義においても，グループで協力して成果を創出する能力を重視し、すべての講義でグループ議論を行い、成績は発言をもとに評価する。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義を聞くだけでは、決して自ら実践する能力は身に付かないため，本講義ではグループ議論・発表における自ら考える力・周囲を巻き込む力を重視している。それに加えて，日常で接する商品・サービスや広告に関して，問題点・あるべきコンセプト・具現化方法に関する考察を習慣化することを推奨する。

教科書

資料をデジタル媒体で配布する。

参考書

資料に記載の文献を参照すること。

課題に対するフィードバックの方法

課題に関する講評を授業内で行う

成績評価の方法

出席10回以上を成績評価の条件とする。
公欠扱いはしないため、各自の予定や体調を調整して、10回以上出席すること。
＜成績評価＞
(1) 個人評価：普段の講義における発言
(2) グループ評価：研究プロジェクト
・成果：100点満点で採点
・発表：1-10点をグループ全員に加算
＜成績判定＞
・S：90以上
・A：80以上90未満
・B：70以上80未満
・C：60以上70未満
・F：60未満
(注)プレゼンテーション・質問での発言がないと，評価対象とならない。
また，グループワークではPCでの作業が必須のため，PCを持参していない学生は評価対象とならない。

その他

本講義は、
・企業における商品/サービスの企画・開発
・研究機関におけるマーケティングの調査・研究
・行政における政策立案・効果測定
に将来従事したいと考える学生に特に推奨する。

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文作成に向けて(1)
第２回　修士論文作成に向けて(2)
第３回　発表とその検討･評価(1)
第４回　発表とその検討･評価(2)
第５回　発表とその検討･評価(3)
第６回　発表とその検討･評価(4)
第７回　発表とその検討･評価(5)
第８回　発表とその検討･評価(6)
第９回　グループ学習(1)
第10回　グループ学習(2)
第11回　グループ学習(3)
第12回　グループ学習(4)
第13回　グループ学習現地踏査(1)
第14回　グループ学習現地踏査(2)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

日本流通史特論Aに引き続き，経済各セグメントにおける流通の変化を相対的に分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　修士論文の中間報告(1)
第２回　修士論文の中間報告(2)
第３回　修士論文の中間報告(3)
第４回　修士論文の中間報告(4)
第５回　修士論文の中間報告(5)
第６回　修士論文の中間報告(6)
第７回　テーマ学習(1)
第８回　テーマ学習(2)
第９回　修士論文のためのテーマ学習(1)
第10回　修士論文のためのテーマ学習(2)
第11回　修士論文のためのテーマ学習(3)
第12回　修士論文のためのテーマ学習(4)
第13回　修士論文のためのテーマ学習(5)
第14回　修士論文のためのテーマ学習(6)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50対50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
流通チャネルにおける企業境界の問題に焦点を当てます。企業はどのような条件の下で垂直統合（またはアウトソーシング）を行なうのかに関する理解を深めます。流通チャネルにおける企業境界の問題については，主に新制度派経済学による研究が行なわれています。それに関する研究論文の講読を中心に行ないます。

授業内容
第１回　流通チャネルとは
第２回　垂直統合
第３回　アウトソーシング
第４回　戦略提携
第５回　取引費用理論(概論)
第６回　取引費用理論(チャネル研究への応用)
第７回　財産権理論(概論)
第８回　財産権理論(チャネル研究への応用)
第９回　エージェンシー理論(概論)
第10回　エージェンシー理論(チャネル研究への応用)
第11回　資源ベース理論(概論)
第12回　資源ベース理論(チャネル研究への応用)
第13回　ダイナミック･ケイパビリティ理論(概論)
第14回　ダイナミック･ケイパビリティ理論(チャネル研究への応用)

履修上の注意
学部でマーケティング，経営学，及び経済学に関連する科目を履修していることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
渡辺達朗･久保知一･原頼利 編『流通チャネル論』有斐閣

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM541J			
商業系列		備 考	
科 目 名	流通システム論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. rer. pol.　原　頼利		

授業の概要・到達目標
流通業者の経営戦略およびメーカーのチャネル戦略について学びます。また，メーカーと流通業者における協働的な関係についても取り上げます。流通チャネルにおける組織行動についての理解を深めます。流通業者の経営戦略，メーカーのチャネル戦略，流通業者とメーカーの協働関係に関する研究論文の講読を中心に行ないます。

授業内容
第１回　流通チャネルを構成する組織(概論)
第２回　流通チャネルを構成する組織(発展)
第３回　小売業者の経営戦略(概論)
第４回　小売業者の経営戦略(発展)
第５回　卸売業者の経営戦略(概論)
第６回　卸売業者の経営戦略(発展)
第７回　メーカーのチャネル戦略(概論)
第８回　メーカーのチャネル戦略(発展)
第９回　物流業者の経営戦略(概論)
第10回　物流業者の経営戦略(発展)
第11回　流通業者とメーカーとの協働関係(概論)
第12回　流通業者とメーカーとの協働関係(発展)
第13回　企業間におけるコミットメントと信頼(概論)
第14回　企業間におけるコミットメントと信頼(発展)

履修上の注意
学部でマーケティング，経営学，及び経済学に関連する科目を履修していることが望まれる。

準備学習（予習・復習等）の内容
研究論文を講読する際は担当者を決めて，内容をまとめたものをプレゼンテーションしてもらいます。英文論文の場合は，担当者には全訳もしてもらいます。

教科書
適宜指示します。

参考書
適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への参加態度60％と授業でのプレゼンテーション（回数と質）40％で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
ICTの発達に伴い，市場調査の姿も大きく変化してきている。本講義では，マーケティングにおける市場調査の位置づけを常に意識しながら，さまざまな市場調査技法の根底にある基本的な考え方や理論を理解することを目標としている。
【授業の概要】
前半は市場調査のマーケティングにおける位置づけを明確にしつつ，その歴史的変遷や科学哲学の領域について基礎的な部分を学んでいく。後半は,定量と定性という切り口をベースに，市場現象の測定と分析という市場調査の中核部分の基礎的な内容を学んでいく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　マーケティング意思決定における市場調査の役割と意義
第３回　市場調査の発展経緯
第４回　市場調査と市場現象
第５回　市場調査の科学哲学的基盤
第６回　市場調査における存在論
第７回　市場調査における認識論
第８回　市場調査における定量
第９回　市場調査における定性
第10回　現象を定量データへ:3つのリサーチ･メソッド
第11回　現象を定量データへ:定量化の考え方と手続き
第12回　現象を定量データへ:定量化の課題
第13回　定性データによる記述:データと文脈情報
第14回　定性データによる記述:データのコード化

履修上の注意

マーケティングに関する知識（学部レベル）を有していることが望ましい。社会調査法や統計学に関連する知識は講義の中でその都度説明を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，授業終了時に次回の授業で進める範囲を明示するので，当該範囲について事前に資料（指定教科書，ニュース，雑誌など)を読んでから授業に参加すること

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。各回の授業テーマに沿って講義資料を準備する。また、事前に読んでおくべき文献などを適宜を紹介していく。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に課題の解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で課題内容に立ち返り解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や議論60%，課題への取り組みに対する評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		福田　康典

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
本講義では，市場調査に関わるいくつかのテーマを取り上げ，その代表的な研究を講読しながら，市場調査の進め方や課題について理解していくことを目標としている。また,マーケティング研究の潮流に沿う形で，市場調査論において今後議論が必要となってくるテーマを取り上げ，市場調査の研究課題を理解することも目標としている。
【授業の概要】
顧客満足度やブランド認知という定量的な分析手法がよく用いられるテーマと，意味づけ過程という定性的な手法がよく用いられるテーマを取り上げ，それに関連した代表的な研究の講読を行う。また，後半は，これまで市場調査論の中であまり議論されてこなかった市場調査の制度的側面や，最近マーケティング研究の中で注目されている価値共創の中での市場調査の役割について学んでいく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　顧客満足度調査:文献講読
第３回　顧客満足度調査:議論
第４回　顧客満足度調査:まとめと課題抽出
第５回　ブランド認知調査:文献講読
第６回　ブランド認知調査:議論
第７回　ブランド認知調査:まとめと課題抽出
第８回　製品の意味づけ過程の調査:文献講読
第９回　製品の意味づけ過程の調査:議論
第10回　製品の意味づけ過程の調査:まとめと課題抽出
第11回　市場調査の制度的側面:産業としての市場調査
第12回　市場調査の制度的側面:社会的構成主義からの視点
第13回　価値共創ベースのマーケティング論
第14回　価値共創時代における市場調査の役割

履修上の注意

マーケティングに関する知識（学部レベル）を有していることが望ましい。社会調査法や統計学に関連する知識は講義の中でその都度説明を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，授業終了時に次回の授業で進める範囲を明示するので，当該範囲について事前に資料（指定教科書，ニュース，雑誌など)を読んでから授業に参加すること

教科書

特定のテキストに沿って授業を展開するわけではない。各回の授業テーマに沿って講義資料を準備する。また、事前に読んでおくべき文献などを適宜を紹介していく。

参考書

特定の参考書は利用しない。各回の履修生の反応や課題の解答内容を見て、読んでおく必要があると判断される文献や資料についてはその都度紹介を行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に課題の解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で課題内容に立ち返り解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や議論60%，課題への取り組みに対する評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標
本講義では、戦略論の体系的な理論や概念を理解するとともに、具体的な産業や企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を理解する能力を養う。
受講生が、この授業を通して競争戦略・経営戦略の概念を理解し、産業や企業に対してさらに深い興味を持つようになり、競争戦略・経営戦略について考察する力を持てるようになることが到達目標である。

授業内容
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、状況によって内容を変更する場合もある。
講義は対面で行う。なお状況により、オンライン講義になる可能性がある。
教科書をベースに講義を進める予定である。
割り振られた担当章について、受講者は、内容を説明し、他の受講者と行うディスカッションテーマを提示する。
その他の受講者は、教科書を読むなど事前に予習を行い、内容の要旨、質問・疑問やディスカッションしたい事柄をまとめ、講義ごと提出する。
また、講義で学んだ内容を活用して事例分析発表を複数回行う。
1. ガイダンス
2. 1章：戦略経営と戦略的競争力
3. 2章①：外部環境分析・業界構造分析1
4. 2章①：外部環境分析・業界構造分析2
5. 2章②：発表：業界構造分析
6. 3章①：内部組織1
7. 3章②：内部組織2
8. 3章③：発表：内部組織
9. 4章①：事業戦略1
10. 4章②：事業戦略2
11. 4章③：発表：事業戦略
12. 5章①：敵対的競合関係と競争のダイナミクス1
13. 5章②：敵対的競合関係と競争のダイナミクス2
14. 5章③：発表：敵対的競合関係と競争のダイナミクス

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容
事前学習：学習予定の理論と具体的事例の理解
事後学習：学習した理論的枠組みの実践への応用

教科書
ヒット・アイルランド・ホスキソン（2021）『戦略経営論　第3版』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義での発表、提出物、講義への貢献などを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
商業系列		備 考	
科 目 名	競争戦略論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）山崎　喜代宏		

授業の概要・到達目標
本講義では、戦略論の体系的な理論や概念を理解するとともに、具体的な産業や企業の取り組みとの関連について検討することを通じて、企業の戦略的行動を理解する能力を養う。
受講生が、この授業を通して競争戦略・経営戦略の概念を理解し、産業や企業に対してさらに深い興味を持つようになり、競争戦略・経営戦略について考察する力を持てるようになることが到達目標である。

授業内容
内容及び進度予定は以下のとおりであるが、状況によって内容を変更する場合もある。
講義は対面で行う。なお状況により、オンライン講義になる可能性がある。
教科書をベースに講義を進める予定である。
割り振られた担当章について、受講者は、内容を説明し、他の受講者と行うディスカッションテーマを提示する。
その他の受講者は、教科書を読むなど事前に予習を行い、内容の要旨、質問・疑問やディスカッションしたい事柄をまとめ、講義ごと提出する。
また、講義で学んだ内容を活用して事例分析発表を複数回行う。
1. ガイダンス
2. 6章①：企業戦略1
3. 6章②：企業戦略2
4. 6章③：発表：企業戦略
5. 7章①：M&A戦略1
6. 7章②：M&A戦略2
7. 7章③：発表：M&A戦略
8. 8章①：国際戦略1
9. 8章②：国際戦略2
10. 8章③：発表：国際戦略
11. 9章①：協調戦略1
12. 9章②：協調戦略2
13. 9章③：発表：協調戦略
14. まとめ

履修上の注意
競争戦略論特論Bを履修するためには、競争戦略論特論Aを既に履修していること

準備学習（予習・復習等）の内容
事前学習：学習予定の理論と具体的事例の理解
事後学習：学習した理論的枠組みの実践への応用

教科書
ヒット・アイルランド・ホスキソン（2021）『戦略経営論　第3版』同友館

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義での発表、提出物、講義への貢献などを総合して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM521J			
商業系列		備 考	
科 目 名	消費者行動論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）佐藤　平国		

授業の概要・到達目標
この講義では、消費者行動研究およびマーケティング･リサーチで必要となる基本的な方法論についての理解を深めます。特に、データを収集する前に重要となる問題定義やリサーチ･デザインの考え方および技法に焦点を当てます。参加者は指定された文献について割り当てられた担当箇所の要約を発表し、他の参加者と議論して理解を深めます。
本講義の目標は、研究または実務での応用に向けた問題定義および仮説の設定と、リサーチ・デザインおよび計画の立案ができるようになることです。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　マーケティング･リサーチの導入
第３回　問題の定義とアプローチの策定
第４回　リサーチ･デザイン
第５回　探索研究のデザイン（１）
第６回　探索研究のデザイン（２）
第７回　記述研究のデザイン
第８回　因果研究のデザイン
第９回　測定とスケーリング（１）
第10回　測定とスケーリング（２）
第11回　アンケートと形式のデザイン
第12回　サンプリング（１）
第13回　サンプリング（２）
第14回　フィールドワーク

履修上の注意
マーケティングや統計分析の基本的な知識を有していること。

準備学習（予習・復習等）の内容
次回の講義までに、発表担当者は十分な発表準備を行い、他の参加者全員は文献を読み質問や議論の準備をすること。
講義後は不明な点を整理したり、学んだ内容を実践してみること。

教科書
Malhotra N. K. & Das, S. (2019), Marketing Research: An Applied Orientation Seventh Edition, Pearson.

参考書
上田拓治（2010), マーケティングリサーチの論理と技法［第４版], 日本評論社.

課題に対するフィードバックの方法
講義中に対応します。

成績評価の方法
授業内での発表(50%)および貢献(50%)

その他
参加人数や進捗によっては内容を大きく変更することがあります。

科目ナンバー：(CO) CMM521J			
商業系列		備 考	
科 目 名	消費者行動論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経営学）佐藤　平国		

授業の概要・到達目標
この講義では、消費者行動研究およびマーケティング･リサーチで必要となる基本的な方法論についての理解を深めます。特に、調査計画後のデータ収集、分析の考え方および技法に焦点を当てます。参加者は指定された文献について割り当てられた担当箇所の要約を発表し、他の参加者と議論して理解を深めます。
本講義の目標は、研究または実務での応用に向けて、データの収集および分析、仮説の検証と結果の報告ができるようになることです。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　データの準備
第３回　データの集計と仮説検証
第４回　分散と共分散の分析
第５回　相関と回帰分析
第６回　判別分析とロジスティック回帰分析
第７回　因子分析
第８回　クラスター分析
第９回　多次元尺度構成法とコンジョイント分析
第10回　構造方程式モデリングとパス解析
第11回　報告書とプレゼンテーションの技法
第12回　成果報告（１）
第13回　成果報告（２）
第14回　成果報告（３）

履修上の注意
マーケティングや統計分析の基本的な知識を有していること。
統計分析ツール(種類を問わない)を利用できること。

準備学習（予習・復習等）の内容
次回の講義までに、発表担当者は十分な発表準備を行い、他の参加者全員は文献を読み質問や議論の準備をすること。
講義後は不明な点を整理したり、学んだ内容を実践してみること。

教科書
Malhotra N. K. & Das, S. (2019), Marketing Research: An Applied Orientation Seventh Edition, Pearson.

参考書
上田拓治（2010), マーケティングリサーチの論理と技法［第４版], 日本評論社.

課題に対するフィードバックの方法
講義中に対応します。

成績評価の方法
授業内での発表(50%)および貢献(50%)

その他
参加人数や進捗によっては内容を大きく変更することがあります。

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業学外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

本講義は，定評のある米国のMarketingの教科書を用いて，外国文献研究の基礎力を養うことを目的とします。英文解釈ではなく，一定の分量を通読して，内容を把握する読み方で講義を進めます。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　Marketing's Role in the Global Economy（1）
第３回　Marketing's Role in the Global Economy（2）
第４回　Marketing's Role within the Firm or Nonprofit Organization（1）
第５回　Marketing's Role within the Firm or Nonprofit Organization（2）
第６回　Product Planning（1）
第７回　Product Planning（2）
第８回　New product development（1）
第９回　New product development（2）
第10回　Promotion（1）
第11回　Promotion（2）
第12回　Marketing Channel（1）
第13回　Marketing Channel（2）
第14回　Case Study

履修上の注意

学部レベルのマーケティング原理を理解していること

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

Marketing Management 14th, P. Kotler & K. Keller, Person

参考書

徳永豊ほか『マーケティング英和辞典』同文館。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（20%），小テスト（30%），期末試験（50%）を総合して評価します。なお，期末試験は，すべて英語で作成された客観問題で行います。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業学外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

本講義は，Marketingに関する論文を用いて，外国文献研究の応用力を養うことを目的とします。英文解釈ではなく，内容を把握する読み方で講義を進めます。

授業内容

第１回　New Perspctives on Marketing in the Service Economy
第２回　Consumer behavior in a Services Context
第３回　Positioning Services in Competitive marketg Services
第４回　Developing Service Products: Core and Supplementary Elements
第５回　Distributing Services
第６回　Setting Prices
第７回　Promoting Services
第８回　Designing and Maneging Service Process
第９回　Balancing Demand and Productive Capacity
第10回　Crafting the Service Environment
第11回　Managing People for Service Advantage
第12回　Managing Relationships and Building Loyalty
第13回　Complaint Handling and Service Recovery
第14回　Improving Service Quality and Productivity

履修上の注意

学部レベルのマーケティング原理を理解していること

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

Services Marketing 7th, C. Lovelock & J. Wirtz, Prentice Hall.

参考書

徳永豊ほか『マーケティング英和辞典』同文館。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（20%），小テスト（30%），期末試験（50%）を総合して評価します。なお，期末試験は，すべて英語で作成された客観問題で行います。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では，フィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。
〈到達目標〉
経営学と生産管理論に関する理論の習得および，それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第１回　個々の研究内容，今後の研究の進め方に関する相談。
第２回　生産管理の基本文献輪読その(1)
第３回　生産管理の基本文献輪読その(2)
第４回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その(1)
第５回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その(2)
第６回　製品開発に関する文献輪読その(1)
第７回　製品開発に関する文献輪読その(2)
第８回　イノベーションに関する文献輪読その(1)
第９回　イノベーションに関する文献輪読その(2)
第10回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その(1)
第11回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その(2)
第12回　研究テーマ選定指導その(1)
第13回　研究テーマ選定指導その(2)
第14回　フィールドワーク指導

履修上の注意

履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の文献を事前に読んでおくこと。
『生産管理の基本』富野貴弘著（日本実業出版社）2017年
『生産マネジメント入門』藤本隆宏著（日本経済新聞社）2001年

教科書

『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文舘出版）2012年
『増補版　製品開発力』藤本隆宏、キム･B･クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年
『産業競争力：実証から理論へⅠ 組織能力編』藤本隆宏（岩波書店）2025年
『産業競争力：実証から理論へⅡ 設計思想編』藤本隆宏（岩波書店）2025年

参考書

『日本のものづくりの底力』藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年
『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一、武石彰、マイケル･A･クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席態度（50％）、研究発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN522J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略，経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導，論文執筆指導，フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では，フィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。
〈到達目標〉
経営学と生産管理論に関する理論の習得および，それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第１回　フィールドワーク発表その(1)
第２回　フィールドワーク発表その(2)
第３回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その(1)
第４回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その(2)
第５回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その(1)
第６回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その(2)
第７回　国際分業に関する文献輪読その(1)
第８回　国際分業に関する文献輪読その(2)
第９回　マザー工場制に関する文献輪読
第10回　研究発表指導その(1)
第11回　研究発表指導その(2)
第12回　研究発表指導その(3)
第13回　研究発表指導その(4)
第14回　研究発表指導その(5)

履修上の注意

履修者は，経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の文献を事前に読んでおくこと。
『MOT技術経営入門』延岡健太郎著（日本経済新聞社）2006年

教科書

『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『経営学者が書いたデザインマネジメントの教科書』森永泰史著（同文舘出版）2016年
『「開発の基盤」構築論』陰山孔貴、竹内竜介（白桃書房）2025年

参考書

『日本のものづくりの底力』藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年
『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一、武石彰、マイケル･A･クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席態度（50％），研究発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　現代の製造企業の技術戦略、経営戦略、イノベーション等に関連した研究を行う。
〈授業の概要〉
　履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導）を行い最終的には修士論文の形にまとめる。なお、本演習ではフィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。

授業内容

第１回　個々の研究内容，今後の研究の進め方に関する話し合い。
第２回　生産管理の基本文献輪読その(1)
第３回　生産管理の基本文献輪読その(2)
第４回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その(1)
第５回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その(2)
第６回　製品開発に関する文献輪読その(1)
第７回　製品開発に関する文献輪読その(2)
第８回　イノベーションに関する文献輪読その(1)
第９回　イノベーションに関する文献輪読その(2)
第10回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その(1)
第11回　製品開発アーキテクチャに関する文献輪読その(2)
第12回　研究テーマ選定指導その(1)
第13回　研究テーマ選定指導その(2)
第14回　フィールドワーク指導

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

『生産管理の基本』富野貴弘著(日本実業出版社) 2017年
『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年

参考書

『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『MOT技術経営入門』延岡健太郎著(日本経済新聞社) 2006年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　出席態度(50%)、研究発表内容(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN622J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　現代の製造企業の技術戦略、経営戦略、イノベーション等に関連した研究を行う。
〈授業の概要〉
　履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導）を行い最終的には修士論文の形にまとめる。なお、本演習ではフィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。

授業内容

第１回　修士論文中間発表その(1)
第２回　修士論文中間発表その(2)
第３回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その(1)
第４回　製品の付加価値創出に関する文献輪読その(2)
第５回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その(1)
第６回　製品デザインと競争力に関する文献輪読その(2)
第７回　国際分業に関する文献輪読その(1)
第８回　国際分業に関する文献輪読その(2)
第９回　マザー工場制に関する文献輪読
第10回　修士論文指導その(1)
第11回　修士論文指導その(2)
第12回　修士論文指導その(3)
第13回　修士論文指導その(4)
第14回　修士論文指導その(5)

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年
『産業競争力:実証から理論へⅠ 組織能力編』藤本隆宏(岩波書店) 2025年
『産業競争力:実証から理論へⅡ 設計思想編』藤本隆宏(岩波書店) 2025年

参考書

『価値づくりの経営の論理』延岡健太郎著（日本経済新聞出版社）2011年
『経営学者が書いたデザインマネジメントの教科書』森永泰史著(同文館出版) 2016年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　出席態度(50%)、研究発表内容(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN552J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
eビジネス環境における企業経営に関する修士論文の作成を最終目標として演習が行われる。具体的な内容としては，eビジネス環境という競争環境の本質，eビジネス環境における企業の戦略と組織のあり方，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を利用したビジネス革新手法，企業倫理・情報倫理との関連性に関する理解が目指される。
《授業の到達目標》
受講生には本演習への主体的な参加によって，論文作成のための基礎知識の獲得と，研究方法論の修得，ならびに論文作成の作法を身につけることが期待される。また，教員に対する口頭報告の機会を通じて，聴く者を納得させる話し方の体得が望まれる。

授業内容

第１回　経営情報システム論研究について―イントロダクション
第２回　研究テーマの検討
第３回　研究テーマの設定
第４回　修士論文の目的と構成の予備的検討
第５回　経営戦略論基本文献の講読
第６回　経営組織論基本文献の講読
第７回　システム論基本文献の講読
第８回　情報科学基本文献の講読
第９回　情報工学基本文献の講読
第10回　経営情報学基本文献の講読
第11回　情報倫理基本文献の講読
第12回　eビジネス基本文献の講読
第13回　アンケート調査の準備
第14回　聞き取り調査の準備

履修上の注意

受講生は本演習において，研究者養成のための訓練が行われることを自覚しなければならない。この時間において教員は受講生を対等な研究者として扱う。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の指導時間が限られたものにならざるを得ないことを受講生は十分に理解し，時間を有効利用するためにも事前に不明な用語について調べておくなど入念な準備を行った上で授業に参加しなければならない。課題文献については必ず事前に目を通し，不明点や疑問点を教員に対して的確に説明できるよう準備することが受講生には求められる。
また，授業内容に不明な点がないか否かについては，授業中に細心の注意を払うとともに，授業後に内容について必ず関連文献をチェックすることで確認し，不明点を不明なままにしない努力をすることが必要とされる。

教科書

使用しない。

参考書

『情報倫理入門：ICT社会におけるウェルビーイングの探求』村田潔・折戸洋子編（ミネルヴァ書房）
『現代経営情報論』遠山暁・村田潔・古賀広志著（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

修士論文の完成に向けて日々たゆまぬ努力をしていきましょう。

科目ナンバー：(CO) MAN552J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
eビジネス環境における企業経営に関する修士論文の作成を最終目標として演習が行われる。具体的な内容としては，eビジネス環境という競争環境の本質，eビジネス環境における企業の戦略と組織のあり方，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を利用したビジネス革新手法，企業倫理・情報倫理との関連性に関する理解が目指される。
《授業の到達目標》
受講生には本演習への主体的な参加によって，論文作成のための基礎知識の獲得と，研究方法論の修得，ならびに論文作成の作法を身につけることが期待される。また，教員に対する口頭報告の機会を通じて，聴く者を納得させる話し方の体得が望まれる。

授業内容

第１回　アンケート調査結果の分析
第２回　聞き取り調査結果の分析
第３回　修士論文の目的と構成の検討
第４回　フォローアップ調査の準備
第５回　フォローアップ調査票の作成
第６回　アンケート調査・聞取り調査分析結果解釈のための関連文献の講読
第７回　アンケート調査・聞取り調査分析結果の解釈
第８回　アンケート調査・聞取り調査分析結果を踏まえた報告
第９回　フォローアップ調査結果の集計
第10回　フォローアップ調査結果の分析
第11回　フォローアップ調査結果を踏まえた報告
第12回　修士論文の目的と構成の決定
第13回　修士論文の詳細構成の決定
第14回　修士論文執筆計画（タイムテーブル）の作成

履修上の注意

受講生は本演習において，研究者養成のための訓練が行われることを自覚しなければならない。この時間において教員は受講生を対等な研究者として扱う。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の指導時間が限られたものにならざるを得ないことを受講生は十分に理解し，時間を有効利用するためにも事前に不明な用語について調べておくなど入念な準備を行った上で授業に参加しなければならない。課題文献については必ず事前に目を通し，不明点や疑問点を教員に対して的確に説明できるよう準備することが受講生には求められる。
また，授業内容に不明な点がないか否かについては，授業中に細心の注意を払うとともに，授業後に内容について必ず関連文献をチェックすることで確認し，不明点を不明なままにしない努力をすることが必要とされる。

教科書

使用しない。

参考書

『情報倫理入門：ICT社会におけるウェルビーイングの探求』村田潔・折戸洋子編（ミネルヴァ書房）
『現代経営情報論』遠山暁・村田潔・古賀広志著（有斐閣）

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

修士論文の完成に向けて日々たゆまぬ努力を続けていきましょう。

科目ナンバー：(CO) MAN652J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
eビジネス環境における企業経営に関する修士論文の作成を最終目標として演習が行われる。具体的な内容としては，eビジネス環境という競争環境の本質，eビジネス環境における企業の戦略と組織のあり方，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を利用したビジネス革新手法，企業倫理・情報倫理との関連性に関する理解が目指される。
《授業の到達目標》
受講生には本演習への主体的な参加によって，論文作成のための基礎知識の獲得と，研究方法論の修得，ならびに論文作成の作法を身につけることが期待される。また，教員に対する口頭報告の機会を通じて，聴く者を納得させる話し方の体得が望まれる。

授業内容

第１回　修士論文関連文献の洗い出し
第２回　修士論文関連事例の洗い出し
第３回　修士論文関連文献(経営情報学)の内容報告
第４回　修士論文関連文献(情報科学)の内容報告
第５回　修士論文関連文献(情報工学)の内容報告
第６回　修士論文関連文献(情報倫理)の内容報告
第７回　修士論文関連事例(企業)の内容報告
第８回　修士論文関連事例(企業以外の組織)の内容報告
第９回　修士論文の詳細構成の再検討
第10回　修士論文執筆計画(タイムテーブル)の進捗確認
第11回　修士論文予備報告
第12回　追加文献･データ収集等に関する検討
第13回　追加文献･データ収集等に関する決定
第14回　夏季休暇期間における修士論文執筆計画の確認

履修上の注意

受講生は本演習において，研究者養成のための訓練が行われることを自覚しなければならない。この時間において教員は受講生を対等な研究者として扱う。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の指導時間が限られたものにならざるを得ないことを受講生は十分に理解し，時間を有効利用するためにも事前に不明な用語について調べておくなど入念な準備を行った上で授業に参加しなければならない。課題文献については必ず事前に目を通し，不明点や疑問点を教員に対して的確に説明できるよう準備することが受講生には求められる。
また，授業内容に不明な点がないか否かについては，授業中に細心の注意を払うとともに，授業後に内容について必ず関連文献をチェックすることで確認し，不明点を不明なままにしない努力をすることが必要とされる。

教科書

使用しない。

参考書

『情報倫理入門:ICT社会におけるウェルビーイングの探求』村田潔･折戸洋子編(ミネルヴァ書房)
『現代経営情報論』遠山曉･村田潔･村田潔著(有斐閣)

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

修士論文の完成に向けて地道に調査研究と執筆を続けましょう。

科目ナンバー：(CO) MAN652J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
eビジネス環境における企業経営に関する修士論文の作成を最終目標として演習が行われる。具体的な内容としては，eビジネス環境という競争環境の本質，eビジネス環境における企業の戦略と組織のあり方，情報通信技術（ICT：Information and Communication Technology）を利用したビジネス革新手法，企業倫理・情報倫理との関連性に関する理解が目指される。
《授業の到達目標》
受講生には本演習への主体的な参加によって，論文作成のための基礎知識の獲得と，研究方法論の修得，ならびに論文作成の作法を身につけることが期待される。また，教員に対する口頭報告の機会を通じて，聴く者を納得させる話し方の体得が望まれる。

授業内容

第１回　修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文の構成の最終決定
第３回　修士論文の結論の妥当性の検討
第４回　修士論文の論理の検証
第５回　修士論文の参考文献の妥当性の検討
第６回　修士論文の文章表現の妥当性の確認
第７回　中間報告に向けた資料作成
第８回　修士論文中間報告
第９回　中間報告における質疑を踏まえた修正項目の確認
第10回　修士論文の全体的妥当性の確認
第11回　最終報告に向けた資料作成
第12回　修士論文最終報告
第13回　最終報告における質疑応答を踏まえた修正項目の確認
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

受講生は本演習において，研究者養成のための訓練が行われることを自覚しなければならない。この時間において教員は受講生を対等な研究者として扱う。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の指導時間が限られたものにならざるを得ないことを受講生は十分に理解し，時間を有効利用するためにも事前に不明な用語について調べておくなど入念な準備を行った上で授業に参加しなければならない。課題文献については必ず事前に目を通し，不明点や疑問点を教員に対して的確に説明できるよう準備することが受講生には求められる。
また，授業内容に不明な点がないか否かについては，授業中に細心の注意を払うとともに，授業後に内容について必ず関連文献をチェックすることで確認し，不明点を不明なままにしない努力をすることが必要とされる。

教科書

使用しない。

参考書

『情報倫理入門:ICT社会におけるウェルビーイングの探求』村田潔･折戸洋子編(ミネルヴァ書房)
『現代経営情報論』遠山曉･村田潔･古賀広志著(有斐閣)

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

修士論文の完成に向けて地道に執筆を進めましょう。

科目ナンバー：(CO) MAN552J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本演習では、情報・組織・システム・生産・労働・環境等、経営の幅広いテーマについて、社会科学と自然科学の学際的なアプローチにより研究する。

そこで、本演習を通じて、大学院生が自ら新規性の高い研究を展開していくことにより、その成果を積極的に学会での発表や学術誌への論文投稿等へと結びつけていくことを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　社会科学の研究方法
第２回　自然科学の研究方法
第３回　文理融合型研究の方法(1)
第４回　文理融合型研究の方法(2)
第５回　文理融合型研究の方法(3)
第６回　研究テーマの検討(1)
第７回　研究テーマの検討(2)
第８回　情報管理分野の基本文献の講読(1)
第９回　情報管理分野の基本文献の講読(2)
第10回　情報管理分野の基本文献の講読(3)
第11回　人的資源管理分野の基本文献の講読(1)
第12回　人的資源管理分野の基本文献の講読(2)
第13回　先行研究における問題点の確認と研究テーマの絞込み(1)
第14回　先行研究における問題点の確認と研究テーマの絞込み(2)
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

本演習では、ICT活用の有効性のみならず問題点もふまえた研究アプローチを取っていることを強調しておく。このことを予め知った上での履修を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。

復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時，資料を配付する予定

参考書

明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史，村田潔編著『スマート・シンクロナイゼーション』同文舘，2006
山下洋史『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』東京経済情報出版，2005
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、学生自身の研究成果(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN552J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本演習では、情報・組織・システム・生産・労働・環境等、経営の幅広い問題について、社会科学と自然科学の学際的なアプローチにより研究する。

そこで、本演習を通じて、大学院生が自ら新規性の高い研究を展開していくことにより、その成果を積極的に学会での発表や学術誌への論文投稿等へと結びつけていくことを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　大学院生の研究進捗状況の報告(1)
第２回　大学院生の研究進捗状況の報告(2)
第３回　主要先行研究の講読(1)
第４回　主要先行研究の講読(2)
第５回　主要先行研究の講読(3)
第６回　主要先行研究の講読(4)
第７回　主要先行研究の講読(5)
第８回　主要先行研究の問題点の整理(1)
第９回　主要先行研究の問題点の整理(2)
第10回　分析方法(情報理論・多変量解析)に関する指導(1)
第11回　分析方法(情報理論・多変量解析)に関する指導(2)
第12回　分析方法(情報理論・多変量解析)に関する指導(3)
第13回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導(1)
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導(2)
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

本演習では、ICT活用の有効性のみならず問題点もふまえた研究アプローチを取っていることを強調しておく。このことを予め知った上での履修を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。

復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時，資料を配付する予定

参考書

明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史，村田潔編著『スマート・シンクロナイゼーション』同文舘，2006
山下洋史『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』東京経済情報出版，2005
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、学生自身の研究成果(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN652J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本演習では、情報・組織・システム・生産・労働・環境等、経営の幅広い問題について、社会科学と自然科学の学際的なアプローチにより研究する。

そこで、大学院生が自ら研究を深め、学会での発表や学術誌への論文投稿を通じて、新規性の高い研究を展開し、質の高い修士論文を作成していくことを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　修士論文のテーマの報告(1)
第２回　修士論文のテーマの報告(2)
第３回　修士論文における提案フレームワークの検討(1)
第４回　修士論文における提案フレームワークの検討(2)
第５回　修士論文における提案フレームワークの検討(3)
第６回　修士論文における提案モデルの検討(1)
第７回　修士論文における提案モデルの検討(2)
第８回　修士論文における提案モデルの検討(3)
第９回　修士論文における提案モデルの解の導出(1)
第10回　修士論文における提案モデルの解の導出(2)
第11回　修士論文における基本概念の定義と位置づけ(1)
第12回　修士論文における基本概念の定義と位置づけ(2)
第13回　修士論文における前提条件の検討(1)
第14回　修士論文における前提条件の検討(2)
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

本演習では、ICT活用の有効性のみならず問題点もふまえた研究アプローチを取っていることを強調しておく。このことを予め知った上での履修を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。

復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定

参考書

明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史，村田潔編著『スマート・シンクロナイゼーション』同文舘，2006
山下洋史『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』東京経済情報出版，2005
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、学生自身の研究成果(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN652J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本演習では、情報・組織・システム・生産・労働・環境等、経営の幅広い問題について、社会科学と自然科学の学際的なアプローチにより研究する。

そこで、大学院生が自ら研究を深め、学会での発表や学術誌への論文投稿を通じて、新規性の高い研究を展開し、質の高い修士論文を作成していくことを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　修士論文の中間報告(1)
第８回　修士論文の中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文執筆に関する指導(3)
第12回　修士論文に関する最終報告(1)
第13回　修士論文に関する最終報告(2)
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

本演習では、ICT活用の有効性のみならず問題点もふまえた研究アプローチを取っていることを強調しておく。このことを予め知った上での履修を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。

復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定

参考書

明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史，村田潔編著『スマート・シンクロナイゼーション』同文舘，2006
山下洋史『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』東京経済情報出版，2005
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、学生自身の研究成果(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得することも本演習の到達目標である。

授業内容

第１回　演習での学び
第２回　企業倫理に関するテキストの輪読①
第３回　企業倫理に関するテキストの輪読②
第４回　企業倫理に関するテキストの輪読③
第５回　企業倫理に関するテキストの輪読④
第６回　企業倫理に関する事例分析①
第７回　企業倫理に関する事例分析②
第８回　企業と社会に関するテキストの輪読①
第９回　企業と社会に関するテキストの輪読②
第10回　企業と社会に関するテキストの輪読③
第11回　企業と社会に関するテキストの輪読④
第12回　企業と社会に関するテキストの輪読⑤
第13回　企業と社会に関する事例分析①
第14回　企業と社会に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得し，修士論文のテーマを確認することも本演習の到達目標である。

授業内容

第１回　演習で学ぶ意義
第２回　CSRに関するテキストの輪読①
第３回　CSRに関するテキストの輪読②
第４回　CSRに関するテキストの輪読③
第５回　CSRに関するテキストの輪読④
第６回　CSRに関する事例分析①
第７回　CSRに関する事例分析②
第８回　企業統治に関するテキストの輪読①
第９回　企業統治に関するテキストの輪読②
第10回　企業統治に関するテキストの輪読③
第11回　企業統治に関するテキストの輪読④
第12回　企業統治に関するテキストの輪読⑤
第13回　企業統治に関する事例分析①
第14回　企業統治に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得し，修士論文のテーマを確定して，中間報告を行うことも本演習の到達目標である。

授業内容

第１回　演習での学び
第２回　企業倫理に関する資料の解析①
第３回　企業倫理に関する資料の解析②
第４回　企業倫理に関する資料の解析③
第５回　企業倫理に関する資料の解析④
第６回　企業倫理に関する事例分析①
第７回　企業倫理に関する事例分析②
第８回　企業と社会に関する資料の解析①
第９回　企業と社会に関する資料の解析②
第10回　企業と社会に関する資料の解析③
第11回　企業と社会に関する資料の解析④
第12回　企業と社会に関する資料の解析⑤
第13回　企業と社会に関する事例分析①
第14回　企業と社会に関する事例分析②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけ，計画的に修士論文作成に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から演習を通じて学ぶ。これらの知識を理解するとともに，演習における発表の仕方，論文作成法等を習得し，修士論文を完成させることも本演習の到達目標である。

授業内容

第１回　演習で学ぶ意義：修士論文の中間報告①
第２回　CSRに関する資料の解析①
第３回　CSRに関する資料の解析②
第４回　CSRに関する資料の解析③
第５回　CSRに関する資料の解析④
第６回　CSRに関する事例分析①
第７回　CSRに関する事例分析②
第８回　修士論文の中間報告②
第９回　企業統治に関する資料の解析①
第10回　企業統治に関する資料の解析②
第11回　企業統治に関する資料の解析③
第12回　企業統治に関する資料の解析④
第13回　修士論文の最終報告①
第14回　修士論文の最終報告②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけ，計画的に修士論文作成に取り組むこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
この演習はクリエイティブ・ビジネスに関するデータ解析やシミュレーションの手法を用いた修士課程レベルの研究を行うために必要な基礎的な知識・スキルを習得することを目的とする。具体的な内容は受講者の関心と知識・スキルに基づいて決める。

授業内容
第１回　研究に必要な知識の確認
第２回　基礎的データ解析の基礎演習（１）
第３回　基礎的データ解析の基礎演習（２）
第４回　基礎的データ解析の基礎演習（３）
第５回　基礎的データ解析の基礎演習（４）
第６回　先端的データ解析に関する基礎文献講読（１）
第７回　先端的データ解析に関する基礎文献講読（２）
第８回　先端的データ解析に関する基礎文献講読（３）
第９回　先端的データ解析に関する基礎文献講読（４）
第10回　研究対象領域に関する基礎文献の講読（１）
第11回　研究対象領域に関する基礎文献の講読（２）
第12回　研究対象領域に関する基礎文献の講読（３）
第13回　研究対象領域に関する基礎文献の講読（４）
第14回　総括
＊受講者と相談の上内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
数学･統計学について基礎知識を持つことが前提となる。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は指導に従って事前に文献を講読し、指定された日に報告する。

教科書
開講時に指示する。

参考書
演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（40%），学期中に行った課題への評価(20%），最終課題への評価(40%）

その他

科目ナンバー：(CO) CMM512J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
「クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＡ」での学習を踏まえ､自らの修士課程での研究の方向性を設定する。それに沿って主要な関連文献を読む。次いで採用する研究の方法論について、教員の指導のもと実習を通じて学んでいく。

授業内容
第１回　研究テーマの設定（１）
第２回　研究テーマの設定（２）
第３回　主要関連文献の講読（１）
第４回　主要関連文献の講読（２）
第５回　主要関連文献の講読（３）
第６回　主要関連文献の講読（４）
第７回　主要関連文献の講読（５）
第８回　主要関連文献の講読（６）
第９回　研究の方法論的課題の確認
第10回　分析手法の学習（１）
第11回　分析手法の学習（２）
第12回　分析手法の学習（３）
第13回　分析手法の学習（４）
第14回　分析手法の学習（５）
＊受講者と相談の上内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
「クリエイティブ・ビジネス論特論Ａ」「クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＡ」を履修済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は指導に従って事前に文献を講読し、指定された日に報告を行う。分析手法の習得においても、与えられた課題を行い、指定された日に報告する。

教科書
開講時に指示する。

参考書
演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（30%）、発表あるいは提出された課題の内容(40%）、最終試験あるいはレポートの結果(30%）

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
「クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＡ」「同Ｂ」での学習に基づき、クリエイティブ・ビジネス領域での修士論文の作成を目標に必要な準備を進めていく。まずは研究戦略を検討し、関連する文献をレビュー、分析枠組みを定めたあと、データ収集や調査を実施、暫定的な分析まで進む。

授業内容
第１回　研究戦略の検討（１）
第２回　研究戦略の検討（２）
第３回　既存研究のレビュー（１）
第４回　既存研究のレビュー（２）
第５回　モデルの検討（１）
第６回　モデルの検討（２）
第７回　モデルの検討（３）
第８回　分析方法の検討（１）
第９回　分析方法の検討（２）
第10回　データ収集／シミュレーション（１）
第11回　データ収集／シミュレーション（２）
第12回　データ収集／シミュレーション（３）
第13回　結果の分析
第14回　中間的まとめ
＊受講者と相談の上、内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
「クリエイティブ･ビジネス論特論Ａ･Ｂ」「クリエイティブ･ビジネス論特論演習ＩＡ･Ｂ」を履修済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は事前に研究の進捗状況を整理し、演習時に報告することが求められる。

教科書
特になし。

参考書
演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（30%）、発表あるいは提出された課題の内容(40%)、最終試験あるいはレポートの結果(30%)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM612J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
「クリエイティブ・ビジネス論特論演習ⅡＡ」での準備を踏まえ、クリエイティブ・ビジネス領域での修士論文の作成を目指す。収集したデータやシミュレーション結果の解析を行い、論文のアウトラインを固め、執筆に移るという一連のプロセスの各段階で、受講者は自身の研究の進展状況を教員に報告し、指導を受けることが基本になる。

授業内容
第１回　研究テーマの確認
第２回　修士論文作成に関する指導（１）
第３回　修士論文作成に関する指導（２）
第４回　修士論文作成に関する指導（３）
第５回　修士論文作成に関する指導（４）
第６回　修士論文中間発表と議論（１）
第７回　修士論文中間発表と議論（２）
第８回　再分析･追加分析に関する指導（１）
第９回　再分析･追加分析に関する指導（２）
第10回　修士論文執筆に関する指導（１）
第11回　修士論文執筆に関する指導（２）
第12回　修士論文執筆に関する指導（３）
第13回　修士論文最終発表と議論（１）
第14回　修士論文最終発表と議論（２）
＊受講者と相談の上、内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
「クリエイティブ･ビジネス論特論Ａ･Ｂ」「クリエイティブ･ビジネス論特論演習ＩＡ･Ｂ」「クリエイティブ･ビジネス論特論演習ⅡＡ」を履修済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は指導に従って分析や執筆を行い、指定された日に報告を行う。

教科書
特になし。

参考書
演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（30%）、発表あるいは提出された課題の内容(40%)、最終試験あるいはレポートの結果(30%)

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　生産管理や技術経営、技術戦略等に関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら、今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。
〈授業の到達目標〉
　製造企業の競争力という視点を軸に、品質管理・コスト管理・納期管理といった狭義の生産管理領域に囚われず、製品開発やイノベーションも含め、生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学び、自らの頭で考えることのできる力を養います。

授業内容

第１回　今後の進め方，輪読文献に関する話し合い。
第２回　生産管理の基本文献輪読その1
第３回　生産管理の基本文献輪読その2
第４回　生産管理の基本文献輪読その3
第５回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その1
第６回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その2
第７回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その3
第８回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その1
第９回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その2
第10回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その3
第11回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その1
第12回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その2
第13回　ケーススタディ･ディスカッションその1
第14回　ケーススタディ･ディスカッションその2

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。毎回の講義出席前に、すべての受講生が事前のレポート提出を求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

　製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

　履修者との相談の上決定するため、事前には定めない。

参考書

　『日本のものづくりの底力』藤本隆宏、新宅純二郎、青島矢一編著（東洋経済新報社）2015年
　『メイド・イン・ジャパンは終わるのか』青島矢一、武石彰、マイケル･A･クスマノ編著（東洋経済新報社）2010年
　『産業競争力：実証から理論へⅠ 組織能力編』藤本隆宏（岩波書店）2025年
　『産業競争力：実証から理論へⅡ 設計思想編』藤本隆宏（岩波書店）2025年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への出席態度、事前レポート提出（50％）、発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　生産管理や技術経営、技術戦略等に関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら、今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。
〈授業の到達目標〉
　製造企業の競争力という視点を軸に、品質管理・コスト管理・納期管理といった狭義の生産管理領域に囚われず、製品開発やイノベーションも含め、生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学び，自らの頭で理論を理解し考えることのできる力を養います。

授業内容

第１回　今後の進め方、輪読文献に関する話し合い。
第２回　製品開発に関する文献輪読その1
第３回　製品開発に関する文献輪読その2
第４回　製品開発に関する文献輪読その3
第５回　製品開発に関する文献輪読その4
第６回　イノベーションに関する文献輪読その1
第７回　イノベーションに関する文献輪読その2
第８回　イノベーションに関する文献輪読その3
第９回　イノベーションに関する文献輪読その4
第10回　製品デザインに関する文献輪読その1
第11回　製品デザインに関する文献輪読その2
第12回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その1
第13回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その2
第14回　ケーススタディ･ディスカッション

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。毎回の講義出席前に、すべての受講生が事前のレポート提出を求められます。

準備学習（予習・復習等）の内容

　国内外の製造企業の最新動向に関する報道に常に眼を通しておくこと。

教科書

　履修者との話し合いの上で決定するため、事前には定めない。

参考書

　『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年
　『増補版　製品開発力』藤本隆宏、キム･B･クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
　『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年
　『イノベーション・マネジメント入門』一橋大学イノベーション研究センター編（日本経済新聞社）2001年
　『産業競争力：実証から理論へⅠ 組織能力編』藤本隆宏（岩波書店）2025年
　『産業競争力：実証から理論へⅡ 設計思想編』藤本隆宏（岩波書店）2025年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への出席態度、事前レポート（50％）、発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN551J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

経営情報システム論あるいは経営情報論の基礎である，経営学(戦略論ならびに組織論)，情報科学・工学，システム論について，三者を相互に関連づけながら講義を行う。経営情報システム論という学際領域を学ぶためには，これらの学問領域の個別の理解を有機的に結びつけていくことが必要である。

戦略論については，ポーターならびにバーニーの所説を中心に解説し，組織論に関しては，組織と企業環境との関係，組織内プロセス，組織文化等について論じる。情報科学・工学については，ハードウェア，ソフトウェアに関する基礎的な知識から，ネットワーク技術，データベース技術，セキュリティ技術までを概説する。また，システム論に関しては，ハードシステム論とソフトシステム論の両者を取り上げる。

受講生の理解の程度を見極めながら，必要に応じてケーススタディを行うことにしたい。

《授業の到達目標》

この講義の受講を通じて学生は，経営情報論を学ぶための基礎となる分野の知識を身につけ，それらの相互関連性について理解し，また関係する事例についての十分な洞察を得ることが期待される。

授業内容

第１回　イントロダクション―経営情報システム論への招待
第２回　経営情報システム論の基本的枠組みと考え方
第３回　経営情報システム論の基礎:経営戦略
第４回　経営情報システム論の基礎:事業戦略
第５回　経営情報システム論の基礎:組織論
第６回　経営情報システム論の基礎:組織コミュニケーション
第７回　経営情報システム論の基礎:情報科学
第８回　経営情報システム論の基礎:コンピュータとネットワーク
第９回　経営情報システム論の基礎:情報セキュリティ
第10回　経営情報システム論の基礎:ITガバナンス
第11回　経営情報システム論の基礎:一般システム理論
第12回　経営情報システム論の基礎:ソフトシステム理論
第13回　経営情報システムのオントロジー
第14回　現代の社会―経済―技術環境における経営情報システム

履修上の注意

この講義の狙いは，企業経営の文脈の中で経営学，情報科学・工学，システム論を互いに関連づけて理解することである。このことを達成するために受講生には適宜レポートの提出が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義を理解するためにリーディングアサインメントが課されるので，受講前にそれを精読することを怠らないこと。また，毎回の講義資料とケーススタディのための事例は事前にOh-o! Meijiシステムにアップロードされるので，受講前にダウンロードして目を通しておくこと。

課題として5回のレポートの提出を求めるので，Oh-o! Meijiシステムを使って期日までに必ず提出すること。

教科書

『現代経営情報論』遠山暁・村田潔・古賀広志著(有斐閣)

参考書

『Management Information Systems: Managing the Digital Firm』Laudon, K. C. and Laudon, J. P. (Pearson Education)

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

経営情報システム論は現代企業経営を読み解くためのコアとなる研究分野です。多くの受講生の積極的な参加を期待しています。

科目ナンバー：(CO) MAN551J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》

MIS，DSS，SISのようなスローガン的経営情報システム概念が話題となった時代はすでに終わり，今日ではICTが企業経営のあるべき姿を実現するイネーブラーとして位置づけられている。企業戦略の遂行，組織構築にとってICTをベースとした情報システムはなくてはならない要素となった。こうした現状を踏まえ，本講義では，経営情報システム論，とりわけ最近の話題である知識経営，情報共有に基づくビジネスプロセス革新，バーチャル組織設計，eビジネスを題材として，現代情報社会における企業経営のあり方について研究する。

《授業の到達目標》

教員による講義と，講義内容を踏まえた教員と受講生によるワークショップ形式の討論を繰り返すことによって，受講生の理解を深めていくことが目指される。ワークショップへの参加に当たっては，参考資料を読んでくることと，その内容に関するプレレポートの提出が求められる。ワークショップでは受講生各自がプレレポートにまとめたことを基に議論を進め，最終的なレポートを作成する。

授業内容

第１回　経営情報システムの発展:1990年代まで
第２回　経営情報システムの発展:1990年代以降
第３回　ITからICTへ
第４回　イネーブラーとしてのICT
第５回　ビジネスプロセス革新:欧米の事例を中心に
第６回　ビジネスプロセス革新:日本の事例を中心に
第７回　ワークショップ1:ビジネスモデルとは何か
第８回　知識経営:知識創造
第９回　知識経営:ビッグデータ
第10回　ワークショップ2:ビッグデータとIoTは何をどう変えるのか
第11回　eビジネス:B to B
第12回　eビジネス:B to C/C to C
第13回　バーチャル組織設計
第14回　ワークショップ3:ソシアルメディアというビジネス

履修上の注意

経営情報システム論特論Aの単位取得はこの講義を受講するための前提条件ではない。ただし，受講生が経営学と情報科学・工学に関する経営情報システム論特論Aで提供されるレベルの知識をすでに持っていることを前提として講義が行われる。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義を理解するために，またワークショップを円滑に行うためにリーディングアサインメントが課されるので，受講前にそれを精読することを怠らないこと。また，毎回の講義資料とワークショップのための参考資料は事前にOh-o! Meijiシステムにアップロードされるので，受講前にダウンロードして目を通しておくこと。また，プレレポートをOh-o! Meijiシステムを使ってワークショップ前にアップロードする必要がある。

さらに，課題として3回のワークショップのそれぞれで，ワークショップの討議内容を踏まえた最終レポートの提出を求めるので，Oh-o! Meijiシステムを使って期日までに必ず提出すること。

教科書

『Management Information Systems: Managing the Digital Firm』Laudon, K. C. and Laudon, J. P. (Pearson Education)

参考書

『現代経営情報論』遠山暁・村田潔・古賀広志著(有斐閣)

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，授業への参加態度20%，レポート50%

その他

経営情報システム論は，現代企業経営を読み解くためのコアとなる研究分野です。多くの受講生の積極的な参加を期待しています。

科目ナンバー：(CO) MAN551J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本講義は、企業や公共機関等の経営組織において、あいまいで多様な情報を、意思決定に有用な情報へといかにして変換していくかを論じるものである。経営組織において発生する多様な情報を、なるべくそのエッセンスが失われないようにしながら、シンプルな情報(分析結果)へと変換するのである。さらに、商学研究科の大学院生が自己の専門分野で何らかの仮説を設定し、その仮説を実証するための分析アプローチについても論じていくことにする。

本講義では、複雑な経営事象を情報管理の側面から捉え、それを簡素化して把握するためのアプローチ、とりわけ重回帰分析と数量化理論Ⅰ類を中心に解説することにより、自身の研究に用いる情報を有効に活用し分析するための能力を身につけることを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　イントロダクション、「科学の文法」としての統計学
第２回　尺度水準と多変量解析の体系
第３回　統計の基礎
第４回　相関係数と統計的品質管理
第５回　回帰分析モデル(1)－偏回帰係数の最小二乗解－
第６回　回帰分析モデル(2)－重回帰分析の計算例－
第７回　回帰分析モデル(3)－自己回帰分析モデル－
第８回　回帰分析モデル(4)－非線形回帰分析モデルと引力モデル－
第９回　数量化理論Ⅰ類(1)－カテゴリー･ウェイトの最小二乗解－
第10回　数量化理論Ⅰ類(2)－カテゴリー･ウェイトの基準化－
第11回　重回帰分析と数量化理論I類の応用例(1)－レイティング･モデル－
第12回　重回帰分析と数量化理論I類の応用例(2)－評定のバイアスのモデル化－
第13回　重回帰分析と数量化理論I類の応用例(3)－評定傾向分析モデル－
第14回　重回帰分析と数量化理論I類の応用例(4)－自己評定分析モデル－
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

情報管理論特論Ａは、既存の方法論の解説に留まった内容であるが、情報管理論特論Ｂで院生自身がオリジナル・モデル構築を試みる際の方法論を解説するため、情報管理論特論Ｂを併せて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論･枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定。

参考書

山下洋史『人事情報資源管理のための評定傾向分析モデル』経林書房，2000
河口至商:『多変量解析入門Ⅰ』，森北出版，1973

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、授業での発言の積極性(50%)

その他

情報管理論特論Ａの履修者は，情報管理論特論Ｂを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) MAN551J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(工学)・博士(商学) 山下　洋史		

授業の概要・到達目標

情報社会を生きる我々にとって、ある事象が生起したことを知ったときに「得られる情報量がどれだけであるか？」は興味深い問題である。しかしながら，長さ(m)、重さ(g)や金額(￥・＄)とは異なり、情報の量を簡単に測定することはできない。本講義は、こうした厄介な問題に対して「情報理論」からのアプローチを試みるものである。

本講義の第5回までは、主成分分析と因子分析について解説するとともに、因子分析と重回帰分析の2段階分析例を紹介していくことにする。本講義の第6回以降は、平均情報量（エントロピー)、条件つきエントロピー、あいまい度、相互情報量といった各種情報量、およびそれらを応用したエントロピー・モデル、コミュニケーション･ネットワーク･モデルについて論じていく。さらに、本講義の最後には、ファジィ理論(ファジィ事象の確率、ファジィ条件付確率、ファジィ･エントロピー)を紹介する。

これにより、自己の専門領域において、既存の方法論やモデルをベースに問題を定式化し、その解を合理的な基準（例えば、最小二乗基準、エントロピー最大化基準)によって導くための基礎を養うことを目的(到達目標)とする。

授業内容

第１回　イントロダクション，主成分分析と因子分析の目的
第２回　主成分分析における主成分の導出
第３回　因子分析と重回帰分析の2段階分析例
第４回　同一データに対する多様な分析アプローチ
第５回　オリジナルの分析モデル構築
第６回　確率と情報量
第７回　エネルギーとエントロピー
第８回　通信路行列と条件つき確率
第９回　条件つきエントロピーとあいまい度
第10回　相互情報量
第11回　コミュニケーション･ネットワーク
第12回　ネットワークのエントロピーと自己ループ
第13回　ゲートキーパー
第14回　ファジィ理論
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

情報管理論特論ＡとＢは半期完結型の講義であるが、情報管理論特論Ａ(重回帰分析･数量化理論Ⅰ類)と特論Ｂの前半の内容(主成分分析･因子分析)を発展させた分析モデルの構築方法を解説するため，情報管理論特論Ａを併せて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習:次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論･枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定。

参考書

明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
済情報出版，2011
山下洋史:人事情報資源管理のための評定傾向分析モデル，経林書房，2000
N.アブラムソン著，宮川洋訳:情報理論入門，好学社，1969

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業中の課題に対する解答の妥当性（50%)、業での質問に対する回答の妥当性(50%)

その他

情報管理論特論Ｂの履修者は、情報管理論特論Ａを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

本講義では，経営哲学の主要なテーマのうち，企業倫理を中心に取り上げる。そこでは，「企業倫理の意義」「企業倫理の歴史的展開過程」「企業倫理の日本的特徴」「倫理的リーダーシップのあり方」を理解することを到達目標とする。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，企業倫理を中心に取り上げる。
第１回　経営哲学とは何か
第２回　企業倫理の意義①
第３回　企業倫理の意義②
第４回　企業倫理の意義③
第５回　アメリカにおける企業倫理の展開①
第６回　アメリカにおける企業倫理の展開②
第７回　アメリカにおける企業倫理の展開③
第８回　日本における企業倫理の展開①
第９回　日本における企業倫理の展開②
第10回　日本における企業倫理の展開③
第11回　企業倫理の国際比較①
第12回　企業倫理の国際比較②
第13回　経営者の倫理的リーダーシップ①
第14回　経営者の倫理的リーダーシップ②
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

経営学の基礎的な知識を有していることを前提として講義を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

鈴木秀一他著『経営のルネサンス』文眞堂，2017年。
スチュワート著『企業倫理』白桃書房，2001年。
エプスタイン著『企業倫理と経営社会政策過程』文真堂，1996年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，日頃から企業経営に関する関心を持ち，受講生が積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) MAN511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

本授業は，経営哲学について，企業と利害関係者との関係から学ぶものである。「利害関係者が具体的に意味する内容」「企業と利害関係者との間に存在する課題事項」「企業倫理の制度化のあり方」について理解することが，本授業の到達目標である。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，企業と利害関係者との関係を中心に取り上げる。
第１回　利害関係者とは何か
第２回　企業と利害関係者①
第３回　企業と利害関係者②
第４回　課題事項管理
第５回　企業と株主･投資家：企業統治問題
第６回　企業と消費者･顧客
第７回　企業と従業員
第８回　企業と競合企業
第９回　企業と地域社会
第10回　企業と自然環境
第11回　企業と国際社会：多国籍企業問題
第12回　企業倫理の制度化①
第13回　企業倫理の制度化②
第14回　総括
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

経営学の基礎的な知識を有していることを前提として講義を進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

佐久間信夫他著『コーポレート･ガバナンス改革の国際比較』（文眞堂）
フリーマン他著『利害関係者志向の経営』（白桃書房）
ビーチャン他著『企業倫理学』（ミネルヴァ書房）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，日頃から企業経営に関する関心を持ち，受講生が積極的に参加することが望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
クリエイティブ・ビジネスの領域でもデータ駆動型の実践が浸透しつつある。さらに広いマネジメントやマーケティングの領域で、統計学に基づくデータ解析の実践が一般化しつつある。本講義ではまず、クリエイティブ・ビジネス領域でのデータ解析に基づく研究事例を紹介する。
次いで現在最も一般的なデータ解析ツールであるRによって、初歩的な記述統計分析から回帰分析、より高度な分析手法について実習を通じて学ぶ。
受講者は毎回の講義にR, RStudioをインストールしたノートPCを持参し、実データを分析しながらその操作を行う。関連する理論的知識については必要な範囲で適宜講義する。

授業内容
第１回 イントロダクション
第２回 クリエイティブビジネスデータ解析事例（１）
第３回 クリエイティブビジネスデータ解析事例（２）
第４回 クリエイティブビジネスデータ解析事例（３）
第５回 R入門
第６回 記述統計分析（１）
第７回 記述統計分析（２）
第８回 回帰分析（１）
第９回 回帰分析（２）
第10回 多次元データ分析（１）
第11回 多次元データ分析（２）
第12回 その他高度な分析手法
第13回 課題の発表
第14回 課題の発表
＊受講者と相談の上内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
R, RStudioをインストールしたノートPCを毎回持参して操作する（MS Surface等Rを実行できないPCは避ける）。受講者は数学とプログラミングに関して初歩的な知識を持つことが前提となる。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は指定された課題（計算、文献講読等）を事前に行い、当日その成果について報告することが求められる。

教科書
未定（講義中に適宜紹介する）

参考書
講義中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（30%），学期中に行った課題への評価（20%），最終課題への評価（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標
クリエイティブ・ビジネスの根幹には企業と消費者の相互作用がある。そのメカニズムを理解するために、エージェントベース・モデリング（Agent-Based Modeling: ABM）について学ぶ。本講義ではまず、ABMの原点である分居モデルや文化の流布モデルについて学ぶことから始める。次いで、イノベーションの普及やクチコミの伝播といった、マーケティング・サイエンス領域でABMが最も活発に適用されている領域でのABMを用いた研究について概観する。さらに、クリエイティブ・ビジネスに関連するABMのさまざまな応用について検討する。本講義は教員による講義に加え、ABMをRなど用いて実行する実習を行う。

授業内容
第１回 イントロダクション
第２回 Rの基本操作
第３回 ABMの古典：分居モデル
第４回 同･シミュレーション実習
第５回 ABMの古典：文化の流布モデル
第６回 同･シミュレーション実習
第７回 イノベーションの普及に関する研究
第８回 普及のABM
第９回 クチコミ･マーケティング
第10回 同･シミュレーション実習
第11回 その他のテーマでのモデル
第12回 同･シミュレーション実習
第13回 課題の発表
第14回 課題の発表
＊受講者と相談の上内容が変更される可能性がある。

履修上の注意
必要なアプリをインストールしたノートPCを毎回持参して操作する（MS Surfaceは避ける）。受講者は数学とプログラミングに関して初歩的な知識を持つことが前提となる「クリエイティブ･ビジネス論特論A」を履修していることが前提となる。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者は指定された課題（計算、文献講読等）を事前に行い、当日その成果について報告することが求められる。

教科書
開講時に指示する。

参考書
講義中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法
授業への参加態度と貢献（30%），学期中に行った課題への評価（20%），最終課題への評価（50%）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営戦略論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（商学）　西　剛広		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
本講義では，初学者でも経営戦略の概要を把握できるように経営戦略に関する基本的な理論を学んでいく。ポジショニング理論，資源ベース理論のような競争戦略など基本的な理論を包括的に講義していく。そのうえで、アイゼンハートとティースの理論を中心にダイナミック・ケイパビリティの議論を整理していく。本授業では基本理論を習得するため経営戦略の教科書の講読を行うのと同時に，研究の最新動向を把握するため国内外のジャーナルに掲載された論文を取り上げていく。なお，実証分析の研究論文を講読するため，R/RStudioを用いて、基礎的な計量分析を行っていく。
〈到達目標〉
(1)経営戦略の基本理論ならびに，近年の動向を把握できるようになること
(2)定量的手法を用いた研究論文を読み解けるようになること
(3)基礎的な計量分析ができるようになること

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　企業価値と経営戦略
第３回　成長戦略とPPM
第４回　多角化戦略
第５回　業界の構造分析
第６回　基本戦略
第７回　資源ベース論
第８回　ダイナミックケイパビリティ
第９回　R/RStudioの使用方法
第10回　基本統計量とｔ検定
第11回　確率密度関数
第12回　回帰分析(1)：連続データ
第13回　回帰分析(2)：離散データ
第14回　まとめ

履修上の注意

まず，研究論文では英文ジャーナルを読むことが多いので，英語文献を読みこなせることが本授業履修の条件となる。
計量分析の手法を同時に学ぶことになるので、高校で学ぶ微分･積分やベクトルなどの知識があることが望ましい。
R/Rstudioを使用するため、PCを必ず持参すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は指導に従って事前に文献を講読しておくこと。

教科書

澤田 直宏（2020）『ビジネスに役立つ経営戦略論 -- 企業の戦略分析入門』有斐閣
松浦寿幸（2024）『Rによるデータ分析入門：経済分析の基礎から因果推論まで』東京図書
・研究論文は日本語論文では，組織科学や経営学会誌，英論文ではstrategic management reviewやAcademy of Management Journal, Academy of Management Perspectiveなどに掲載された論文を講読していく。

参考書

Wooldridge, J., (2010) “Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data”, 2nd edition, The MIT Press.
その他、適宜指示していく。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での解説あるいは、Oh-o! Meiji上で配信する。

成績評価の方法

授業への貢献度（50％）　研究報告（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営戦略論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（商学）　西　剛広		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
本授業では、「経営戦略論特論Ａ」の内容を基礎に、コーポレート・ガバナンスと戦略の関係について講義する。具体的には、取締役会構造や所有権構造がイノベーションや経営戦略の変更にどのような影響を与えるのかを検討する。また、本講義では「経営戦略論特論Ａ」に引き続き、パネルデータを用いた計量分析の手法について解説する。財務およびガバナンスのデータを用い、コーポレート・ガバナンスが企業の戦略にどのような影響を及ぼすのかについて実証分析を行う。
〈到達目標〉
(1)コーポレート・ガバナンスと戦略に関する分析手法を理解・習得すること。
(2)パネルデータを用いた基礎的な計量分析ができるようになること。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　企業価値と資本コスト
第３回　戦略的投資意思決定と内部収益率
第４回　コーポレート･ガバナンスと研究開発
第５回　コーポレート･ガバナンスと多角化戦略
第６回　計量分析(1)：固定効果モデル(a)
第７回　計量分析(2)：固定効果モデル(b)
第８回　計量分析(3)：操作変数法
第９回　計量分析(4)：Difference in Difference
第10回　計量分析(5)：傾向スコア法
第11回　計量分析(6):一般化積率法(GMM)
第12回　コーポレート･ガバナンスと戦略に関する実証分析(1)
第13回　コーポレート･ガバナンスと戦略に関する実証分析(2)
第14回　まとめ

履修上の注意

まず、研究論文では英文ジャーナルを読むことがあるので、英語文献を読みこなせることが本授業履修の条件となる。
計量分析の手法を同時に学ぶことになるので、高校で学ぶ微分･積分やベクトルなどの知識があることが望ましい。
R/Rstudioを使用するため、PCを必ず持参すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は指導に従って事前に文献を講読しておくこと。

教科書

松浦寿幸（2024）『Rによるデータ分析入門：経済分析の基礎から因果推論まで』東京図書
宮島英昭 編著（2017）『企業統治と成長戦略』東洋経済新報社
松浦寿幸（2024）『Rによるデータ分析入門：経済分析の基礎から因果推論まで』東京図書
strategic management reviewやcorporate governance: an international review, Academy of Management Journal, Academy of Management Perspectiveなどに掲載された論文を用いていく。
その他、適宜指示する。

参考書

青木英孝 著（2017）『日本企業の戦略とガバナンス』中央経済社
Wooldridge, J., (2010) “Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data”, 2nd edition, The MIT Press.

課題に対するフィードバックの方法

講義中での解説あるいは、Oh-o! Meiji上で配信する。

成績評価の方法

授業への貢献度（50％）　研究報告（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN591J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営学外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任准教授　博士（商学）　西　剛広		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
経営学研究に必要となる定量的分析手法について、外国語文献を用いて解説する。とりわけ、予測精度の向上やパターン認識を目的とした機械学習手法を中心に学ぶ。具体的には、k-means法、決定木、ニューラルネットワーク、サポートベクターマシンなどの分類･パターン把握手法を扱う。
＜到達目標＞
機械学習の基本的手法を用いてR/RStudioで分析できるようにする。

授業内容

1. オリエンテーション
2. R/RStudioについて
3. Introducing Machine Learning
4. Managing and Understanding Data
5. Lazy Learning-Classification Using Nearest Neighbors(1)
6. Lazy Learning-Classification Using Nearest Neighbors(2)
7. Probabilistic Learning-Classification Using Naive Bayes(1)
8. Probabilistic Learning-Classification Using Naive Bayes(2)
9. Classification Using Decision Trees and Rules(1)
10. Classification Using Decision Trees and Rules(2)
11. Regression Method(1)
12. Regression Method(2)
13. 機械学習を用いたジャーナル論文の輪読(1)
14. 機械学習を用いたジャーナル論文の輪読(2)

履修上の注意

R/RStudioを用いて分析をするので、必ずノートPCを持参のこと。
高校の微分･積分、ベクトルの知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

必ず指定した文献の箇所を読んでくること。授業中に学んだ手法をRStudioでコードを書いて復習をすること。

教科書

Lantz, Brett(2023), “Machine learning with R: Learn techniques for building and improving machine learning models, from data preparation to model tuning, evaluation, and working with big data (4th ed.)”, Packt Publishing.

参考書

参考文献は授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での解説あるいは、Oh-o! Meiji上で配信する。

成績評価の方法

授業への貢献　50%、期末の課題　50%により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN591J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営学外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任准教授　博士（商学）　西　剛広		

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
経営学研究に必要となる定量的分析手法について、外国語文献を用いて解説する。とりわけ、予測精度の向上やパターン認識を目的とした機械学習手法を中心に学ぶ。具体的には、k-means法、決定木、ニューラルネットワーク、サポートベクターマシンなどの分類･パターン把握手法を扱う。さらに、TF-IDFやトピックモデルのようなテキストマイニングを用いて文書から特徴量を把握し、内容を分類できる手法を習得する。
＜到達目標＞
機械学習の基本的手法を用いてR/RStudioで分析できるようにする。

授業内容

1. オリエンテーション
2. Neural Network(1)
3. Neural Network(2)
4. Neural Network(3)
5. Neural Network(4)
6. Support Vector Machines (1)
7. Support Vector Machines (2)
8. Support Vector Machines (3)
9. Text mining- tokenization and removing stop words
10. Text mining-TF_IDF(1)
11. Text mining-TF_IDF(2)
12. Text mining-Topic_Modelling(1)
13. Text mining-Topic_Modelling(2)
14. Text mining-Topic_Modelling(3)

履修上の注意

経営学外国文献研究Aを履修していることが望ましい。
R/RStudioを用いて分析をするので、必ずノートPCを持参のこと。
高校の微分･積分、ベクトルの知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

必ず指定した文献の箇所を読んでくること。授業中に学んだ手法をRStudioでコードを書いて復習をすること。

教科書

Lantz, Brett(2023), “Machine learning with R: Learn techniques for building and improving machine learning models, from data preparation to model tuning, evaluation, and working with big data (4th ed.)”, Packt Publishing.
Yaya, O. S., Adamu, M. O., & Adepoju, M. M. (2025). Text mining with R: Unlocking meaning in unstructured data. Independently published.

参考書

参考文献は授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

講義中での解説あるいは、Oh-o! Meiji上で配信する。

成績評価の方法

授業への貢献　50%、期末の課題　50%により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	
科 目 名	財務会計論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
この演習では、無形資産、サステナビリティ、情報開示、財務会計と報告のモデルなどに焦点を当てて、財務会計に関する修士論文の指導を行う。伝統的な会計の領域にとどまらず、その延長線上にあるテーマも取り上げる。たとえば、人やデータなどの無形資産の認識と開示、環境変化、特に気候温暖化関連の会計問題、情報開示の質の解釈と評価、サステナビリティ情報開示の拡大が財務会計理論に対する影響などが挙げられる。
演習IAは、修士論文のテーマ選定のために、先行研究をまとめることを目標とする。

授業内容
第１回　財務会計論ガイダンス
第２回　研究テーマの検討
第３回　基礎文献の講読（１）
第４回　基礎文献の講読（２）
第５回　基礎文献の講読（３）
第６回　基礎文献の講読（４）
第７回　研究テーマの検討
第８回　基礎文献の講読（５）
第９回　基礎文献の講読（６）
第10回　基礎文献の講読（７）
第11回　研究テーマの検討
第12回　研究方法論に関する基本文献の講読（１）
第13回　研究方法論に関する基本文献の講読（２）
第14回　研究方法論に関する基本文献の講読（３）

履修上の注意
最新の研究成果を理解するために、英語の文献（著書，論文）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した文献を事前に読んで、発表の準備を行うことが重要である。

教科書
特になし

参考書
演習の中で各学生のテーマに基づいて、著書や文献を指定する。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中でコメントをするか、ディスカッション機能を活用して、追加の議論を行う。

成績評価の方法
授業での報告とディスカッションによって総合的に評価する。報告５０％、ディスカッション５０％

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	財務会計論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
この演習では、無形資産、サステナビリティ、情報開示、財務会計と報告のモデルなどに焦点を当てて、財務会計に関する修士論文の指導を行う。伝統的な会計の領域にとどまらず、その延長線上にあるテーマも取り上げる。たとえば、人やデータなどの無形資産の認識と開示、環境変化、特に気候温暖化関連の会計問題、情報開示の質の解釈と評価、サステナビリティ情報開示の拡大が財務会計理論に対する影響などが挙げられる。
演習IBでは、文献レビューに基づいて、テーマを決定することを目標とする。

授業内容
第１回　研究テーマの検討
第２回　研究テーマに関連する文献リストの作成
第３回　主要関連文献の講読（１）
第４回　主要関連文献の講読（２）
第５回　主要関連文献の講読（３）
第６回　主要関連文献の講読（４）
第７回　論点の整理と検討
第８回　主要関連文献の講読（５）
第９回　主要関連文献の講読（６）
第10回　主要関連文献の講読（７）
第11回　主要関連文献の講読（８）
第12回　研究テーマと研究方法の検討（１）
第13回　研究テーマと研究方法の検討（２）
第14回　研究テーマと研究方法の検討（３）

履修上の注意
指定した文献を事前に読んで、発表の準備を行うことが重要である。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した文献を事前に読んで、発表の準備を行うことが重要である。

教科書
特になし

参考書
演習の中で学生が選んだテーマに基づいて、著書や文献を指定する。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中でコメントをするか、ディスカッション機能を活用して、追加の議論を行う。

成績評価の方法
授業での報告とディスカッションによって総合的に評価する。報告５０％、ディスカッション５０％

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	
科 目 名	財務会計論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
この演習では、無形資産、サステナビリティ、情報開示、財務会計と報告のモデルなどに焦点を当てて、財務会計に関する修士論文の指導を行う。伝統的な会計の領域にとどまらず、その延長線上にあるテーマも取り上げる。たとえば､人やデータなどの無形資産の認識と開示、環境変化、特に気候温暖化関連の会計問題、情報開示の質の解釈と評価、サステナビリティ情報開示の拡大が財務会計理論に対する影響などが挙げられる。
演習IIAは修士論文の構成を完成することを目標とする。

授業内容
第１回　修士論文テーマの報告
第２回　追加文献の講読（１）
第３回　追加文献の講読（２）
第４回　研究テーマと研究方法の検討（１）
第５回　研究テーマと研究方法の検討（２）
第６回　研究テーマと研究方法の検討（３）
第７回　履修生による修士論文の構成等に関する報告
第８回　修士論文作成に関する指導(1)：全体の構成
第９回　修士論文作成に関する指導(2)：現状分析
第10回　修士論文作成に関する指導(3)：先行研究（１）
第11回　修士論文作成に関する指導(4)：先行研究（２）
第12回　修士論文作成に関する指導(5)：分析内容（１）
第13回　修士論文作成に関する指導(6)：分析内容（２）
第14回　修士論文の構成等に関する報告

履修上の注意
最新の研究成果を理解するために、英語の文献（著書，論文）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した文献を事前に読んで、発表の準備を行うことが重要である。

教科書
特になし

参考書
演習の中で学生のテーマに基づいて、著書や文献を指定する。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中でコメントをするか、ディスカッション機能を活用して、追加の議論を行う。

成績評価の方法
授業での報告とディスカッションによって総合的に評価する。報告５０％、ディスカッション５０％

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	財務会計論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
この演習では、無形資産、サステナビリティ、情報開示、財務会計と報告のモデルなどに焦点を当てて、財務会計に関する修士論文の指導を行う。伝統的な会計の領域にとどまらず、その延長線上にあるテーマも取り上げる。たとえば､人やデータなどの無形資産の認識と開示、環境変化、特に気候温暖化関連の会計問題、情報開示の質の解釈と評価、サステナビリティ情報開示の拡大が財務会計理論に対する影響などが挙げられる。
演習IIBは修士論文の完成を目標とする。

授業内容
第１回　修士論文の構成等に関する報告
第２回　修士論文作成に関する指導（１）
第３回　修士論文作成に関する指導（２）
第４回　修士論文作成に関する指導（３）
第５回　修士論文作成に関する指導（４）
第６回　修士論文作成に関する指導（５）
第７回　履修者による修士論文中間報告（１）
第８回　履修者による修士論文中間報告（２）
第９回　修士論文執筆に関する指導（１）
第10回　修士論文執筆に関する指導（２）
第11回　修士論文執筆に関する指導（３）
第12回　履修者による修士論文最終報告（１）
第13回　履修者による修士論文最終報告（２）
第14回　演習内容の総括

履修上の注意
最新の研究成果を理解するために、英語の文献（著書，論文）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容
指定した文献を事前に読んで、発表の準備を行うことが重要である。

教科書
特になし

参考書
演習の中でテーマに基づいて、著書や文献を指定する。

課題に対するフィードバックの方法
授業の中でコメントをするか、ディスカッション機能を活用して、追加の議論を行う。

成績評価の方法
修士論文によって評価する。論文１００％

その他

科目ナンバー：(CO) ACC542J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		前田　陽

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における広範な知識を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　テーマ学習①
第３回　テーマ学習②
第４回　テーマ学習③
第５回　テーマ学習④
第６回　テーマ学習⑤
第７回　テーマ学習⑥
第８回　テーマ学習⑦
第９回　テーマ学習⑧
第10回　テーマ学習⑨
第11回　テーマ学習⑩
第12回　テーマ学習⑪
第13回　テーマ学習⑫
第14回　春学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・上總康行（著）(2021)『コマツのダントツ経営』中央経済社。
・岡野浩，小林英幸（編）(2015)『コストデザイントヨタ/研究者の実践コミュニティ理論』大阪公立大学共同出版会。

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC542J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		前田　陽

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における広範な知識を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　テーマ学習①
第３回　テーマ学習②
第４回　テーマ学習③
第５回　テーマ学習④
第６回　テーマ学習⑤
第７回　テーマ学習⑥
第８回　テーマ学習⑦
第９回　テーマ学習⑧
第10回　テーマ学習⑨
第11回　テーマ学習⑩
第12回　テーマ学習⑪
第13回　テーマ学習⑫
第14回　秋学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・James Jiambalvo. 2012. Managerial Accounting, 5th ed., Wiley.

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC642J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		前田　陽

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における修士論文執筆に向け，研究テーマを固めることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究報告とその検討①
第３回　研究報告とその検討②
第４回　研究報告とその検討③
第５回　研究報告とその検討④
第６回　研究報告とその検討⑤
第７回　研究報告とその検討⑥
第８回　研究報告とその検討⑦
第９回　研究報告とその検討⑧
第10回　研究報告とその検討⑨
第11回　研究報告とその検討⑩
第12回　研究報告とその検討⑪
第13回　研究報告とその検討⑫
第14回　春学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・Jerold L. Zimmerman. 2016. Accounting for Decision Making and Control, 9th Revised ed., McGraw Hill Higher Education.

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC642J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		前田　陽

授業の概要・到達目標

企業会計の本質は企業に関わる様々なデータを収集，処理し，それらを情報として企業内外の情報利用者に伝達することである。

本講義は，会計的な情報が企業経営にどのような影響を与えるのか，またどのような管理会計が企業経営のために必要かをより深く理解することを目的とする。

本講義では管理会計分野における修士論文を完成させることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　修士論文の中間報告①
第３回　修士論文の中間報告②
第４回　修士論文の中間報告③
第５回　修士論文の中間報告④
第６回　修士論文の中間報告⑤
第７回　修士論文の中間報告⑥
第８回　修士論文の中間報告⑦
第９回　修士論文の中間報告⑧
第10回　修士論文の中間報告⑨
第11回　修士論文の中間報告⑩
第12回　修士論文の中間報告⑪
第13回　修士論文の最終報告
第14回　秋学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・Edward Blocher David Stout, Paul Juras, Gary Cokins. 2015. Cost Management: A Strategic Emphasis, 7th ed., McGraw-Hill Education.

上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

・本橋正美，林總，片岡洋人（編）(2016)『要説管理会計事典』清文社。

上記以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC662J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

受講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では，修士論文の作成が重要なポイントとなる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文のテーマの報告(1)
第２回　履修者による修士論文のテーマの報告(2)
第３回　分析方法の検討(1)
第４回　分析方法の検討(2)
第５回　分析方法の検討(3)
第６回　分析方法の検討(4)
第７回　分析方法の検討(5)
第８回　履修者による修士論文の構成に関する報告(1)
第９回　履修者による修士論文の構成に関する報告(2)
第10回　追加文献･データ収集に関する検討(1)
第11回　追加文献･データ収集に関する検討(2)
第12回　追加文献･データ収集に関する検討(3)
第13回　予備的分析結果の検討(1)
第14回　予備的分析結果の検討(2)

履修上の注意

演習への毎回の出席は必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回までの講義の内容について十分な理解が必要である。

教科書

加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店(2005)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業における報告の内容(100%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC662J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

受講者各自が修士論文のテーマについて報告を行ない，問題点を議論して解決策を模索していく。演習では，修士論文の作成が重要なポイントとなる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文の進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　履修者による修士論文の中間報告(1)
第８回　履修者による修士論文の中間報告(2)
第９回　修士論文の執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文の執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文の執筆に関する指導(3)
第12回　履修者による修士論文の最終報告(1)
第13回　履修者による修士論文の最終報告(2)
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

演習への毎回の出席は必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回までの講義の内容について十分な理解が必要である。

教科書

加藤達彦『監査制度設計論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店(2005)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業における報告の内容(100%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
本授業では、諸表諸表分析で発見した問題の解決とともに、いかに企業業績を高めるかを考える。
企業業績の改善については、とりわけ管理会計の視点から検討する。そこで、近年の管理会計研究・実践の中心的テーマに関する和文、英文論文などを講読し、討論する。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究論文とは何か(1)
第３回　研究論文とは何か(2)
第４回　分析手法―会計研究における定性分析(1)
第５回　分析手法―会計研究における定性分析(2)
第６回　分析手法―会計研究における定量分析(1)
第７回　分析手法―会計研究における定量分析(2)
第８回　分析手法―会計研究における定量分析(3)
第９回　分析手法―会計研究における定量分析(4)
第10回　効率性の向上(トヨタ生産方式に関する研究の整理・議論①)
第11回　効率性の向上(トヨタ生産方式に関する研究の整理・議論②)
第12回　効率性の向上(トヨタ生産方式に関する研究の整理・議論③)
第13回　効率性の向上(トヨタ生産方式に関する研究の整理・議論④)
第14回　授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
その都度、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
本授業では、諸表諸表分析で発見した問題の解決とともに、いかに企業業績を高めるかを考える。
企業業績の改善については、とりわけ管理会計の視点から検討する。そこで、近年の管理会計研究・実践の中心的テーマに関する和文、英文論文などを講読し、討論する。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　修士論文のテーマ設定について ①
第３回　修士論文のテーマ設定について ②
第４回　修士論文のテーマ設定について ③
第５回　費用低減(トヨタの原価管理に関する研究の整理･議論)
第６回　費用低減(原価改善に関する研究の整理･議論)
第７回　費用低減(原価企画に関する研究の整理･議論 ①)
第８回　費用低減(原価企画に関する研究の整理･議論 ②)
第９回　収益向上(価格決定に関する研究の整理･議論 ①)
第10回　収益向上(価格決定に関する研究の整理･議論 ②)
第11回　収益向上(レベニュー･マネジメントに関する研究の整理･議論 ①)
第12回　収益向上(レベニュー･マネジメントに関する研究の整理･議論 ②)
第13回　収益向上(レベニュー･マネジメントに関する研究の整理･議論 ③)
第14回　授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
特定の教科書がありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
本授業では、諸表諸表分析で発見した問題の解決とともに、いかに企業業績を高めるかを考える。
企業業績の改善については、とりわけ管理会計の視点から検討する。そこで、近年の管理会計研究・実践の中心的テーマに関する和文、英文論文などを講読し、討論する。
基本的には毎週履修者による報告を行なう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究論文執筆の流れ(1)
第３回　研究論文執筆の流れ(2)
第４回　分析手法の学習（定性分析）(1)
第５回　分析手法の学習（定性分析）(2)
第６回　分析手法の学習（定量分析）(1)
第７回　分析手法の学習（定量分析）(2)
第８回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(1)
第９回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(2)
第10回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(3)
第11回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(4)
第12回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(5)
第13回　履修者による修士論文テーマ･執筆計画の報告･議論(6)
第14回　授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
特定の教科書がありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
本授業では、諸表諸表分析で発見した問題の解決とともに、いかに企業業績を高めるかを考える。
企業業績の改善については、とりわけ管理会計の視点から検討する。そこで、近年の管理会計研究・実践の中心的テーマに関する和文、英文論文などを講読し、討論する。
基本的には毎週履修者による報告を行なう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究論文とは何か(1)
第３回　研究論文とは何か(2)
第４回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(1)
第５回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(2)
第６回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(3)
第７回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(4)
第８回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(5)
第９回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(6)
第10回　履修者による修士論文作成の進捗報告･議論(7)
第11回　履修者による修士論文の最終報告･議論(1)
第12回　履修者による修士論文の最終報告･議論(2)
第13回　履修者による修士論文の最終報告･議論(3)
第14回　授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
特定の教科書がありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC572J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	国際会計論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文Annual Reportsを活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくというAnglo-Americanな一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　国際会計論のガイダンス(1)
第２回　国際会計論のガイダンス(2)
第３回　研究テーマの検討(1)
第４回　研究テーマの検討(2)
第５回　国際会計分野の基本文献の講読(1)
第６回　国際会計分野の基本文献の講読(2)
第７回　国際会計分野の基本文献の講読(3)
第８回　国際会計分野の基本文献の講読(4)
第９回　国際会計分野の基本文献の講読(5)
第10回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読(1)
第11回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読(2)
第12回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読(3)
第13回　国際会計分野の分析手法等に関する基本文献の講読(4)
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Thomas G. Evans, Accounting Theory: Contemporary Accounting Issues（Thomson，2003）あたりから始めたい。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts及び日本の『企業会計法規集』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC572J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文Annual Reportsを活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくというAnglo-Americanな一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　研究テーマに関する文献の紹介(1)
第２回　研究テーマに関する文献の紹介(2)
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読(1)
第５回　主要関連文献の講読(2)
第６回　主要関連文献の講読(3)
第７回　主要関連文献の講読(4)
第８回　主要関連文献の講読(5)
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討(1)
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討(2)
第11回　分析手法等に関する関連文献の講読(1)
第12回　分析手法等に関する関連文献の講読(2)
第13回　分析手法等に関する関連文献の講読(3)
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献（著書，論文，会計基準）を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Thomas G. Evans, Accounting Theory: Contemporary Accounting Issues（Thomson，2003）あたりから始めたい。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts及び日本の『企業会計法規集』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC672J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	国際会計論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文Annual Reportsを活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくというAnglo-Americanな一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文テーマの報告(1)
第２回　履修者による修士論文テーマの報告(2)
第３回　分析方法の検討等(1)
第４回　分析方法の検討等(2)
第５回　分析方法の検討等(3)
第６回　分析方法の検討等(4)
第７回　分析方法の検討等(5)
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(1)
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(2)
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討(1)
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討(2)
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討(3)
第13回　予備的分析結果の検討等(1)
第14回　予備的分析結果の検討等(2)

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献(著書，論文，会計基準)を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

修士論文のテーマに応じて指定する。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts及び日本の『企業会計法規集』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(発言内容など)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC672J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論演習では，比較制度分析（CIA）の観点から2005年以降世界的に普及している国際会計基準，カナダや日本などでも解禁されている米国の財務会計基準，2011年以降に国際統合される日本の企業会計基準について，相互に比較しながら分析を進める。その際には，個々の会計基準の規定内容のみならず，それらの歴史的発達過程や社会経済特性にも注目する。

理論的には，国際会計基準の概念フレームワークや米国財務会計概念書（SFAC）などの抽象的な枠組について，重点的に考察する。そして概念フレームワークから演繹的に個々の会計基準，例えばキャッシュ・フロー計算書，企業結合，金融商品，外貨換算などへと踏み込んでいく。そこでは，国際資本市場における上場大企業のための会計基準のあり方を検討するとともに，圧倒的多数を占める地場の非上場中小企業の会計基準（例えば日本の中小企業の会計に関する指針）についても，比較対象として取り上げる。

その後，取り上げた主要テーマについて，企業の英文Annual Reportsを活用して実証分析を行う。授業では，テキスト・クリティークではなく，あくまでも会計制度上の諸問題について焦点を当て，それについて実証研究によって経験的な基礎付けを行いながら漸進的に会計理論を構築していくというAnglo-Americanな一連の研究プロセスが重要になる。

授業内容

第１回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　履修者による修士論文中間報告(1)
第８回　履修者による修士論文中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文執筆に関する指導(3)
第12回　履修者による修士論文最終報告(1)
第13回　履修者による修士論文最終報告(2)
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

国際会計論であるから，英語の文献(著書，論文，会計基準)を問題なく読みこなせる語学力が必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

修士論文のテーマに応じて指定する。

参考書

IASB, International Financial Reporting Standards, FASB, Statements of Financial Accounting Concepts及び日本の『企業会計法規集』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(出発言内容など)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と執筆の際の効率性を高めるため，ワードのソフトの活用についても情報を提供したい。50,000 ～ 100,000字レベルの修士論文を，章や節として構成し，アウトラインで構想しながら執筆する手法も身につけてほしい。

授業内容

第１回　論文の書き方
第２回　テーマの見つけ方と研究方法
第３回　文献の選択
第４回　論文のアウトラインの報告(1)
第５回　論文のアウトラインの報告(2)
第６回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(1)
第７回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(2)
第８回　アウトラインの中で書きやすいところを探す(1)
第９回　アウトラインの中で書きやすいところを探す(2)
第10回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(1)
第11回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(2)
第12回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(1)
第13回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(2)
第14回　論文のアウトラインの見直し

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

パソコンによる執筆にある程度習熟してほしい。特に，ワードのソフトで，アウトラインで構想しながら執筆する姿勢を持ってほしい。修士論文の文字数は50,000 ～ 100,000字レベルを想定しているので，章や節も構想してほしい。執筆力と効率性も養ってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の執筆のための調査や下調べは必ず行ってほしい。

教科書

開講時に各自の関心に沿って決めたい。なお，執筆力を高めるために，田中幸夫『卒論執筆のためのWord活用術―美しく仕上げる最短コース』(講談社)を推薦する。

参考書

開講時に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションにより100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC532J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と執筆の際の効率性を高めるため，ワードのソフトの活用についても情報を提供したい。50,000 ～ 100,000字レベルの修士論文を，章や節として構成し，アウトラインで構想しながら執筆する手法も身につけてほしい。

授業内容

第１回　論文の書き方
第２回　テーマの見つけ方と研究方法
第３回　文献の選択
第４回　論文のアウトラインの報告(1)
第５回　論文のアウトラインの報告(2)
第６回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(1)
第７回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(2)
第８回　アウトラインの中で書きやすいところを探す(1)
第９回　アウトラインの中で書きやすいところを探す(2)
第10回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(1)
第11回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(2)
第12回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(1)
第13回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(2)
第14回　論文のアウトラインの見直し

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

パソコンによる執筆にある程度習熟してほしい。特に，ワードのソフトで，アウトラインで構想しながら執筆する姿勢を持ってほしい。修士論文の文字数は50,000 ～ 100,000字レベルを想定しているので，章や節も構想してほしい。執筆力と効率性も養ってほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文の準備のための調査や下調べは必ず行ってほしい。ワードについても，習熟しておくこと。

教科書

開講時に各自の関心に沿って決めたい。なお，執筆力を高めるために，田中幸夫『卒論執筆のためのWord活用術ー美しく仕上げる最短コース』(講談社)を推薦する。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と効率性を高めるために，ワードのソフトの活用方法についても，情報提供を行いたい。アウトライン機能を用いて，章や節の構想を立てながら，50,000 ～ 100,000字程度の修士論文の執筆にいかしてほしい。

授業内容

第１回　論文の書き方(ワードの活用方法の見直し)
第２回　テーマの見つけ方と研究方法
第３回　文献の選択
第４回　論文のアウトラインの報告(1)
第５回　論文のアウトラインの報告(2)
第６回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(1)
第７回　先行研究に関する報告:日本の会計基準(2)
第８回　アウトラインの中で不十分なところを探す(1)
第９回　アウトラインの中で不十分なところを探す(2)
第10回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(1)
第11回　先行研究に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(2)
第12回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(1)
第13回　先行研究に関する報告:米国の会計基準(2)
第14回　修士論文の骨格の完成

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆のための調査や下調べは必ず行ってほしい。また，50,000 ～ 100,000字程度の修士論文を執筆するというイメージを明快にし，ワードにも習熟してほしい。

教科書

開講時に指定する。ワードについては，田中幸夫『卒論執筆のためのWord活用術―美しく仕上げる最短コース』(講談社)をおすすめしたい。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。その他，IFRSや米国会計基準を用いる。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC632J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

修士論文の執筆ができるよう支援すべく，また会計実務に関わる職種に携わる際に役立つよう，論文の執筆方法やプレゼンテーションのしかたを学ぶ。各自でテーマを持ち寄り，報告することを原則とする。その際，素材を探すために，コーポレート・ガバナンス，企業結合，連結経営，無形資産，転換社債などをテーマに，投資家向けの会計情報について考察した論文を読む。日本語と英語の両方を読む。

なお，論文の執筆力と効率性を高めるために，ワードのソフトの活用方法についても，情報提供を行いたい。アウトライン機能を用いて，章や節の構想を立てながら，50,000 ～ 100,000字程度の修士論文の執筆にいかしてほしい。

授業内容

第１回　修士論文のテーマの再確認
第２回　論文のアウトラインの見直し(ワードの活用方法の確認)
第３回　論文のアウトラインの見直し
第４回　アウトラインの中で不十分なところを探す(1)
第５回　アウトラインの中で不十分なところを探す(2)
第６回　修士論文に関する報告:日本の会計基準(1)
第７回　修士論文に関する報告:日本の会計基準(2)
第８回　比較する論点をまとめる(1)
第９回　比較する論点をまとめる(2)
第10回　修士論文に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(1)
第11回　修士論文に関する報告:国際会計基準(財務報告基準)(2)
第12回　修士論文に関する報告:米国の会計基準(1)
第13回　修士論文に関する報告:米国の会計基準(2)
第14回　参考文献リストと注記の書き方の確認

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。修士論文を完成すべく，テーマを設定し，追求してほしい。

英語により，米国の会計基準や国際財務報告基準の原文にあたる程度の英語力を求めたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

修士論文執筆の準備として，調査や下調べを必ず行ってほしい。また，50,000 ～ 100,000字程度の修士論文を執筆するというイメージを明快にし，ワードにも習熟してほしい。

教科書

開講時に指定する。ワードについては，田中幸夫『卒論執筆のためのWord活用術―美しく仕上げる最短コース』(講談社)をおすすめしたい。

参考書

開講時に指定する。ただ，ジャーナルを素材にする予定である。その他，IFRSや米国会計基準を用いる。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，プレゼンテーションで100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW522J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ＩA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
　ポスト・コロナ時代に欧州や豪州で着目されている“Tax and ESG”をテーマに英文資料を輪読する。
【授業の概要】
　参加者の語学力と専門知識を同時に向上させることを目標に，欧米の会計事務所（Grant Thronton）の関連論文を読み和訳するだけでなく，各テーマについて日本で対応する事象について調べ、最終的には英訳して説明できるようにする。合間に，欧米からのゲスト講師による講義を予定している。

授業内容

第１回　ガイダンス
第２回　Promoting ESG exellence through tax –adding Value through ESG–
第３回　Understanging the impact of emviromental taxes
第４回　Engaging with incentives to drive your ESG goals
第５回　Transparency and Governance in the ESG Era
第６回　第２回のテーマの日本での事例を調べ、発表する
第７回　第３回のテーマの日本での事例を調べ、発表する
第８回　第４回のテーマの日本での事例を調べ、発表する
第９回　第５回のテーマの日本での事例を調べ、発表する
第10回　ゲスト講義(コペンハーゲンビジネススクール)
第11回　「税の誠実さ（Tax Responsibility)」と企業価値の関係について
第12回　ESG評価機関と税の扱い
第13回　ESG関連業務について
第14回　総括

履修上の注意

　英語読解力が十分にあること，および大学学部レベルの租税法および会計学(財政学)の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

　予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度について事前に考えてくること。

教科書

　受講者のレベルに合わせて開講時に指示する。

参考書

　参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

　Oh-o! Meiji上でのやり取りを主に，対面でも行う。

成績評価の方法

　授業への参加態度（20%），発表および期末レポートの内容（合わせて80%）を総合的に判断して決める。

その他

　英語力に自信のない者は，TOEIC等の外部試験の勉強も並行して行うのが望ましい。

科目ナンバー：(CO) LAW522J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ＩB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
　租税判例研究を行う。なお，必要に応じて外国法・判例の文献にもあたることとする。
【授業の概要】
　参加者のレベル・関心（税目およびテーマ）に応じてわが国の税制改正の動向および関連する主要判例について，研究をする。出席者は事前に毎回提示された分野の予習および復習が必須である。なお，適宜，外国法・判例についても言及する。

授業内容

第１回　ガイダンス―テキストの説明および分担決定―
第２回　租税法律主義に関する判例
第３回　所得税法に関する主要判例（その１）
第４回　所得税法に関する主要判例（をの２）
第５回　法人税法に関する主要判例（その１）
第６回　法人税法に関する主要判例（その２）
第７回　相続・贈与税法に関する主要判例（その１）
第８回　相続・贈与税法に関する主要判例（その２）
第９回　消費税法に関する主要判例（その１）
第10回　消費税法に関する主要判例（その２）
第11回　租税処罰法に関する主要判例
第12回　租税手続法に関する主要判例
第13回　国際租税に関する主要判例
第14回　総括

履修上の注意

　日本語だけでなく英語読解力が十分にあること，および学部レベルでの租税法（理論）および法学全般の基礎知識が十分にあることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

　無断欠席厳禁。また，発表者にかかわらず，参加者は必ず事例について予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制の問題点についても考えてくること。

教科書

　金子・佐藤・増井・渋谷編『ケースブック租税法【第6版】』（弘文堂）および外国法文献を適宜指示する。

参考書

　適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への参加態度（30%），発表内容および期末レポートの内容（合わせて70%）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW622J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

わが国の租税判例について，所得税・法人税・相続税・消費税，国際課税等の国税を中心に，近年の主要判例を題材に研究する。租税法学は，他の法律と同様，関連法規の各条文と裁判所の判例によって発達してきたが，その隙間を行政庁の解釈である通達が埋めている。3者の関係をよく理解することが重要である。なお，参加者は，演習の最後に，所定の論文(中間レポート)を提出できるようにする。場合によっては，租税法以外の隣接法律もしくは経済系科目を適宜学ぶことになるが，それらを全て総合して法律の論文の書き方の基本をマスターすることを目標とする。

授業内容

第１回　ガイダンスおよび分担テーマ･判例の決定
第２回　図書館ツアー（明大図書館）
第３回　租税法律主義の判例研究
第４回　租税法の解釈に関する判例研究(借用概念)
第５回　租税債権に関する判例研究(詐害行為取消権)
第６回　所得税判例研究(譲渡所得)
第７回　所得税判例研究(不動産所得)
第８回　所得税判例研究(一時所得)
第９回　所得税判例研究(雑所得)
第10回　相続税判例研究(相続財産の評価)
第11回　相続税判例研究(同族会社の行為計算否認)
第12回　国際課税判例研究(過小資本税制)
第13回　国際課税判例研究(タックス･ヘイブン税制)
第14回　国税課税判例研究(移転価格税制)

履修上の注意

最低限，学部レベルでの租税法の知識を有していることが前提である。国家試験準備等を理由とする欠席は，原則として認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事案は必ず予習してくること。当日は，それを前提に授業を進める予定である。

教科書

金子宏他編『ケースブック租税法(最新版)』(弘文堂)
金子宏『租税法(最新版)』(弘文堂)ほか，適宜指示する。

参考書

各自のテーマに応じて適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

日ごろの演習参加態度(15%)，発表レジュメ(25%)および期末に提出する中間レポート(60%)の提出をもって評価対象とする。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW622J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

わが国の租税判例について，法人税・贈与税法・消費税法・手続税等の国税を中心に，近年の主要判例を題材に研究する。租税法学は，他の法律と同様，関連法規の各条文と裁判所の判例によって発達してきたが，その隙間を行政庁の解釈である通達が埋めている。3者の関係をよく理解することが重要である。なお，参加者は，演習の最後に，所定の論文(修士論文の完成版)を提出できるようにする。場合によっては，租税法以外の隣接法律を適宜学ぶことになるが，それらを全て総合して法律の論文の書き方をマスターし，租税法の最新判例および論点を理解した上で，所定の論文を完成させることを目標とする。

授業内容

第１回　中間レポート(1回目)の返却および講評
第２回　学外の租税専門図書館を見学
第３回　学術論文の書き方についてのレクチャー
第４回　法人税の判例研究(法人格の有無)
第５回　法人税の判例研究(低廉譲渡･無償譲渡)
第６回　法人税の判例研究(確定決算主義)
第７回　法人税の判例研究(交際費他)
第８回　消費税の判例研究(仕入税額控除)
第９回　流通税の判例研究(登録免許税)
第10回　加算金の判例研究
第11回　租税争訟法の判例研究(更正･再更生)
第12回　租税争訟法の判例研究(理由の差替え)
第13回　租税処罰法の判例研究(租税逋脱犯)
第14回　租税刑事手続の判例研究(犯則事件)

履修上の注意

最低限，学部レベルでの租税法の知識を有していることが前提である。また，国家試験準備等を理由とする欠席は，原則として認めない。

準備学習（予習・復習等）の内容

事案は必ず予習してくること。当日は，それを前提に授業を進める。

教科書

金子宏他編『ケースブック租税法(第6版)』(弘文堂)
金子宏『租税法(最新版)』(弘文堂)ほか，適宜指示する。

参考書

同左。参加者各自の論文のテーマに応じて，適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

日ごろの演習参加態度(15%)，中間レポート(2回目)提出1回(25%)および最終論文(60%)の提出をもって評価対象とする。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本演習は、修士論文を作成する上で必要となる知識や分析手法等を身に着けることを目的とする。春学期は企業評価に関する文献の講読を通し、基本的な論点の整理を行う。

《到達目標》
修士論文を作成する上で必要となる基礎的な知識や分析手法を習得する。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　企業価値評価に関する文献の講読(1)
第３回　企業価値評価に関する文献の講読(2)
第４回　企業価値評価に関する文献の講読(3)
第５回　企業価値評価に関する文献の講読(4)
第６回　企業価値評価に関する文献の講読(5)
第７回　企業価値評価に関する文献の講読(6)
第８回　企業価値評価に関する文献の講読(7)
第９回　企業価値評価に関する文献の講読(8)
第10回　企業価値評価に関する文献の講読(9)
第11回　企業価値評価に関する文献の講読(10)
第12回　企業価値評価に関する文献の講読(11)
第13回　企業価値評価に関する文献の講読(12)
第14回　企業価値評価に関する文献の講読(13)
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の発表は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため、十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから、会計や株価データ分析を用いた分析を行う。基本的な統計の知識、統計ソフトを使いこなすスキルが必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を十分に読み込みレジュメを作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の内容(50%)、本演習での議論の状況、貢献度など(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC552J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本演習は、修士論文を作成する上で必要となる知識や分析手法等を身に着けることを目的とする。秋学期はサーベイ論文などを中心に英語論文の講読を行い、企業価値評価に関連する具体的な研究を把握するとともに、分析手法などについても学ぶ。

《到達目標》
修士論文を作成する上で必要となる基礎的な知識や分析手法を習得する。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　企業価値評価に関する文献の講読(1)
第３回　企業価値評価に関する文献の講読(2)
第４回　企業価値評価に関する文献の講読(3)
第５回　企業価値評価に関する文献の講読(4)
第６回　企業価値評価に関する文献の講読(5)
第７回　企業価値評価に関する文献の講読(6)
第８回　企業価値評価に関する文献の講読(7)
第９回　企業価値評価に関する文献の講読(8)
第10回　企業価値評価に関する文献の講読(9)
第11回　企業価値評価に関する文献の講読(10)
第12回　企業価値評価に関する文献の講読(11)
第13回　企業価値評価に関する文献の講読(12)
第14回　企業価値評価に関する文献の講読(13)
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の発表は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため、十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから、会計や株価データ分析を用いた分析を行う。基本的な統計の知識、統計ソフトを使いこなすスキルが必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

文献を十分に読み込みレジュメを作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の内容(50%)、本演習での議論の状況、貢献度など(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本演習では、履修者の報告をベースに討論を行い、修士論文に必要な知識を身に着けるとともに具体的な分析を行うことで修士論文の土台を作る。修士論文を作成するにあたり各自テーマを設定の上、前半では研究テーマに関連する文献の報告を行ってもらう。後半では、データの収集方法について説明するので、先行研究に倣い分析を行った上で結果の報告をしてもらう。

《到達目標》
修士論文のテーマを決定し、必要なデータをそろえ、初歩的な分析を実施できるようになる。

授業内容

第１回　研究テーマについてのディスカッション
第２回　先行研究の調査方法について
第３回　研究テーマに関する文献の報告と討論(1)
第４回　研究テーマに関する文献の報告と討論(2)
第５回　研究テーマに関する文献の報告と討論(3)
第６回　研究テーマに関する文献の報告と討論(4)
第７回　研究テーマに関する文献の報告と討論(5)
第８回　データ取得のためのデータベースについて
第９回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(1)
第10回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(2)
第11回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(3)
第12回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(4)
第13回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(5)
第14回　研究テーマに関する分析結果の報告と討論(6)
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の報告は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため、十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから、会計や株価データ分析が必須である。基本的な統計の知識、統計ソフトを使いこなすスキルが必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する文献を十分に読み込みレジュメを作成する。また、先行研究に倣いデータ分析を行い、報告のための資料を作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の内容(50%)、本演習での議論の状況、貢献度など(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC652J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本演習では、履修者の報告をベースに討論を行う。前半では修士論文のテーマに従って分析結果の報告を行ってもらう。後半では、先行研究と分析結果をもとに修士論文のドラフト発表を行う。最後の2回は修士論文の最終報告を予定している。

《到達目標》
修士論文を完成させる。

授業内容

第１回　修士論文のテーマと方向性についての確認
第２回　分析結果の報告と討論(1)
第３回　分析結果の報告と討論(2)
第４回　分析結果の報告と討論(3)
第５回　分析結果の報告と討論(4)
第６回　分析結果の報告と討論(5)
第７回　修士論文執筆に向けてのレクチャー
第８回　修士論文ドラフト発表(1)
第９回　修士論文ドラフト発表(2)
第10回　修士論文ドラフト発表(3)
第11回　修士論文ドラフト発表(4)
第12回　修士論文ドラフト発表(5)
第13回　修士論文最終報告(1)
第14回　修士論文最終報告(2)
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

演習への出席およびアサインされた課題の報告は必須とする。予習や準備には十分な時間を要することをあらかじめ理解しておくこと。日本語および英語の文献を参照するため、十分な日本語と英語の能力を要する。本演習では実証分析をベースに修士論文を執筆することを目標としていることから、会計や株価データ分析が必須である。基本的な統計の知識、統計ソフトを使いこなすスキルが必須である。

準備学習（予習・復習等）の内容

研究テーマに関連する文献を十分に読み込みレジュメを作成する。また、先行研究に倣いデータ分析を行い、報告のための資料を作成する。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告の内容(50%)、本演習での議論の状況、貢献度など(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	財務会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
ビジネスを取り巻く環境の変化、投資家をはじめ、様々なステークホルダーが企業に対する期待を拡大しています。さらに、IT技術の革新と普及により、財務会計の領域では新たな課題が現れています。本講義では、財務会計の重要な論点を取り上げ、新たな課題についても考察します。
『財務会計論特論A』では、財務会計の基本的な知識と論点を理解し、把握することが目標です。そのため、授業は講義、輪読、議論の形で行われます。これらの知識と論点の勉強はCPAの試験にも役立ちます。また、学生が把握している知識に基づいて、いくつかのテーマに焦点を置き、深く議論することも可能です。

授業内容
第１回　財務会計と新たな課題－イントロダクション
第２回　企業活動と財務諸表
第３回　収益の認識
第４回　利益と包括利益
第５回　ケーススタディー
第６回　事業用資産－棚卸資産
第７回　事業用資産－有形固定資産
第８回　事業用資産－無形固定資産事業用資産－その他
第９回　事業用資産－減損会計
第10回　事業用資産－暗号資産、映画資産など
第11回　金融資産－長期投資
第12回　金融資産－公正価値会計
第13回　金融資産－ヘッジ会計
第14回　負債の会計
　進み具合などによって、授業の内容と順番を適宜変更する可能性がある。

履修上の注意
簿記3級以上が望ましい。簿記の知識がない方も履修可能だが、予習と復習により多くの時間をかける必要がある。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業中で、次回の授業の内容を指定するので、教員の指示に従って、予習や発表の準備を行う必要がある。また、毎回の授業の後で復習も必要である。

教科書
『新･現代会計入門　第5版』伊藤邦雄（中央経済社）2022年

参考書
その他大学のウェブや授業中に指示した参考資料

課題に対するフィードバックの方法
課題に対して、授業の中か授業後、あるいはOh-o! Meijiにコメントをする。

成績評価の方法
授業中の発表と議論への貢献度(70%)、課題(30%)とする

その他

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	財務会計論特論B		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　姚　俊		

授業の概要・到達目標
ビジネスを取り巻く環境の変化、投資家をはじめ、様々なステークホルダーの企業に対する期待の拡大、さらに、IT技術の革新と普及によって、財務会計の領域では、新しい課題も現れている。本講義では、財務会計の重要な論点を取り上げ、新しい課題も踏まえて議論を行う。
財務会計論特論Bは、前期の授業に続き、テーマ研究を行う前に必要な財務会計の基本的な知識と論点の勉強をしたうえで、人的資本の会計と報告、気候変動会計、インパクト会計、サステナビリティ会計など、新しい課題について、理解、議論、把握することを目標としている。

授業内容
第１回　ＣＳＲ、ＥＳＧ、ＳＤＧｓと会計（１）
第２回　ＣＳＲ、ＥＳＧ、ＳＤＧｓと会計（２）
第３回　サステナビリティ報告制度の収斂と情報の質（１）
第４回　サステナビリティ報告制度の収斂と情報の質（２）
第５回　報告とディスカッション
第６回　気候変動に関連する財務情報開示（１）－ＴＣＦＤ（１）
第７回　課題報告とディスカッション
第８回　気候変動に関連する財務情報開示（１）－ＴＣＦＤ（２）
第９回　課題報告とディスカッション
第10回　人的資本の会計と報告（１）
第11回　人的資本の会計と報告（２）
第12回　インパクト会計（１）－インパクト加重会計
第13回　インパクト会計（２）－ディスカッションと報告
第14回　ＩＴ技術の変化と財務会計
　進み具合などによって、授業の内容と順番を適宜変更する可能性がある。

履修上の注意
特になし

準備学習（予習・復習等）の内容
授業中で、次回の授業の内容を指定するので、教員の指示に従って、予習や発表の準備を行う必要がある。また、毎回の授業の後で復習も必要である。

教科書
なし

参考書
授業中に指示した参考資料や配布資料

課題に対するフィードバックの方法
授業の中か授業後に課題に対するコメントをする。Oh-o! Meijiのディスカッション機能も利用することがある。

成績評価の方法
授業中の発表と議論への貢献度(50%)、課題(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	原価計算論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

原価計算は個別企業の管理・計算用具の一つの技法というよりはむしろ、会計という社会制度の一環をなしているとみる必要がある。そこで本特論は、主として、その社会性・制度的な在り方を追究する点に狙いを置いて展開される。「制度としての原価計算」あるいは「原価会計」と称される領域の考察を通じて、その計算構造が会計制度上、如何なる意味を有しているのかを、現代ドイツの「原価計算論」文献を研究素材として究明する。

授業内容

第01回　会計の制度性１（会計と経済）
第02回　会計の制度性２（会計と法）
第03回　会計の制度性３（会計言語の機能）
第04回　会計制度の構造
第05回　原価計算の制度性
第06回　原価計算制度の特徴
第07回　ドイツ原価計算論の特質１（理論的側面）
第08回　ドイツ原価計算論の特質２（制度的側面）
第09回　ドイツ商法典第255条第２項の製作原価１（85年商法典）
第10回　ドイツ商法典第255条第２項の製作原価２（BilMoG）
第11回　個別費概念と共通費概念の曖昧性
第12回　商事及び税務貸借対照表作成上の製作原価
第13回　原価計算と税の矛盾した関係（基準性原則の論理）の究明
第14回　春学期の総括

履修上の注意

講義は、「原価計算＝制度」という分析視角の下で展開されるため、しかも、その研究対象領域はドイツの原価計算論に設定されることから、場合によっては、現代ドイツの制度的側面にかかわる多くの法令を原文のまま参照することもあるが、必ずしもドイツ語の知識は必要ではない。この点の心配は無用である。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項については、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

鈴木義夫･千葉修身著『会計研究入門―“会計はお化けだ！”―』（森山書店，2015年）

参考書

･鈴木義夫著『ドイツ会計制度改革論』（森山書店）
･宮上一男著『会計制度論』（森山書店）
･宮上一男、W・フレーリックス監修『現代ドイツ商法典〔第2版〕』（森山書店）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

･①＜講義の際に提出されるレジュメの内容＞と②＜学期末に課す予定の研究レポートの結果＞を総合して評価する。
･その内容は①が40％で、②が60％である。

その他

会計学全般の初歩的知識を有する者の履修を望む。

科目ナンバー：(CO) ACC521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	原価計算論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

原価計算は個別企業の管理・計算用具の一つの技法というよりはむしろ、会計という社会制度の一環をなしているとみる必要がある。そこで本特論は、主として、その社会性・制度的な在り方を追究する点に狙いを置いて展開される。「制度としての原価計算」あるいは「原価会計」と称される領域の考察を通じて、その計算構造が会計制度上、如何なる意味を有しているのかを、現代ドイツの「原価計算論」文献を研究素材として究明する。

授業内容

第01回　会計上の用語と数１（写像論）
第02回　会計上の用語と数２（創出論）
第03回　会計研究の方法
第04回　会計（原価計算）の制度性
第05回　原価概念の制度的機能１（商法）
第06回　原価概念の制度的機能２（税法）
第07回　コンツェルン原価計算論の特質
第08回　プロセス原価計算論の特質
第09回　原価計算制度化の論理
第10回　原価と原価数値の異同（個別費の性質）
第11回　原価と原価数値の移動（共通費の性質）
第12回　原価計算の内外一致の根拠欠如性
第13回　原価計算と監査，エンフォースメント
第14回　秋学期の総括

履修上の注意

講義は、「原価計算＝制度」という分析視角の下で展開されるため、しかも、その研究対象領域はドイツの原価計算論に設定されることから、場合によっては、現代ドイツの制度的側面にかかわる多くの法令を原文のまま参照することもあるが、必ずしもドイツ語の知識は必要ではない。この点の心配は無用である。なお、履修に当たっては、理解度の深化の観点から、「原価計算論特論Ａ」の事前（前期）履修と合わせて受講されたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項については、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

鈴木義夫･千葉修身『会計研究入門―“会計はお化けだ！”―』（森山書、2015年）

参考書

･丸山圭三郎著『ソシュールの思想』（岩波書店）
･千葉修身著『現代ドイ原価計算制度論』（森山書店）
･同上著「現代ドイツのコンツェルン製作原価『写像』論の構造」（『会計』第154巻第5号）62-74頁
･同上著「原価計算『制度化』論の基底」（『会計』第164巻第4号）44-57頁

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

･①＜講義の際に提出されるレジュメの内容＞と②＜学期末に課す予定の研究レポートの結果＞を総合して評価する。
･その内容は①が40％で、②が60％である。

その他

会計学全般の初歩的知識を有する者の履修を望む。

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では修士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　原価計算の基礎知識①
第３回　原価計算の基礎知識②
第４回　商的工業簿記
第５回　見積原価計算
第６回　実際原価計算総説
第７回　実際単純個別原価計算①
第８回　実際単純個別原価計算②
第９回　実際部門別個別原価計算
第10回　実際総合原価計算①
第11回　実際総合原価計算②
第12回　標準原価計算①
第13回　標準原価計算②
第14回　標準原価計算③
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

本講義では経営・会計に関する研究書等を輪読するが，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に得ることを期待する。本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・岡本清(2000)『原価計算 六訂版』国元書房。
上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

講義中に参考書等を適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

履修を希望するものは、必ず初回授業前までに sun@meiji.ac.jp にメールし、履修予定である旨の連絡をすること。

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では修士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　原価･営業量･利益関係の分析
第３回　原価予測の方法
第４回　直接原価計算①
第５回　直接原価計算②
第６回　企業予算0
第７回　事業部の業績測定
第８回　営業費計算
第９回　差額原価収益分析
第10回　資本予算①
第11回　資本予算②
第12回　企業環境の激変と原価計算の変貌
第13回　経営戦略の策定と遂行のための原価計算
第14回　原価計算の過去、現在、将来
※講義内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

本講義では経営・会計に関する研究書等を輪読するが，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に得ることを期待する。本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

・岡本清(2000)『原価計算 六訂版』国元書房。
上記を教科書とする。各自準備しておくこと。

参考書

講義中に参考書等を適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績(40％)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	業績管理会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼担教授　博士（経済学）山口　不二夫		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
本授業の目的は，管理会計研究のための基礎を身につけることにある。管理会計の基礎概念を学習することが目標である。
テーマとしては，管理会計は何より，会計の一分野であるから，会計とはなにか，会計の基礎概念の確認，管理会計と財務会計の差異などを学習する。その上で，予算，原価計算など管理会計の各技法の検討，管理会計技法の発生と展開の歴史の学習を行う。さらに組織の業績管理評価のケースの学習を行う。また会計とマネジメント，企業倫理についても学習する。
【授業の概要】
授業の方法は，講義，テキストの輪読，専門書・専門論文の講読，資料の検討，討論などをおりまぜて進める。
とくにそのなかでも，予算，各種原価計算，部門（子会社）評価，非営利組織の業績評価と経営，ライセンスビジネスなどは重視したい。さらにはそれらを総合した企業・組織価値評価につながるような学習を行う。また，現代重要な課題である企業倫理についても深く考えたい。
株式会社の各種ケースも学習し，業績評価の方法を学ぶ。取り上げる企業は，トヨタと日産，鉄道運送業，IT企業など，学習者の希望を聞いて決める。非営利組織としては，英国国家予算の成立，病院，老人施設，学校法人，自治体，公社公団などをイメージしている。
管理会計技法の歴史的な発展は，管理会計の本質を知るうえで有用なので，受講者の必要に応じて管理会計の歴史的な展開も学習する。
受講生が会計専門でない場合は，企業の財務評価のケースを学習を交える。その際には，『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科，に掲載された，ケースを学習する。

授業内容

第１回　ガイダンス：管理会計と企業倫理
第２回　管理会計と財務会計
第３回　会計の基礎概念：資本と利益
第４回　各種利益概念と企業価値
第５回　価格変動下の利益と企業価値
第６回　簿記のシステムと原価計算，配賦の問題
第７回　収益の認識基準
第８回　評価の問題
第９回　企業評価の方法
第10回　企業・組織・部門・子会社評価のケース１（トヨタと日産2000年前後）
第11回　ケース２（トヨタと日産2010年台から現代）
第12回　ケース３（JALｖｓANA）
第13回　非営利組織の会計と管理
第14回　会計の歴史・まとめ

履修上の注意

前半は講義である。後半から履修者の学習レベルに合わせた指導を行うので，各自が何を学びたいかという意識だけは明確にしておいてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

回によっては準備が必要な時があるが，授業時に指示する。

教科書

授業で指示する。

参考書

山口不二夫『日本郵船会計史：予算原価計算篇』白桃書房
山口『企業分析』白桃書房
山口不二夫の論文『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での貢献（50％）
報告・提出課題の評価（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC541J			
会計系列		備 考	
科 目 名	業績管理会計論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼担教授　博士（経済学）山口　不二夫		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
本講義の目的は，管理会計分野で研究や論文を書けるような実力をつけることにある。
管理会計の各技法の学習を引き続き行う，さらに理解を深めるために管理会計技法の発生と展開の歴史の学習を行う。組織の業績管理評価を自分で行ってみることを目標とする。
テーマとしては，予算，原価計算とその歴史的展開と応用。具体的な企業の業績管理評価，非営利組織管理業績評価などである。企業文化と企業倫理についても学習する。
【授業の概要】
授業は，講義，テキストの輪読，専門書・専門論文の講読，資料の検討，討論などをおりまぜて進める。
管理会計とはなにかの思索の深化，会計の基礎概念の理解の深化を行う。管理会計の各技法の検討も引き続き行う。とくにそのなかでも，予算，原価計算，部門（子会社）評価，非営利組織の業績評価と経営，医療法人の分析などである。さらにはそれらを総合した企業・組織価値評価の学習を行う。
そのために受講者が自分自身で，企業や非営利組織の業績評価を行うことをサポートする。
管理会計技法の歴史的な発展は，管理会計の本質を知るうえで有用なので，管理会計の歴史的な展開も学習する。会計記録の発生との意味，会計を通じた組織コントロールと組織倫理についても考察する。
また，出席者の各自の研究に役立つトピックをとりあげるとともに，研究のサポートを行う。
受講生が会計専門でない場合は，企業の財務評価のケースを学習を交える。その際には，『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科，に掲載された，ケースを学習する。

授業内容

第１回　ガイダンス：授業の進め方の相談
第２回　日本の成長戦略と世界での役割，会計の意義，組織倫理について
第３回　企業の国際化と管理会計
第４回　企業評価の方法
第５回　業界分析の方法と定性分析の方法
第６回　世界史の発展と非営利営為のビジネス化とライセンスビジネス
第７回　非営利組織の発展と企業文化とライセンスビジネス：日本の将来
第８回　ケースの報告と分析１：英国予算のケースあるいは我が国の道路公団のケース
第９回　ケースの報告と分析２：英国の軍事予算の成立あるいは我が国第三セクターケース
第10回　学校法人の管理と経営１：現代における複数のビジネスモデル
第11回　学校法人の管理と経営２：学校法人会計とデータの趨勢分析
第12回　医療法人の管理と経営：医療法人データの比率分析と経営方法の多様性
第13回　地域の活性化と自治体１：バランスシートの読み方
第14回　まとめと今後の展望，組織倫理と会計の役割

履修上の注意

上記授業内容はモデルである。出席者の希望に応じて適宜相談の上変更する。

準備学習（予習・復習等）の内容

必要な場合は授業時に指示する。

教科書

授業で指示する。必要資料は講義時に配布する。

参考書

山口不二夫『日本郵船会計史：予算原価計算篇』白桃書房
山口『企業分析』白桃書房
山口のケース論文『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での貢献（50％）
報告・提出課題の評価（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC561J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

会計と監査に関して現在もっとも重要な問題になっている事項をとりあげる。授業は毎回多くの具体的事例を紹介する形で進める。修士論文のテーマを決定する際に，参考となる情報を提示することを狙いとする。日本の会計制度と監査制度についての基礎的な理解とその問題点を整理することを到達目標とする。

授業内容

第１回　企業の評価と会計の役割(オリエンテーション)
第２回　会計情報の恣意性（2001年の日産のV字回復の例とヒストグラムによる分析から）
第３回　会計の利害調整機能(ROE（自己資本利益率)と自己資本比率の二律背反性)
第４回　ROE信仰の現状（ROEとPBR（株価純資産倍率）の関係)
第５回　ROEの継続上昇の困難性とROEの呪い
第６回　ROA（総資産利益率）と注目の指標ROIC（投下資本利益率)
第７回　RI（残余利益)からEVA（経済付加価値)へ
第８回　キャッシュ・フロー情報の意義とそれを使った事業ポートフォリオの分析
第９回　現金創出力とEBITDA（利払い前･税引き前･償却前利益)
第10回　現金創出力とCCC（キャッシュ化速度)
第11回　指標戦争の現状
第12回　収益認識基準の変更と日本企業に対する影響
第13回　公会計と公監査における世界の潮流と日本の現状1（日本の地方自治体における会計情報の開示の実態)
第14回　公会計と公監査における世界の潮流と日本の現状2（中央政府における会計情報の開示の実態ーフランスにおける改革から)

履修上の注意

講義への毎回の出席は必須である。また出席者に様々な観点からコメントや意見を求めるので，積極的な対応が望まれる。特に，教材を読んで理解が困難と感じた内容については，積極的に質問してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

特に，前の授業でとりあげた内容について，教材や資料を参考にして，十分な理解ができたかを必ず確認する。

教科書

加藤達彦『監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店(2005)

参考書

講義の際に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業での報告や発言の内容により評価する(100%)。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC561J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

欧米における会計学および監査論の研究は，現在ほとんどすべてが統計学または経済学的アプローチをとっており，経済学の応用分野とみなされている。ここではその中でも中心的な役割を果たしているゲーム理論的アプローチを紹介する。また講義ではゲーム理論を基礎とした実験会計学的アプローチについても紹介する。実験では受講者が被実験者となってゲームに参加し，監査の役割の重要性を各自体験する機会を提供する可能性がある。ゲーム理論の基礎的枠組みを，受講者各自が関心がある会計・監査分野に応用して分析することを到達目標とする。

授業内容

第１回　監査と監査人の役割　―新興企業に対する監査難民問題
第２回　監査人のサポート1　―日本の仕組み
第３回　監査人のサポート2　―監査役と社外取締役
第４回　監査の生成要因1　―モニタリング仮説と保険仮説
第５回　監査の生成要因2　―情報仮説
第６回　資本市場におけるレモン問題　―「囚人のジレンマ」の応用
第７回　監査のシグナリング機能と監査制度の設計　―メカニズムデザインの応用
第８回　株式の持ち合いの解消と監査の重要性の再認識　―「囚人のジレンマ」の繰り返しの応用
第９回　監査基準の存在意義　―監査の画一化と監査品質の監視の効率化
第10回　監査人の独立性1　―独立性の概念と監査市場の実態および監査法人の強制交代制度の導入の是非
第11回　監査人の独立性2　―競争やコンサルティング業務の供与が独立性に及ぼす影響と保証業務
第12回　監査制度の改善可能性1　―監査市場におけるレモン問題と歴史的経路依存性
第13回　監査制度の改善可能性2　―進化的安定戦略（ESS）と突然変異的変革
第14回　脳科学や行動経済学から見た会計士の倫理性の問題

履修上の注意

講義への毎回の出席は必須である。また出席者に様々な観点からコメントや意見を求めるので，積極的な対応が望まれる。特に，教材を読んで理解が困難と感じた内容については，積極的に質問してほしい。要求される数学の程度は中学卒業程度で十分対応可能である。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義の教材や資料は前もってアプロードするので，必ずダウンロードしてよく読み込んでおく。また前の授業でとりあげた内容についても，教材や資料を参考にして，十分な理解ができたかを必ず確認する。

教科書

加藤達彦『監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―』森山書店(2005)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業での報告や発言の内容により評価する(100%)。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
企業における経営活動の結果が財務諸表という具体的な数値となって表れてくる。本授業では、財務諸表にある会計数値がどのように作られているか、またそれらをどのように改善するかについて深く考えていく。こうした会計数値の裏にあるリアルな経営をイメージできるようにしていく。
また、会計数値の分析に際して、統計学が必要となる場合があるため、統計学を学習することがある。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究とは何か
第３回　財務分析の基本①
第４回　財務分析の基本②
第５回　財務分析の実践①
第６回　財務分析の実践②
第７回　損益分岐点分析①
第８回　損益分岐点分析②
第９回　キャッシュフロー分析
第10回　トヨタ生産方式とキャッシュフロー経営①
第11回　アメーバ経営とキャッシュフロー経営②
第12回　Cash Conversion Cycle①
第13回　Cash Conversion Cycle②
第14回　授業のまとめ
*履修者の要望や進み具合などによって、授業の内容と順番を変更する可能性がある。

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
[1]梅原勝彦『エーワン精密の儲け続けるしくみ』日本実業出版社2011年。
[2]林總『経営分析の基本』日本実業出版社2015年。
[3]K.G.パレプほか『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会2001年。渋谷武夫（2011）『ベーシック経営分析（第2版）』中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
企業における経営活動の結果が財務諸表という具体的な数値となって表れてくる。本授業では、財務諸表にある会計数値がどのように作られているか、またそれらをどのように改善するかについて深く考えていく。こうした会計数値の裏にあるリアルな経営をイメージできるようにしていく。
また、会計数値の分析に際して、統計学が必要となる場合があるため、統計学を学習することがある。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　ROEの分解(デュポンシステム)
第３回　効率性管理(棚卸資産管理)
第４回　効率性管理(Just-in-time生産方式)
第５回　収益性管理―費用(原価改善①)
第６回　収益性管理―費用(原価改善②)
第７回　収益性管理―費用(製造業における原価企画)
第８回　収益性管理―費用(サービスにおける原価企画)
第９回　収益性管理―費用(短納期の影響)
第10回　収益性管理―収益(価格設定①)
第11回　収益性管理―収益(価格設定②)
第12回　収益性管理―収益(レベニュー・マネジメント①)
第13回　収益性管理―収益(レベニュー・マネジメント②)
第14回　授業のまとめ
*履修者の要望や進み具合などによって、授業の内容と順番を変更する可能性がある。

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
[1]梅原勝彦『エーワン精密の儲け続けるしくみ』日本実業出版社2011年。
[2]林總『経営分析の基本』日本実業出版社2015年。
[3]K.G.パレプほか『企業分析入門（第2版）』東京大学出版会2001年。渋谷武夫（2011）『ベーシック経営分析（第2版）』中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC571J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	国際会計論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計基準は，2005年1月からEUの上場企業に強制適用され，また米国財務会計基準との国際統合も進んでいる。日本では2002年に米国基準，2009年には国際会計基準が解禁されている。国際会計論特論の講義では，国際会計基準や米国財務会計基準など異なる会計基準が企業財務行動に及ぼす影響について検討していく。春学期Aは，国際会計論について，とりわけその比較制度論的側面に重点を置く。そこでは国際会計基準や米国会計基準の各論（連結会計，時価会計，キャッシュ・フロー会計）や，国際税務制度（移転価格税制，外国税額控除），外貨換算会計（決算日レート法，テンポラル法）などを取り上げる。

授業内容

第１回　国際会計総論（第１章）
第２回　概念フレームワーク
第３回　IFRSと日本の会計制度
第４回　連結の会計（第２章）
第５回　時価の会計
第６回　キャッシュ･フローの会計
第７回　国際会計基準審議会と国際統合報告評議会（第３章）
第８回　国際会計士連盟とOECD
第９回　米国会計制度発達史（第４章）
第10回　会計革命
第11回　会計し制度と不正対応
第12回　英国の会計制度（第５章）
第13回　ドイツの会計制度
第14回　英米型会計制度と大陸型会計制度

履修上の注意

国際会計論特論はAとBによって成立するが、2025年度秋学期から2026年度春学期に向けて担当者が在外研究のため、2025年度秋学期の国際会計論特論B及び2026年度春学期の国際会計論特論Aは未開講となります。受講生は注意して履修して下さい。従って2026年度は国際会計論特論Bのみの開講となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

山本昌弘『国際会計･財務論―IFRSの展開と国際経営財務の実践』文眞堂，2002年。

参考書

R.ワッツ・J.ジマーマン『実証理論としての会計学』白桃書房，1991年。
S.サンダー『会計とコントロールの理論』勁草書房，1998年。
山本昌弘『会計とは何か』講談社2008年。
山本昌弘『会計制度の経済学』日本評論社，2006年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

教材は原則として日本語のものを使用するため，高度な語学力は要求されない。

科目ナンバー：(CO) ACC571J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特論Bは，国際会計論特論Aが国際会計の制度論を取り扱うのに対し，国際会計の実証論を主要テーマとする。その際にRoss WattsとJerold Zimmermanの実証会計理論（PAT）に依拠して出来る限り実証的に講義を行いたい。会計の研究は，会計基準のテキスト・クリティークによって完結するものではなく，そうした会計基準が現実の企業行動にどのような影響を及ぼしているかについて公表された財務データによって経験的に検証されてはじめて社会科学として成立するからである。実証研究はまた，規範的な政策を論理整合的に導き出すためにも不可欠である。

国際会計論特論Bでは，以前から米国基準による決算が認められてきた日本企業が国内基準で決算を行ってきた企業と統計上どのような財務特性が認識されるか，キャッシュ・フロー計算書の制度化が企業にどのような影響を及ぼしているか，企業の報告利益にはなんらかの政策が施されているかといった実証的な諸テーマについて重点的に取り上げる。

授業内容

第１回　経営財務総論（第６章）
第２回　伝統的な投資決定と企業分析
第３回　多元的な評価指標
第４回　外貨換算会計（第７章）
第５回　国際資金調達
第６回　為替リスク管理
第７回　国際課税の制度（第８章）
第８回　移転価格税制
第９回　過少資本税制と外国税額控除制度
第10回　海外進出の財務意思決定（第９章）
第11回　海外投資決定のプロセス
第12回　グロバル戦略と意思決定（第10章）
第13回　国際管理会計のシステム
第14回　グローバル･グループの経営管理

履修上の注意

国際会計論特論はAとBによって成立するが、2025年度秋学期から2026年度春学期に向けて担当者が在外研究のため、2025年度秋学期の国際会計論特論B及び2026年度春学期の国際会計論特論Aは未開講となります。受講生は注意して履修して下さい。従って2026年度は国際会計論特論Bのみの開講となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

山本昌弘『国際会計･財務論―IFRSの展開と国際経営財務の実践』文眞堂，2020年。他に，山本昌弘が執筆した『旬刊経理情報』や『週刊エコノミスト』などの雑誌論文やケース教材を使用する。

参考書

山本昌弘『株とは何か』講談社，2011年。山本昌弘『実証会計学で考える企業価値と株価』東洋経済新報社，2009年。山本昌弘『国際会計論』文眞堂，2008年。山本昌弘『戦略的投資決定の経営学』文眞堂，1998年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

教材は原則として日本語のものを使用するため，高度な語学力は要求されない。

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

会計や金融を専攻する学生を対象として，会計を情報と見る立場から，情報開示の現状と決算を支えている考え方を議論する。

専門的な文献を読み，プレゼン資料を作成し，報告してもらう。修士論文の作成のほか，会計や金融をつかった職種に携わる際の報告のしかたを学んでいくことになる。

切り口は財務会計からであるが，金融，環境など，ビジネスに役立つ分野をとりあげる。

基本的に，文献を読み，要約を行い，問題提起をしてもらうことで，執筆力や発見力，読解力を身につけるようにしたい。

授業内容

第１回：イントロダクション（日本基準・米国基準・IFRS）（輪読する文献の選択）
第２回：財務会計の基礎概念（１）
第３回：財務会計の基礎概念（２）
第４回：財務会計の基礎概念（３）
第５回：財務会計の基礎概念（４）
第６回：企業会計制度と会計基準（１）
第７回：企業会計基準と会計基準（２）
第８回：資産会計各論
第９回：流動資産（１）
第10回：流動資産（２）
第11回：棚卸資産
第12回：暗号資産
第13回：固定資産（１）
第14回：固定資産（２）

履修上の注意

講義形式と報告形式を組み合わせて行う予定である。報告形式の際は準備をしてほしい。

会計学の基本的な知識があることを前提とする。ファイナンスや連結会計に関心があり，投資家への情報開示について興味のある者の受講を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告形式の場合は，割り当ての話し合いには参加し，割り当てられた担当部分の報告の際は，レジュメを作成すること。レジュメは，内容の要約とともに，問題提起を示してほしい。また，口頭でプレゼンテーションを行ってもらう。

教科書

佐藤信彦・河﨑照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』（中央経済社）を予定している。受講者による輪読の予定である。

参考書

IFRSと米国基準に関する英文解説書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，報告のしかたで100％評価する。

その他

対面でコメントする時間が不足した場合は、受講者のレジュメを見て、こちらからコメントや添削を行う。

科目ナンバー：(CO) ACC531J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

会計や金融を専攻する学生を対象として，会計を情報と見る立場から，情報開示の現状と決算を支えている考え方を議論する。

専門的な文献を読み，プレゼン資料を作成し，報告してもらう。修士論文の作成のほか，会計や金融をつかった職種に携わる際の報告のしかたを学んでいくことになる。

切り口は財務会計からであるが，資金調達，連結，経営統合など，ビジネスに役立つ分野をとりあげる。

授業内容

第１回：イントロダクション（金融商品取引法，有価証券報告書，日本基準とIFRS基準）
第２回：繰延資産
第３回：負債（１）
第４回：負債（２）
第５回：純資産（１）
第６回：純資産（２）
第７回：収益と費用（１）
第８回：収益と費用（２）
第９回：キャッシュフロー
第10回：本支店会計
第11回：研究開発費
第12回：希望に応じたテーマ
第13回：修士論文の執筆に向けての研究報告（１）
第14回：修士論文の執筆に向けての研究報告（２）

履修上の注意

報告形式で行うので、レジュメの執筆の準備をしてほしい。

会計学の基本的な知識があることを前提とする。ファイナンス，連結，コーポレート・ガバナンスに関心があり，投資家への情報開示につて興味のある者の受講を歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告形式の場合は，割り当ての話し合いには参加し，割り当てられた担当部分の報告の際は，レジュメを作成すること。レジュメは，内容の要約とともに，問題提起を示してほしい。また，口頭でプレゼンテーションを行ってもらう。

教科書

佐藤信彦・河﨑照行・齋藤真哉・柴健次・高須教夫・松本敏史『財務会計論Ⅰ・Ⅱ』（中央経済社）の予定である。受講者による輪読の予定である。

参考書

IFRSと米国会計基準に関する英文解説書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容，報告のしかたで100％評価する。

その他

対面でコメントする時間が不足した場合は、受講者のレジュメを見て、こちらからコメントや添削を行う。

科目ナンバー：(CO) LAW521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
　ミランダ・スチュワートメルボルン大学教授が2022年に執筆した「税と政府―21世紀―」を原書で読む。
【授業の概要】
　輪読方式で進める。参加者の語学力をUPさせることを目標に，割り当て分を事前に訳し，それを指導教員に提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第１回　ガイダンス―テキストの説明および分担決定―
第２回　第１章　Introduction
第３回　第２章　Tax and Government
第４回　第３章　The Budget
第５回　第４章　Tax Principles
第６回　第５章　Tax, Work and Family
第７回　第６章　Taxation of Saving and Wealth
第８回　第７章　Corporate and Business Taxation
第９回　第８章　Tax, Charity and Philanthropy
第10回　第９章　Administration, Compliance and Avoidance
第11回　第10章　Tax Jurisdiction
第12回　第11章　States and Corporations in the Global Digital Economy
第13回　第12章　The Future Tax State
第14回　総括

履修上の注意

　英語読解力が十分にあること，および大学学部レベルの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

　予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度についても考えてくること。

教科書

Miranda STEWART, TAX & GOVERNMENT IN THE 21ST CENTURY (Cambridge Univ Press) 2022

参考書

　参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への参加態度（20%），発表および期末レポートの内容（合わせて80%）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW521J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
　わが国の租税法および税制改正にも深く関係する近年のOECD国際租税員会のBEPS2.0のを輪読する。
大学院生として，必要な租税法に関する専門知識と語学力（英語）を身に着けると同時に，昨今話題となっている消費税や環境税，富裕税に対し，わが国は，どう向き合うべきか，今後の租税政策の方向性についても，参加者が自ら議論できるようにする。
なお，外国人専門家（ゲスト講師）による解説も予定しているのでその回は必ず出席すること。
【授業の概要】
　輪読方式で進める。参加者は春学期同様，予め割り当てられた箇所を事前に全て訳し，それを至当教員に前日までに提出した上で，当日の配布資料として全員で議論を進める。

授業内容

第１回　ガイダンス―テキスト（Piller Ⅱ）の説明および分担決定―
第２回　第１章　総論
第３回　第２章　GloBEの範囲
第４回　第３章　GloBEルールの下でのETRの算定
第５回　第４章　繰り延べとカーブアウト
第６回　第５章　簡素化のオプション
第７回　第６章　所得含有およびスウィッチ・オーバールール
第８回　第７章　アンダータックス・ペイメント・ルール
第９回　第８章　関連・共同・孫会社のための特例
第10回　外国人ゲスト講師による近年の諸外国の環境税の解説（英語・日本語）
第11回　第９章　サブジェクト・トゥー・タックス・ルール
第12回　第10章　適用と規則　協力
第13回　Piller Ⅱへの橋渡し
第14回　総括

履修上の注意

　英語読解力が十分にあること，および大学レベルでの租税法および財政学の基礎知識があることを前提とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

　予め，英文の予習をしてくること。合わせて，わが国の現行制度との異同についても考えてくること。

教科書

OECD Blueprint Piller Ⅱ
インターネット上でダウンロード可（初回に説明）

参考書

　参加者のレベルに応じて，適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への参加態度（20%），発表内容および期末レポートの内容（合わせて80%）を総合的に判断して決める。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
会計やファイナンス分野で修士論文を執筆する学生を主な対象に、企業評価の基本的な考え方および手法を学ぶとともに、重要な論点について解説する。春学期は、財務諸表の概要および分析手法、様々なバリュエーションモデルについて学ぶ。そのうえで、財務諸表に大きな影響を与える経営戦略と会計戦略について講義を行う。
《到達目標》
修士論文作成に必要となる基本的な企業価値評価の手法を身に着け、企業価値評価の主要な論点を押さえる。

授業内容

第１回:イントロダクション－なぜ企業価値評価か？
第２回:企業価値評価の概要
第３回:貸借対照表に関する論点
第４回:損益計算書に関する論点
第５回:キャッシュフロー計算書に関する論点
第６回:レシオ分析（１）収益性と成長性の分析
第７回:レシオ分析（２）安全性と効率性の分析
第８回:バリュエーションモデル（１）マーケットアプローチ
第９回:バリュエーションモデル（２）インカムアプローチ
第10回:経営戦略の分析（１）企業の事業内容に関する分析
第11回:経営戦略の分析（２）業界の分析、資本構成の分析
第12回:会計戦略の分析（１）会計のフレキシビリティと利益調整
第13回:会計戦略の分析（２）技術的会計政策と実質的会計政策
第14回:全体のまとめ
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

講義内容をもとに実際の事例を用いたケーススタディを行うため、積極的な授業への参加が望まれる。基礎的な会計の知識があることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に示した講義で扱う文献について、目を通してくること。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義内の報告の内容（50％）とその他講義への貢献（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC551J			
会計系列		備 考	
科 目 名	企業評価論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経営学）　奈良　沙織		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
会計やファイナンス分野で修士論文を執筆する学生を主な対象に、企業評価の基本的な考え方および手法を学ぶとともに、重要な論点について解説する。秋学期は、将来性の分析や資本コストの推定など企業価値評価の各論について講義を行う。また、企業評価の実践として、株式分析やEVA、M&Aなどをテーマに扱う。
《到達目標》
修士論文作成に必要となる基本的な企業価値評価の手法を身に着け、企業価値評価の主要な論点を押さえる。

授業内容

第１回:イントロダクション－企業評価論特論Aの復習
第２回:将来性の分析
第３回:ディスクロージャーと株式市場（１）業績予想の開示
第４回:ディスクロージャーと株式市場（２）ディスクロージャー
第５回:ディスクロージャーと株式市場（３）アナリストの役割
第６回:株式分析（１）ファンドの運用と株式投資
第７回:株式分析（２）アノマリーと行動ファイナンス
第８回:資本コストとリスク評価（１）資本コストの計算
第９回:資本コストとリスク評価（２）負債の導入と評価
第10回:資本コストとリスク評価（３） EVA
第11回:M&A （１）企業価値向上のためのM&A
第12回:M&A （２）敵対的買収と買収防衛策
第13回:無形資産の評価
第14回:全体のまとめ
＊講義の内容および進捗は履修者の興味および理解の状況により変更の可能性がある。

履修上の注意

講義内容をもとに実際の事例を用いたケーススタディを行うため、積極的な授業への参加が望まれる。企業評価論特論Aを履修していること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に示した講義で扱う文献について、目を通してくること。

教科書

必要に応じて紹介する。

参考書

必要に応じて紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義内の報告の内容（50％）とその他講義への貢献（50％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC591J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計学外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師　博士（商学）　石川　祐二		

授業の概要・到達目標

会計学の英語文献を用いて，学生が決められた範囲を翻訳し，レジュメにまとめ，その発表を行う。その際，専門用語や文法に注意を払いつつ，特に読解が困難な構文等についてはじっくりと取り組むことにする。

この講義では，専門文献を翻訳する上での基本的スキルと基礎知識の獲得を到達目標とする。それを通じて，学生が各自の研究を深化させる上での基盤を形成することになると考えられる。

授業内容

第１回　イントロダクション：翻訳の心構え
第２回　On the Nature of Contemporary Accounting and Its Research Methodology
第３回　Analytical point of view to accounting system
第４回　Characteristics of contemporary accounting practice
第５回　The meaning of the valuation based on “fair value” ①
第６回　The meaning of the valuation based on “fair value” ②
第７回　The meaning of the valuation based on “fair value” ③
第８回　The nature of contemporary accounting and the reform of auditing system
第９回　FASB and social reality
第10回　Is social reality objective or subjective?
第11回　Searle’s ontology of constructing social reality ①
第12回　Searle’s ontology of constructing social reality ②
第13回　Searle’s ontology of constructing social reality ③
第14回　Searle’s ontology of constructing social reality ④

履修上の注意

講義に際しては，必ず辞書を持参すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の発表部分はもちろんのこと，それ以外の部分についても翻訳をして講義に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義時の発表（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ACC591J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計学外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	兼任講師　博士（商学）　石川　祐二		

授業の概要・到達目標

会計学の英語文献を用いて，学生が決められた範囲を翻訳し，レジュメにまとめ，その発表を行う。その際，専門用語や文法に注意を払いつつ，特に読解が困難な構文等についてはじっくりと取り組むことにする。

この講義では，専門文献を翻訳する上での基本的スキルと基礎知識の獲得を到達目標とする。それを通じて，学生が各自の研究を深化させる上での基盤を形成することになると考えられる。

授業内容

第１回　イントロダクション：自然な日本語への翻訳について
第２回　The Onion Model of Reality as an alternative ①
第３回　The Onion Model of Reality as an alternative ②
第４回　The problem of valuation
第５回　Personal reaction to FASB’s attempt to move toward PBAS
第６回　Conclusion: FASB and social reality
第７回　The Limitation of Financial Reporting
第８回　The decision-usefulness concept: The individual decision-model
第９回　The measurement of economic wealth or income ①
第10回　The measurement of economic wealth or income ②
第11回　The measurement of economic wealth or income ③
第12回　Income measurement
第13回　Consequences of measurement problems
第14回　Empirical tests of decision relevance

履修上の注意

講義に際しては，必ず辞書を持参すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

自分の発表部分はもちろんのこと，それ以外の部分についても翻訳をして講義に臨むこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義時の発表（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

(概要)
貨幣経済に関して、研究を深め、修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣経済とは、企業への就職、キャリアアップ、セカンドキャリア、お金稼ぎ、金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり、数式モデルをも駆使して、貨幣経済の根源をなす貨幣の働き、貨幣とは何か、などを、抽象的、根源的に考察する。
初学者向けの概論などは、一切行わない。初学者向けレベル、概論レベルは、経済、商学部、経営学部の学部課程（Undergraduate）で、すでに習得しておくべきものであるからである。
また、**当該学期以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務（金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論）や、企業金融（コーポレート・ファイナンス論）、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN/TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング、開発金融、開発経済学系、DSGE「なぜ各国は豊かで、他の国は貧しいのか？」などを同じように経済成長率は異なるのか？「ゲーム理論、ソーシャル・ビジネス等にも一切対応しない。該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
その理由は、学部と違って、大学院での教育方針・内容が全く異なるからだからである。大学院レベルでは、金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。学生個がビギナーの専門教育を、事前に十分調査し、慎重に指導教員を選択しないといけない。
研究型大学院では、論文執筆を教育から学ぶとして捉えるというよりは、研究のやり方と作法を学んで、研究活動自体は授業時間以外にも、学生が自主的に量的にはるかに大量に行うものである。
研究型大学院の本研究室は、企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし、初学者が教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間で済む学士入学、編入学の形で学部の金融専攻をやること。研究型大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば、古典ークラシックである。それこそが、学問研究の道なのだ。研究大学院とは、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識だけをやる場ではない。
もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに全く興味を感じられないタイプの人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない、実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学院の根本的な違いは、良し悪しでもレベルでもなく、タイプの違いであり、教育機関としての目的が全く異なるということなので、自分の目的に合う方を選択しなければならない。
研究大学院の学位論文は、学術のゼミと異なり、例えば、キャッシュレス決済についてもっと知りたいから、制度、提供企業を調べるだけでは不可である。学問理論体系から考察するか、オリジナルなデータ実証研究をしないといけない。
また私の場合、学院と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部のディベート、大学院では一切行わない。必ず大学院教育のシラバスだけを厳密に区別して読んで、志願先を判断すること。
なお入学後、途中で指導教員は変えられないので、本研究室の修了要件のことを予め述べておくと、自力で書く義務がある修士論文のテーマは、貨幣経学、貨幣数量理論の裁判、貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は、学部の卒業論文のように、思いつきでの興味好き勝手な自由研究というわけには行かない。テーマはその学問分野の正統を踏まえた範囲に限られる。これは研究者人生のスタートとして、学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律、discipline）［スポーツで言う正しい基本フォーム］をしっかり身に着けないと、最初から我流の剣ではなくものにならないからである。また、大学院の学位論文というものは、十分に計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は現実問題、締め切りまで時間がなくて、指導教員はほぼ関与しない。独創性や新しさを踏まえながら修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて、事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
(授業の到達目標)
純粋学問的研究法を身につけ、学術的研究を自力で行う端緒とする。修士論文は自力で書かないといけない。

授業内容

日本独自のケインズ貨幣理論の革新性の解明研究
第１回　貨幣の理論への扉
第２回　日本における安倍通貨
第３回　貨幣ヴェール観と貨幣の非中立性
第４回　高橋泰蔵の貨幣論解釈
第５回　貨幣の需要的流通と金融的流通
第６回　無国債主義としての貨幣利子率
第７回　矢尾次郎の貨幣論解釈
第８回　貨幣の需要的流通と金融的流通
第９回　貨幣経済の本質　ニューオレールと貨幣
第10回　生産の貨幣的理論への探求
第11回　自然利子率概念の裁判的検討
第12回　投資の利子弾力性　オーダスフォード経済調査
第13回　Sraffaによる Hayekの自然利子率理論裁判とケインズ「貨幣論」糾弾
第14回　貨幣数量理論の批判的再検討
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったこと、現実性に問題がある。シラーにしても、指標を考案、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を塗り替えたわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦前期の貯蓄と投資の関係に遡って(それらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてしまった。)より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
※院生の学習、進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

大学院志願では、学生個が事前に、ビンボイントの専門細目を、十分調査し、慎重に指導教員を選択しないといけない。
金融理論特論A(B)(小原)の修得か、並行履修を絶対の条件とする。
また、必須前提として、Prerequisites and Registration Requirementsとして、学部上級レベル（Advanced Level）の金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学商学部卒業生については、学部での金融総論A、B、金融論A、Bも必須の前提とする。
初回に、上記、経済学、統計学、経済数学の履修・理解度状況について、アンケート調査を行う。
また、初回に、学部時代の卒業論文の方法論、具体的内容について、アンケート調査を行う。他分野ではダメで、経済学、金融分野の卒業論文である必要がある。
学問的研究の第一次史料収集、膨大な文献の解読を行うので、一部、履修者、旧から違いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での講義は、輪番報告形式、日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。毎回、学生がレジメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
日本の研究大学院のスタイルとして、講読する教材は、基本的に英語となる。教室での講義やレジメは、日本語で行う。英語の教材を読解・要約して、日本語レジメを作る能力が必要である。
（正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。）
Term Paperの論文とは、単なるレポートではない、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、学問的論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では、講義に身を置いて、単位が取れればよいというものではなく、受身で入から知識を与えられることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは、授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、論文を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は、貨幣的経済理論に関する最終年次の修士論文への準備的論文であればそれを以って修えることができる。ただし、論文テーマは、教員の承認が必要。
とにかく、この大学院の演習では、期末論文は必須。
ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの他分野の論文はこの科目の期末論文としては認められない。
論文とは、あなた自身で研究内容を理解し、何かのオリジナルな発見が理解されている上に、初読者でも内容が理解できるように、論理の段階を踏んで、わかりやすく説明しないといけない。
注意点として、当研究室では、期末論文やレポートは、国際標準のLaTEXで清書して最終的に提出しなければならない。他のソフトではダメである。
理由は、LaTeXは、Windowsでも Macでも使えるフリーソフトの組版ソフトであり、数式を正しく表示するには欠かせないソフトであり、アメリカなどの大学院コースワークの前提提出物でも義務化されている国際標準であるからである。LaTeXはアメリカ数学会の公式ツールである。
なぜ、他のソフトではダメなのか、最近に先出のスタンフォード大学の教員時代に書いた記事を参照してください。
https://toyokeizai.net/articles/-/508657?page=3
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にしたり引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー＆ペースト）、生成系AIの剽出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、（Plagiarism［プレイジャリズム］：盗用・剽窃）は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績が0F（不可）になります。
「1ページくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧していくとさらから、研究ノートや、Webブラウザのブックマークをこまめにとって、この言葉はどこにあったかを追れるようにしておくこと。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたこと、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然としたものです。自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしても「バレないだろう」と思っていても、きっとバレます。なぜなら、現代では大学には剽窃チェッカーという専門ソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学学部、高校までの、だた単に調べ上げたことを足すレポートではなく、それについてのあなたなりの見解や意見や新たなる「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは断大なものです。

その他

【注意事項】大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく、それこそが、学問研究の道なのだ。
研究大学院は、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って、大学院は研究者への長い修業生活であり、大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は、講師・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事をして研究活動を行う皆様なら厳しい修業の日々である。大学院では、教員は「私」と化す。大学院では、学部と違って指殺義人だり、アルバイトどをしている暇はない。
大学院のカクラスは、その専門分野（経済学部、あるいは金融学科）の主要5科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており、クラスでは、基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように、実務に役立つ基準で、広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では、真理追求を目的に、自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは、教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間の編入学、学士入学の学部(undergraduate)の金融専攻をやるべきである。研究大学院の院生は、学部の少人数演習ゼミ、Limited Membershipを踏襲、見学、参加は一切できない。
本校のような研究型大学院とビジネススクールの違いは、良し悪しではなく、目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば、現代の実務の必要なところだけの知識が効率的にうえられ、初学者でもOK、概論の講義が展開されるのだ。
この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。
なお、日本では、いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも晋得できるビジネススクールが多いが、教授陣も優れており、大手金融機関、大企業の優秀な社員なども多く通学してくるので、アジア諸国とは逆に、日本では、イブニングスクールの地位は高いので、誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科、専門職大学院としてビジネススクールがあるので、進路をよく考えること。
どこでも入れば何とかなると考えるのは、全くの間違いだ。事前に慎重すぎるほど、大学や指導教員選びなどビンボイントに行う、進路戦略をよく考えておくこと。
なお、上記に書いた理由により、この科目は、実務家志望者や実務経験者には向かない科目ですので、ご注意ください。情報の事前開示によって、通切な優み分けをしたいものです。研究大学院だと各研究室、各科目の専門の範囲は学部課程と比べて、想像以上に狭いものです。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

(概要)
貨幣経済に関して、研究を深め、修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣経済とは、企業への就職、キャリアアップ、セカンドキャリア、お金稼ぎ、金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり、数式モデルをも駆使して、貨幣経済の根源をなす貨幣の働き、貨幣とは何か、などを、抽象的、根源的に考察する。
初学者向けの概論などは、一切行わない。初学者向けレベル、概論レベルは、経済、商学部、経営学部の学部課程（Undergraduate）で、すでに習得しておくべきものであるからである。
また、**当該学期以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務（金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論）や、企業金融（コーポレート・ファイナンス論）、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN/TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング、開発金融、開発経済学系、DSGE「なぜ各国は豊かで、他の国は貧しいのか？」などを同じように経済成長率は異なるのか？「ゲーム理論、ソーシャル・ビジネス等にも一切、対応しない。**該当する他大学、他の研究室へ行くこと。
その理由は、学部と違って、大学院での教育方針・内容が全く異なるからだからである。大学院レベルでは、金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。
研究型大学院では、論文執筆を教育から学ぶとして捉えるというよりは、研究のやり方と作法を学んで、研究活動自体は授業時間以外にも、学生が自主的に量的にはるかに大量に行うものである。
研究型大学院の本研究室は、企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しないし、初学者が教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間で済む学士入学、編入学の形で学部の金融専攻をやること。研究型大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば、古典ークラシックである。それこそが、学問研究の道なのだ。研究大学院とは、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識だけをやる場ではない。
もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに全く興味を感じられないタイプの人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない、実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学院の根本的な違いは、良し悪しでもレベルでもなく、タイプの違いであり、教育機関としての目的が全く異なるということなので、自分の目的に合う方を選択しなければならない。
研究大学院の学位論文は、学術のゼミと異なり、例えば、キャッシュレス決済についてもっと知りたいから、制度や提供企業を調べるだけでは不可である。学問理論体系から考察するか、オリジナルなデータ実証研究をしないといけない。
また私の場合、学院と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部のディベート、大学院では一切行わない。学部ゼミの聴講・見学・参加も大学院生は許可されない。
必ず大学院教育のシラバスだけを厳密に区別して読んで、志願先を判断すること。
なお入学後、途中で指導教員は変えられないので、本研究室の修始最終年次の義務のことを予め述べておくと、終始最終年次に書く修士論文のテーマは、貨幣経学、貨幣数量理論の裁判、貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は、学部の卒業論文のように、思いつきでの興味好き勝手な自由研究というわけには行かない。テーマはその学問分野の正統を踏まえた範囲に限られる。これは研究者人生のスタートとして、学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律、discipline）［スポーツで言う正しい基本フォーム］をしっかり身に着けないと、最初から我流の剣ではなくものにならないからである。また、大学院の学位論文というものは、十分に計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は現実問題、締め切りまで時間がなくて、指導教員はほぼ関与しない。独創性や新しさを踏まえながら修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて、事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
(授業の到達目標)
純粋学問的研究法を身につけ、学術的研究を自力で行う端緒とする。修士論文は自力で書かないといけない。

授業内容

Ｊ.M. Keynes貨幣的理論のミクロ的基礎
第１回　貨幣哲学　理論モデルへの扉を開く
第２回　経済における貨幣のサーキュラー・フロー
第３回　ＩS-Ｐバランス論。
第４回　そもそもモノを買うのは需要とは
第５回　貨幣所得外部性
第６回　Clower-佐藤和夫の見出しだJ.M. Keynesの本質メカニズム
第７回　総需要の裁判
第８回　貨幣所得外部性を加えたミクロ的な需要。ミッシングリンク。
第９回　他の外部性の諮解釈の誤り。ビグー効果に依存する陥穽。
第10回　独占的競争経済
第11回　マーシャルの調整過程
第12回　新しいマクロ的な総需要
第13回　オーバーオールの均衡
第14回　このモデルによる他の重要な論点の高い乗数
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったこと、現実性に問題がある。シラーにしても、指標を考案、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を塗り替えたわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦前期の貯蓄と投資の関係に遡って(それらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてしまった。)より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
※院生の学習、進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

大学院志願では、学生個が事前に、ビンボイントの専門細目を、十分調査し、慎重に指導教員を選択しないといけない。
金融理論特論A、B(小原)の並行履修と春学期の金融理論特論演習IA(小原)の履修を絶対の必要条件とする。
必須前提として、Prerequisites and Registration Requirementsとして、学部上級レベル（Advanced Level）の金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学商学部卒業生については、学部での金融総論A、B、金融論A、Bも必須の前提とする。
初回に、上記、経済学、統計学、経済数学の履修・理解度状況について、アンケート調査を行う。
また、初回に、学部時代の卒業論文の方法論、具体的内容について、アンケート調査を行う。他分野ではダメで、経済学、金融分野の卒業論文である必要がある。
学問的研究の第一次史料収集、膨大な文献の解読を行うので、一部、履修者、旧から違いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での講義は、輪番報告形式、日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。毎回、学生がレジメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ密に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしないと出席しているとはみなさない。
（正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。）
日本の研究大学院のスタイルとして、講読する教材は、基本的に英語となる。教室での講義やレジメは、日本語で行う。英語の教材を読解・要約して、日本語レジメを作る能力が必要である。
大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加ができるように、しっかりと予習をする義務がある。
また、貨幣理論では、受動的な姿勢では全く身につかず、自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと、よく理解できない。報告者が他人の場合もしっかりと、毎回の予習と復習が必須である。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え、理論のみに集中し、金融の制度的側面、国際比較、政策論、実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・政策・インフラ等について一切取り扱わない。それらは、それらに詳しいあなたの母国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本との金融政策などの比較研究の類も一切取り扱わない。理由は、今やインターネットで、日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは母国に居ながらにして手に入るからである。だから、それは日本留学の理由にならない。母国で早く研究を始めてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加ができるように、しっかりと予習をする義務がある。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

"Keynes' General Theory: the Marshall Connection" Robert Clower, (Elgar Press)

参考書

研究大学院では、例が一番テキスト的参考書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した、教科書、参考書、論文の参考文献一覧に載っている論文文献を予習る元に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。
コロナ不況を経て、次のまり、大学院生の就職は厳しさを増しているが、将来情報の先取りとして、
『文系大学院をめぐるトリレンマ』吉田　文　編著、(玉川大学出版部)、2020年。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、以後の講義で講評を行う。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）60%、上記授業での積極的発言の貢献度評価　40%。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ密に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしないと出席しているとはみなさない。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)
Term Paperの論文とは、単なるレポートではない、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、学問的論文を書くのが仕事である。
学問的大学院では、講義に身を置いて、単位が取れればよいというものではなく、受身で入から知識を与えられることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは、授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、論文を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は、貨幣的経済理論に関する最終年次の修士論文への準備的論文であればそれを以って修えることができる。ただし、論文テーマは、教員の承認が必要。
とにかく、この大学院の演習では、期末論文は必須。
ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの他分野の論文はこの科目の期末論文としては認められない。
論文とは、あなた自身で研究内容を理解し、何かのオリジナルな発見が理解されている上に、初読者でも内容が理解できるように、論理の段階を踏んで、わかりやすく説明しないといけない。
注意点として、当研究室では、期末論文やレポートは、国際標準のLaTEXで清書して最終的に提出しなければならない。他のソフトではダメである。
理由は、LaTeXは、Windowsでも Macでも使えるフリーソフトの組版ソフトであり、数式を正しく表示するには欠かせないソフトであり、アメリカなどの大学院コースワークの前提提出物でも義務化されている国際標準であるからである。LaTeXはアメリカ数学会の公式ツールである。
なぜ、他のソフトではダメなのか、最近に先出のスタンフォード大学の教員時代に書いた記事を参照してください。
https://toyokeizai.net/articles/-/508657?page=3
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にしたり引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー＆ペースト）、生成系AIの剽出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、（Plagiarism［プレイジャリズム］：盗用・剽窃）は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績が0F（不可）になります。
「1ページくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧していくとさらから、研究ノートや、Webブラウザのブックマークをこまめにとって、この言葉はどこにあったかを追れるようにしておくこと。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたこと、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然としたものです。自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしても「バレないだろう」と思っていても、きっとバレます。なぜなら、現代では大学には剽窃チェッカーという専門ソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学学部、高校までの、だた単に調べ上げたことを足すレポートではなく、それについてのあなたなりの見解や意見や新たなる「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは断大なものです。

その他

【注意事項】研究大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく、それこそが、学問研究の道なのだ。
研究大学院とは、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って、大学院は研究者への長い修業生活であり、大変厳しいものになることを覚悟すること。大学院は、講師・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事をして研究活動を行う皆様なら厳しい修業の日々である。大学院では、教員は「私」と化す。
大学院のクラスは全て、その専門分野（経済学部、あるいは金融学科）の主要5科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており、クラスでは、基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように、実務に役立つ基準で、広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では、真理追求を目的に、自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは、教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間の編入学、学士入学の学部(undergraduate)の金融専攻をやるべきである。研究大学院の院生は、学部の少人数演習ゼミ、Limited Membershipを踏襲、見学、参加は一切できない。
この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。
本校のような研究型大学院とビジネススクールの違いは、良し悪しではなく、目的が全く異なるのだ。ビジネススクールならば、現代の実務の必要なところだけの知識が効率的にうえられ、初学者でもOK、概論の講義が展開されるのだ。
なお、日本では、いわゆるイブニング・スクールとして夜や土曜日曜でも晋得できるビジネススクールが多いが、教授陣も優れており、大手金融機関、大企業の優秀な社員なども多く通学してくるので、アジア諸国とは逆に、日本では、イブニングスクールの地位は高いので、誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科、専門職大学院としてビジネススクールがあるので、進路をよく考えること。
どこでも入れば何とかなると考えるのは、全くの間違いだ。事前に慎重すぎるほど、大学や指導教員選びなどビンボイントに行う、進路戦略をよく考えておくこと。
なお、上記に書いた理由により、この科目は、実務家志望者や実務経験者には向かない科目ですので、ご注意ください。情報の事前開示によって、通切な優み分けをしたいものです。研究大学院だと各研究室、各科目の専門の範囲は学部課程と比べて、想像以上に狭いものです。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
金融理論特論A、B、金融理論特論演習ⅠA、ⅠBの履修と、シラバスで述べられたことを前提に、貨幣的経済理論モデル(抽象的数式モデル)の専門細目分野で、修士論文レベルの論文を書く演習である。本クラスでは、**当該分野以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務(金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論)や、企業金融(コーポレート・ファイナンス論)、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN-TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング、開発金融、開発経済学系、DSGE「なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか？」「なぜ国によって経済成長率は異なるのか？」ゲーム理論、ソーシャル・ビジネス、ソーシャル・ファイナンス等にも一切対応しない。該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
なお、入学後、途中で指導教員は変えられないので、本研究室の最終年度の学位論文の義務内容を、情報の事前開示として、予め述べておくと、修士課程最終年度に書く修士論文のテーマは、貨幣哲学、貨幣数量理論の批判、貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は、研究者人生の将来を規定するものとして非常に重要であり、学部の卒業論文のように、思いつきでの自由研究というわけには行かない。これは、研究者人生のスタートとして、学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律、discipline）[スポーツで言う正しい基本フォーム、音楽で言う課題曲]をしっかり身に着けないと、最初から我流の剣では全くものにならないからである。大学院では、自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは、専門細目での学問的作法が身についた後、正しいフォームが身についた後、一人前の学者になれてから、学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また、大学院の学位論文というものは、長い時間をかけて、計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は、現実問題、時間がなく、正味9か月(修士論文提出は例年1月8日頃)で、修士論文を自力で、完成・提出しなければならない。修士課程合格後は特に、知識を広げるような展開は控え、自分の狭い専門分野細目内で脇目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて、受験・志願する事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ、学術的研究を自力で行う端緒とする。

授業内容

第１回　修士論文執筆への扉を開く。論文執筆というものは、先行研究を研究しつくし、資料の収集が終わり、自分なりの分析が終わり、骨格が見えてから、資料などを整理して、読者に理解されるまでの文章に落とし込む方が、1.5倍から2倍の時間がかかり、予想外に時間がかかるものなので、後で困らないように、院生のために、全体に早め早めに準備を進める。修士論文の中間発表・報告も相当早くから繰り返し要求する厳しいものとなる。
第２回　履修者による修士論文テーマの提案・検討
第３回　修士論文テーマの決定
第４回　分析方法の検討
第５回　分析方法の再検討
第６回　予備的分析の検討
第７回　論文のオリジナリティの核をどこに置くか
第８回　履修者による修士論文の構成に関する報告
第９回　履修者による修士論文のアウトラインに関する報告
第10回　追加参考文献に関する検討
第11回　修士論文骨格に関する検討
第12回　修士論文　序章の検討
第13回　修士論文　本文の検討
第14回　中間まとめ報告
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったなど、現実性に問題がある。シラーにしても、指摘を考案、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を塗り替えたわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦間期の貯蓄と投資の問題に遡って(それらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてきてしまった)、より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室、他のクラスへ行くこと。**
※院生の進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

全員が、私の金融理論特論A、B、金融理論特論演習ⅠA、ⅠBの履修・単位取得を済ませていることを必須の前提とする。
INBOUNDの留学生については、本研究室では日本語ライティングの指導は行わない。分業として、学位論文執筆支援のため、日本語ライティングの授業(大学院留学生のための日本語論文添削指導)、支援室の受講を必須とする。
文献は英語も多いが、教室での議論は日本語で行われる。演習は学究者同士が上記該当の回の論文を事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。学生はレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院では、報告者も報告者以外も、十分な予習[このクラスの場合は、修士論文の準備を授業時間外に十分な時間をかけて、できるだけ前進させる努力をすること]をしてくることが義務である。
教員から当てて発言を求める。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

研究大学院では、何か一冊テキストの指定教科書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。

参考書

研究大学院では、何か一冊テキスト的参考書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。
コロナ不況を経て、次の本より、大学院生の就職は厳しさを増しているが、将来情報の先取りとして。
『文系大学院をめぐるトリレンマ』吉田 文 編著、(玉川大学出版部)、2020年。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、以後の講義で講評を行う。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）70%、授業への参加度30%。期末論文を出さないと不可。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ席に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしないと出席しているとはみなさない。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)
Term Paperでの論文の意味は、単なるレポートや調べ物ではなく、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、論文を書くのが仕事である。ただ調べましたではなく、何かを秩序だって論じている必要がある。
学問的大学院では、他人から知識を得ることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。
研究活動とは、授業以外でも自発的にたくさんの文献の調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、読者を説得する執筆すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。期末論文は、貨幣的経済理論に関する2年次修士論文への準備的論文であればそれを以って替えることができる。ただし、論文テーマは、教員の承認が必要。
とにかく、この大学院の演習では、期末論文は必須。
ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの他分野の論文は(この科目の期末論文としては)認められない。
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にしたり引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。大学院は出典を学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー&ペースト）、生成系AIの産出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、(Plagiarism［プレイジャリズム］：盗用・剽窃)は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績がF（不可）になります。
「」でくくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧しているときから、研究ノートや、Webブラウザのブックマークをこまめにとって、この言葉はどこにあったかを辿れるようにしておくこと。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたことと、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然となったので、自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしても「バレないだろう」と思っていても、きっとバレます。なぜなら、現代では大学には剽窃チェッカーという専門ソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学学部、高校までの、ただ単に調べ上げたことを記すレポートではなく、それについてのあなたなりの見解や意見や新たな「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは膨大なものです。

その他

学部とは違って、大変厳しい訓練の場となることを覚悟すること。大学院とは、学部の延長線上ではなく、容赦なく厳しい修業の日々である。大学院では教員も、学部とは違って、「鬼」となる。毎回の予習と報告と復習が必須。授業時間以外も、自発的に論文を読んで研究活動を行う必要がある。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
金融理論特論A、B、金融理論特論演習ⅠA、ⅠBのシラバスで述べられたことを前提に、貨幣的経済理論モデル（抽象的数式モデル）の専門細目分野で、修士論文レベルの論文を書く演習である。本クラスでは、**当該分野以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務(金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論)や、企業金融(コーポレート・ファイナンス論)、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN-TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング、開発金融、開発経済学系、DSGE「なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか？」「なぜ国によって経済成長率は異なるのか？」ゲーム理論、ソーシャル・ビジネス、ソーシャル・ファイナンス等にも一切対応しない。該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
なお、入学後、途中で指導教員は変えられないので、本研究室の最終年度の学位論文の義務のことを、情報の事前開示として、予め述べておくと、修士課程最終年度に書く修士論文のテーマは、貨幣哲学、貨幣数量理論の批判、貨幣理論の範囲内に限られる。修士論文は、研究者人生の将来を規定するものとして非常に重要であり、学部の卒業論文のように、思いつきでの自由研究というわけには行かない。これは、研究者人生のスタートとして、学問細目分野ごとでのいわゆる学問的ディシプリン（規律、discipline）[スポーツで言う正しい基本フォーム、音楽で言う課題曲]をしっかり身に着けないと、最初から我流の剣では全くものにならないからである。大学院では、自分の好き勝手なテーマでやれるものではない。自由研究などは、専門細目での学問的作法が身についた後、正しいフォームが身についた後、一人前の学者になれてから、学問の体系に自分なりの独創性をどこまで加えられるかの話である。また、大学院の学位論文というものは、長い時間をかけて、計画的に研究活動・執筆を行わないと合格しないものである。修士課程は、現実問題、時間がなく、正味9か月(修士論文提出は例年1月8日頃)で、修士論文を自力で、完成・提出しなければならない。修士課程合格後は特に、知識を広げるような展開は控え、自分の狭い専門分野細目内で脇目もふらず修士論文作成に集中することになる。これらを踏まえて、受験・志願する事前に指導教員の選択を十分に検討すること。
《授業の到達目標》
純粋学問的研究作法を身につけ、学術的研究を自力で行う端緒とする。

授業内容

学術論文執筆というものは、先行研究を研究しつくし、資料の収集が終わり、自分なりの分析が終わり、骨格が見えてからが大変で、資料などを整理して、読者に理解されるまでの文章に落とし込む方が、1.5倍から2倍の時間がかかり、予想外に時間がかかるものなので、後で困らないように、全体に早め早めに準備を進める。修士論文の中間発表・報告も相当早くから繰り返し要求する厳しいものとなる。
第１回　履修者による修士論文作成の進捗状況の報告
第２回　履修者による修士論文テーマの再検討
第３回　分析方法の検討
第４回　分析方法の再検討
第５回　予備的分析の検討
第６回　中間報告
第７回　本文の洗練化
第８回　履修者による修士論文の構成に関する報告
第９回　履修者による修士論文のアウトラインに関する報告
第10回　追加文献に関する検討
第11回　修士論文骨格に関する検討
第12回　修士論文　序章の検討　(文系の論文では序章の書き方が難しい。先行研究での位置付けなど)
第13回　修士論文　本文の検討
第14回　修士論文　参考文献表の完成　学術論文の様式クリアー
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったなど、現実性に問題がある。シラーにしても、指摘を考案、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を塗り替えたわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦間期の貯蓄と投資の問題に遡って(それらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてきてしまった)、より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室、他のクラスへ行くこと。**
※院生の進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

全員が、小原の金融理論特論A、B、金融理論特論演習ⅠA、ⅠB、春学期の金融理論特論演習ⅡAの履修・単位取得を済ませていることを必須の前提とする。
履修後は、INBOUNDの留学生については、本研究室では日本語ライティングの指導は行わない。分業として、学位論文執筆支援のため、日本語ライティングの授業(大学院留学生のための日本語論文添削指導)、支援室の受講を必須とする。
文献は英語も多いが、教室での議論は日本語で行われる。演習は学究者同士が上記該当の回の論文を事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。学生はレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。
(正当な事由とは、病欠やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院では、報告者も報告者以外も、十分な予習[このクラスの場合は、修士論文の準備を授業時間外に十分な時間をかけて、できるだけ前進させる努力をすること]をしてくることが義務である。教員から当てて発言を求める。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

研究大学院では、何か一冊テキストの指定教科書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では院生が、使用した教科書、参考書、論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。

参考書

研究大学院では、何か一冊テキスト的参考書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した教科書、参考書、論文の参考文献一覧に載っている論文文献を学づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。
コロナ不況を経て、次の本より、大学院生の就職は厳しさを増しているが、将来情報の先取りとして。
『文系大学院をめぐるトリレンマ』吉田 文 編著、(玉川大学出版部)、2020年。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、以後の講義で講評を行う。

成績評価の方法

Term Paper（期末論文）70%、授業への参加度30%。期末論文を出さないと不可。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ席に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしないと出席しているとはみなさない。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニックや病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)
Term Paperの論文の意味は、単なるレポートや調べ物ではなく、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、論文を書くのが仕事である。本研究室の場合、該当するテーマの場合、修士論文を以って、Term Paperに替えることができる。繰り返すが、テーマは教員の承認する貨幣理論内のものでなければならない。
学問的大学院では、ただ他人から知識を与えられることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。
研究活動とは、授業以外でも自発的にたくさんの論文文献の調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、読者を説得するための執筆の努力なども、すべてを含む。
期末論文必須は日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。
とにかく、この演習では期末論文は必修。
ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの他分野の論文は(この科目の期末論文としては)認められない。
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にしたり引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。大学院は出典を学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー&ペースト）、生成系AIの産出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、(Plagiarism［プレイジャリズム］：盗用・剽窃)は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績がF（不可）になります。
「」でくくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧しているときから、研究ノートや、Webブラウザのブックマークをこまめにとって、この言葉はどこにあったかを辿れるようにしておくこと。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたことと、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然となったので、自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしても「バレないだろう」と思っていても、きっとバレます。なぜなら、現代では大学には剽窃チェッカーという専門ソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学学部、高校までの、ただ単に調べ上げたことを記すレポートではなく、それについてのあなたなりの見解や意見や新たな「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは膨大なものです。

その他

学部とは違って、大変厳しい訓練の場となることを覚悟すること。大学院とは、学部の延長線上ではなく、容赦なく厳しい修業の日々である。大学院では教員も、学部とは違って、「鬼」となる。毎回の予習と報告と復習が必須。授業時間以外も、自発的に、専門分野の論文を読んで、研究活動を行うことが必要である。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
本演習では、修士論文の作成に必要な金融理論の基礎を学ぶ。まず、基本文献を理解するために必要な分析手法を学修する。次に、基本文献を学修する。先行研究を理解して、追試を自力で行うことができることを目標とする。

授業内容
第１回　分析手法に関する基本文献の講読(1)
第２回　分析手法に関する基本文献の講読(2)
第３回　分析手法に関する基本文献の講読(3)
第４回　分析手法に関する基本文献の講読(4)
第５回　分析手法に関する基本文献の講読(5)
第６回　分析手法に関する基本文献の講読(6)
第７回　分析手法に関する基本文献の講読(7)
第８回　基本文献の講読(1)
第９回　基本文献の講読(2)
第10回　基本文献の講読(3)
第11回　基本文献の講読(4)
第12回　基本文献の講読(5)
第13回　基本文献の講読(6)
第14回　基本文献の講読(7)

履修上の注意
学部程度のミクロ経済学とマクロ経済学の知識を前提とするため、知識が不足している場合は各自補うことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習を各自でしておくこと。
〈ミクロ経済学〉神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉二神孝一(2017)『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社.
福田慎一・照山博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ.
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣.

教科書
授業中に配布する。

参考書
授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(50%)とレポート(50%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
本演習では、修士論文で取り組む具体的なテーマを決め、必要な文献を学ぶ。まず、基本文献を理解するために必要な分析手法を学修する。次に、基本文献を学修する。先行研究を理解して、追試を自力で行うことができることを目標とする。

授業内容
第１回　分析手法に関する基本文献の講読(1)
第２回　分析手法に関する基本文献の講読(2)
第３回　分析手法に関する基本文献の講読(3)
第４回　分析手法に関する基本文献の講読(4)
第５回　分析手法に関する基本文献の講読(5)
第６回　分析手法に関する基本文献の講読(6)
第７回　分析手法に関する基本文献の講読(7)
第８回　基本文献の講読(1)
第９回　基本文献の講読(2)
第10回　基本文献の講読(3)
第11回　基本文献の講読(4)
第12回　基本文献の講読(5)
第13回　基本文献の講読(6)
第14回　基本文献の講読(7)

履修上の注意
学部程度の線形代数・微積分と計量経済学の知識を前提とするため、知識が不足している場合は各自補うことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容
線形代数・微積分と計量経済学の学修を各自でしておくこと。
〈計量経済学〉西山慶彦・新谷元嗣・川口大司・奥井亮(2019)『計量経済学』有斐閣.
田中隆一(2015)『計量経済学の第一歩 -- 実証分析のススメ』有斐閣.

教科書
ウォルター・エンダース(2019)『実証のための計量時系列分析(新谷元嗣(訳)・藪友良(訳))』有斐閣

参考書
授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(50%)とレポート(50%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
本演習では、金融理論に関する論文指導を行う。まず、修士論文作成に関する一般的な点について講義をする。次に、学生から修士論文に関する報告を行ってもらい、議論を行う。修士論文を作成することを目標とする。

授業内容
第１回　修士論文作成に関する注意点(1)
第２回　修士論文作成に関する注意点(2)
第３回　修士論文作成に関する注意点(3)
第４回　報告(1)
第５回　報告(2)
第６回　報告(3)
第７回　報告(4)
第８回　報告(5)
第９回　報告(6)
第10回　報告(7)
第11回　報告(8)
第12回　報告(9)
第13回　報告(10)
第14回　報告(11)

履修上の注意
修士論文の作成には事前の計画が必要となるため、執筆計画を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容
報告の準備を入念に行うこと。また、議論した内容･指摘されて点については、次回の報告までに整理し、回答を行うこと。

教科書
授業中に適宜指定する。

参考書
授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(50%)と報告(50%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
本演習では、金融理論に関する論文指導を行う。まず、修士論文作成に関する一般的な点について講義をする。次に、学生から修士論文に関する報告を行ってもらい、議論を行う。修士論文を作成することを目標とする。

授業内容
第１回　修士論文作成に関する注意点(1)
第２回　修士論文作成に関する注意点(2)
第３回　修士論文作成に関する注意点(3)
第４回　報告(1)
第５回　報告(2)
第６回　報告(3)
第７回　報告(4)
第８回　報告(5)
第９回　報告(6)
第10回　報告(7)
第11回　報告(8)
第12回　報告(9)
第13回　報告(10)
第14回　報告(11)

履修上の注意
修士論文の作成には事前の計画が必要となるため、執筆計画を準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容
報告の準備を入念に行うこと。また、議論した内容･指摘されて点については、次回の報告までに整理し、回答を行うこと。

教科書
授業中に適宜指定する。

参考書
授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(50%)と報告(50%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。こうした側面から金融問題を理解し，データを分析してレポートを作成することができるようになることが目標である。

授業内容

第１回　研究テーマの検討(1)
第２回　研究テーマの検討(2)
第３回　金融分野の文献輪読(1)
第４回　金融分野の文献輪読(2)
第５回　金融分野の文献輪読(3)
第６回　金融分野の文献輪読(4)
第７回　金融分野の文献輪読(5)
第８回　金融分野の文献輪読(6)
第９回　金融分野の文献輪読(7)
第10回　データを用いた演習(1)
第11回　データを用いた演習(2)
第12回　データを用いた演習(3)
第13回　データを用いた演習(4)
第14回　研究テーマの再検討

履修上の注意

修士論文の作成にとりかかる準備として，研究テーマの検討や基礎的な演習を行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題について授業時間中にコメントする。

成績評価の方法

レポート(50%)と授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。こうした側面から金融問題を理解し，データを分析してレポートを作成することができるようにすることが目標である。さらに，修士論文のテーマに関連した先行研究をレビューできることも目標とする。

授業内容

第１回　研究テーマの絞り込み(1)
第２回　研究テーマの絞り込み(2)
第３回　関連論文の輪読(1)
第４回　関連論文の輪読(2)
第５回　関連論文の輪読(3)
第６回　関連論文の輪読(4)
第７回　関連論文の輪読(5)
第８回　関連論文の輪読(6)
第９回　関連論文の輪読(7)
第10回　関連論文の輪読(8)
第11回　予備的な分析(1)
第12回　予備的な分析(2)
第13回　予備的な分析(3)
第14回　研究テーマの決定

履修上の注意

修士論文の作成にとりかかる準備として，研究テーマの検討や基礎的な演習を行う。また，修士論文のテーマに関連した先行研究をレビューする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)と授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。修士論文の骨格が完成することを目標とする。

授業内容

第１回　修士論文の概要報告(1)
第２回　修士論文の概要報告(2)
第３回　先行研究に関するサーベイ報告(1)
第４回　先行研究に関するサーベイ報告(2)
第５回　先行研究に関するサーベイ報告(3)
第６回　先行研究に関するサーベイ報告(4)
第７回　分析結果の報告(1)
第８回　分析結果の報告(2)
第９回　分析結果の報告(3)
第10回　分析結果の報告(4)
第11回　修士論文テーマの最終決定(1)
第12回　修士論文テーマの最終決定(2)
第13回　修士論文作成のための必要事項確認(1)
第14回　修士論文作成のための必要事項確認(2)

履修上の注意

修士論文の完成に向けて，サーベイやデータの分析にめどをつける。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)や授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融問題は多岐にわたっているが，本演習では金融機関と金融システム，中央銀行，金融市場等に絡んだ側面から，金融問題を考察していく。修士論文が最終的に完成することを目標とする。

授業内容

第１回　修士論文の1回目中間報告(1)
第２回　修士論文の1回目中間報告(2)
第３回　修士論文作成に関する指導(1)
第４回　修士論文作成に関する指導(2)
第５回　修士論文作成に関する指導(3)
第６回　修士論文作成に関する指導(4)
第７回　修士論文作成に関する指導(5)
第８回　修士論文作成に関する指導(6)
第９回　修士論文の2回目中間報告(1)
第10回　修士論文の2回目中間報告(2)
第11回　修士論文の残された課題の検討(1)
第12回　修士論文の残された課題の検討(2)
第13回　修士論文の最終報告
第14回　修士論文の最終確認

履修上の注意

夏休み中に修士論文の第1次ドラフトが完成し，第1回目の中間報告に間に合うようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に関連論文を熟読すること。修士論文の作成を進めること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)
白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)
上記以外に関しては，必要に応じて別途紹介する。

参考書

必要に応じて別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

修士論文で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their MA dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.
1-2. Discussions on preliminary analysis on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the preliminary results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in undergraduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of undergraduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:
1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their MA dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.
1-2. Discussions on preliminary analysis on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the preliminary results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in undergraduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of undergraduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:
1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their MA dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.

1-2. Discussions on preliminary analysis on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the preliminary results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in undergraduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of undergraduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:

1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their MA dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.

1-2. Discussions on preliminary results on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the final results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in undergraduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of undergraduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:

1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion? (50%).

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本演習では，証券市場における機関投資家の行動とコーポレート・ガバナンスを含むESGに関する理論的・実証的分析，金融仲介機関として機関投資家が果たすべき責任と役割に関する論文指導を行う。

具体的なテーマとしては，「機関投資家の行動と法規制との関連」，「機関投資家の投資行動が企業に及ぼす影響」，「株主構成とコーポレート・ガバナンス」，「企業の社会的責任と機関投資家の行動」，「機関投資家による社会的責任投資の効果」，「機関投資家の投資行動が証券市場に及ぼす影響」などを取り上げる。

授業内容

基本文献の講読

第１回　ａ：イントロダクション
第２回　機関投資家とESG/証券市場分野のガイダンス
第３回　研究テーマの検討(1)
第４回　研究テーマの検討(2)
第５回　機関投資家とESG/証券市場分野の基本文献の講読(1)
第６回　機関投資家とESG/証券市場分野の基本文献の講読(2)
第７回　機関投資家とESG/証券市場分野の基本文献の講読(3)
第８回　機関投資家とESG/証券市場分野の基本文献の講読(4)
第９回　機関投資家とESG/証券市場分野の基本文献の講読(5)
第10回　機関投資家とESG/証券市場分野の分析手法等に関する基本文献の講読(1)
第11回　機関投資家とESG/証券市場分野の分析手法等に関する基本文献の講読(2)
第12回　機関投資家とESG/証券市場分野の分析手法等に関する基本文献の講読(3)
第13回　機関投資家とESG/証券市場分野の分析手法等に関する基本文献の講読(4)
第14回　演習のふりかえり

履修上の注意

証券市場，コーポレート・ファイナンスに関する科目を受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献などで調べておくこと。

教科書

学術専門雑誌の文献を適宜指定する。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度・貢献度(50%)，レポート課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本演習では，証券市場における機関投資家の行動とESGを含むコーポレート・ガバナンスに関する理論的・実証的分析，金融仲介機関として機関投資家が果たすべき責任と役割に関する論文指導を行う。

具体的なテーマとしては，「機関投資家の行動と法規制との関連」，「機関投資家の投資行動が企業に及ぼす影響」，「株主構成とコーポレート・ガバナンス」，「企業の社会的責任と機関投資家の行動」，「機関投資家による社会的責任投資の効果」，「機関投資家の投資行動が証券市場に及ぼす影響」などを取り上げる。

授業内容

関連文献の講読

第１回　ａ：イントロダクション
第２回　研究テーマに関する文献の紹介
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読(1)
第５回　主要関連文献の講読(2)
第６回　主要関連文献の講読(3)
第７回　主要関連文献の講読(4)
第８回　主要関連文献の講読(5)
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討(1)
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討(2)
第11回　分析手法等に関する関連文献の講読(1)
第12回　分析手法等に関する関連文献の講読(2)
第13回　分析手法等に関する関連文献の講読(3)
第14回　演習内容の総括

履修上の注意

証券市場，コーポレート・ファイナンス関連の授業を受講することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

学術専門雑誌の文献を適宜指定する。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度・貢献度(50%)およびレポート課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本演習では，証券市場における機関投資家の行動とESGを含むコーポレート・ガバナンスに関する理論的・実証的分析，金融仲介機関として機関投資家が果たすべき責任と役割に関する論文指導を行う。

具体的なテーマとしては，「機関投資家の行動と法規制との関連」，「機関投資家の投資行動が企業に及ぼす影響」，「株主構成とコーポレート・ガバナンス」，「企業の社会的責任と機関投資家の行動」，「機関投資家による社会的責任投資の効果」，「機関投資家の投資行動が証券市場に及ぼす影響」などを取り上げる。

授業内容

修士論文作成(執筆)の準備
第１回　a：イントロダクション
第２回　履修者による修士論文テーマの報告(2)
第３回　分析方法の検討等(1)
第４回　分析方法の検討等(2)
第５回　分析方法の検討等(3)
第６回　分析方法の検討等(4)
第７回　分析方法の検討等(5)
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(1)
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(2)
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討(1)
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討(2)
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討(3)
第13回　予備的分析結果の検討等(1)
第14回　演習の総括

履修上の注意

計画的に論文執筆が行えるように準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

学術専門雑誌の文献を適宜指定する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度（50％），修士論文とそれに関する研究報告(50％)に基づき評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本演習では，証券市場における機関投資家の行動とESGを含むコーポレート・ガバナンスに関する理論的・実証的分析，金融仲介機関として機関投資家が果たすべき責任と役割に関する論文指導を行う。

具体的なテーマとしては，「機関投資家の行動と法規制との関連」，「機関投資家の投資行動が企業に及ぼす影響」，「株主構成とコーポレート・ガバナンス」，「企業の社会的責任と機関投資家の行動」，「機関投資家による社会的責任投資の効果」，「機関投資家の投資行動が証券市場に及ぼす影響」などを取り上げる。

授業内容

修士論文作成(執筆)指導
第１回　a：イントロダクション
第２回　修士論文作成に関する指導(1)
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　履修者による修士論文中間報告(1)
第８回　履修者による修士論文中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文執筆に関する指導(3)
第12回　履修者による修士論文最終報告(1)
第13回　履修者による修士論文最終報告(2)
第14回　演習内容の総括

履修上の注意

修士論文が計画的に執筆できるように準備すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

学術専門雑誌の文献を適宜指定する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度（50％）および修士論文とそれに関する研究報告(50％)に基づき評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D.（Economics）太田　塁		

授業の概要・到達目標
本演習では、履修者の研究テーマに即して関連する論文の講読を行う。修士論文の作成に必要な知識を習得することのみならず、より良いテーマを見つけられるよう専門性を深めていくことが目標である。

授業内容
第１回　研究テーマに関する議論(1)
第２回　関連論文の講読(1)
第３回　関連論文の講読(2)
第４回　関連論文の講読(3)
第５回　関連論文の講読(4)
第６回　関連論文の講読(5)
第７回　関連論文の講読(6)
第８回　関連論文の講読(7)
第９回　関連論文の講読(8)
第10回　関連論文の講読(9)
第11回　関連論文の講読(10)
第12回　関連論文の講読(11)
第13回　関連論文の講読(12)
第14回　研究テーマに関する議論(2)

履修上の注意
本演習の履修を希望する学生は、国際金融論特論A及びBの履修を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容
論文は事前に読み、理解できる箇所とできない箇所の区別を明確にしておくこと。

教科書
指定しない。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
演習内で提出された課題に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法
宿題(50%)と授業での貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D.（Economics）太田　塁		

授業の概要・到達目標
本演習では、履修者の研究テーマに即して関連する論文の講読を行う。修士論文の作成に必要な知識を習得することのみならず、より良いテーマを見つけられるよう専門性を深めていくことが目標である。

授業内容
第１回　研究テーマに関する議論(1)
第２回　関連論文の講読(1)
第３回　関連論文の講読(2)
第４回　関連論文の講読(3)
第５回　関連論文の講読(4)
第６回　関連論文の講読(5)
第７回　関連論文の講読(6)
第８回　関連論文の講読(7)
第９回　関連論文の講読(8)
第10回　関連論文の講読(9)
第11回　関連論文の講読(10)
第12回　関連論文の講読(11)
第13回　関連論文の講読(12)
第14回　研究テーマに関する議論(2)

履修上の注意
本演習の履修を希望する学生は、国際金融論特論A及びBの履修を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容
論文は事前に読み、理解できる箇所とできない箇所の区別を明確にしておくこと。

教科書
指定しない。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
演習内で提出された課題に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法
宿題(50%)と授業での貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D.（Economics）太田　塁		

授業の概要・到達目標
本演習では、履修者の修士論文作成に対して指導を行う。修士論文の骨格が完成することが目標である。

授業内容
第１回　修士論文の概要報告
第２回　修士論文作成に対する指導(1)
第３回　修士論文作成に対する指導(2)
第４回　修士論文作成に対する指導(3)
第５回　修士論文作成に対する指導(4)
第６回　修士論文作成に対する指導(5)
第７回　修士論文作成に対する指導(6)
第８回　修士論文作成に対する指導(7)
第９回　修士論文作成に対する指導(8)
第10回　修士論文作成に対する指導(9)
第11回　修士論文作成に対する指導(10)
第12回　修士論文作成に対する指導(11)
第13回　修士論文作成に対する指導(12)
第14回　修士論文作成に対する指導(13)

履修上の注意
本演習の履修を希望する学生は、国際金融論特論A及びBの履修を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎週の進捗報告の準備を行うこと。

教科書
指定しない。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
演習内で提出された課題に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法
宿題(50%)と授業での貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　Ph.D.（Economics）太田　塁		

授業の概要・到達目標
本演習では、履修者の修士論文作成に対して指導を行う。修士論文を完成することが目標である。

授業内容
第１回　修士論文の中間報告
第２回　修士論文作成に対する指導(1)
第３回　修士論文作成に対する指導(2)
第４回　修士論文作成に対する指導(3)
第５回　修士論文作成に対する指導(4)
第６回　修士論文作成に対する指導(5)
第７回　修士論文作成に対する指導(6)
第８回　修士論文作成に対する指導(7)
第９回　修士論文作成に対する指導(8)
第10回　修士論文作成に対する指導(9)
第11回　修士論文作成に対する指導(10)
第12回　修士論文作成に対する指導(11)
第13回　修士論文作成に対する指導(12)
第14回　修士論文の最終報告

履修上の注意
本演習の履修を希望する学生は、国際金融論特論A及びBの履修を求める。

準備学習（予習・復習等）の内容
毎週の進捗報告の準備を行うこと。

教科書
指定しない。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
演習内で提出された課題に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法
宿題(50%)と授業での貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要
　金融取引(投資･資金調達)の比較的最近の理論について学ぶ。
到達目標
　金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得する。

授業内容

第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文の予定内容･作業計画について確認
第２回　修士論文の関連文献精読(タームストラクチャー)
第３回　修士論文の関連文献精読(株式評価)
第４回　修士論文の関連文献精読(債券評価)
第５回　修士論文の関連文献精読(連続複利)
第６回　修士論文の関連文献精読(ポートフォリオの効率化)
第７回　修士論文の関連文献精読(ポートフォリオの最適化)
第８回　修士論文の具体的題目設定に関する議論
第９回　修士論文の関連文献精読(パフォーマンス尺度)
第10回　修士論文の関連文献精読(リスク中立評価)
第11回　修士論文の関連文献精読(株式デリバティブ)
第12回　修士論文の関連文献精読(債券デリバティブ)
第13回　修士論文の関連文献精読(金利デリバティブ)
第14回　a　修士論文の、既に執筆済みの内容に関する講評
　　b　修士論文の以後の具体的作業方針に関する議論

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

　『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル(きんざい)
　『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
　『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）
　『新　証券投資論Ⅰ、Ⅱ』小林他著　日本経済新聞出版社

参考書

　使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者あるいは実務経験のある者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN562J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要
　金融取引(投資･資金調達)の比較的最近の理論について学ぶ。
到達目標
　金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得する。

授業内容

第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文の予定内容･作業計画について確認
第２回　修士論文の関連文献精読(MM理論)
第３回　修士論文の関連文献精読(資本コスト)
第４回　修士論文の関連文献精読(CAPM)
第５回　修士論文の関連文献精読(加重平均資本コスト)
第６回　修士論文の関連文献精読(キャッシュフロー分析)
第７回　修士論文で用いる統計的手法に関する議論
第８回　修士論文の関連文献精読(NPV)
第９回　修士論文の関連文献精読(EVA)
第10回　修士論文の関連文献精読(予想財務諸表に基づく企業価値評価)
第11回　修士論文の関連文献精読(M＆Aの理論)
第12回　修士論文の関連文献精読(M＆Aの実際･分析事例)
第13回　修士論文のイントロダクション部分書き始め
第14回　a　修士論文の、既に執筆した内容に関する講評
　　b　修士論文に関する次年度の作業方針に関する計画

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

　『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル(きんざい)
　『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
　『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）
　『新　証券投資論Ⅰ、Ⅱ』小林他著　日本経済新聞出版社

参考書

　使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者あるいは実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要
　修士学位論文作成に向けて必要な金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。
到達目標
　金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得し、修士学位論文を作成する。

授業内容

第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文部分作成に向けた具体的作業方針に関する議論
第２回　修士論文作成の方針に関する議論
第３回　修士論文部分作成に関する独創的な研究側面に関する議論
第４回　修士論文作成に関する統計的手法に関する議論
第５回　修士論文作成に関する先行研究の選定
第６回　修士論文作成に関する先行研究の精読･報告
第７回　修士論文作成に関するデータベース構築に関する議論
第８回　修士論文イントロ部分執筆作業状況に関する経過確認
第９回　修士論文作成に関する発展作業に関する議論
第10回　修士論文作成に関する先行研究の増補･選定
第11回　修士論文作成に関する統計的手法に関する検討
第12回　修士論文作成に関する実務的含意に関する議論
第13回　修士論文データベース作成作業状況に関する経過確認
第14回　a　修士論文の、既に執筆した内容に関する講評
　　b　修士論文作成に関する進捗状況の総括・今後の計画

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

　『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
　『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
　『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）
　『新　証券投資論Ⅰ、Ⅱ』小林他著　日本経済新聞出版社

参考書

　使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN662J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要
　修士学位論文作成に向けて必要な金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。
到達目標
　金融取引論分野における修士論文作成に資すると思われる知識を取得し、修士学位論文を作成する。

授業内容

第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文部分作成に向けた具体的作業方針に関する再確認
第２回　修士論文の題目･仮説設定に関する最終確認
第３回　修士論文部分作成に関する独創的な研究側面に関する再確認
第４回　修士論文作成に関する統計的手法に関する再確認
第５回　修士論文作成に関する先行研究の再検索･増補
第６回　増補した修士論文作成に関する先行研究の精読･報告
第７回　修士論文作成に関するデータベース構築に関する最終確認
第８回　修士論文執筆状況に関する経過確認
第９回　修士論文作成に関するさらなる発展作業に関する議論
第10回　修士論文作成に関する先行研究の最終確認
第11回　修士論文作成に関する統計的手法に関する最終確認
第12回　修士論文作成に関する実務的含意に関する最終確認
第13回　修士論文作成に関する進捗状況の総括･反省
第14回　a　修士論文完成版に関する最終的な講評
　　b　修士学位請求に関する面接に向けた準備

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

　『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
　『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
　『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）
　『新　証券投資論Ⅰ、Ⅱ』小林他著　日本経済新聞出版社

参考書

　使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
貨幣、哲学に関して、学術研究を深め、修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは、企業への就職、キャリアアップ、お金稼ぎ、金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり、抽象的数式モデルをも駆使して、現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き、貨幣とは何か、などを、抽象的、根源的に考察する。
注意すべきは、当科目は、金融実務のノウハウや知識を伝えるものでは決してない。また、当科目は、金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論、総論では決してない。当科目は、他の専門講義と並列に、独立に、貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。初学者向けの概論などは、一切行わない。初学者向けレベル、概論レベルは、経済、商、経営学部の学部課程(Undergraduate)で、すでに習得しておくべきものであるからである。
また、当該分野以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務(金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論)や、企業金融(コーポレート・ファイナンス論)、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN-TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング、開発金融、開発経済学系、DSGE「なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか？」「なぜ国によって経済成長率は異なるのか？」「デール理論、ソーシャル・ビジネス、ソーシャル・ファイナンス等にも一切対応しない。該当する他大学、他の研究室へ行くこと。
その理由は、学部と違って、大学院での専門科目は極めて厳格なものだからである。大学院レベルでは、金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。学生個がビジネスの専門細目を、事前に十分調査し、慎重に指導教員を選択しないといけない。
本クラスは、ワンセメスター一気呵成に、学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読(戦前、敗戦直後)も行うので、一部、縦書き、旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は、企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しない。初学者が教員から広く浅く、物知りと知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間で済む学士入学、編入学の形で学部(undergraduate)の金融専攻をやること。研究型大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば、古典＝クラシックである。それこそが、学問研究の道なのだ。研究大学院は、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識をやる場ではない。
研究型大学院では、授業時間以外も、自立的に自分で自主的に研究活動を行うものだ。
もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは、良し悪しでも上下でもなく、タイプの違いであり、教育機関としての目的が全く異なるということなので、自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また、私の場合、学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部教育のようなディベート教育も、大学院では一切行わない。学部ゼミの聴講・見学・参加も、院生は一切許されない。学部教育と大学院教育のシラバスを厳密に区別して読んで、必ず大学院部分のみのシラバスでお願いを判断すること。
(授業の到達目標)
純粋学問としての貨幣哲学について、学部上級レベルを前提・踏み台に始めて、自分で自立的に研究活動ができるように、学問内容を大学院レベルで自身で理解・解説できるようになること。

授業内容

ネオとポジ、Robertsonを通じて浮き彫りになるJM Keynes貨幣理論の革新性、天才性
第１回　貨幣哲学への扉
第２回　D. H. Robertson　実物的景気循環論
第３回　D. H. Robertson　ホートレー貨幣的循環論との論争
第４回　D. H. Robertson　RBCとの根本的違い
第５回　D. H. Robertsonの貨幣論
第６回　D. H. RobertsonのThe Quantity Theory of Money
第７回　D. H. Robertson Saving≧Hoardingの違い
第８回　D. H. Robertsonの貨幣論者のデフレ効果
第９回　D. H. Robertsonの生産性向上のデフレ効果
第10回　D. H. Robertson JMKeynes「貨幣論」をめぐる論争
第11回　D. H. Robertson不換＋貨幣発行理論ICLと保蔵のラッキングへの転化
第12回　D. H. Robertson Saving and Hoarding（1933）
第13回　D. H. Robertson JMKeynes GT解釈
第14回　a：D. H. Robertson3.4不況調整の先駆者か？
　　b：試験
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったこと、現実性に問題があり、シラーにしても、指標を変革、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を修正したわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦間期の貯蓄と投資の問題に遡ってそれらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてきてしまった。より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
※院生の学習、進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

注意すべきは、当科目は、金融実務のノウハウや知識を伝えるものでは決してない。この科目は、金融の概論ではない。また、当科目は、院生の割り当て箇所のレジュメ(要約)作成と発表によって進められる。発表の講義は行わない。受講生は割り当てられた箇所についての報告が全員に課される。また、当科目は、金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論、総論、易しい科目では決してない。当科目は、他の専門講義と並列に、独立に、貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。
必須前提として、Prerequisites and Registration Requirementsとして、学部上級レベル(Advanced Level)の金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学理学部卒業生については、学部での金融総論A、B、金融論A、Bも必須の前提とする。
初回に、上記、経済学、統計学、経済数学の履修・理解度状況、卒業論文の内容について、アンケート調査を行う。
大学院では、経済理論A(ミクロ経済学)、経済理論B(マクロ経済学)、計量経済学A、B の単位取得を必須とする。1年生の場合は、同時履修を義務づける。金融は、経済学の応用分野だからである。
日本の研究大学院のスタイルとして、教材は、基本的に英語となる。しかし、教室での議論やレジュメは、日本語で行う。英語の教材を読解・要約して、日本語レジュメを作る能力が必要である。
学問的研究の第一次史料(戦前、敗戦直後)の実際の解読を行うので、一部、縦書き、旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は、輪番報告形式、日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。毎回、学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように、しっかりと予習をする義務がある。
また、授業中個人の場合もしっかりと、自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと、よく理解できない。報告者が他人の場合も、しっかりと、毎回の予習と復習が必須である。毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。その場に居ても、毎回、予習を反映した有効な発言をしない人と欠席にカウントする。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え、理論のみに集中し、金融の制度的側面、国際比較、金融政策論、実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・金融政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは、それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本に留学する必要性が全くない。今やインターネットで、日本銀行の金融政策の資料、総裁談話総裁の発言や講演録や金融研究所の論文や資料のほとんどは居ながらにして手に入る。母国で早く研究を始めて、一刻も早く母国に貢献してほしい。
このクラスでは、純粋学問的なことしか行わない。実践的な学部ゼミ(演習)や独立大学院の明治ビジネススクールの授業の聴講は一切出来ない。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように、しっかりと予習をする義務がある。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

"Banking Policy and Price Level" D. H. Robertson.（P. S. King & Son）.

参考書

研究大学院では、何か一冊テキスト的参考書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した論文の参考文献一覧に載っている論文文献を手づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。
コロナ不況を経て、次の本より、大学院生の就職は厳しさを増しているが、将来情報の先取りとして。
『文系大学院をめぐるトリレンマ』吉田 文 編著、(玉川大学出版部)、2020年。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、以後の講義で講評を行う。

成績評価の方法

期末試験50%、Term Paper（期末論文）30%、上記授業での積極的発言の貢献度評価20%。
期末試験は、最終評価は100分のノート・参考書・教科書、電子機器持ち込み不可の筆記試験となります。日本語論述式の予定。過去問公開はない。山を張って、実質勉強しないものが出てくるからである。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ席に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしない人と出席していたことはみなさない。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニック や病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)
Term Paperの論文の提出は、単なるレポートではなく、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、論文を書くのが仕事」である。
学問的大学院では、講義に身を置いて、単位が取れればよいというものではなく、受身で人から知識を与えられることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは、自ら、調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、読者を説得する執筆活動すべてを含む。
期末論文necessitは日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの個別研究論文(これ自体の期末論文としては認められる。
論文とは、あなた自身で研究内容を理解し、何かのオリジナルな発見が理解されている上に、初読者でも内容が理解できるように、論理の段階を踏んで、わかりやすく説明しないといけない。
注意点として、当研究室では、期末論文やレポートは、国際標準のLaTEX で清書して最終的に提出しなければならない。他のソフトではダメである。
理由は、LaTeXは、Windowsでも Macでも使えるフリーソフトの組版ソフトであり、数式を正しく表示するには欠かせないソフトであり、アメリカなどの経済大学院コースワークの宿題提出物でも義務化されている国際標準であるからである。LaTeXはアメリカ数学会の公式ツールである。
なぜ、他のソフトではダメかは小島武仁先生がスタンフォード大学の教員時代に書いた記事を参照してください。
https://toyokeizai.net/articles/-/50865?page=3
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にした引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。大学院は出典を学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー&ペースト）、生成系AIの差出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、(Plagiarism［プレイジャリズム］:盗用・剽窃)は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績がF（不可）になります。
「」でくくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧しているときから、ワープロソフト、Wikipedia、ブラウザのブックマークをこまめにとっておくことを強くおススメします。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたことを、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然となっていて、自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしてもバレないだろう！と思っていても、ネットにバレます。なぜなら、現代では先行論文のコピペレベルをチェックしてくれるコンピュータソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学院、高校までの、ただ単に調べ上げたことを記すレポートとは、それについてのあなたなりの見解や意見や新たなる「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは膨大なものです。

その他

大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく、それこそが、学問研究の道なのだ。
研究大学院は、決して、手っ取り早く、就職や現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って、大学院は研究者や教育者を養成する場であり、大変厳しいものになることを覚悟すべきである。大学院は、訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。学部と違って、普段遊んだり、アルバイトをしている暇はない。大学院では、教員は「鬼」と化す。
大学院のクラスは全て、その専門分野（経済学部、あるいは金融学科）の主要8科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており、クラスでは、基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように、実務に役立つ基準で、広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では、真理追求を目的に、自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは、教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間の編入学、学士入学の学部(Undergraduate)の金融専攻をやるべきである。研究大学院の院生は、学部の少人数演習(ゼミ、Limited Membership)を聴講、見学、参加は一切できない。
<u>この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。</u>
本校のような研究型大学院とビジネススクールは、良し悪しではなく、目的が全く異なるのだ。ビジネススクールなら、現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ、初学者でも OK、概論の講義が展開されるのだ。
なお、日本では、いわゆるイブニングスクールとして夜や土曜日曜でも盲得できるビジネススクールが多いが、教授陣も優れており、大手金融機関、大企業の優秀な社員なども多く、盛学してくるので、アジア諸国とは逆に、日本では、イブニングスクールの地位は高いので、誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科、専門職大学院としてビジネススクールがあるので、進路をよく考えること。
学部と違い、大学院は「どこでも入れば、なんとかなる」という考え方は全くの間違いだ。大学の専攻選択とピンポイントの詳細な指導教員選びなどの進路戦略を事前に、十分にしっかりと立てること。
なお、上記書いた理由により、この科目は、実務家志望者や実務経験者には向かない科目ですので、ご注意ください。情報の事前開示によって、適切な優み分けをしたいものです。研究大学院だと各科目の範囲は想像以上に狭いものです。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小原　英隆

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
貨幣、哲学に関して、学術研究を深め、修士論文を書きはじめる基礎レベルがための論文講読訓練を行う。貨幣哲学とは、企業への就職、キャリアアップ、お金稼ぎ、金融実務とは無関係の純粋学問的分野であり、抽象的数式モデルをも駆使して、現代貨幣経済の根源をなす貨幣の働き、貨幣とは何か、などを、抽象的、根源的に考察する。
注意すべきは、当科目は、金融実務のノウハウや知識を伝えるものでは決してない。また、当科目は、金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論、総論では決してない。当科目は、他の専門講義と並列に、独立に、貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。初学者向けの概論などは、一切行わない。初学者向けレベル、概論レベルは、経済、商、経営学部の学部課程(Undergraduate)で、すでに習得しておくべきものであるからである。
また、当該分野以外のファイナンス分野一般、証券分析一般、金融実務(金融政策論、金融機関論・銀行論や契約理論)や、企業金融(コーポレート・ファイナンス論)、企業のデータ分析、ベンチャー起業、FIN-TECH、電子マネー、キャッシュレス決済、中央銀行デジタル通貨、仮想通貨、ESG投資、環境と金融、ファクタリング等にも、一切、対応しない。他の該当科目を受講すること。その理由は、学部と違って、大学院での教員ごとの専門細目は極めて厳格なものだからである。大学院レベルでは、金融一般何でも対応してくれというわけにはいかない。学生個がビジネスの専門細目を、事前に十分調査し、慎重に指導教員を選択しないといけない。
本クラスは、ワンセメスター一気呵成に、学問的歴史研究の原資料の研究手法の訓練も行う予定である。学問的研究の第一次史料の実践的解読(戦前、敗戦直後)も行うので、一部、縦書き、旧かな遣いの日本語が読めることを必要とする。
研究型大学院の本研究室は、企業への就職やキャリアアップや金儲けのためのことは一切しない。初学者が教員から広く浅く、物知りと知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間で済む学士入学、編入学の形で学部(undergraduate)の金融専攻をやること。研究型大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。音楽でいえば、古典＝クラシックである。それこそが、学問研究の道なのだ。研究大学院は、決して、手っ取り早く、現代にすぐ役立ちそうな知識をやる場ではない。
研究型大学院では、授業時間以外も、自立的に自分で自主的に研究活動を行うものだ。
もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないタイプの人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行くしかない。この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。ビジネススクールと研究型大学の根本的な違いは、良し悪しでも上下でもなく、タイプの違いであり、教育機関としての目的が全く異なるということなので、自分の目的に合う方を選択しなければならない。
また、私の場合、学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部教育のようなディベート教育も、大学院では一切行わない。学部ゼミの聴講・見学・参加も、院生は一切許されない。学部教育と大学院教育のシラバスを厳密に区別して読んで、必ず大学院部分のみのシラバスでお願いを判断すること。
(授業の到達目標)
純粋学問としての貨幣哲学について、学部上級レベルを前提・踏み台に始めて、自分で自立的に研究活動ができるように、学問内容を大学院レベルで自身で理解・解説できるようになること。

授業内容

第１回　貨幣論史理論への扉　流行理論にとらわれず、考える。
第２回　Parsson研究序説。
第３回　物価変動の理論
第４回　ハイパー現象発生の理論
第５回　ハイパー現象の歴史：WWI後ドイツ
第６回　ハイパー現象の歴史：アメリカ南北戦争期
第７回　貨幣的現象：1970年代アメリカ
第８回　The Beginning of the Money貨幣の死とは
第９回　貨幣的現象：ハンガリー
第10回　貨幣的現象：アルゼンチン
第11回　貨幣的現象：ブラジル
第12回　貨幣的現象：ジンバブエ
第13回　貨幣的現象：WWII後
第14回　a：貨幣とは　始原的意味を探る
　　b：試験
※本クラスでは、マクロ経済理論のいわゆる主流派理論、DSGEについては一切やらない。主流派は、精緻な理論ではあるが、ロバート・シラー以外、世界金融危機を全く予見できなかったこと、現実性に問題があり、シラーにしても、指標を変革、開発、実用化しただけで、マクロ理論体系を修正したわけではない。本クラスでは、異端派ではあるが、実はいろいろな新しい着想があった戦間期の貯蓄と投資の問題に遡ってそれらはマクロ経済学の流行の中で忘却されてきてしまった。より現実的な貨幣理論を探求する。**主流派を手っ取り早く学びたい院生は、日本、世界至る所で行われているので、該当する他大学、他の研究室へ行くこと。**
※院生の学習、進捗状況によって、内容が異なってくることがあります。

履修上の注意

金融理論特論A(小原)の履修を必要条件とする。
注意すべきは、当科目は、金融実務のノウハウや知識を伝えるものでは決してない。この科目は、金融の概論ではない。また、当科目は、院生の割り当て箇所のレジュメ(要約)作成と発表によって進められる。発表の講義は行わない。受講生は割り当てられた箇所についての報告が全員に課される。また、当科目は、金融・証券系列全般の科目の基礎知識を提供するものでは決してないことである。概論、総論、易しい科目では決してない。当科目は、他の専門講義と並列に、独立に、貨幣理論の高度な専門的内容を研究する。
必須前提として、Prerequisites and Registration Requirementsとして、学部上級レベル(Advanced Level)の金融論、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、統計学の知識を前提とする。数学（ファイナンスのための数学とも異なる）の知識を前提として要求する。本学理学部卒業生については、学部での金融総論A、B、金融論A、Bも必須の前提とする。
初回に、上記、経済学、統計学、経済数学の履修・理解度状況、卒業論文の内容について、アンケート調査を行う。
大学院では、経済理論A(ミクロ経済学)、経済理論B(マクロ経済学)、計量経済学A、B の単位取得を必須とする。1年生の場合は、同時履修を義務づける。金融は、経済学の応用分野だからである。
日本の研究大学院のスタイルとして、教材は、基本的に英語となる。しかし、教室での議論やレジュメは、日本語で行う。英語の教材を読解・要約して、日本語レジュメを作る能力が必要である。
学問的研究の第一次史料(戦前、敗戦直後)の実際の解読を行うので、一部、縦書き、旧かな遣いの日本語文書が読めることを必要とする。
教室での議論は、輪番報告形式、日本語で行われる。演習は学究者同士が事前に十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、知恵を出し合い、そのコラボレーションで、皆が成長できる場となる。毎回、学生がレジュメを作ってきての発表プレゼンテーションの訓練、報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加が義務となる。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。
大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように、しっかりと予習をする義務がある。
また、授業中個人の場合もしっかりと、自ら数式や論理をノートに手で書いて確認しないと、よく理解できない。報告者が他人の場合も、しっかりと、毎回の予習と復習が必須である。毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。その場に居ても、毎回、予習を反映した有効な発言をしない人と欠席にカウントする。
修士課程（博士前期課程）ではまず理論モデルの力をつけることが第一と考え、理論のみに集中し、金融の制度的側面、国際比較、金融政策論、実証データ分析等は一切取り扱わない。
あなたの母国の金融制度・金融政策・インフレ等についても一切取り扱わない。それらは、それらに詳しいあなたの国の経済学者のもとで研究すべき課題だ。日本に留学する必要性が全くない。今やインターネットで、日本銀行の金融政策の資料や外国の論文や資料のほとんどは居ながらにして手に入る。母国で早く研究を始めて、一刻も早く母国に貢献してほしい。
また、私の場合、学部と大学院での教育方針・内容が全く異なる。学部教育のようなディベート教育も、大学院では一切行わない。学部ゼミの聴講・見学・参加も大学院生は許されない。学部教育と大学院教育のシラバスを厳密に区別して読んで、必ず大学院部分のみのシラバスでお願いを判断すること。
このクラスでは、純粋学問的なことしか行わない。実践的な学部ゼミ(演習)や独立大学院の明治ビジネススクールの授業の聴講は一切出来ない。

準備学習（予習・復習等）の内容

大学院での演習は学究者同士が事前に上記読当の回の教科書、論文を十分な予習をしてきたうえで、リアルタイムに面と向かって、ディスカッションする。報告者以外も質疑応答ディスカッションへの積極的参加できるように、しっかりと予習をする義務がある。また、授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

"The Dying of the Money" Jens O. Parsson.（Wellspring Press).
日本語翻訳なし。

参考書

研究大学院では、何か一冊テキスト的参考書を読めば良いわけではない。この記入枠に入る範囲内、字数で少数の本を特に指定はしないが、研究型大学院では、院生が、使用した教科書、参考書、論文の参考文献一覧に載っている論文文献を手づる式に、膨大な量、読み、内容を習得する必要がある。
コロナ不況を経て、次の本より、大学院生の就職は厳しさを増しているが、将来情報の先取りとして。
『文系大学院をめぐるトリレンマ』吉田 文 編著、(玉川大学出版部)、2020年。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、以後の講義で講評を行う。

成績評価の方法

期末試験50%、Term Paper（期末論文）30%、上記授業での積極的発言の貢献度評価20%。
期末試験は、最終評価は60分のノート・参考書・教科書、電子機器持ち込み不可の筆記試験となります。日本語論述式の予定。過去問公開はない。山を張って、実質勉強しないものが出てくるからである。
毎回出欠をとり、一回でも正当な事由のない欠席をした学生は、即Fとなる。ただ席に居て出席していても、毎回、予習を反映した有効な発言をしない人と出席していたことはみなさない。
(正当な事由とは、病欠、やむを得ない電車の遅延、忌引きなどに限られる。病欠の場合は、証拠として、次のクラスの際に、クリニック や病院のレシートを提出すること。電車の遅延は遅延証明書、忌引きの場合はお葬式の案内状などの事後提示が必要である。)
Term Paperの論文の提出は、単なるレポートではなく、きちっとした「論文」である必要がある。院生は、論文を書くのが仕事」である。
学問的大学院では、講義に身を置いて、単位が取れればよいというものではなく、受身で人から知識を与えられることではなく、自ら研究活動を行い、研究論文を書くことが仕事である。研究活動とは、自ら、調査探求、思考、考察、取りまとめ整理、読者を説得する執筆活動すべてを含む。
期末論文necessitは日本の他大学院や欧米の大学院では常識である。ただし、論文テーマは、授業科目に関連したテーマに限られ、教員の承認が必要。この科目と関係がないテーマの個別研究論文(これ自体の期末論文としては認められる。
論文とは、あなた自身で研究内容を理解し、何かのオリジナルな発見が理解されている上に、初読者でも内容が理解できるように、論理の段階を踏んで、わかりやすく説明しないといけない。
注意点として、当研究室では、期末論文やレポートは、国際標準のLaTEX で清書して最終的に提出しなければならない。他のソフトではダメである。
理由は、LaTeXは、Windowsでも Macでも使えるフリーソフトの組版ソフトであり、数式を正しく表示するには欠かせないソフトであり、アメリカなどの経済大学院コースワークの宿題提出物でも義務化されている国際標準であるからである。LaTeXはアメリカ数学会の公式ツールである。
なぜ、他のソフトではダメかは小島武仁先生がスタンフォード大学の教員時代に書いた記事を参照してください。
https://toyokeizai.net/articles/-/50865?page=3
引用のルールについても守らないと、単位や学位は与えられない。論文を書く際には、たくさんの資料や文献を参考にした引用します。その際に絶対に忘れてはならないのが、出典を明記することです。大学院は出典を学部以上に厳格に重視します。他人の文章や語句や、Webサイトからの無断引用（コピー&ペースト）、生成系AIの差出物を写したり、出典を記さないで自分の論文に引用することや、引用符を振らないで自分の考え方のように書くこと、(Plagiarism［プレイジャリズム］:盗用・剽窃)は、すべて学問的違法行為です。
剽窃行為Plagiarismが発覚すれば、ペーパーだけでなくその科目の成績がF（不可）になります。
「」でくくって引用を明示と言っても、あまりに長い文章を引用、引用ばかりのタームペーパーも0点、不可とする。剽窃行為をしないためには、資料をいろいろ閲覧しているときから、ワープロソフト、Wikipedia、ブラウザのブックマークをこまめにとっておくことを強くおススメします。
論文では、ここまでが、先行研究で明らかにされたこと、ここから先が自分で考えたことを、読者に明確にわかるように、区別して書かないといけない。悪い例：なんか、もういっぱい読んで、混然となっていて、自分の考えとして発表してしまおうも、学問的不正行為である。
剽窃をしてもバレないだろう！と思っていても、ネットにバレます。なぜなら、現代では先行論文のコピペレベルをチェックしてくれるコンピュータソフトが備わっているからだ。
論文とは、日本の大学院、高校までの、ただ単に調べ上げたことを記すレポートとは、それについてのあなたなりの見解や意見や新たなる「問い」問題意識を論理的に述べる必要があります。
ただ言いっぱなしではなく、それらの見解や意見には、必ず「なぜなら～」という裏づけが伴わなければなりません。論文作成に費やす時間とエネルギーは膨大なものです。

その他

研究型大学院は、学問の世界・研究の世界であり、慎重な真理追求のために、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究する。自発的に自分で研究を深めてゆく、それこそが、学問研究の道なのだ。
研究大学院は、決して、手っ取り早く、就職や現代にすぐ役立ちそうな知識や金儲けをやる場ではない。もし、あなたが、「古臭い」偉い学者の説の検討や古い経済の歴史を研究することに意義を感じられないような人の場合は、ビジネススクール（経営大学院）に行ってください。
学部と違って、大学院は研究者や教育者を養成する場であり、大変厳しいものになることを覚悟すべきである。大学院は、訓練・修業の場である。決して学部の延長線上ではない。仕事として研究活動を行う容赦なく厳しい修業の日々である。学部と違って、普段遊んだり、アルバイトをしている暇はない。大学院では、教員は「鬼」と化す。
大学院のクラスは全て、その専門分野（経済学部、あるいは金融学科）の主要8科目くらいで学部上級レベルの予備知識のあることと毎回の予習・報告が前提となっており、クラスでは、基本的に院生の発表と議論しか行わない。
学部時代の講義やビジネススクールのように、実務に役立つ基準で、広く概論的基礎知識を一方的に与えられる場ではないことを心得よ。研究型大学院では、真理追求を目的に、自発的に自分で研究を深めてゆく。
研究型大学院のクラスは、教員から広く浅く、効率よく知識を得る場では断じてない。それを求める人は、ビジネススクール（経営大学院）に行くか、1～2年間の編入学、学士入学の学部(Undergraduate)の金融専攻をやるべきである。研究大学院の院生は、学部の少人数演習(ゼミ、Limited Membership)を聴講、見学、参加は一切できない。
この研究型大学院の院生は、ビジネススクールの授業や演習を一切聴講できない。実践的なビジネススクールの授業を受けたければ、最初からビジネススクールの入試で入学すること。
本校のような研究型大学院とビジネススクールは、良し悪しではなく、目的が全く異なるのだ。ビジネススクールなら、現代の実務の必要なところだけの知識が効率的に与えられ、初学者でも OK、概論の講義が展開されるのだ。
なお、日本では、いわゆるイブニングスクールとして夜や土曜日曜でも盲得できるビジネススクールが多いが、教授陣も優れており、大手金融機関、大企業の優秀な社員なども多く、盛学してくるので、アジア諸国とは逆に、日本では、イブニングスクールの地位は高いので、誤解のないようにすること。明治大学にも独立研究科、専門職大学院としてビジネススクールがあるので、進路をよく考えること。
学部と違い、大学院は「どこでも入れば、なんとかなる」という考え方は全くの間違いだ。大学の専攻選択とピンポイントの詳細な指導教員選びなどの進路戦略を事前に、十分にしっかりと立てること。
なお、上記書いた理由により、この科目は、実務家志望者や実務経験者には向かない科目ですので、ご注意ください。情報の事前開示によって、適切な優み分けをしたいものです。研究大学院だと各科目の範囲は想像以上に狭いものです。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
金融論・貨幣理論の基礎理論を学修する。具体的には、貨幣、貨幣と財政の関係、情報、裁量的政策と動学的不整合性、賃金の下方硬直性、ニューケインジアン・モデル、開放経済下の金融政策、金融市場と金融政策、近年の金融政策などを扱う。関連する学術論文を自力で理解できるようになることを目標とする。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　準備(1)
第３回　準備(2)
第４回　準備(3)
第５回　準備(4)
第６回　準備(5)
第７回　準備(6)
第８回　Evidence on Money, Prices, and Output
第９回　Money-in-the-Utility Function（1）
第10回　Money-in-the-Utility Function（2）
第11回　Money-in-the-Uitlity Function（3）
第12回　Money and Transactions（1）
第13回　Money and Transactions（2）
第14回　Money and Transactions（3）

履修上の注意
事前に教科書の該当チャプターを予習する必要がある。また、学部程度の数学、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習は各自で行うことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉安藤至大(2013)『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉二神孝一(2017)『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社.
福田慎一・照山博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ.
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣.

教科書
Carl Walsh. Monetary Theory and Policy, fourth edition (The MIT Press), 2017

参考書
Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom, Andrés Carvajal(2021)“Essential Mathematics for Economic Analysis”, Pearson.
尾山大輔・安田洋祐(2013)『改訂版 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』日本評論社
門川和男 (2019)『【改訂版】よくわかる経済数学入門講義<上>静学分析編』学術研究出版
門川和男 (2018)『よくわかる経済数学入門講義〈下〉動学分析編』学術研究出版
中田真佐男 (2011)『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(30%)と期末定期試験(70%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標
金融論・貨幣理論の基礎理論を学修する。具体的には、貨幣、貨幣と財政の関係、情報、裁量的政策と動学的不整合性、賃金の下方硬直性、ニューケインジアン・モデル、開放経済下の金融政策、金融市場と金融政策、近年の金融政策などを扱う。関連する学術論文を自力で理解できるようになることを目標とする。

授業内容
第１回　Money and Public Finance（1）
第２回　Money and Public Finance（2）
第３回　Informational and Portfolio Rigidities
第４回　Discretionary Policy and Time Inconsistency（1）
第５回　Discretionary Policy and Time Inconsistency（2）
第６回　Nominal Price and Wage Rigidities
第７回　New Keynesian Monetary Economics（1）
第８回　New Keynesian Monetary Economics（2）
第９回　New Keynesian Monetary Economics（3）
第10回　Monetary Policy in the Open Economy（1）
第11回　Monetary Policy in the Open Economy（2）
第12回　Financial Markets and Monetary Policy
第13回　The Effective Lower Bound and Balance Sheet Policies
第14回　Monetary Policy Operating Procedures

履修上の注意
事前に教科書の該当チャプターを予習する必要がある。また、学部程度の数学、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習は各自で行うことが求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉安藤至大(2013)『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉二神孝一(2017)『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社.
福田慎一・照山博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ.
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣.

教科書
Carl Walsh. Monetary Theory and Policy, fourth edition (The MIT Press), 2017

参考書
Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom, Andrés Carvajal(2021)“Essential Mathematics for Economic Analysis”, Pearson.
尾山大輔・安田洋祐(2013)『改訂版 経済学で出る数学: 高校数学からきちんと攻める』日本評論社
門川和男 (2019)『【改訂版】よくわかる経済数学入門講義<上>静学分析編』学術研究出版
門川和男 (2018)『よくわかる経済数学入門講義〈下〉動学分析編』学術研究出版
中田真佐男 (2011)『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
小テスト(30%)と期末定期試験(70%)で評価する。

その他
講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
日本の金融制度等に焦点を当てる。日本の金融制度に加えて，金融システムや金融規制，決済制度を理解することを目標とする。また，日本の金融制度等に関するレポートを作成できるようにする。

【授業の概要】
新しい金融の流れから始まり，金融制度改革や日本版ビッグバン，決済システム，銀行規制，決済制度をみていく。現実の金融問題（米国のサブプライム問題，ユーロ圏の財政危機など）などにも触れながら，金融機関と金融システムの関連を考察していく。

授業内容

第１回　イントロダクション:授業の説明，進め方，評価
第２回　新しい金融の流れ(1)　金融のグローバル化
第３回　新しい金融の流れ(2)　金融制度の課題
第４回　日本の金融制度の変遷(1)　90年代半ばまでの特徴
第５回　日本の金融制度の変遷(2)　金融制度改革
第６回　日本の金融制度の変遷(3)　日本版ビッグバン
第７回　日本の決済システム(1)　決済システムの特徴
第８回　日本の決済システム(2)　決済システム改革
第９回　日本の決済システム(3)　日本の決済システム
第10回　日本における銀行監督(1)　金融システムの安定性
第11回　日本における銀行監督(2)　銀行監督規制の国際的調和
第12回　資産価格バブルと不良債権(1)　金融機関の破たん
第13回　資産価格バブルと不良債権(2)　不良債権問題の解決
第14回　日本の金融制度の特徴　金融メカニズム

履修上の注意

金融制度等に関する実態に興味を持つことが重要である。毎回受講生に報告をしてもらい，それをベースに授業をすすめていく。受講生の数や研究テーマ等に応じて，授業内容や教科書を決めるので、最初の講義に必ず出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された教科書と関連論文を熟読すること。

教科書

鹿野嘉昭「日本の金融制度」(東洋経済新報社)

参考書

別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)や授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

【授業の到達目標及びテーマ】
中央銀行と金融政策に焦点を当てる。中央銀行制度や金融政策を理論面と実態面の両方から理解することを目標とする。また，金融政策に関して，データを分析したレポートが作成できるようにする。

【授業の概要】
中央銀行は金融政策や信用秩序維持などの重要な責務を負っている。まず，金融政策や信用秩序などを対象にし，その後，99年以降の日銀によるゼロ金利政策や量的緩和政策，金融政策の国際協調などを考察していく。

授業内容

第１回　イントロダクション:授業の説明，進め方，評価
第２回　中央銀行の機能
第３回　金融政策(1)　目的と手段
第４回　金融政策(2)　波及経路
第５回　金融政策(3)　金融政策のマクロ経済学
第６回　金融政策(4)　金融政策運営
第７回　金融政策(5)　金融調節と短期金融市場
第８回　金融政策(6)　金融機関の資金繰りと資金需給
第９回　金融政策(7)　金融調節の実際
第10回　信用秩序(1)　中央銀行の役割
第11回　信用秩序(2)　プルーデンス政策
第12回　信用秩序(3)　決済システム
第13回　現代の金融政策(1) ゼロ金利政策から量的緩和政策の解除
第14回　現代の金融政策(2) 世界金融危機対応から実質ゼロ金利政策

履修上の注意

理論に加えて，中央銀行制度や金融政策に関する実態に興味を持つことが重要である。毎回受講生に報告をしてもらい，それをベースに授業をすすめていく。受講生の数や研究テーマ等に応じて，授業内容と教科書を決めるので、最初の講義に必ず参加すること。春学期の金融機関論特論Ａに引き続く内容になる可能性が高い。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書と関連論文を熟読すること。

教科書

白川方明「現代の金融政策―理論と実際」(日本経済新聞社)

参考書

別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)や授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標
大学院レベルの計量ファイナンスにおける標準的なテキストを輪読し，議論を行う。本講義の具体的な到達目標は，計量ファイナンスに関する論文の内容を理解するために必要な最低限の基礎知識を得ることである。

授業内容
第１回　予備知識の復習 (1): 確率論，統計学，基礎的なファイナンス理論
第２回　予備知識の復習 (2): 市場効率性
第３回　資産収益率の予測可能性 (1): ランダム・ウォーク仮説
第４回　資産収益率の予測可能性 (2): 長期の依存関係についての検定
第５回　マーケット・マイクロストラクチャー (1): 非同時取引，ビッド・アスク・スプレッド
第６回　マーケット・マイクロストラクチャー (2): 取引データのモデル化
第７回　イベント・スタディ分析 (1): 正常なパフォーマンスの測定のためのモデル
第８回　イベント・スタディ分析 (2): 異常収益率の測定と分析
第９回　資本資産価格モデル (1): 推定と検定のための統計モデル
第10回　資本資産価格モデル (2): 検定の実際
第11回　マルチファクター・モデル (1): 理論的背景
第12回　マルチファクター・モデル (2): ファクターの選択
第13回　現在価値関係 (1): 資産価格，配当，リターンの間の関係
第14回　現在価値関係 (2): 現在価値関係と株価動向

履修上の注意
学部レベルの経済数学，ファイナンス，計量経済学（とりわけ，時系列解析の基礎）に関する知識は前提とします。前提知識のない人については，まず学部レベルの講義を受けるようにして下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容
学部レベルのファイナンスおよび計量経済学の基礎については，以下の文献を用いて事前に学習しておいて下さい。
＜ファイナンス＞
J-P. Danthine and Donaldson, J. (2014) *Intermediate Financial Theory*, Academic Press.
＜計量経済学＞
1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書
Campbell, J., Lo, A., and MacKinlay, C. (1996) *The Econometrics of Financial Markets*, Princeton University Press.

参考書
Hamilton, J. (1994) *Time Series Analysis*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義開始時に前回の講義で課した課題の解説を行う。

成績評価の方法
講義内での発表50%，講義への貢献50%で判断する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標
大学院レベルの計量ファイナンスにおける標準的なテキストを輪読し，議論を行う。本講義の具体的な到達目標は，計量ファイナンスに関する論文の内容を理解するために必要な最低限の基礎知識を得ることである。

授業内容
第１回　春学期の復習 (1): 計量ファイナンスの基礎
第２回　春学期の復習 (2): 資産価格モデル
第３回　多期間均衡モデル (1): 確率的割引ファクター
第４回　多期間均衡モデル (2): パワー型効用関数を用いた消費に基づく資産価格モデル
第５回　多期間均衡モデル (3): 市場の摩擦
第６回　派生証券の価格評価モデル (1): ブラウン運動
第７回　派生証券の価格評価モデル (2): パラメトリックなオプション価格評価モデルの実際
第８回　派生証券の価格評価モデル (3): モンテカルロ・シミュレーションによる経路依存型派生証券の価格評価
第９回　確定利付債券
第10回　期間構造モデル (1): アフィン・イールドモデル
第11回　期間構造モデル (2): 機関構造モデルのデータへの適合
第12回　金融データにおける非線形性 (1): １変数時系列の非線形構造
第13回　金融データにおける非線形性 (2): ボラティリティ変動モデル
第14回　金融データにおける非線形性 (3): ノンパラメトリック推定

履修上の注意
学部レベルの経済数学，ファイナンス，計量経済学（とりわけ，時系列解析の基礎）に関する知識は前提とします。前提知識のない人については，まず学部レベルの講義を受けるようにして下さい。

準備学習（予習・復習等）の内容
学部レベルのファイナンスおよび計量経済学の基礎については，以下の文献を用いて事前に学習しておいて下さい。
＜ファイナンス＞
J-P. Danthine and Donaldson, J. (2014) *Intermediate Financial Theory*, Academic Press.
＜計量経済学＞
1) Stock, J., and Watson, M. (2018) Introduction to Econometrics, The 4th Edition, Pearson.
2) Wooldridge, J. (2019) Introductory Econometrics: A Modern Approach, The 7th Edition, South-Western Pub.

教科書
Campbell, J., Lo, A., and MacKinlay, C. (1996) *The Econometrics of Financial Markets*, Princeton University Press.

参考書
Hamilton, J. (1994) *Time Series Analysis*, Princeton University Press.

課題に対するフィードバックの方法
毎回の講義開始時に前回の講義で課した課題の解説を行う。

成績評価の方法
講義内での発表50%，講義への貢献50%で判断する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

ESGとSGDｓ～機関投資家の役割～

ESG（環境・社会・ガバナンス）投資とSGDｓは現代の必須項目である。機関投資家の投資手法，ESG項目を含めた基準で投資を行うインテグレーションが主流となっている。企業は機関投資家に対するIRやエンゲージメントを積極的に行う必要がある。本稿では機関投資家のESG投資を中心にサステナブルファイナンスについて理解する。環境・社会面に関するファイナンスについて，手法や効果を理解することを目標とする。

授業内容

第１回　ａ：金融・証券市場と機関投資家のガイダンス
第２回　投資資産のリスクとリターン
第３回　アセット・アロケーションと分散投資
第４回　リスクを超えて～責任投資理論～
第５回　ESG投資（１）
第６回　ESG投資（２）
第７回　年金基金のESG投資
第８回　機関投資家とsay on pay
第９回　サステナブルファイナンス（１）
第10回　サステナブルファイナンス（２）
第11回　洗練された投資家と金融危機
第12回　投資コンサルティング会社の役割
第13回　年金基金の意思決定メカニズムとESG投資
第14回　講義全体の振り返り

履修上の注意

事前に配布された教材を熟読し，講義に参加するようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

加藤晃監訳『サステナブルファイナンス』金融財政事情研究会(2020)

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度・貢献度(50%)，レポート課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本講義では，「株主価値極大化」という考え方を基にした金融資本主義と，ステークホルダー資本主義における機関投資家によるESG（Environment, Social, Govermment）投資，エンゲージメント活動などについて理解することを目標とする。

授業内容

第１回　ａ：イントロダクション
第２回　金融市場とコーポレート・ガバナンス
第３回　株式会社概念の変遷
第４回　証券化とコーポレート・ガバナンス
第５回　投資家層の拡大(1)
第６回　投資家層の拡大(2) ―アメリカ社会の変化―
第７回　金融資本主義はアメリカをどのように変えたか？
第８回　機関投資家とESG投資
第９回　欧米における機関投資家のESG投資(1)
第10回　欧米における機関投資家のESG投資(2)
第11回　アジアにおける機関投資家のESG投資
第12回　社会的責任投資とパフォーマンス
第13回　機関投資家のエンゲージメント
第14回　講義全体のふりかえり

履修上の注意

授業中に指示する文献は熟読すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

授業時に指示する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度，貢献度(50%)，レポート課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D. (Economics) 太田　塁		

授業の概要・到達目標
大学院レベルの国際経済学を講義する。国際金融論特論A（春学期）は国際貿易論の基礎理論、国際金融論特論B（秋学期）は国際マクロ経済学の基礎理論を学修することで、国際経済学のモデリングについて理解を深める。国際経済学のテーマの一部しか扱うことができないが、少なくとも学修したテーマについては学術論文が理解できるようになり、また同時に批判的に読むことができようになることが目標である。

授業内容
第１回　ミクロ経済学の復習
第２回　実証分析の復習:自然実験、内生性、差の差の推定
第３回　貿易の利益（１）
第４回　貿易の利益（２）
第５回　貿易の利益（３）
第６回　貿易の利益（４）
第７回　リカードモデル（１）
第８回　リカードモデル（２）
第９回　リカードモデル（３）
第10回　ヘクシャー・オリーンモデル（１）
第11回　ヘクシャー・オリーンモデル（２）
第12回　ヘクシャー・オリーンモデル（３）
第13回　グラビティ・モデル（１）
第14回　グラビティ・モデル（２）

履修上の注意
本講義は学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提として講義する。不安がある履修生は、同時にこれらに関する講義を履修することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
事前に講義ノートを配布するので、簡単で良いので目を通しておくこと。また講義後は課題の提出を求める。

教科書
指定なし。講義ノートを配布する。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
講義内で課題の解説を行う。

成績評価の方法
課題(50%)および期末レポート(50%)によって評価する。
期末レポートについて:
本講義で学んだ内容から、新たな研究テーマを考え、提出する。レポートに必要な項目は、研究タイトル、研究内容、参考文献であり、Ａ４用紙計2 枚以内に収める。テーマの重要性及び、どの理論をどのように用いるか、または、どんなデータでどのように推定方法するかが明確に記述されているほど高く評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	国際金融論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D. (Economics) 太田　塁		

授業の概要・到達目標
大学院レベルの国際経済学を講義する。国際金融論特論A（春学期）は国際貿易論の基礎理論、国際金融論特論B（秋学期）は国際マクロ経済学の基礎理論を学修することで、国際経済学のモデリングについて理解を深める。国際経済学のテーマの一部しか扱うことができないが、少なくとも学修したテーマについては学術論文が理解できるようになり、また同時に批判的に読むことができようになることが目標である。

授業内容
第１回　マクロ経済動学の復習(消費と生産)
第２回　マクロ経済動学の復習(経済成長モデル)
第３回　異時点間取引と経常収支
第４回　小国開放経済動学
第５回　ライフサイクル、租税政策と経常収支
第６回　不確実性と国際金融市場
第７回　実質為替レートと交易条件（１）
第８回　実質為替レートと交易条件（２）
第９回　国際資本移動（１）
第10回　国際資本移動（２）
第11回　グローバルリンケージと経済成長（１）
第12回　グローバルリンケージと経済成長（２）
第13回　金融政策と為替レート（１）
第14回　金融政策と為替レート（２）

履修上の注意
本講義は学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学の知識を前提として講義する。不安がある履修生は、同時にこれらに関する講義を履修することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
事前に講義ノートを配布するので、簡単で良いので目を通しておくこと。また講義後は課題の提出を求める。

教科書
指定なし。講義ノートを配布する。

参考書
講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
講義内で課題の解説を行う。

成績評価の方法
課題(50%)および期末レポート(50%)によって評価する。
期末レポートについて:
本講義で学んだ内容から、新たな研究テーマを考え、提出する。レポートに必要な項目は、研究タイトル、研究内容、参考文献であり、Ａ４用紙計2 枚以内に収める。テーマの重要性及び、どの理論をどのように用いるか、または、どんなデータでどのように推定方法するかが明確に記述されているほど高く評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業の概要
　金融取引（投資・資金調達）の基礎的な理論について学ぶことによって、研究上最低限必要と思われる知識を取得する。資産運用の基礎的理論、日本の資本市場の実態について、基本的な専門書の精読を通じて学習する。
到達目標
　金融取引論の分野で、修士学位論文を作成する上での基礎的な知識を取得する。

授業内容

　具体的な学習内容としては、ポートフォリオ理論、資産評価理論、および比較的最近の投資理論が中心で、必要に応じて、会計・財務諸表分析に関する知識も含む。該当分野で研究テーマを発見することを意識して学習する。数学的知識についても、必要に応じて、同時並行して学習する。
第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文の予定テーマに基づく重要論点についての議論
第２回　資産価格に関する基礎理論(タームストラクチャー)
第３回　資産価格に関する基礎理論(株式評価)
第４回　資産価格に関する基礎理論(債券評価)
第５回　資産価格に関する基礎理論(連続複利)
第６回　ポートフォリオに関する基礎理論(正規分布)
第７回　ポートフォリオに関する基礎理論(ポートフォリオの効率化)
第８回　ポートフォリオに関する基礎理論(ポートフォリオの最適化)
第９回　ポートフォリオに関する基礎理論(パフォーマンス尺度)
第10回　ポートフォリオに関する基礎理論(直近の運用実務)
第11回　デリバティブに関する基礎理論(リスク中立評価)
第12回　デリバティブに関する基礎理論(株式デリバティブ)
第13回　デリバティブに関する基礎理論(債券デリバティブ)
第14回　a　既習内容に関する試問(筆記または口頭)
　　b　諮問に関する講評･復習

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

新　証券投資論Ⅰ　小林･芹田他著　日本経済新聞出版
新　証券投資論Ⅱ　伊藤･諏訪部他著　日本経済新聞出版

参考書

　教科書の内容を補足する内容の文献を適宜指定する。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業概要
　金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。資産運用の基礎的理論、日本の資本市場の実態について、比較的最近の専門書の精読を通じて，学習する。
到達目標
　金融取引論の分野で修士学位論文を作成する目的で、必要な基礎的知識を取得する。

授業内容

　具体的な学習内容としては、企業価値評価理論，および比較的最近の投資理論が中心であり、必要に応じて，会計，財務諸表分析に関する知識も含む。該当分野で研究テーマを発見することを意識して学習する。数学的知識についても、並行して学習する。
第１回　a　イントロダクション
　　b　修士論文の予定テーマに基づく重要論点の確認
第２回　企業価値評価に関する基礎理論(MM理論)
第３回　企業価値評価に関する基礎理論(修正MM理論)
第４回　企業価値評価に関する基礎理論(資本コスト)
第５回　企業価値評価に関する基礎理論(加重平均資本コスト)
第６回　企業価値評価に関する基礎理論(キャッシュフロー分析)
第７回　企業価値評価に関する基礎理論(NOPLAT)
第８回　企業価値評価に関する基礎理論(NPV)
第９回　企業価値評価に関する基礎理論(EVA)
第10回　企業価値評価に関する基礎理論(業種効果と事業評価)
第11回　企業価値評価に関する基礎理論(予想財務諸表の作成)
第12回　企業価値評価に関する基礎理論(予想財務諸表に基づく企業価値評価)
第13回　企業価値評価に関する基礎理論(M＆Aの理論)
第14回　a　既習内容に関する試問(口頭または筆記)
　　b　諮問に関する講評･復習

履修上の注意

　ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

新　証券投資論Ⅰ　小林･芹田他著　日本経済新聞出版
新　証券投資論Ⅱ　伊藤･諏訪部他著　日本経済新聞出版

参考書

　教科書の内容を補足する内容の文献を適宜指定する。

課題に対するフィードバックの方法

　適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

　授業への参加態度･貢献度　50%
　レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

　実務家志望者または実務経験者を特に歓迎する。

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融・証券外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融・証券分野における現代的な諸問題(理論・政策・実態)に関して、英語文献を講読することを通じて、同分野の基本的概念の理解を深めることを目的とする。加えて、外国における金融・証券分野における最新の事情・課題などを把握することを目指す。

授業内容

第１回　金融・証券分野の外国文献の講読(1)
第２回　金融・証券分野の外国文献の講読(2)
第３回　金融・証券分野の外国文献の講読(3)
第４回　金融・証券分野の外国文献の講読(4)
第５回　金融・証券分野の外国文献の講読(5)
第６回　金融・証券分野の外国文献の講読(6)
第７回　金融・証券分野の外国文献の講読(7)
第８回　金融・証券分野の外国文献の講読(8)
第９回　金融・証券分野の外国文献の講読(9)
第10回　金融・証券分野の外国文献の講読(10)
第11回　金融・証券分野の外国文献の講読(11)
第12回　金融・証券分野の外国文献の講読(12)
第13回　金融・証券分野の外国文献の講読(13)
第14回　春学期内容の総括

履修上の注意

担当者による発表、履修者全員による討論という形で進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当者だけではなく、履修者全員が問題意識を持って予習することが必要である。

教科書

最初の授業の際に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や討論などで評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN561J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融・証券外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

金融・証券分野における現代的な諸問題(理論・政策・実態)に関して、英語文献を講読することを通じて、同分野の基本的概念の理解を深めることを目的とする。加えて、外国における金融・証券分野における最新の事情・課題などを把握することを目指す。

授業内容

第１回　金融・証券分野の外国文献の講読(1)
第２回　金融・証券分野の外国文献の講読(2)
第３回　金融・証券分野の外国文献の講読(3)
第４回　金融・証券分野の外国文献の講読(4)
第５回　金融・証券分野の外国文献の講読(5)
第６回　金融・証券分野の外国文献の講読(6)
第７回　金融・証券分野の外国文献の講読(7)
第８回　金融・証券分野の外国文献の講読(8)
第９回　金融・証券分野の外国文献の講読(9)
第10回　金融・証券分野の外国文献の講読(10)
第11回　金融・証券分野の外国文献の講読(11)
第12回　金融・証券分野の外国文献の講読(12)
第13回　金融・証券分野の外国文献の講読(13)
第14回　秋学期内容の総括

履修上の注意

担当者による発表、履修者全員による討論という形で進める。

準備学習（予習・復習等）の内容

発表担当者だけではなく、履修者全員が問題意識を持って予習することが必要である。

教科書

最初の授業の際に指示する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告や討論などで評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

近年では、保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。本演習では、企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論とその実践について学んでいく。特に、企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目していきたい。春学期は日本語の文献を用いるが、これは秋学期に英語の文献を用いて授業を行うための準備に位置づけられる。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　リスクマネジメントの基礎知識(リスクコントロール)
第３回　リスクマネジメントの基礎知識(リスクファイナンス)
第４回　リスクコントロールに関するケーススタディ
第５回　履修者による研究テーマに関する報告
　　第１回(テーマ設定)
第６回　保険概論(1)
第７回　保険概論(2)
第８回　リスク処理手法の高度化
第９回　リスクファイナンスに関するケーススタディ
第10回　リスクとしての企業倫理
第11回　リスクとしての企業倫理　ケーススタディ(日本の事例)
第12回　リスクとしての企業倫理　ケーススタディ(海外の事例)
第13回　履修者による研究テーマに関する報告
　　第２回(進捗状況の報告)
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには、広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち、課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは指定しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の文献は開講時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献状況（70％）ならびに研究報告の実施状況など(30％)により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

近年では、保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。本演習では、企業を中心とした組織におけるリスクマネジメントの理論と実践について学んでいく。特に、企業を取り巻くリスクの一つとして近年その深刻さを増している企業倫理に関わる問題に特に注目していきたい。春学期に日本語文献を用いて習得した基礎知識をもとに、秋学期は英語の文献を用いて授業を行う。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　履修者による研究テーマに関する報告
　　第３回(夏休みの研究進捗報告)
第３回　文献研究(生命保険に関する論文)
第４回　文献研究(損害保険に関する論文)
第５回　文献研究(社会保険に関する論文)
第６回　文献研究(金融に関する論文)
第７回　文献研究(そのほかの業界に関する論文)
第８回　履修者による研究テーマに関する報告
　　第４回(投稿論文の原稿の確認)
第９回　ケースメソッド(保険)
第10回　ケースメソッド(金融)
第11回　ケースメソッド(メーカー)
第12回　ケースメソッド(非営利企業)
第13回　履修者による研究テーマに関する報告
　　第５回(次年度に向けた執筆計画の確認)
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには広範な知識とリスクセンスが欠かせない。幅広い領域に関心を持ち、課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは指定しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の参考書は開講時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況(70％)ならびの研究報告など(30％)により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本演習では、保険やリスクマネジメントに関するテーマでの修士論文作成のための指導を行う。

近年では、保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。しかしながら、この分野の日本における研究は必ずしも十分とは言えない。このため、英文等の外国文献や、実務家による研究をもとに、日本語で修士論文をまとめることができるよう、支援していく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究課題の設定
第３回　研究計画概要の作成
第４回　文献リストの作成
第５回　先行研究等の検討
第６回　分析手法の検討
第７回　生命保険市場の最新動向分析
第８回　損害保険市場の最新動向分析
第９回　リスクマネジメントの最新動向分析
第10回　ERMの最新動向分析
第11回　研究成果の発表のための報告
第12回　研究成果の発表を踏まえた検討
第13回　今後に向けた研究計画の検証
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには、広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち、課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは指定しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の参考書は開講時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの研究報告など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本演習では、保険やリスクマネジメントに関するテーマでの修士論文作成のための指導を行う。

近年では保険に加えた多様なリスクファイナンス手法の開発が進むと同時に、リスクの悪影響を最少にするためのリスクコントロール手法の重要性についての認識が企業を中心に定着してきた。しかしながら、この分野の日本における研究は必ずしも十分とは言えない。このため、英文等の外国文献や、実務家による研究をもとに、日本語で修士論文をまとめることができるよう、支援していく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究計画概要の修正
第３回　和文文献リストの拡充
第４回　欧文文献リストの拡充
第５回　先行研究等の検討
第６回　分析手法の検討
第７回　生命保険市場の最新動向分析
第８回　損害保険市場の最新動向分析
第９回　リスクマネジメントの最新動向分析
第10回　ERMの最新動向分析
第11回　研究成果の発表のための報告
第12回　研究成果の発表を踏まえた検討
第13回　今後に向けた研究計画の検証
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

リスクマネジメントを実践するには、広範な知識とリスクセンスが求められる。幅広い領域に関心を持ち、課題に積極的に取り組んでいく意欲がある者の受講を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

特定のテキストは指定しない。

参考書

・Flangan, F, et. Al. ed., Insurance Ethics for A More Ethical World, Elsevier, 2007.
・中林真理子『リスクマネジメントと企業倫理―パーソナルハザードをめぐって―』(千倉書房，2003年)
その他の参考書は開講時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびに修士論文執筆にむけた報告など（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標
本演習では、経済学のアプローチを用いながらリスク下の意思決定分析として保険需要の問題をあつかいます。海外でスタンダードとなっている分析手法を学びながら、修士論文、博士論文の執筆に向けた基礎知識を習得することを目的とします。これに加えて受講生の関心に合わせて国際ジャーナルに掲載された学術論文の読解もおこないます。

授業内容
第１回：イントロダクション
第２回：分析手法の確認
第３回：１変数関数の微分
第４回：多変数関数の微分
第５回：最適化問題の定式化
第６回：１変数関数を用いた最適化
第７回：多変数関数を用いた最適化
第８回：リスクと不確実性
第９回：期待効用理論と保険需要
第10回：期待効用最大化
第11回：リスク下の選好表現の拡張
第12回：先行研究の選定
第13回：ショートペーパーの作成
第14回：ショートペーパーの報告

履修上の注意
ミクロ経済学の内容について理解していることがのぞましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容
内容については事前に指示するので、十分な予習と復習を必要とします。

教科書
特になし。講義中に適宜指示します。

参考書
Seog, H. S. (2010) The Economics of Risk and Insurance. Wiley.

課題に対するフィードバックの方法
演習問題を課題として提示しますので、それを翌週に報告してフィードバックをおこないます。

成績評価の方法
授業への参加状況（30%）ならびの報告など（70%）により評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標
本演習では、経済学のアプローチを用いながら保険業界の企業間競争の問題をあつかいます。海外でスタンダードとなっている分析手法を学びながら、修士論文、博士論文の執筆に向けた基礎知識を習得することを目的とします。これに加えて受講生の関心に合わせて国際ジャーナルに掲載された学術論文の読解もおこないます。

授業内容
第１回：イントロダクション
第２回：分析手法の確認
第３回：１変数関数の微分
第４回：多変数関数の微分
第５回：最適化問題の定式化
第６回：１変数関数を用いた最適化
第７回：多変数関数を用いた最適化
第８回：ゲーム理論
第９回：企業間競争
第10回：クールノー競争
第11回：シュタッケルベルク競争
第12回：先行研究の選定
第13回：ショートペーパーの作成
第14回：ショートペーパーの報告

履修上の注意
ミクロ経済学（特にゲーム理論）の内容について理解していることがのぞましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容
内容については事前に指示するので、十分な予習と復習を必要とします。

教科書
特になし。講義中に適宜指示します。

参考書
Seog, H. S. (2010) The Economics of Risk and Insurance. Wiley.

課題に対するフィードバックの方法
演習問題を課題として提示しますので、それを翌週に報告してフィードバックをおこないます。

成績評価の方法
授業への参加状況（30%）ならびの報告など（70%）により評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標
本演習では、修士論文執筆に向けた先行研究の選定と課題設定をおこなうことを目的とします。受講生の関心に合わせて国際ジャーナルに掲載された学術論文の読解をおこないながら、課題の立て方と分析手法を確立していきます。

授業内容
第１回：イントロダクション
第２回：文献レビュー①
第３回：文献レビュー②
第４回：文献レビュー③
第５回：文献レビュー④
第６回：文献レビュー⑤
第７回：サーベイ論文の執筆
第８回：分析手法の確認①
第９回：分析手法の確認②
第10回：仮説の構築
第11回：モデルの構築
第12回：先行研究の選定
第13回：ショートペーパーの作成
第14回：ショートペーパーの報告

履修上の注意
ミクロ経済学の内容について理解していることがのぞましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容
内容については事前に指示するので、十分な予習と復習を必要とします。

教科書
特になし。

参考書
Seog, H. S. (2010) The Economics of Risk and Insurance. Wiley.

課題に対するフィードバックの方法
毎回課題として提示しますので、それを翌週に報告してフィードバックをおこないます。

成績評価の方法
授業への参加状況（30%）ならびの報告など（70%）により評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標
本演習では、修士論文執筆に向けた先行研究の選定と課題設定をおこなうことを目的とします。受講生の関心に合わせて国際ジャーナルに掲載された学術論文の読解をおこないながら、課題の立て方と分析手法を確立し、修士論文を執筆していきます。

授業内容
第１回：イントロダクション
第２回：文献レビュー①
第３回：文献レビュー②
第４回：文献レビュー③
第５回：文献レビュー④
第６回：文献レビュー⑤
第７回：文献レビュー⑥
第８回：分析手法の確認①
第９回：分析手法の確認②
第10回：モデルの構築
第11回：分析結果の確認①
第12回：分析結果の確認②
第13回：修士論文の執筆①
第14回：修士論文の執筆②

履修上の注意
ミクロ経済学の内容について理解していることがのぞましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容
内容については事前に指示するので、十分な予習と復習を必要とします。

教科書
特になし。

参考書
Seog, H. S. (2010) The Economics of Risk and Insurance. Wiley.

課題に対するフィードバックの方法
毎回課題として提示しますので、それを翌週に報告してフィードバックをおこないます。

成績評価の方法
授業への参加状況（30%）ならびの報告など（70%）により評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本演習では，保険リスクマネジメント分野で，修士論文，博士論文などを執筆していく上で必要となっていく知識を身につけることを目的としています。受講生のバックグラウンド、関心に応じて、保険分野のテキスト、重要な学術論文，最先端の学術論文を読みこなしていきます。

授業内容
第１回　リスクマネジメントとは
第２回　確率の基礎計算
第３回　保険の原理と保険料の決定
第４回　期待効用仮説と保険市場の
第５回　デリバティブと代替的リスクファイナンス
第６回　現代ポートフォリオ理論と資本資産価格モデル
第７回　資本構成
第８回　企業価値と企業の投資決定
第９回　リスクマネジメントと企業価値
第10回　倒産コストとリスクマネジメント
第11回　資産代替問題とリスクマネジメント
第12回　過少投資問題とリスクマネジメント
第13回　税便益とリスクマネジメント
第14回　経営者のリスク回避性とリスクマネジメント

履修上の注意
学部レベルの保険論，金融論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容
本特論演習内で，計算問題を解くことがあるので，数値が変わっても解けるように復習しておいてもらいたいと思います。

教科書
初回の講義で相談をして決めます。

参考書
柳瀬典由・石坂元一・山崎尚志(2018)「リスクマネジメント」中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
本特論演習への貢献(50%)，報告の内容(50%)

その他
本特論演習の内容は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して柔軟に設定して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM582J			
保険系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本演習では，保険リスクマネジメント分野で，修士論文，博士論文などを執筆していく上で必要となっていく知識を身につけることを目的としています。受講生のバックグラウンド、関心に応じて、保険分野のテキスト、重要な学術論文，最先端の学術論文を読みこなしていきます。

授業内容
第１回　「保険リスクマネジメント」および「金融リスクマネジメント」の収斂
第２回　リスクと効用：経済学概念と意思決定ルール
第３回　モラルハザードと逆選択
第４回　ポートフォリオ理論とリスクマネジメント
第５回　資本市場理論
第６回　デリバティブとオプション
第７回　なぜリスクは企業にとって高くつくのか？
第８回　リスクマネジメント戦略：二重性と大域性
第９回　損失発生後の投資決定と損失の測定
第10回　損失発生後資金調達：調達可能性と機能不全投資
第11回　損失発生後資金調達：流動性と債務再交渉
第12回　コンティンジェント・ファイナンス
第13回　コンティンジェント・レバレッジ戦略とハイブリッド負債
第14回　ヘッジと保険

履修上の注意
学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容
学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。

教科書
初回の講義で相談をして決めます。

参考書
森平爽一郎・米山高生（2011）『統合リスクマネジメント』中央経済社（Neil A. Doherty（2000）“Integrated Risk Management”, McGraw-Hill.）

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
本特論演習への貢献(50%)，報告の内容(50%)

その他
本特論演習は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談しながら柔軟に進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本演習では，修士論文を執筆する上で必要となる手法を身につけることを目的としています。まず，研究課題を見つけるため，学術論文のサーベイの仕方を身につけることを目的としています。また，学術上の課題に対する，仮説について検討します。さらに，学術上の課題に対して，一定の見解を示すため，データを用いた分析の手法についても学習します。

授業内容
第１回　保険･金融分野の学術雑誌
第２回　論文サーベイ結果の報告①
第３回　論文サーベイ結果の報告②
第４回　論文サーベイ結果の報告③
第５回　論文サーベイ結果の報告④
第６回　論文サーベイ結果の報告⑤
第７回　研究課題の検討
第８回　学術的貢献の検討
第９回　仮説の検討
第10回　データの検討
第11回　最小二乗法に関する基本的文献の講読
第12回　最小二乗法の実習
第13回　ロジットモデル，プロビットモデルに関する基本的文献の講読
第14回　ロジットモデル，プロビットモデルの実習

履修上の注意
履修時点で，高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識を身につけておいてもらいたいと思います。また、執筆した論文を海外の学会で報告していく準備として，TOEFL550（PBT），80（iBT）レベルの英語力は、身につけておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容
修士論文を執筆するにあたり，（研究分野にもよりますが）修士論文に関連する論文20本程度，関係する論文まで含めると100本程度の論文を読みこなすことが求められます。特に，保険リスクマネジメント論特論演習ⅡAでは，受講者の研究課題に関する，できる限り多くの文献（主に英文，Top Journal, Field Top Journal, Core Journalに掲載されている学術論文，もしくは引用回数が多く，その分野で核となっている学術論文）を読みこなすことが求められます。

教科書
受講生の研究テーマに応じて指定します。

参考書
特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
サーベイ結果の報告　50%
演習の結果　20%
本演習への貢献　30%

その他
本特論演習は，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して柔軟に進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM682J			
保険系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本特論演習では，修士論文を執筆する上で必要となる技能や手法を身につけます。研究課題について行った分析とその結果，モデルの妥当性と，解釈について検討します。また，それらの結果が，頑健なのかについても検討します。さらに，新規性･独自性･重要性，そして政策的含意についても検討します。

授業内容
第１回　学術論文への投稿，選択，Cover Letter
第２回　相関関係と因果関係
第３回　修士論文の作成と分析結果の検討①
第４回　修士論文の作成と分析結果の検討②
第５回　修士論文の作成と分析結果の検討③
第６回　分析結果の検討（サンプルの分割）
第７回　分析結果の検討（異なる分析手法）
第８回　分析結果の検討（異なるデータ期間）
第９回　分析結果の検討（異なるデータソース，異なる国のデータ）
第10回　分析手法に新規性を求める
第11回　イントロダクションの検討
第12回　政策的含意の検討
第13回　データに新規を求める（アンケート調査の強みと弱み）
第14回　残された課題の検討と今後の研究の展望

履修上の注意
履修時点で，高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識を身につけておいてもらいたいと思います。また、執筆した論文を海外の学会で報告していく準備として，TOEFL550（PBT），80（iBT）レベルの英語力は、身につけておいてもらいたいと思います。

準備学習（予習・復習等）の内容
修士論文を執筆するにあたり，（研究分野にもよりますが）修士論文に関連する論文20本程度，関係する論文まで含めると100本程度の論文を読みこなすことが求められます。特に，保険リスクマネジメント論特論演習ⅡBでは，受講者の研究課題に関する，できる限り多くの文献（主に英文，Top Journal, Field Top Journal, Core Journalに掲載されている学術論文，もしくは引用回数が多く，その分野で核となっている学術論文）を読みこなし，研究課題を設定したうえで，分析を行うことが求められます。

教科書
受講生の研究テーマに応じて指定します。

参考書
特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
分析結果の報告　70%
本演習への貢献　30%

その他
目的に応じて，分析の手法を選択し，それに応じて，分析用のソフトウェア（Eviews, SPSS, Stata, Gretlなど）を利用します。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

経済のグローバル化や金融市場全般にわたる規制緩和の急速な進展により、保険市場をめぐる環境は大きく変化している。そして同時に、社会が複雑に変化するにつれリスクは多様化し、リスク処理手法も日々進化している。この結果、保険制度はリスクに対する経済的保障（補償）を提供する有力な一手法としての存在意義を高め、その有用性は広く認識されている。

本講は保険制度に対する理解を深めることを主目的としている。まずは以下のテーマを中心について、文献講読ならびにディスカッションを行う。その上で、受講者の関心の深い分野を中心にさらに研究を深めていく予定である。

授業内容

第１回　保険とリスクマネジメントに関する文献紹介
第２回　Introduction to Risk and Insurance
第３回　Risk Perception and Reaction
第４回　The Economics of International Trade
第５回　Societal Risk Assessment and Control: Theory and Practice
第６回　Catastrophic Risk Assessment: Natural Hazard
第７回　Catastrophic Risk Assessment: Human Factor
第８回　Societal Risk Management and Changing Demographics
第９回　Regulation of Private-Sector Financial Services
第10回　Public-Sector Economics Security
第11回　The Legal Environment
第12回　Sociocultural Effects on Risk Management
第13回　Introduction to Enterprise Risk Management
第14回　Risk Management and Insurance in a Global Economy: A Future perspective
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

保険に関する基礎的な知識を有していることを前提に講義を行う。開講前に森宮康『ビジュアル保険の基本（新版）』（日経文庫，2003年）等を用いて準備しておくことを希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

Harold Skipper Jr. and W. J. Kwon, Risk Management and Insurance: Perspectives in a Global Economy, Blackwell, 2007.

参考書

・下和田功編『はじめて学ぶリスクと保険』有斐閣、第5版、2024年。
・Herrington, S. E. and Niehaus, G. R., Risk Management and Insurance, 2nd ed., McGraw Hill, 2004.（S. E.ハリントン＝G. R.ニーハウス（米山高生＝箸方幹逸監訳）『保険とリスクマネジメント』東洋経済新報社、2005年）
・水島一也『現代保険経済（第8版）』千倉書房、2006年。
・（公財）損害保険事業総合研究所編、ERM経営研究会『保険ERM経営の理論と実践』金融財務事情研究会、2015年。
・柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』（ベーシックプラス・シリーズ）、中央経済社、2018年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

保険はリスクファイナンスの中心的手法である。そして、保険以外の代替的なリスクファイナンス（Alternative Risk Finance：ARF）手法と比較しより効果的なリスク処理手法を選択すべき局面が近年多くなってきていた。AIを活用してインシュアテックが進展する中で、リスクの証券化をはじめとしたリスクファイナンスのあり方そのものが新たな段階に入っている。

本授業ではまずは文献研究とケーススタディを通じて，現在のリスクマネジメント戦略とはどのようなものか検証していく。

文献研究とケーススタディーを通じて、保険を中心にARFの代表例について学んでいく。具体的には、保険デリバティブ、CATボンド，ファイナイト保険、キャプティブ等について取り上げていく予定である。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　Enterprise Risk Management
第３回　Internal Loss Financial Arrangements
第４回　External Loss Financial Arrangements
第５回　Risk Management for Catastrophes
第６回　Personnel Risk Management
第７回　Political Risk Management
第８回　Intellectual Property and Technology Risk Management
第９回　Insurance in a Global Economy
第10回　Nature and Importance of Insurance
第11回　Life Insurance
第12回　Nonlife Insurance
第13回　Regulation and Taxation in Insurance Markets
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

保険理論特論Aを受講している、または同等の知識を有していることが履修条件である。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については、事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については、文献等で調べておくこと。

教科書

・(公財)損害保険事業総合研究所編、ERM経営研究会『保険ERM経営の理論と実践』金融財務事情研究会、2015年。

参考書

・経済産業省『リスクファイナンス研究会報告書～リスクファイナンスの普及に向けて～』2006年。https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/11958794/www.meti.go.jp/report/downloadfiles/g60630a03j.pdf
・Culp, C. L., Structured Finance and Insurance: The ART of Managing Capital and Risk, Wiley, 2006.
・柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』（ベーシックプラス・シリーズ）、中央経済社、2018年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況（30％）により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標

近年の損害保険市場に関する分析は，商学のみならず，経済学，心理学，工学，法学などの分野と連携しながら多岐にわたるようになっています。本講義では個人の保険需要に焦点を当て，最適な保険需要と政策的インプリケーションを議論します。
講義の到達目標として，
①損害保険の枠組みを用いたリスクと不確実性下における最適行動が分析できるようになること
②社会的にのぞましい損害保険のありかたを示すこと
が挙げられます。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　損害保険のしくみ　リスクと不確実性の記述
第３回　個人の選好
第４回　期待効用理論１　選好の表現と効用関数
第５回　期待効用理論２　期待効用理論の構成
第６回　期待効用理論３　リスクプレミアム
第７回　中間テスト
第８回　最適化１　意思決定問題の定式化
第９回　最適化２　保険の需要行動
第10回　最適化３　ラグランジュ未定乗数法
第11回　不確実性　不確実性下の意思決定問題の定式化
第12回　損害保険のフロンティア１　アノマリー
第13回　損害保険のフロンティア２　確率のゆがみ
第14回　まとめ

履修上の注意

講義中にいくつかの国際誌に掲載された学術論文を指定します。これらについても積極的に読解することが重要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義では数学を用います。入念な復習が必要となります。

教科書

なし。

参考書

Seog (2010) The Economics of Riska and Insurance. Willey and Blackwell.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中の貢献(20%)，中間テスト(40%)，期末テスト(40%)で評価します。

その他

なし。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	損害保険論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（社会経済）藤井　陽一朗		

授業の概要・到達目標

近年の損害保険市場に関する分析は，商学のみならず，経済学，心理学，工学，法学などの分野と連携しながら多岐にわたるようになっています。本講義では情報の役割と，情報の偏在によって生じる問題について議論します。
講義の到達目標として，
①損害保険市場における情報の役割を理解すること
②情報の偏在を解消する提言ができるようになること
が挙げられます。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　損害保険のしくみ　保険者と被保険者
第３回　保険市場　リスクの記述とリスク移転
第４回　期待効用理論１　リスク態度と無差別曲線
第５回　期待効用理論２　公理論的アプローチ
第６回　期待効用理論３　確実同値額
第７回　中間テスト
第８回　モラルハザード１　事前のモラルハザード
第９回　モラルハザード２　事後のモラルハザード
第10回　逆選択　公的保険制度と私的保険
第11回　社会厚生　余剰分析
第12回　情報の価値１　情報の偏在
第13回　情報の価値２　情報の価値
第14回　まとめ

履修上の注意

講義中にいくつかの国際誌に掲載された学術論文を指定します。これらについても積極的に読解することが重要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義では数学を用います。入念な復習が必要となります。

教科書

なし。

参考書

Mas-Colell, Whinston, and Green (1995) Microeconomic Theory. Oxford University Press.
Seog (2010) The Economics of Riska and Insurance. Willey and Blackwell.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中の貢献(20%)，中間テスト(40%)，期末テスト(40%)で評価します。

その他

なし。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

学部レベルの保険関係の科目では，保険の仕組みや制度，保険会社，家計における保険の役割について学習する機会が多いのですが，保険は，企業においても重要な役割を果たしています。「保険リスクマネジメント論特論A・B」では，保険を利用するユーザーの立場，特に，企業の立場から，保険について学習します。
「保険リスクマネジメント論特論A」では，主に，上場企業における，保険の役割について学習します。上場企業において，保険が購入される理由について学習し，その効果について理解できるようになることを目的とします。また，保険以外のリスクマネジメントの方法についても学習します。
受講生のバックグラウンド、関心次第では、重要な学術論文，最先端の学術論文を読み進めていきます。

授業内容

第１回　リスクとその管理
第２回　リスクマネジメントの目的
第３回　リスクの認識と測定
第４回　リスク･プーリングとリスク分散
第５回　個人および企業によるリスク回避とリスクマネジメント
第６回　リスクの保険可能性，契約条項および法理
第７回　リスクマネジメントと株主の富
第８回　企業のリスクマネジメントに影響を与える税，規制および会計に関する諸要因
第９回　リスクの保有または軽減の意思決定
第10回　企業向け保険契約
第11回　デリバティブ契約によるリスクヘッジ
第12回　保険に代替的なリスク移転手段
第13回　顧客，第三者および株主に対する企業の賠償責任
第14回　賠償責任リスクとそのマネジメントに関する問題

履修上の注意

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力があることが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義の予習、復習として、「市場調査論特論A・B」を履修してあること、もしくは同時に履修することが望ましいです。

教科書

初回の講義で相談して決めます。

参考書

スコット･E.ハリントン，グレッグ･R.ニーハウス（箸方幹逸・米山高生監訳）（2005）『保険とリスクマネジメント』中央経済社（Scott Harrington and Gregory R. Niehaus (2004) "Risk Management and Insurance", McGraw-Hill/Irwin）。
柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志（2018）『リスクマネジメント』中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

本講義への貢献度（50%），発表の内容（50%）に基づいて評価します。

その他

授業内容，教科書は例示してありますが，本講義では，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特論B		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標

学部レベルの保険関係の科目では，保険の仕組みや制度，保険会社，家計における保険の役割について学習する機会が多いのですが，保険は，企業においても重要な役割を果たしています。「保険リスクマネジメント論特論A・B」では，保険を利用するユーザーの立場，特に，企業の立場から，保険について学習します。
「保険リスクマネジメント論特論B」では，特に，上場企業に比べて，資金調達が難しい「中小企業の保険・リスクマネジメント」について学習します。中小企業金融における銀行や信用金庫の役割を考慮しながら，保険需要について考察を行います。また，保険以外のリスクマネジメントの方法についても学習します。中小企業において，損害保険や生命保険が，重要な資金調達手段の1つであることを理解できるようになることを目標としています。
受講生のバックグラウンド、関心次第では、重要な学術論文，最先端の学術論文を読み進めていきます。

授業内容

第１回　日本経済と中小企業
第２回　中小企業金融における地方銀行・信用金庫など地域金融機関の役割
第３回　中小企業金融における保険の役割
第４回　リレーションシップバンキングと保険
第５回　信用リスクと保険
第６回　税金と保険
第７回　中小企業が購入している損害保険の特徴
第８回　損害保険会社のアドバイスの有効性
第９回　中小企業と生命保険
第10回　事業承継と中小企業向け保険
第11回　資金制約と生命保険の解約
第12回　全社的リスクマネジメント:事例研究
第13回　分散
第14回　ロス･コントロール

履修上の注意

学部レベルの保険論，コーポレートファイナンス（企業金融論），ミクロ経済学などを履修しておいてもらいたいと思います。高校レベルの微分・積分，行列など，数学の知識も身につけておいてもらいたいと思います。また，英文の学術論文を読むため，TOEFL550（PBT），80（iBT）程度の英語力があることが望ましいです。

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義の予習、復習として、「市場調査論特論A・B」を履修してあること、もしくは同時に履修することが望ましいです。

教科書

本講義では，教科書は指定しません。
主に，海外の学術論文（Journal of Risk and Insurance, Journal of Banking and Finance, Journal of Financial Economics, Financial Management）などに掲載されていて，保険・金融・中小企業金融分野で，重要な学術論文となっている研究をもとにしながら講義を進めます。本講義内では，受講生の研究テーマに基づいて，論文リストを配布します。

参考書

中小企業金融，保険需要分野で，重要な学術論文を読むので，その都度，論文を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

本講義への貢献度（50%），発表の内容（50%）に基づいて評価します。

その他

授業内容，教科書は例示してありますが，本講義では，受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで，相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本講義は、保険とリスクマネジメントに関するサーベイ論文集を用いて、修士論文、博士論文を執筆していく上で、必要となる保険に関する最先端の学術論文を読みこなしていく基礎力を身につけることを目的としています。

授業内容

第１回　Developments in Risk and Insurance Economics: The Past 40 Years
第２回　Higher-Order Risk Attitudes
第３回　Non-Expected Utility and the Robustness of the Classical Insurance Paradigm
第４回　The Economics of Optimal Insurance Design
第５回　The Effects of Changes in Risk on Risk Taking: A Survey
第６回　Risk Measures and Dependence Modeling
第７回　The Theory of Insurance Demand
第８回　Prevention and Precaution
第９回　Optimal Insurance Contracts Under Moral Hazard
第10回　Adverse Selection in Insurance Contracting
第11回　The Theory of Risk Classification
第12回　The Economics of Liability Insurance
第13回　Economic Analysis of Insurance Fraud
第14回　Asymmetric Information in Insurance Markets: Predictions and Tests

履修上の注意

英検準1級、TOEFL550（PBT）、80（iBT）程度の読解力（Reading Section 25程度）が必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

進捗状況に合わせて、単語を調べておくなど、予習が必要です。

教科書

Dionne, Georges (Ed.) (2025), Handbook of Insurance, 3rd ed. Springer-Verlag New York.

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

本文献研究への貢献　70%
発表の内容　30%

その他

授業内容、テキストは例示してありますが、本外国文献研究は、受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで、相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM581J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）中林　真理子		

授業の概要・到達目標

本講義は、保険とリスクマネジメントに関するサーベイ論文集を用いて、修士論文、博士論文を執筆していく上で、必要となる保険に関する最先端の学術論文を読みこなしていく基礎力を身につけることを目的としています。

授業内容

第１回　The Empirical Measure of Information Problems with Emphasis on Insurance Fraud
第２回　Workers' Compensation: Occupational Injury Insurance's Influence on the Workplace
第３回　Experience Rating in Nonlife Insurance
第４回　On the Demand for Corporate Insurance: Creating Value
第５回　Managing Catastrophic Risks Through Redesigned Insurance: Challenges and Opportunities
第６回　Innovations in Insurance Markets: Hybrid and Securitized Risk-Transfer Solutions
第７回　Risk Sharing and Pricing in the Reinsurance Market
第８回　Financial Pricing of Insurance
第９回　Insurance Price Volatility and Underwriting Cycles
第10回　On the Choice of Organizational Form: Theory and Evidence from the Insurance Industry
第11回　Insurance Distribution
第12回　Corporate Governance in the Insurance Industry: A Synthesis
第13回　Systemic Risk and the Insurance Industry
第14回　Analyzing Firm Performance in the Insurance Industry Using Frontier Efficiency

履修上の注意

英検準1級、TOEFL550（PBT）、80（iBT）程度の読解力（Reading Section25程度）が必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

進捗状況に合わせて、単語を調べておくなど、予習が必要です。

教科書

Dionne, Georges (Ed.) (2025), Handbook of Insurance, 3rd ed., Springer-Verlag New York.

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

本文献研究への貢献　70%
発表の内容　30%

その他

授業内容、テキストは例示してありますが、本外国文献研究は、受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで、相談して進めます。

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の到達目標及びテーマ》
　事実から論理を導き出すために、日本の交通政策に関する史的･論理的確認を行なっていきます。
《授業の概要》
　論理力を高めること、受講者の研究テーマを明確化すること、およびその内容を質的に高度化することです。

授業内容

第１回　交通論の歴史と論理
第２回　交通論研究の対象と課題
第３回　交通論研究の系譜
第４回　交通サービス商品の特質
第５回　交通サービス商品の生産要素
第６回　交通労働の特質と生産性
第７回　交通サービス商品の生産過程
第８回　交通の本質と生産的機能
第９回　交通資本の運動･蓄積･回転
第10回　交通需要の波動性と交通事業者の対応
第11回　交通事業と利潤
第12回　運賃の決定原則（その１）
第13回　運賃の決定原則（その２）
第14回　まとめ

履修上の注意

　関連領域（社会経済学、精神分析学）にも配慮して学ぶこと。外国語文献も含めて授業時に説明します。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書の該当箇所を読むこと。また、復習もすること。

教科書

『現代交通論の系譜と構造』藤井秀登（務経経理協会）。

参考書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣（日本経済新聞社）、『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣）。
『増補新版　人はみな妄想する』松本卓也（青土社）。
Hideto Fujii (ed.), Handbook of Japanese Tourism and Hospitality, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度（50％）と報告内容（50％）を基礎に総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　事実から論理を導き出すために、日本の交通政策に関する史的･論理的な考察を行なっていきます。
《到達目標》
　論理力を高めること、受講者の研究テーマを明確化すること、およびその内容を質的に高度化することです。

授業内容

第１回　イントロダクション（交通史と交通経済学）
第２回　創業期の鉄道政策
第３回　海運政策の転換
第４回　鉄道国有化政策の意義と展開
第５回　都市交通政策の新展開
第６回　海運政策の新展開
第７回　交通調整政策と戦時交通政策
第８回　民主的な交通政策の確立
第９回　航空政策の意義
第10回　交通調整政策の意義
第11回　物流政策の新展開
第12回　規制緩和政策
第13回　持続可能な交通政策
第14回　まとめ

履修上の注意

　主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。外国語文献などの関連文献は、授業時に紹介します。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また、復習で理解を深めること。

教科書

『現代交通論の系譜と構造』藤井秀登（税務経理協会）。

参考書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社）、『新版交通概論』中西健一･平井都士夫（有斐閣）、および『交通体系論』F.フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房）、Divall, C., J. Hine and C. Pooly (eds.), Transport Policy: Learning Lessons from History, Ashgate. Hideto Fujii (eds), Handbook of Japanese Tourism and Hospitality, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　受講者の個別の研究テーマに対して、交通理論、交通政策、交通史の各観点から支援をしていきます。
《到達目標》
　受講者の研究テーマを明確化すること、その内容を質的に高度化すること、論文の課題を確認すること、および体系性をもった論文構成にすることです。

授業内容

第１回　履修者による修士論文テーマの報告（１）
第２回　履修者による修士論文テーマの報告（２）
第３回　交通理論研究の方法論に関する検討（その１）
第４回　交通理論研究の方法論に関する検討（その２）
第５回　交通理論研究の方法論に関する検討（その３）
第６回　交通理論研究の方法論に関する検討（その４）
第７回　交通理論研究の方法論に関する検討（その５）
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（その１）
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告（その２）
第10回　追加文献、データ収集等に関する検討（その１）
第11回　追加文献、データ収集等に関する検討（その２）
第12回　追加文献、データ収集等に関する検討（その３）
第13回　予備的分析結果の検討等（その１）
第14回　予備的分析結果の検討等（その２）

履修上の注意

　主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。歴史と構造に関する基礎的な理解が必要となります。必要に応じて、基本文献を紹介します。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習すること。また、復習で理解を深めること。

教科書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社）、『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣）、および『交通体系論』F.フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房）。

参考書

Wolff R. D. and S. A. Resnick, Economics: Marxian versus Neoclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　受講者の個別の研究テーマに対して、交通理論、交通政策、交通史の各観点から支援をしていきます。
《到達目標》
　受講者の研究テーマを明確化すること、その内容を質的に高度化すること、論文の課題を確認すること、および体系性をもった論文構成にすることです。

授業内容

第１回　履修者による修士論文進捗状況等の報告
第２回　修士論文作成に関する指導（その１）
第３回　修士論文作成に関する指導（その２）
第４回　修士論文作成に関する指導（その３）
第５回　修士論文作成に関する指導（その４）
第６回　修士論文作成に関する指導（その５）
第７回　履修者による修士論文中間報告（その１）
第８回　履修者による修士論文中間報告（その２）
第９回　修士論文執筆に関する指導（その１）
第10回　修士論文執筆に関する指導（その２）
第11回　履修者による修士論文最終報告（その１）
第12回　履修者による修士論文最終報告（その２）
第13回　演習内容の総括と残された課題の検討（その１）
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討（その２）

履修上の注意

　主体的に研究テーマと取り組む姿勢が重視されます。研究テーマに対して構造主義的な視点から論文執筆のコメントをしていきます。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習・復習し、理解を深めてください。そのうえで、論文の作成を進めてください。

教科書

『交通政策の経済学』奥野正寛・篠原総一・金本良嗣編（日本経済新聞社）、『新版交通概論』中西健一・平井都士夫（有斐閣）、および『交通体系論』F.フォークト著，岡田清・池田浩太郎訳（千倉書房）。

参考書

Richard D. Wolf and Stephen A. Resnick, Economics: Marxian versus Neoclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度（50％）と報告内容（50％）で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策、国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ，どのように交通システムを展開していくのかについて考える。修士課程で交通に関する基礎概念及び関連文献の理解の基礎作りを行う予定である。
上記の目的の達成を念頭に、教科書及び論文の輪読を通じて、理解を深めると同時に、毎回学生同士及び教師とのディスカッションを通じて、課題やアプロ―チ方法について、具現化する。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　研究テーマの検討①
第３回　研究テーマの検討②
第４回　研究テーマの検討③
第５回　交通関連の基本文献の講読①
第６回　交通関連の基本文献の講読②
第７回　交通関連の基本文献の講読③
第８回　交通関連の基本文献の講読④
第９回　交通関連の基本文献の講読⑤
第10回　発表とその検討･評価①
第11回　発表とその検討･評価②
第12回　発表とその検討･評価③
第13回　発表とその検討･評価④
第14回　春学期の総括

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し、ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

岩澤孝雄『交通サービスと経営戦略』白桃書房，1989年。
池田博行･松尾光芳『現代交通論』税務経理協会，1994年。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

参加態度(50%)＋報告内容(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM562J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では，交通理論や主要国における交通関連の施策、国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ、どのように交通システムを展開していくのかについて考える。修士課程で交通に関する基礎概念及び関連文献の理解の基礎作りを行う予定である。
上記の目的の達成を念頭に、教科書及び論文の輪読を通じて、理解を深めると同時に、毎回学生同士及び教師とのディスカッションを通じて、課題やアプロ―チ方法について、具現化する。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　研究テーマの検討①
第３回　研究テーマの検討②
第４回　研究テーマの検討③
第５回　交通関連の基本文献の講読①
第６回　交通関連の基本文献の講読②
第７回　交通関連の基本文献の講読③
第８回　交通関連の基本文献の講読④
第９回　交通関連の基本文献の講読⑤
第10回　発表とその検討･評価①
第11回　発表とその検討･評価②
第12回　発表とその検討･評価③
第13回　発表とその検討･評価④
第14回　秋学期の総括

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し、ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しません。

参考書

岩澤孝雄『交通サービスと経営戦略』白桃書房，1989年。
池田博行･松尾光芳『現代交通論』税務経理協会，1994年。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

参加態度(50%)＋報告内容(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

この演習では、修士論文の作成に向け、交通政策及び交通産業に関する研究を深め、完成度の高い修士論文の作成を指導する。上記の目的の達成を念頭に、教科書及び論文の輪読を通じて、理解を深めると同時に、毎回学生同士及び教師とのディスカッションを通じて、課題やアプロ―チ方法について、具現化する。

授業内容

第１回　履修者による修士論文テーマの検討①
第２回　履修者による修士論文テーマの検討②
第３回　分析方法及び関連する文献研究の検討①
第４回　分析方法及び関連する文献研究の検討②
第５回　分析方法及び関連する文献研究の検討③
第６回　分析方法及び関連する文献研究の検討④
第７回　交通関連の基本文献の講読①
第８回　交通関連の基本文献の講読②
第９回　履修者による修士論文の構成に関する報告①
第10回　履修者による修士論文の構成に関する報告②
第11回　追加文献･データに関する検討①
第12回　追加文献･データに関する検討②
第13回　追加文献･データに関する検討③
第14回　春学期の総括

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

テーマ確定と論文作成を中心に、関連文献の項目別整理を行うこと。

教科書

履修者の研究テーマ別に基礎文献(日本語･英語･中国語)を用いる。

参考書

必要に応じて提示する。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

修士論文の作成に合わせ、研究意欲(50%)＋論理性(30%)＋独自性(20%)などで評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM662J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

この演習では、修士論文の作成に向け、交通政策及び交通産業に関する研究を深め、完成度の高い修士論文の作成を指導する。上記の目的の達成を念頭に、教科書及び論文の輪読を通じて、理解を深めると同時に、毎回学生同士及び教師とのディスカッションを通じて、課題やアプロ―チ方法について、具現化する。

授業内容

第１回　修士論文作成に関する指導①
第２回　修士論文作成に関する指導②
第３回　修士論文作成に関する指導③
第４回　修士論文作成に関する指導④
第５回　修士論文作成に関する指導⑤
第６回　修士論文作成に関する指導⑥
第７回　履修者による修士論文中間報告①
第８回　履修者による修士論文中間報告②
第９回　履修者による修士論文中間報告③
第10回　修士論文執筆に関する指導①
第11回　修士論文執筆に関する指導②
第12回　修士論文執筆に関する指導③
第13回　修士論文最終報告①
第14回　修士論文最終報告②

履修上の注意

履修者による論文内容の報告及びその指導を中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

主要な関連文献の内容を十分に熟知すること。

教科書

履修生の研究希望に沿った文献を指定する。

参考書

必要に応じて提示する。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

修士論文の作成状況を通じて総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　交通理論の哲学的基礎を吟味することです。特に、日･欧･米の代表的な交通論の教科書で分析枠組みとして使用されている新古典派経済理論を俎上に載せて、その哲学的意義を検討していきます。
《到達目標》
　交通現象の構造と本質を質的側面から認識できるように、対象とする事象の分析と総合に必要な能力を涵養、駆使できることに狙いがあります。

授業内容

第１回　交通理論の哲学的基礎とは
第２回　新古典派経済学とその哲学的基礎（その１）
第３回　新古典派経済学とその哲学的基礎（その２）
第４回　限界効用理論（その１）
第５回　限界効用理論（その２）
第６回　無差別曲線（その１）
第７回　無差別曲線（その２）
第８回　限界生産力（その１）
第９回　限界生産力（その２）
第10回　新古典派経済学の市場メカニズム（その１）
第11回　新古典派経済学の市場メカニズム（その２）
第12回　価値法則と市場メカニズム（その１）
第13回　価値法則と市場メカニズム（その２）
第14回　まとめ

履修上の注意

　社会経済学とミクロ経済学の基礎的な概念を理解している前提で授業を進めます。なお、教科書の輪読以外に受講者の主体的な意見も要求されます。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習・復習し、理解を深めてください。

教科書

　荒井一博『自由だけではなぜいけないのか―経済学を考え直す―』講談社，2009年。

参考書

　Richard D. Wolff and Stephen A. Resnick, Economics: Marxian versus Neoclassical, The Johns Hopkins University Press, 1987.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への参加態度（50％）と報告内容（50％）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　交通理論特論Ａにおける哲学的基礎の検討を経た交通理論の修得を踏まえて，日･欧･米の交通政策の規範について検討していきます。すなわち，各国における交通政策がどのような規範に従って実施されていったのかを，その時代背景を踏まえて考察していきます。
《到達目標》
　多様な価値観と整合性をもつ交通政策の規範を経済的効率性と関連させる能力を涵養していきます。

授業内容

第１回　交通政策の規範
第２回　規範原理としての自由
第３回　自由と交通政策
第４回　効率の概念とその現代的展開
第５回　効率と交通政策
第６回　現代平等論の意義
第７回　平等と交通政策
第８回　公共性の意義
第９回　公共性と交通政策
第10回　権利の概念とその現代的展開
第11回　権利と交通政策
第12回　環境理論の検討
第13回　環境と交通政策
第14回　まとめ

履修上の注意

　教科書の内容理解だけでなく，関連領域に対する広範な学習が併せて必要となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習・復習し、理解を深めてください。

教科書

　『現代規範理論入門―ポスト・リベラリズムの新展開―』有賀誠ほか編（ナカニシヤ出版）。

参考書

　『公共政策の基礎』I.M.D.リトル著，松本保美訳（木鐸社），『思想としての経済学』竹田茂夫（青土社）。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への参加態度（50％）と報告内容（50％）を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	都市･地域交通論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経済学）恩田　睦		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

2026年に39年目を迎えるJR体制は、38年間続いた日本国有鉄道(国鉄･JNR)を超える長い歴史を有することになる。今日のJRをめぐっては地方ローカル線区の存続問題や整備新幹線の開業にともなう並行在来線の維持問題などが注目されている。こうしたJRをめぐる諸問題の発生要因を正しく理解するためには、日本国有鉄道の輸送・経営展開を把握しておく必要がある。本講義では、戦後日本の都市交通・地域交通を担ってきた日本国有鉄道の展開について、輸送や経営政策の諸問題に注目して理解する。鉄道だけでなく、自動車、内航海運、航空といった戦後に発展した輸送機関の動向にも目を配り、国鉄との関係についても検討する。

〈到達目標〉

都市交通･地域交通に関する基礎的な知識･知見を前提として、日本の地方ローカル線問題や新幹線問題がどのような経緯で生まれてきたのかを国鉄の歴史の理解を通じて議論することができる。

授業内容

第１回:都市･地域交通研究の概要
第２回:公共企業体としての国鉄
第３回:日本国有鉄道法の問題
第４回:国鉄輸送と自動車･内航海運
第５回:国鉄経営の問題点と経営形態論叢
第６回:輸送力増強政策と地方交通線問題
第７回:運賃政策の歪みと総合交通体系
第８回:国鉄財政の破綻
第９回:内部補助能力の消滅
第10回:国鉄貨物輸送の崩壊要因
第11回:労使関係とスト権問題
第12回:国鉄の分割民営化
第13回:経済としての鉄道と文化としての鉄道
第14回:まとめ
※履修者との相談のうえ、内容を変更することがあります。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告と関連する議論を中心に進める予定です。また､履修者と相談のうえ､個人研究の発表を行ってもらうことがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書をもとにして事前に指示する関連文献や論文を熟読するなど、周到な準備のうえで講義に参加してください。また、講義で得た知識や考え方について、参考書等の文献を読み込むなどして理解に努めてください。

教科書

中西健一著､『戦後日本国有鉄道論』､東洋経済新報社､1985年。
※履修者との相談のうえ、内容を変更することがあります。

参考書

中西健一著、『現代日本の交通産業』、晃洋書房、1984年。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で適宜対応します。

成績評価の方法

参加態度(50%)＋報告内容(50%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	都市･地域交通論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任准教授　博士（経済学）恩田　睦		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

日本の私有鉄道の発展過程と時代ごとの鉄道経営の特徴について文献講読を通じて検討、議論する。日本の鉄道事業経営の特徴の一つである独立採算制は、諸外国（とくに欧米先進国の主要都市における公的負担による都市交通運営）との比較によって時に批判されることがある。本講義では、独立採算制など、日本の鉄道事業の発展・展開期における諸問題について、交通史的な検討を通じて理解しようとするものである。

〈到達目標〉

日本の都市交通機関の発展過程について、歴史的な文脈から理解することができる。

授業内容

第１回:日本の私有鉄道に関する概要
第２回:資本主義化と私有鉄道創設運動
第３回:幹線交通手段としての私有鉄道の発展と確立①鉄道資本の蓄積
第４回:幹線交通手段としての私有鉄道の発展と確立②鉄道資本家の検討
第５回:鉄道国有への道と経済的必然性
第６回:大正期における私有鉄道の発展と構造
第７回:東京における市内路面電気鉄道の成立
第８回:郊外電気鉄道の成立と発展
第９回:大都市路面電気鉄道の公有化
第10回:鉄道における合理化の展開
第11回:発展期の道路交通
第12回:交通統制をめぐる問題
第13回:都市交通統制
第14回:まとめ
※履修者との相談のうえ、内容を変更することがあります。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告と関連する議論を中心に進める予定です。また、履修者と相談のうえ、個人研究発表を行ってもらうことがあります。

準備学習（予習・復習等）の内容

教科書と参考書をもとにして事前に指示する文献や論文を熟読するなど、周到な準備のうえで講義に参加してください。また、講義で得た知識や考え方について、参考書等の文献を読み込むなどして理解に努めてください。

教科書

中西健一著、『日本私有鉄道史研究―都市交通の発展とその構造(増補版)』、ミネルヴァ書房、2009年。
※履修者との相談のうえ、内容を変更することがあります。

参考書

鉄道省編、『日本鉄道史』上、中、下篇、1921年。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で適宜対応します。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)と報告内容(50%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では、交通理論や主要国における交通関連の施策、国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ、どのように交通システムを展開していくのかについて考える。その際、公共交通の規制緩和、民営化などのトピックを取り上げる。授業は、輪読と発表、問題解析などで構成される。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　交通学とその方向
第３回　交通の特性
第４回　交通と財
第５回　交通の公共性と公益性
第６回　交通の供給組織
第７回　交通技術の発達
第８回　交通手段の選択
第９回　交通政策の必要性と課題
第10回　総合交通に関する政策
第11回　経済理論の応用
第12回　交通研究の課題　理論と現実の接近
第13回　交通サービスの一般性と特殊性
第14回　学習内容の総括
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し、ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

谷利亨「交通研究谷利亨『交通研究のダイナミックス』」白桃書房、2016年。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

参加態度(50%)＋報告内容(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	国際交通論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　町田　一兵		

授業の概要・到達目標

本講義では、交通理論や主要国における交通関連の施策、国際交通インフラ整備の現状について理解を深めることを目的とする。国や地域の違いを理解したうえ、どのように交通システムを展開していくのかについて考える。その際、公共交通の規制緩和、民営化などのトピックを取り上げる。授業は、輪読と発表、問題解析などで構成される。

授業内容

第１回　学習の概要説明
第２回　航空産業について①
第３回　航空産業について②
第４回　港湾産業について①
第５回　港湾産業について②
第６回　海運産業について①
第７回　海運産業について②
第８回　鉄道産業について①
第９回　鉄道産業について②
第10回　自動車輸送産業について①
第11回　自動車輸送産業について②
第12回　道路産業について
第13回　複合輸送について
第14回　学習内容の総括
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

履修者による文献内容の報告及びそのディスカッションを中心に進める予定である。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に与えられた文献を熟読し、ディスカッションに参加できるように内容を理解しておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

平川均など『一帯一路の政治経済学』文眞堂、2019年。

課題に対するフィードバックの方法

教員のメールアドレスを履修生に公開し、課題に対する指示や質問の受付を授業以外の時間でも対応できるようにしている。

成績評価の方法

参加態度(50%)＋報告内容(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　新古典派経済学に依拠した英語文献を通じて、交通論の基礎的な概念が外国文献ではどのように認識されているのかを確認していきます。
《到達目標》
　英語文献を邦訳しながら、交通分野における研究に必要な文献研究の方法を涵養していきます。

授業内容

第１回　Transportation and Economic Policy
第２回　Transportation, Logistics and Technology
第３回　The Demand for Transportation
第４回　Trade and Transportation Costs
第５回　Laws of Variable Proportions and Scale
第６回　Modal Supply Characteristics
第７回　Markets and Competition in Transportation
第８回　Externalities, Public Supply and Marginal Cost Pricing
第９回　Spatial and Temporal Pricing in Transportation
第10回　Product Pricing in Transportation
第11回　Transportation, Investment and Generalized Cost
第12回　Location and Land Settlement
第13回　Transportation and Government Policy
第14回　Regulatory Enforcement and Compliance

履修上の注意

　輪読する箇所を事前に参加者に割り当てますので、十分な予習をしたうえで授業に参加してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書を予習･復習し、理解を深めてください。

教科書

　Prentice, B.E. and D. Prokop, Concepts of Transportation Economics, World Scientific, 2015.

参考書

　Bamford, C. D., Transport Economics (4th edition), Heinemann, 2006.
　Hideto Fujii (ed.), Handbook of Japanese Tourism and Hospitality, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度、予習や報告の内容を通して総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM561J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　主にイギリスの交通政策をテーマに複数の研究者が寄稿した論文集を教材としながら，交通政策の制度設計を検討していきます。
《到達目標》
　交通分野における研究に必要な文献研究の方法を涵養していきます。

授業内容

第１回　Why Does the Past Matter?
第２回　Using the Usable Past: Reflections and Practices in the Neitherlands
第３回　Structures of Disadvantage and Acts of Resistance: Remembering, Skilling, History and Gender
第４回　Balancing Social Justice and Environmental Justice: Mobility Inequalities in Britain since 1900
第５回　Mobility in Rural Ireland: A Study of Older People and the Chalenges They Face
第６回　Have Consumer Movements Enhanced Transport Justice?
第７回　High Speed 2 Where?
第８回　Interminably Delaying What Needs to Be Done
第９回　Marketing and Branding for Modal Shift in Urbsan Transport
第10回　Gaining Modal Share in Exogenouosly Driven Markets
第11回　Plane Crazy Britz
第12回　The Role of Central Government
第13回　Local Government and Urban Transport
第14回　Influencing Transport Policy

履修上の注意

　輪読する箇所を事前に参加者に割り当てますので、十分な予習をしたうえで授業に参加してください。

準備学習（予習・復習等）の内容

　教科書と参考書に挙げた文献を予習・復習し、理解を深めてください。

教科書

　Divall, C., J.H. and and C. Pooly (eds.), Transport Policy: Learning Lessons from History, Ashgate, 2016.

参考書

　Glaister, S., J. Burnham, H. Stevens and T. Travers (eds), Transport Policy in Britain (2nd edition). Palgrave.
　Hideto Fujii (ed.), Handbook of Japanese Tourism and Hospitality, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度(30%)，予習や報告の状況など(70%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
　国際貿易にかんする基礎的な文献の輪読を進める。そのうえで各自の関心に沿ったテーマを設定する。各自の報告が演習の中心となる。
［到達目標］
　各自の研究テーマを確立する。そのために関心分野にかんする先行研究を調べ，読み込む。それをつうじて文献サーベイを終了させ，修士論文作成へむけた準備段階とする。

授業内容

第１回　国際貿易研究の基礎１
第２回　国際貿易研究の基礎２
第３回　国際貿易研究の基礎３
第４回　国際貿易研究の基礎４
第５回　国際貿易研究の基礎５
第６回　国際貿易研究の文献調査１
第７回　国際貿易研究の文献調査２
第８回　国際貿易研究の文献調査３【オンライン形式】
第９回　国際貿易研究の文献調査４【オンライン形式】
第10回　関連文献の報告･検討１【オンライン形式】
第11回　関連文献の報告･検討２【オンライン形式】
第12回　関連文献の報告･検討３【オンライン形式】
第13回　関連文献の報告･検討４【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

　毎回，授業に臨むにあたり，事前準備を必要とする。
　なお、本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　指定された文献の精読は必須である。さらに報告者は別の文献をも熟読し，それぞれの研究上の位置づけ，学派・主張の違いを比較･確認しておく必要がある。

教科書

　教科書は特に使用しない。

参考書

　演習時に適宜，紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

　そのつど，回答する。

成績評価の方法

　授業への貢献度（報告･討論など）100％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
　国際貿易にかんする文献の輪読を進める。各自の関心に沿ったテーマの報告が演習の中心となる。
［到達目標］
　各自の関心分野にかんする先行研究を調べ，読み込む。文献サーベイをつうじて，修士論文作成へむけた準備段階とする。

授業内容

第１回　国際貿易研究の応用１
第２回　国際貿易研究の応用２
第３回　国際貿易研究の応用３
第４回　国際貿易研究の応用４
第５回　国際貿易研究の応用５
第６回　国際貿易研究の報告･討論１
第７回　国際貿易研究の報告･討論２
第８回　国際貿易研究の報告･討論３【オンライン形式】
第９回　国際貿易研究の報告･討論４【オンライン形式】
第10回　関連文献の検討１【オンライン形式】
第11回　関連文献の検討２【オンライン形式】
第12回　関連文献の検討３【オンライン形式】
第13回　関連文献の検討４【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

　毎回，授業に臨むにあたり，事前準備を必要とする。
　なお，本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　指定された文献の精読は必須である。さらに報告者は別の文献をも熟読しておく必要がある。

教科書

　教科書は特に使用しない。

参考書

　演習時に適宜，紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

　そのつど，回答する。

成績評価の方法

　授業への貢献度（報告･討論など）100％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
　修士論文作成へむけた準備･報告が演習の中心となる。
［到達目標］
　各自の修士論文のテーマを確立する。関心文献のサーベイなど，修士論文執筆へむけた準備段階を終わらせる。

授業内容

第１回　修士論文の構成方法の検討１
第２回　修士論文の構成方法の検討２
第３回　修士論文の構成方法の検討３
第４回　修士論文の構成方法の検討４
第５回　修士論文の構成方法の検討５
第６回　修士論文の分析手法の検討１
第７回　修士論文の分析手法の検討２
第８回　修士論文の分析手法の検討３【オンライン形式】
第９回　修士論文の分析手法の検討４【オンライン形式】
第10回　関連文献の検討１【オンライン形式】
第11回　関連文献の検討２【オンライン形式】
第12回　関連文献の検討３【オンライン形式】
第13回　関連文献の検討４【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

　毎回，授業に臨むにあたり，事前準備を必要とする。
　なお，本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　事前準備が必要となる。指定された文献の精読は必須である。

教科書

　教科書は特に使用しない。

参考書

　演習時に適宜，紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

　そのつど，回答する。

成績評価の方法

　授業への貢献度（報告･討論など）100％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
　修士論文完成へむけた指導が演習の中心となる。
［到達目標］
　修士論文執筆を完成させる。

授業内容

第１回　修士論文の構成の確認１
第２回　修士論文の構成の確認２
第３回　修士論文の中間報告と指導１
第４回　修士論文の中間報告と指導２
第５回　修士論文の中間報告と指導３
第６回　修士論文の中間報告と指導４
第７回　修士論文の中間報告と指導５
第８回　修士論文の最終報告と指導１【オンライン形式】
第９回　修士論文の最終報告と指導２【オンライン形式】
第10回　修士論文の最終報告と指導３【オンライン形式】
第11回　修士論文の最終報告と指導４【オンライン形式】
第12回　修士論文の最終報告と指導５【オンライン形式】
第13回　修士論文の総括【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

　毎回，授業に臨むにあたり，周到な事前準備を必要とする。
　なお，本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　周到な事前準備が必要となる。指定された文献の精読は必須である。

教科書

　教科書は特に使用しない。

参考書

　演習時に適宜，紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

　そのつど，回答する。

成績評価の方法

　授業への貢献度（報告･討論など）100％

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　小林　尚朗		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
世界経済論の対象範囲は広範な分野に及ぶが、個別テーマが何であるにせよ、資本主義やグローバリゼーションの理解なしに研究することはできない。本演習では、グローバリゼーションの歴史的潮流を踏まえたうえで今日の世界経済が置かれた状況を把握するために文献研究や議論を行う。とりわけ、戦後発展途上国の道程を足がかりに、グローバリゼーションの負の側面を抑制して恩恵を最大化する道を理論的・政策的に追求する。
［到達目標］
(1) 資本主義下におけるグローバリゼーションの歴史的潮流を踏まえたうえで専門知識を習得すること。(2) グローバリゼーションの負の側面を抑制して恩恵を最大化するための道を理論的・政策的に考察する能力を身につけること。(3)それらを通じて各自の個別研究の礎を築き、修士論文のテーマを明確化すること。

授業内容

＊内容は必要に応じて変更する
第１回　イントロダクション(演習の概要説明)
第２回　現代世界経済の概観
第３回　グローバリゼーションを定義する
第４回　グローバリゼーションの歴史―資本主義世界経済―
第５回　グローバリゼーションの歴史―バックスアメリカーナ―
第６回　グローバリゼーションの歴史―新自由主義の展開―
第７回　グローバリゼーションの歴史―アメリカナイゼーション―
第８回　グローバリゼーションの歴史―21世紀の新たな展開―
第９回　グローバリゼーションの功罪
第10回　新世界経済秩序を考える―ブレトンウッズ体制と世界―
第11回　新世界経済秩序を考える―「ワシントン・コンセンサス」―
第12回　新世界経済秩序を考える―中国の勃興と世界経済―
第13回　個別研究テーマの検討―骨子作成―
第14回　個別研究テーマの検討―まとめ―

履修上の注意

院生の主体的な研究を重視するので、毎回の周到な準備が必要となる。一研究者としての自覚を持って出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、周到な準備をする。基本的には文献研究になるので、指定された文献、資料などは精読しておく。また、発表者はそれに加えて、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが必要となる。

教科書

ダロン・アセモグル、ジェイムズ・ロビンソン『国家はなぜ衰退するのか㊤㊦』ハヤカワ文庫。

参考書

福田邦夫監修、小林尚朗・吉田敦・森元晶文編著『世界経済の解剖学』法律文化社。
ほか、随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容などの平常点　100％。

その他

院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　小林　尚朗		

授業の概要・到達目標

［授業の概要］
世界経済論の対象範囲は広範な分野に及ぶが、個別テーマが何であるにせよ、資本主義やグローバリゼーションの理解なしに研究することはできない。本演習では、グローバリゼーションの歴史的潮流を踏まえたうえで今日の世界経済が置かれた状況を把握するために文献研究や議論を行う。とりわけ、戦後発展途上国の道程を足がかりに、グローバリゼーションの負の側面を抑制して恩恵を最大化する道を理論的・政策的に追求する。
［到達目標］
(1) グローバリゼーションの歴史的潮流を踏まえたうえで専門知識を習得すること。(2) グローバリゼーションの負の側面を抑制して恩恵を最大化するための道を理論的・政策的に考察する能力を身につけること。(3) それらを通じて各自の個別研究の礎を築き、修士論文のテーマを決定すること。

授業内容

＊内容は必要に応じて変更する
第１回　個別研究テーマに関する文献調査１
第２回　個別研究テーマに関する文献調査２
第３回　個別研究テーマに関する文献調査３
第４回　主要関連文献の講読１
第５回　主要関連文献の講読２
第６回　主要関連文献の講読３
第７回　主要関連文献の講読４
第８回　主要関連文献の講読５
第９回　主要関連文献の講読６
第10回　個別研究テーマに関する再検討１
第11回　個別研究テーマに関する再検討２
第12回　分析方法等に関する文献の講読１
第13回　分析方法等に関する文献の講読２
第14回　分析方法等に関する文献の講読３

履修上の注意

院生の主体的な研究を重視するので、毎回の周到な準備が必要となる。一研究者としての自覚を持って出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、周到な準備をする。具体的には、発表者はその都度のテーマに関する、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが必要となる。

教科書

小林尚朗・山本博史・矢野修一・春日尚雄『アジア経済論』文眞堂。
平川均・町田一兵・真家陽一・石川幸一『一帯一路の経済学』文眞堂。

参考書

演習のなかで随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容などの授業への貢献度　100％。

その他

院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
　修士論文の完成に向けての作業を進めていく。修士論文のテーマ設定、当該テーマの先行研究の分析、方法論の確立、そして中間報告が演習の中心となる。修士論文作成の一過程として、大学院紀要へ投稿することを目指す。
[到達目標]
　方法論の確立と文献サーベイを終了させ、修士論文の最終的な骨子を固めること。

授業内容

第１回　修士論文テーマの報告
第２回　分析方法の検討など１
第３回　分析方法の検討など２
第４回　分析方法の検討など３
第５回　分析方法の検討など４
第６回　修士論文の構成の検討１
第７回　修士論文の構成の検討２
第８回　主要関連文献の検討１
第９回　主要関連文献の検討２
第10回　主要関連文献の検討３
第11回　主要関連文献の検討４
第12回　主要関連文献の検討５
第13回　主要関連文献の検討６
第14回　主要関連文献の検討７

履修上の注意

　院生の主体的な研究を重視するので、毎回の周到な準備が必要となる。一研究者としての自覚を持って出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回の授業のため、周到な準備をする。基本的には文献研究になるので、指定された文献、資料などは精読しておく。また、発表者はそれに加えて、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが必要となる。

教科書

　演習全体としては教科書は指定しない予定。

参考書

　演習のなかで随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　発表内容などの授業への貢献度　100％。

その他

　院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。
　なお、修士論文作成の一過程として、大学院紀要へ投稿することを目指すこと。

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
　修士論文の完成に向けての作業を進めていく。修士論文の中間報告が演習の中心となる。
[到達目標]
　修士論文の完成を目標とする。

授業内容

第１回　修士論文の構成の再検討
第２回　修士論文の中間報告と作成指導１
第３回　修士論文の中間報告と作成指導２
第４回　修士論文の中間報告と作成指導３
第５回　修士論文の中間報告と作成指導４
第６回　修士論文の中間報告と作成指導５
第７回　修士論文の中間報告と作成指導６
第８回　修士論文の中間報告と作成指導７
第９回　修士論文の中間報告と作成指導８
第10回　修士論文の中間報告と作成指導９
第11回　修士論文の最終報告１
第12回　修士論文の最終報告２
第13回　演習内容の総括と残された課題の検討１
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討２

履修上の注意

　院生の主体的な研究を重視するので、毎回の周到な準備が必要となる。一研究者としての自覚を持って出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回の授業のため、周到な準備をする。発表者は毎回の論点を明確にして、適切な発表を行うための準備をする。

教科書

　演習全体としては教科書は使用しない。

参考書

　演習のなかで随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　発表内容などの授業への貢献度　100％。

その他

　院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論演習ＩＡ		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマに焦点を絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

春学期
第１回　国際ビジネス・コミュニケーション分野のオリエンテーション(1)
第２回　国際ビジネス・コミュニケーション分野のオリエンテーション(2)
第３回　研究テーマの検討(1)
第４回　研究テーマの検討(2)
第５回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読(1)
第６回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読(2)
第７回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読(3)
第８回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読(4)
第９回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の基本文献の講読(5)
第10回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読(1)
第11回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読(2)
第12回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読(3)
第13回　国際ビジネス・コミュニケーション分野の分析手法に関する基本文献の講読(4)
第14回　問題点の確認とテーマの絞り込み

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM552J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論演習ＩＢ		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマに焦点を絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

秋学期
第１回　研究テーマに関する文献の紹介(1)
第２回　研究テーマに関する文献の紹介(2)
第３回　主要関連文献リストの作成
第４回　主要関連文献の講読(1)
第５回　主要関連文献の講読(2)
第６回　主要関連文献の講読(3)
第７回　主要関連文献の講読(4)
第８回　主要関連文献の講読(5)
第９回　主要関連文献の問題点の整理と検討(1)
第10回　主要関連文献の問題点の整理と検討(2)
第11回　分析方法等に関する関連文献の講読(1)
第12回　分析方法等に関する関連文献の講読(2)
第13回　分析方法等に関する関連文献の講読(3)
第14回　演習内容の総括と修士論文テーマに関する指導

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論演習ⅡA		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマにフォーカスを絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

修士論文執筆の準備
春学期
第１回　履修者による修士論文テーマの報告(1)
第２回　履修者による修士論文テーマの報告(2)
第３回　分析方法の検討等(1)
第４回　分析方法の検討等(2)
第５回　分析方法の検討等(3)
第６回　分析方法の検討等(4)
第７回　分析方法の検討等(5)
第８回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(1)
第９回　履修者による修士論文の構成等に関する報告(2)
第10回　追加文献，データ収集等に関する検討(1)
第11回　追加文献，データ収集等に関する検討(2)
第12回　追加文献，データ収集等に関する検討(3)
第13回　予備的分析結果の検討等(1)
第14回　予備的分析結果の検討等(2)

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM652J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論演習ⅡB		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

この演習では国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に，修士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。できる限り早い段階で各自の研究テーマを決定し，論文の準備にとりかかる。

各自の研究テーマはビジネス・コミュニケーション全般の分野から選んでもよいが，その研究対象は一ないし，二のテーマにフォーカスを絞ることが必要である。具体的なテーマについては国際ビジネス・コミュニケーション論特論で学ぶトピックスが参考になるだろう。ただし，随時相談に応じる。

国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションをすることがもとめられる。

授業内容

修士論文執筆の準備
秋学期
第１回　履修者による修士論文進捗状況の報告
第２回　修士論文作成に関する指導(1)ここで提出のための登録
第３回　修士論文作成に関する指導(2)
第４回　修士論文作成に関する指導(3)
第５回　修士論文作成に関する指導(4)
第６回　修士論文作成に関する指導(5)
第７回　履修者による修士論文中間報告(1)
第８回　履修者による修士論文中間報告(2)
第９回　修士論文執筆に関する指導(1)
第10回　修士論文執筆に関する指導(2)
第11回　修士論文執筆に関する指導(3)
第12回　履修者による修士論文最終報告(1)
第13回　履修者による修士論文最終報告(2)ここで提出
第14回　演習内容の総括と残された課題の検討

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

論文作成のための参考文献を探し，授業中に発表する。

教科書

特に指定しない。

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

本特論Aは貿易の理論，歴史，政策を総合的に理解することが目標である。

理論は，古典学派，歴史学派，戦後の理論（主流派・非主流派）を中心に学ぶ。

歴史は，重商主義時代，自由貿易主義時代，第二次世界大戦後の貿易システムを考察する。

政策は，自由貿易協定（FTA）に代表される2国間協定や貿易統合など，今日の貿易状況のもつ特徴を明らかにする。

授業内容

第１回　貿易論の対象Ⅰ
第２回　貿易論の対象Ⅱ
第３回　貿易の原因
第４回　国際分業形成と貿易
第５回　貿易理論Ⅰ
第６回　貿易理論Ⅱ
第７回　貿易理論Ⅲ
第８回　貿易理論Ⅳ【オンライン形式】
第９回　貿易理論Ⅴ【オンライン形式】
第10回　資本移動と貿易【オンライン形式】
第11回　外国為替相場と貿易【オンライン形式】
第12回　技術移転と貿易【オンライン形式】
第13回　貿易政策の効果【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

国際貿易や世界経済に関する基礎的文献を講読すること。

なお、本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は毎週，指定した本を熟読し，予習してくること。

教科書

初回の授業中に話し合って決定する。履修生の各自の関心に沿って，教科書を選定する。

参考書

『グローバルサウス入門』，所康弘ほか著，文眞堂，2025年。

『米州の貿易・開発と地域統合』，所康弘，法律文化社，2017年。

『北米地域統合と途上国経済』，所康弘，西田書店，2009年。

『貿易入門』，所康弘ほか編，大月書店，2017年。

課題に対するフィードバックの方法

そのつど，回答する。

成績評価の方法

授業への貢献度・レジュメ発表や討論中の発言など(50%)，レポート提出(50%)で総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

本特論Bは現代の貿易事情を中心とした講義である。

21世紀初頭の貿易は，TPP（環太平洋パートナーシップ協定）やEU（ヨーロッパ連合）といった地域貿易統合によって進められている。

また，BRICSなどの新興諸国の貿易・開発もかつてないほど重要になっている。

こうした現代のグローバル貿易の特徴および課題は何かを明らかにするのが，目標である。

本特論では，とくに北アメリカ・南アメリカの諸国や日本の貿易に焦点を当てる。

授業内容

第１回　現代の貿易問題とは何か
第２回　第二次世界大戦後の貿易システムの特徴Ⅰ
第３回　第二次世界大戦後の貿易システムの特徴Ⅱ
第４回　北アメリカの貿易Ⅰ
第５回　北アメリカの貿易Ⅱ
第６回　多国間貿易交渉と二国間貿易システムの進展
第７回　経済統合と貿易
第８回　南アメリカの貿易Ⅰ【オンライン形式】
第９回　南アメリカの貿易Ⅱ【オンライン形式】
第10回　多国籍企業による貿易展開【オンライン形式】
第11回　資源貿易【オンライン形式】
第12回　日本の貿易Ⅰ【オンライン形式】
第13回　日本の貿易Ⅱ【オンライン形式】
第14回　まとめ

履修上の注意

グローバリゼーションと貿易，貿易と開発の問題に関心をもつこと。

なお、本授業は，一部，「オンライン型」の形態で実施する授業回がある。ZOOMのリンク先は履修生に個別に知らせる。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された本を熟読しておくこと。

教科書

初回の授業中に話し合って決定する。履修生各自の関心に沿って，教科書を選定する。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

そのつど，回答する。

成績評価の方法

授業への貢献度を総合的に判断（50%），レポート課題の提出(50%)で評価する。

その他

グローバリゼーションの進展に対して様々な懸念が生じているなか，「公正」な貿易とはなにか？ を考えること。

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
現代の世界経済を特徴づけてきたのは、とりわけ1980年代以降に正統派としての新自由主義が牽引してきたグローバリゼーションである。しかし今日それが大きな壁に直面し、国際経済秩序に大きな転換点が訪れている。2025年にはアメリカでトランプ氏が大統領に返り咲き、国際経済秩序の行方がますます注目されるところである。
本講義では、今日の世界経済が抱える諸問題の分析と、その歴史的位置づけを通じて、現代資本主義世界経済の解明を試みていく。
[到達目標]
(1) 今日の世界経済が抱える諸問題の分析能力を身につけること。(2) グローバリゼーションの分析を通じて、現代資本主義世界経済を解明する能力を身につけること。(3) 定説や時流に流されず、世界経済の歴史的位置づけを見極める能力を養うこと。

授業内容

具体的な授業内容としては以下を予定しているが、一瞥してわかる通り広範な内容を設定しており、受講者の関心に応じて変更することがある。
第１回　イントロダクション(講義の概要)
第２回　世界経済の現状と諸課題―統計から見る世界―
第３回　世界経済の現状と諸課題―グローバリゼーションの展開―
第４回　世界経済の現状と諸課題―グローバリゼーションの功罪―
第５回　自由放任とその終焉―スミスとケインズ―1
第６回　自由放任とその終焉―スミスとケインズ―2
第７回　IMF･GATT体制とその歴史的意義1
第８回　IMF･GATT体制とその歴史的意義2
第９回　第三世界の台頭と挫折1
第10回　第三世界の台頭と挫折2
第11回　市場対国家1―新自由主義の台頭―
第12回　市場対国家2―ワシントン･コンセンサス―
第13回　市場対国家3―中国の台頭―
第14回　トランプ後の世界経済

履修上の注意

世界経済論は広範な分野を対象とするので、毎回の周到な準備が不可欠である。一研究者としての自覚を持って出席すること。
貿易や世界経済の初学者は、学部開講の貿易論、貿易政策論、世界経済論などを履修すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、周到な準備をする。基本的には文献研究になるので、指定された文献、資料などは精読しておく。また、発表者はそれに加えて、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが必要となる。

教科書

履修者の関心によって決めるが、差しあたり以下を挙げておく。
ダロン・アセモグル＆ジェイムズ・A・ロビンソン『技術革新と不平等の1000年史㊤㊦』早川書房。

参考書

福田邦夫監修、小林尚朗・吉田敦・森元晶文編著『世界経済の解剖学』法律文化社。
イワン・クラステフ、スティーヴン・ホームズ『模倣の罠－自由主義の没落－』中央公論新社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容･受講態度などの授業への貢献度　100％。

その他

院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
現代の世界経済を特徴づけてきたのは、とりわけ1980年代以降に正統派としての新自由主義が牽引してきたグローバリゼーションである。しかし今日それが大きな壁に直面し、国際経済秩序に大きな転換点が訪れている。2025年にはアメリカでトランプ氏が大統領に返り咲き、国際経済秩序の行方がますます注目されるところである。
本講義では、今日の世界経済が抱える諸問題の分析と、その歴史的位置づけを通じて、現代資本主義世界経済の解明を試みていく。
[到達目標]
(1) 今日の世界経済が抱える諸問題の分析能力を身につけること。(2) グローバリゼーションの分析を通じて、現代資本主義世界経済を解明する能力を身につけること。(3) 定説や時流に流されず、世界経済の歴史的位置づけを見極める能力を養うこと。

授業内容

授業内容としては以下を予定しているが、履修者の関心や必要に応じて変更することがある。
第１回　イントロダクション(授業の概要説明)
第２回　NIEsの開発政策
第３回　ASEANの台頭と海外直接投資
第４回　中国の改革開放政策
第５回　東アジア･モデルと『東アジアの奇跡』
第６回　「ワシントン･コンセンサス」の是非
第７回　アジア通貨危機の衝撃
第８回　東アジア地域協力の萌芽
第９回　中国の勃興と東アジア
第10回　日本の停滞と東アジア
第11回　「ワシントン･コンセンサス」の限界と「北京コンセンサス」
第12回　中国の「一帯一路」戦略
第13回　米国第一主義と揺れる世界秩序
第14回　東アジア共同体に向けて

履修上の注意

世界経済論は広範な分野を対象とするので、毎回の周到な準備が不可欠である。一研究者としての自覚を持って出席すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回の授業のため、周到な準備をする。基本的には文献研究になるので、指定された文献、資料などは精読しておく。また、発表者はそれに加えて、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが必要となる。

教科書

小林尚朗・山本博史・矢野修一・春日尚雄　『アジア経済論』文眞堂。
パラグ･カンナ『アジアの世紀㊤㊦』原書房。

参考書

平川均・小林尚朗・森元晶文編『東アジア地域協力の共同設計』西田書店。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容･受講態度などの授業への貢献度　100％。

その他

院生は研究者として尊重するので、それを自覚すること。

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

昨今，国際化が進んでいるビジネスの舞台では，ビジネス･コミュニケーションの役割が重要性をましてきた。ネゴシエーションや商取引においても諸外国の文化，慣習への理解が不可欠となってくる。自分の意思をいかに相手に伝えるかがそのビジネスの成功を左右する。こうした状況の下，実際にどのようにビジネス・コミュニケーションをとれば最適の結果が得られるかを学ぶ。特に異文化に焦点を当てて，ビジネス･コミュニケーションの真髄を習得する。

授業内容

本講義では，Maureen Guirdham and Oliver Guirdhamの著書，“Communicating Across Cultures at Work”, 4th edition (2017)を使って，多角的な視野からビジネス･コミュニケーションの分析を行う。

春学期では以下の章を取り上げる。二週間に一章のペースで進む。

第１回　Introduction
第２回　Introduction:Some Key Concepts
第３回　Culture and Cultural Difference
第４回　Culture and Cultural Difference
第５回　How Cultures Vary
第６回　How Cultures Vary
第７回　Culture and Work
第８回　Culture and Work
第９回　Cultural Differences in Work Communication Practices
第10回　Cultural Differences in Work Communication Practices
第11回　Cultural Differences in Work Communication Antecedents
第12回　Cultural Differences in Work Communication Antecedents
第13回　Cultural Differences in Work Activities
第14回　Cultural Differences in Work Activities

履修上の注意

自分が発表する範囲以外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

“Communicating Across Cultures at Work” By Maureen Guirdham and Oliver Guirdham, 4th edition (2017)

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

春学期で学んだビジネス・コミュニケーションにおける基礎理論の，より実践的な分野への応用を試みる。昨今，国際化が進んでいるビジネスの舞台では，ビジネス･コミュニケーションの役割が重要性をましてきた。ネゴシエーションや商取引においても諸外国の文化，慣習への理解が不可欠となってくる。自分の意思をいかに相手に伝えるかがそのビジネスの成功を左右する。こうした状況の下，実際にどのようにビジネス・コミュニケーションをとれば最適の結果が得られるかを学ぶ。特に異文化に焦点を当てて，ビジネス・コミュニケーションの真髄を習得する。

授業内容

本講義では，Maureen Guirdham and Oliver Guirdhamの著書，“Communicating Across Cultures at Work”, 4th edition (2017)を使って，多角的な視野からビジネス・コミュニケーションの分析を行う。

秋学期では春学期の続きで以下の章を取り上げる。

第１回　Introduction
第２回　Subcultural Communication at Work
第３回　Subcultural Communication at Work
第４回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第５回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第６回　Barriers to Intercultural Communication at Work
第７回　Effective Intercultural Work Communication
第８回　Effective Intercultural Work Communication
第９回　Effective Intercultural Work Communication
第10回　Effective Intercultural Work Communication
第11回　Intercultural Work Activities
第12回　Intercultural Work Activities
第13回　Intercultural Work Activities
第14回　Review Session

履修上の注意

自分が発表する範囲以外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

“Communicating Across Cultures at Work”, 4th edition (2017), by Maureen Guirdham and Oliver Guirdham

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50％
発表，ディスカッション　50％を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易論外国文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

グローバリゼーションが進んでいる昨今では，そのメリット，デメリットに関する認識の相違はあるにせよ，その影響の大きさに疑いをいだく者はないだろう。しかしこのように世界経済が激しく変化しているなかで，経済の諸問題を客観的に直視することがますます必要になってくる。

本講義では2019年ノーベル経済学賞を受賞したAbhijit V. Banerjee and Esther Dufloの共著，“Good Economics for Hard Times” (2019)をカバーする。

春学期では以下の章を取り上げる。

授業内容

第１回　Introduction
第２回　Preface/Chapter 1: MEGA:Make Economics Great Again
第３回　Chapter 2: From the Mouth of the Shark
第４回　Chapter 2: From the Mouth of the Shark
第５回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第６回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第７回　Chapter 3: The Pains from the Trade
第８回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第９回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第10回　Chapter 4: Likes Wants and Needs
第11回　Chapter 5: The End of Growth?
第12回　Chapter 5: The End of Growth?
第13回　Chapter 5: The End of Growth?
第14回　Chapter 5: The End of Growth?

履修上の注意

自分が発表する範囲以外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

“Good Economics for Hard Times”, By Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo (2019)

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) CMM551J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易論外国文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

グローバリゼーションが進んでいる昨今では，そのメリット，デメリットに関する認識の相違はあるにせよ，その影響の大きさに疑いをいだく者はないだろう。しかしこのように世界経済が激しく変化しているなかで，経済の諸問題を客観的に直視することがますます必要になってくる。

本講義では2019年ノーベル経済学賞を受賞したAbhijit V. Banerjee and Esther Dufloの共著，“Good Economics for Hard Times” (2019)を春学期に続いてカバーする。

秋学期では以下の章を取り上げる。

授業内容

春学期に続いて秋学期では以下の章を取り上げる。

第１回　Introduction
第２回　Chapter 6: In Hot Water
第３回　Chapter 6: In Hot Water
第４回　Chapter 6: In Hot Water
第５回　Chapter 7: Player Piano
第６回　Chapter 7: Player Piano
第７回　Chapter 7: Player Piano
第８回　Chapter 7: Player Piano
第９回　Chapter 8: Legit.gov
第10回　Chapter 9: Cash and Care
第11回　Chapter 9: Cash and Care
第12回　Chapter 9: Cash and Care
第13回　Chapter 9: Cash and Care
第14回　Conclusion: Good and Bad Economics

履修上の注意

自分が発表する範囲以外でも事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

研究につながる独自の特に興味深い点などをピックアップして発表に盛り込む。

教科書

“Good Economics for Hard Times” By Abhijit V. Banerjee and Esther Duflo (2019)

参考書

塩澤恵理「ビジネス・コミュニケーションと最適化分析」頸草書房，2005。その他、随時提案する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

基本的に英語と日本語の両言語を用いる。（日本語は補足として取り入れる）

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	ドイツ語経済文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

ドイツ経営経済学の定番テキスト（古典）でもあるG･ヴェーエの下記「教科書」欄に記載した文献を中心に、主として、その方法論および経営組織構造に関する記述内容を取り上げ、その論点を探求・整理する。ドイツの経営経済学における研究対象の認識を深めることが、本講義の到達目標である。

授業内容

第01回　経営経済学の研究対象と研究方法
第02回　ドイツにおける経営経済学の歴史的展開動向
第03回　経営組織構造（組織構成要素および組織体制）
第04回　経営の生産要素
第05回　経営組織構造上の意思決定問題の諸側面（概説）
第06回　法律形態の選択
第07回　企業結合の形態
第08回　企業所在地の選択
第09回　生産の理論（概説）
第10回　生産理論と原価理論
第11回　生産計画と生産管理
第12回　販売の理論（概説）
第13回　販売政策と販売情報
第14回　春学期の総括

履修上の注意

授業は、受講者全員による輪読形式を採用、その後に質疑応答を重ね、討論の段階にまで展開していきたい。我国は、いわばドイツ経営経済学研究の先進国でもある。つまり、関係する多くの貴重な研究成果が公表・蓄積されている。毎回の授業では、必要に応じて、これら先人の業績に関する研究レポートの提出･発表を課す予定である。

履修者は、ドイツ語に堪能である必要はない。但し、学部時代または独学によりドイツ語文法の初級程度の知識を習得していることが望ましい。また、丹念にドイツ語辞書をひき続ける粘り強さとドイツ経営経済学への興味を持って授業に臨むように努めてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項については、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

Guenter Woehe, Einfuehrung in die Allgemeine Betriebswirtschaftslehre, 21. Aufl., Muenchen 2002.

参考書

参考文献は、必要に応じて適宜、講義中に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への積極姿勢の有無によってその参加度を確定し、
②これに講義時における報告とその基礎としたレジュメ内容を勘案して、総合的に評価する。
③期末においては講義内容の理解を確認するためのレポートを提出させる予定である。
④その割合は、①が20%、②が30%、③が50%である。

その他

ドイツ経営経済学の知識を広めたいとの意欲ある学生の受講を希望する。また、受講ノート作成方法の指示に従うこと。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	ドイツ語経済文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

ドイツ経営経済学の定番テキスト（古典）でもあるG･ヴェーエの下記「教科書」欄に記載した文献を中心に、主として、経営における財務活動と経営計算制度つまり会計の側面に関する記述内容を取り上げ、その論点を探求・整理する。ドイツの経営経済学における研究方法の認識を深めることが、本講義の到達目標である。

授業内容

第01回　投資計画と投資計算
第02回　企業評価論
第03回　財務計画の基礎
第04回　外部金融および内部金融の源泉
第05回　財務政策ツール（商品）の最適化
第06回　外部金融の特異性
第07回　経営計算制度論１（経営計算制度の基礎, 組織と分類）
第08回　経営計算制度論２（経営計算制度の基礎概念）
第09回　年度決算書論１（正規の簿記および貸借対照表作成の諸原則）
第10回　年度決算書論２（会計文書の種類と構造, 監査と公示）
第11回　年度決算書論３（会計国際化とコンェルン会計）
第12回　年度決算書論４（貸借対照表政策と貸借対照表分析）
第13回　年度決算書論５（貸借対照表理論，原価計算論）
第14回　秋学期の総括

履修上の注意

授業は、受講者全員による輪読形式を採用、その後に質疑応答を重ね、討論の段階にまで展開していきたい。我国は、いわばドイツ経営経済学研究の先進国でもある。つまり、関係する多くの貴重な研究成果が公表・蓄積されている。毎回の授業では、必要に応じて、これら先人の業績に関する研究レポートの提出･発表を課す予定である。

履修者は、ドイツ語に堪能である必要はない。但し、学部時代または独学によりドイツ語文法の初級程度の知識を習得していることが望ましい。また、丹念にドイツ語辞書をひき続ける粘り強さとドイツ経営経済学への興味を持って授業に臨むように努めてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項は、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

Guenter Woehe, Einfuehrung in die Allgemeine Betriebswirtschaftslehre, 21. Aufl., Muenchen 2002.

参考書

参考文献は、必要に応じて適宜、講義中に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への積極姿勢の有無によってその参加度を確定し、
②これに講義時における報告とその基礎としたレジュメ内容を勘案して、総合的に評価する。
③期末においては講義内容の理解を確認するためのレポートを提出させる予定である。
④その割合は、①が20%、②が30%、③が50%である。

その他

ドイツ経営経済学の知識を広めたいとの意欲ある学生の受講を希望する。また、受講ノート作成方法の指示に従うこと。

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	フランス語経済文献研究A		
開 講 期	春学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

フランス語による学術論文の読解能力をつけることを目標とする。

La Cour des comptes, Certification des comptes de l'Etat exercise 2024を読む。フランスでは，企業の財務諸表に公認会計士の監査証明が付与されるのと同様に，2006年から国の財務書類に対して会計検査院の検査証明が付与されることになった。公会計制度の先進国になったフランスの検査証明の実態を探るために，その最新の報告書を読む。この報告書は毎年作成されるが，フランスの公会計改革を先導する会計検査院による制度改革の状況報告でもある。文章には会計や行政の専門用語など難度が高いものが用いられているが，会計学における地域研究として残された最後のフロンティアである。

授業内容

第１回 オリエンテーション
第２回 Opinion avec réserve sur le compte général de l'État pour 2024 et Fondements de l'opinion avec reserve
第３回 La sous-évaluation des provisions et dépréciations liées aux matériels militaires
第４回 La surévaluation de la participation de l'État dans EDF
第５回 La sous-évaluation de la Caisse des dépôts et consignations
第６回 L'absence de mention de certains engagements pris par l'État actionnaire
第７回 La sous-évaluation des engagements en faveur de l'Union européenne
第８回 La valeur du patrimoine immobilier
第９回 La valeur du réseau routier et des actifs liés aux programme d'armenent
第10回 La valeur de certains entités contrôlées par l'État et des stocks militaires
第11回 La valeur des créances fiscales et Le provisionnement des obligations dépollutions et désamiantage
第12回 Le montant des charges d'intervention payées par des opérateurs pour le compte d'État et le montant des produits fiscaux
第13回 L'absence de mention des engagements pris dans le domaine de la formation professionelle
第14回 La surévaluation des engagements pris l'État envers les régimes spéciaux de retraite

履修上の注意

毎回の出席を必須とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

十分な下準備が必要であり必ず予習を行って日本語の訳を前もって考えておくことが必要である。なお仏々辞典の利用を推奨したい。

教科書

上に指定した文献

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

教材の理解度を毎回の和訳の出来具合から判定し、成績の判断基準とする（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) ECN521J			
特別外国文献研究		備 考	
科 目 名	フランス語経済文献研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	文2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　加藤　達彦		

授業の概要・到達目標

フランス語による学術論文の読解能力をつけることを目標とする。

Revue d'Economie Politique 2015年 janvier et fevrier 号に掲載されたD.Encaoua"Pouvoir de marche, strategie, regulation: Les contributions de Jean Tirole, Prix Nobel d'Economie 2014"を読む。2014年にノーベル経済学賞を受賞したフランスの経済学者J. Tiroleの業績に関する論文である。内容はゲーム理論・産業組織論・契約理論など多岐に渡り、その分野の基礎について一定の理解を必要とする。

授業内容

第１回 Introduction
第２回 Pouvoir de marche et strategies d'entreprises L'heritage en matiere de strategies d'entreprises en oligopole
第３回 〃 Un manuel qui a renouvele le champ desciplinaire
第４回 Engagement strategique et concurrence de court terme Les instruments d'analyse
第５回 〃 Typologie des investissements strategiques et concurrence de court terme
第６回 〃 Applications
第７回 Modeles dynmiques oligopole Quels instruments pour la dynamique industrielle?
第８回 〃 Concurrence dynamique en quantites
第９回 〃 Dissuasion d'entre dans un cadre de concurrence repetee en quantites
第10回 〃 Conurrence dynamique en prix
第11回 〃 Generalisation et applications
第12回 〃
第13回 Critiques et appreciations Approches de la concurrence oligopolistique en equilibre partiel
第14回 〃 Adequation de theorie des jeux pour analyser la concurrence oligopolistique

履修上の注意

講義は毎回出席することを必須とする。なお理論の理解に数学的素養が必要な場合があるが，平易に解説する。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は必ず事前に準備して，日本語訳を前もって考えてくることが要求される。また仏々辞典の利用を推奨する。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

教材の理解度を毎回の和訳の出来具合から判定し、成績の判断基準とする（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	実践商学特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師　藤森　浩樹		

授業の概要・到達目標

「世界経済と貿易･投資の現状と今後の展開」
多角化を続ける世界経済とその成長を上回り拡大する貿易と投資の基本構造とその体制を理解。その貿易と投資を，世界の各地域毎（アジア，米国，欧州，中東，中南米など）に分析の上，新たな潮流やビジネス上の変化に着目。総合商社の視点を加え，主な多国籍企業の世界戦略を俯瞰していく。最終，日本企業全般のアジアにおける機能や課題を検討し，日本の貿易・投資の在るべき方向性を展望する。
具体的なケーススタディを適宜，検討し現実のビジネスへの総括的なアプローチやそれまでのビジネススタディの手法を実践してみる。

授業内容

第１回　イントロダクション(講義概要の説明)
第２回　金融危機後の世界経済の現状，世界経済の発展プロセス特性と課題
第３回　世界並びにアジア全体の貿易･投資動向
第４回　経済危機や08年金融危機後の経済政策対応とその効果
第５回　グローバルに展開する企業活動とその戦略
第６回　新たなビジネス潮流と派生する問題
第７回　アジア：経済連携協定（EPA）の進展と超大型インフラ整備計画への動き
第８回　アジアの域内統合の深化と共通の課題
第９回　東南アジアの対日関係と日本企業のビジネスチャンスとリスク
第10回　中国経済の成長性と成長へのハードル
第11回　中国の輸出と産業の高度化並びにその戦略
第12回　米国経済とその基本構造と対外関係
第13回　米国の主産業の構造的特性とその戦略
第14回　講義総括
世界経済とその貿易・投資の進展と経済成長の方向性と企業戦略との関係性

履修上の注意

学部における貿易論の履修を前提とするが，必修とはしない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講師が手交する資料を熟読するほか，関連資料を自ら調べること。
関連資料については適宜紹介する。
講師が授業にて指示した内容については，文献を調べたり，データを確認したりしておくこと。

教科書

講師の作成資料を手交。その他適宜開講時に指示する。

参考書

同上
早稲田大学出版部
現代総合商社論
三菱商事･ビジネスの創造と革新

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価の方法
授業における討論への参加姿勢や課題への取組姿勢，グループ内での意見取りまとめといった授業への貢献度を評価の対象とする。
当然ながら講師への質問・意見の内容も含む。最終レポートの内容を評価する。
授業への参加度　10%
授業における積極性(参加姿勢や課題への取組姿勢）40%
授業への貢献度(グループ内の意見取りまとめ）30%
レポートや課題　20%

その他

学生個人の就職活動を含むビジネス社会との関わりについて，アドバイスは可能。

指導テーマ

現実の国際ビジネスの実態を捉えるとともにそのリアルな課題やアプローチへの手法を把握するもの。

科目ナンバー：(CO) CMM511J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	実践商学特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師　藤森　浩樹		

授業の概要・到達目標

実践商学特論Aの内容を参照。インド，中東・アフリカ，中南米の新興国経済の政治・経済構造を企業の戦略的な視点から概観し，その発展政策と直面している問題点を整理。グローバルに展開する大手企業の対新興国戦略を分析しそのビジネス機会とリスクを検討する。最終，日本の商社含む多国籍企業の戦略とその新たな方向性の示唆を試みる。
具体的なケーススタディを適宜，検討し現実のビジネスへの総括的なアプローチやそれまでのビジネススタディの手法を実践してみる。

授業内容

第１回　イントロダクション(講義概要の説明)新興国経済概観　政治･外交と経済構造と社会の特性
第２回　インド:経済の発展の新局面，開放経済へのプロセスと経済政策の効果
第３回　インド:産業構造(1)農業部門の変革と残る問題点
産業構造(2)製造業の変革～国営企業･財閥の寡占から市場競合へ
第４回　インド:産業構造(3)IT産業にみるインドのサービス産業のグローバル化
貿易・投資構造～主要貿易品目と貿易相手先，増加する直接投資
第５回　インド:民間セクターのダイナミズム～インド企業の競争力と海外進出
第６回　中東･アフリカ:日本との関係性，原油依存と産業多角化とその戦略
第７回　中東･アフリカ:インフラ整備～電力，水，パイプライン計画とビジネスチャンス
第８回　中東･アフリカ:人口増と難民･移民と欧州関係
第９回　中東･アフリカ:テロや紛争といった治安リスクと宗教的な制約
第10回　中南米:中南米の政治経済ならびに貿易構造の特性と対米関係
第11回　中南米:米国への経済的な依存と移民(出稼ぎ)動向
ブラジル経済の成長性と貧困問題
第12回　中南米:親密化する中南米とアジアの貿易･投資関係
第13回　講義総括:グローバリゼーション進展における新興国経済への指針や経済政策
新興国経済における共通するビジネスチャンスのリスク要因
第14回　講義総括:多国籍企業の対新興国ビジネスやその戦略への新たな方向性検討

履修上の注意

学部における貿易論の履修を前提とするが，必修とはしない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講師が手交する資料を熟読するほか，関連資料を自ら調べること。
関連資料については適宜紹介する。
講師が授業にて指示した内容については，文献を調べたり，データを確認したりしておくこと。

教科書

講師の作成資料を手交する。
その他適宜開講時に指示する。

参考書

同上
早稲田大学出版部
現代総合商社論
三菱商事･ビジネスの創造と革新

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績評価の方法
授業における討論への参加姿勢や課題への取組姿勢，グループ内での意見取りまとめといった授業への貢献度を評価の対象とする。
当然ながら講師への質問・意見の内容も含む。最終レポートの内容を評価する。
授業への参加度　10%
授業における積極性(参加姿勢や課題への取組姿勢）40%
授業への貢献度(グループ内の意見取りまとめ）30%
レポートや課題　20%

その他

学生個人の就職活動を含むビジネス社会との関わりについて，アドバイスは可能。

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
系列共通研究		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	技術経営特講A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(商学)・博士(工学)山下　洋史		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本授業は、技術経営の問題を、改善とイノベーションのためのマネジメント・モデル（Management Model for Improvement & Innovation）を通して論じるものである。その際のキー・コンセプトは「効率性重視のコントロールから創造性重視のサポートへ」、「情報共有から知識共有へ」、「堅い組織から柔らかい組織へ」といった点にあり、管理と支援、改善とイノベーション、組織学習、ベンチマーキング、SCM等のテーマと、カタストロフィー理論、ファジィ理論、情報理論、多変量解析等の工学的方法とを融合させた経営モデルをわかり易く解説していくことにする。
《授業の到達目標》
本授業は、半期（前期）完結型の講義であり、改善とイノベーションに焦点を当てた「技術経営モデル論」を学習することにより、商学教育における技術経営（Management of Technology; MOT）の新たなアプローチの方向性（TOM; Technology of Management；経営技術）を理解することが到達目標である。

授業内容

第１回　管理から支援へ（効率性重視のコントロールから創造性重視のサポートへ）
第２回　日本と米国の組織特性の比較
第３回　改善―イノベーションのカタストロフィー・モデル
第４回　問題探索エネルギーと解の導出エネルギー
第５回　学習曲線と疲労曲線を考慮したゴミ箱モデル(1)
第６回　学習曲線と疲労曲線を考慮したゴミ箱モデル(2)
第７回　予期せぬ問題と柔らかい組織(1)
第８回　予期せぬ問題と柔らかい組織(2)
第９回　専門的学習と幅広い参加的学習のシミュレーション・モデル(1)
第10回　専門的学習と幅広い参加的学習のシミュレーション・モデル(2)
第11回　中次学習による改善と高次学習によるイノベーション(1)
第12回　中次学習による改善と高次学習によるイノベーション(2)
第13回　ベンチマーキングとタッキング・マネジメント
第14回　環境の内部化と循環型SCM
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

これまでの経営モデル論や組織論では見落とされがちであったが、組織設計や組織行動モデル・学習曲線モデル、さらには業績評価情報の分析において、システム的思考や数学・統計学的アプローチが重要な役割を果たす。そこで、履修者はこのような基盤を身に着けるべく、必ず予習・復習を行ってもらいたい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定。

参考書

山下洋史，金子勝一編著『情報化時代の経営システム』東京経済情報出版，2004
山下洋史『情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル』東京経済情報出版，2005
明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史編著『日本人の心理・行動モデルと日本企業のクオリティ』白桃書房，2010
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性(50%)、授業での発言の積極性(50%)

その他

技術経営特講Ａの履修者は、技術経営特講Ｂおよび情報管理論特論Ａ・Ｂを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) MAN521J			
系列共通研究		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	技術経営特講B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(商学)・博士(工学)山下　洋史		

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
本授業は、大きく2つの柱から構成されている。その1つが「人的資源管理論」であり、もう1つが「経営工学」である。こうした学際的アプローチにより、社会科学と工学的とを融合させた技術経営（Management of Technology; MOT）論を大学院生にわかり易く解説していくことにする。
《授業の到達目標》
本授業は、MOT（Management of Technology）の一環として設置された半期（後期）完結型の講義であり、採用管理、配置管理、昇進・昇格管理、教育訓練管理、賃金管理、労使関係管理の問題を経営工学的アプローチにより論じていく。これにより、人的資源管理論における経営技術（Technology of Management; TOM）の新たなアプローチの方向性を理解することが、本授業の到達目標である。

授業内容

第１回　人的資源管理の基礎
第２回　人事情報と職務分析
第３回　人事情報と人事考課
第４回　評定傾向に関する定義と指標
第５回　評定傾向分析モデル
第６回　自己評定と他人評定の差異の定量化モデル
第７回　評定データのスケーリング・モデル
第８回　採用管理と要員計画
第９回　学歴による能力測定の準アウトソーシングとインターンシップによる準インハウスソーシング
第10回　適性配置と未来志向的非適性配置
第11回　昇進・昇格管理とランク・ヒエラルキーによるインセンティブ
第12回　教育訓練管理
第13回　労働条件管理
第14回　賃金管理
＊履修者の人数等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

本講義で論じる評定傾向分析モデルは、多変量解析・心理統計学・ファジィ理論・情報理論を基礎としているため、これらの理論を解説する情報管理論特論Ａ・Ｂ，および技術経営特講Ａを併せて履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回、自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定。

参考書

山下洋史『人事情報管理のための評定傾向分析モデル』経林書房，2000
明治大学経営品質科学研究所編『経営品質科学の研究』中央経済社，2011
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、授業での発言の積極性(50%)

その他

技術経営特講Ｂの履修者は、技術経営特講Ａおよび情報管理論特論Ａ・Ｂを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) CMM591J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	特別テーマ研究特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標
マーケティング論の基本的考え方について解説する。マーケティングは大規模なメーカーが市場狭隘化問題を解決するために開発された経営技術である。本講義では、世界のビジネスクールで使用されているマーケティング・マネジメントのスタンダードなテキスト用いて、マーケティング論の主要概念について解説する。受講生はそれによって、世界中のMBA ホルダーと一緒に仕事する際に、改めてマーケティング･マネジメントのテキストを紐解く必要はなくなるだろう。

授業内容
第１回　マーケティング論の射程
第２回　マーケティング戦略とマーケティング計画の立案
第３回　情報収集と環境調査
第４回　マーケティング･リサーチの実行と需要予測
第５回　顧客価値、顧客満足、顧客ロイアルティの創造
第６回　消費者市場の分析
第７回　ビジネス市場の分析
第８回　市場セグメントとターゲットの明確化
第９回　ブランド･エクイティの創出
第10回　ブランド･ポジショニングの設定
第11回　競争への対処
第12回　製品戦略の立案
第13回　サービスの設計とマネジメント
第14回　価格設定戦略と価格プログラムの策定

履修上の注意
1年次に商業総論A、Bの履修を必要とする。

準備学習（予習・復習等）の内容
テキストの精読

教科書
フィリップ･コトラー &ケビン･ケラー『マーケティング･マネジメント:基本編』ダイヤモンド社、2014年

参考書

課題に対するフィードバックの方法
講義室での質疑応答

成績評価の方法
出席 10%（2/3以下で期末試験受験資格なし）
各講義の用語確認テスト 40%
期末試験 50%

その他
特になし

科目ナンバー：(CO) CMM591J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	特別テーマ研究特論A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標
ラテンアメリカは多くの民族・文化が共存し共栄をめざす社会である。
その文化的特異性と成り立ちを理解することで、多様な現代世界に対応するための、高い視座と幅広い知識の習得を目標とする。
春学期は、食文化、音楽、スポーツ、北米との関係などをとりあげ、食問題、人種問題、移民など、今日的課題について考察する。

授業内容
1)イントロダクション(所康弘)
2)ラテンアメリカを概観する ～多民族･多文化社会の成り立ち～(敦賀公子)
3)古代文明と世界遺産(敦賀公子)
4)ラテン音楽と多民族･多文化社会(敦賀公子)
5)現代に生きる伝統と文化(敦賀公子)
6)多様な栽培植物とコロンブス(トウモロコシ、ジャガイモ)(敦賀公子)
7)多様な栽培植物とコロンブス(カカオ)(敦賀公子)
8)トウモロコシと現代の食問題(敦賀公子)
9)サッカーから考える多民族社会と貧困(敦賀公子)
10)大リーグ(野球)から考えるアフリカ系とラティーノの人々(敦賀公子)
11)米国･メキシコ国境をめぐって ～その歴史～(敦賀公子)
12)｢北｣へ向かう｢南｣の人々の動き(敦賀公子)
13)カリブ海地域の人々と米国のコミュニティ(敦賀公子)
14/aモジュール)講評と総括(所康弘)

履修上の注意
受け身ではなく主体的に授業に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容
各回テーマに関する教科書の該当箇所を読み、新しい項目について可能な限り調べること。最新のニュースなどから世界情勢にも精通すること。

教科書
『ラテンアメリカ500年』清水透著、岩波書店、2017年
『物語ラテン・アメリカの歴史』増田義郎著、中央公論社、1998年
ただし、毎授業、プレゼンテーション資料を配布する。

参考書
『ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫、落合一泰他監修、平凡社、2013年
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021年
外務省ホームページなど

課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーの課題の後は、講評を授業内で行う。

成績評価の方法
毎回の授業後のリアクションペーパー（30%）、学期末レポート(50%)、平常点(20%)
全授業の2/3以上の出席をもって評価対象とする。

その他
特になし。

科目ナンバー：(CO) CMM591J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	特別テーマ研究特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

本講義は世界的スタンダードなテキストを用い、世界中のマーケティング学徒が知っている基本的な概念、理論、事例を講義する。3 年次におけるマーケティング・コース選択者が知っておくべき標準的な知識を獲得することを到達目標とする。マーケティングコース選択者には必須の知識である。
本授業の基礎となる研究活動および研究プロジェクトは、フィリップ・コトラーおよびケビン・レーン・ケラーの著書『マーケティング・マネジメント基本編』を中心に展開され、マーケティング戦略と市場分析（製品ライフサイクル、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング (STP) モデル）適用可能性に関する研究、消費者行動と購買意思決定プロセス（消費者の購買動機、心理的要因、行動パターン）に関する分析、ブランドマネジメントと価値創造（ブランドエクイティ、ブランドロイヤルティ、ブランド拡張戦略）に関するケーススタディ及びマーケティングのデジタル化と最新動向（デジタルマーケティング、ソーシャルメディアの活用、データドリブンマーケティング）に関する研究が含まれる。これらの研究活動を授業内で具体例やケーススタディを用いて説明することで、学生が理論と実践を結び付けると考える。

授業内容

1　マーケティングの重要性
　マーケティングとは何か
　マーケティング・コンセプト
2　統合型マーケティング・コミュニケーションの設計とマネジメント
　マーケティング・コミュニケーションの役割
　マーケティング・コミュニケーション・ミックスの決定
3　マス・コミュニケーションのマネジメント
　広告プログラムの作成と管理
　パブリック・リレーションズ
4　人的コミュニケーションの管理
　ダイレクト・マーケティング セールス・フォースの組織設計
5　マーケティング・チャネルマネジメント
　垂直的マーケティングシステム
　チャネル構造のダイナミクス
6　グローバル経済におけるマーケティングの管理
　グローバル・マーケティングの管理
　マーケティング・プロセスの管理
7　サービスマーケティング
　真実の瞬間
　サービスエンカウンターの設計
8　リレーションシップマーケティング
　顧客リレーションシップ
　供給者購買者相互作用
9　国際マーケティング
　適応化・標準化モデル
　ボーングローバル企業戦略
10　マクロマーケティング
　消費社会
　マクドナルド化する社会
11　B2B マーケティング
　顧客適応製品標準化モデル
　生産財市場細分化
12　ソーシャルマーケティング
　NPO のマーケティング
　静脈系流通システム
13　サプライチェーンマネジメント
　延期投機の理論
　ジャストインタイム
14　マーケティングレビュー
　Segmentation, Targeting, and Positioning
　Product, Place, Price,and Promotion

履修上の注意

商業総論A、Bの単位を取得していること。前期講義のマーケティング総論Aと両方履修で到達目標が達せされる。講義の進捗によって授業内容の変更があり得る。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習復習については、テキストの精読、店頭への訪問、TV-CMの閲覧を行うこと。

教科書

フィリップ・コトラー &ケビン・レーン・ケラー著『コトラー &ケラーのマーケティング・マネジメント基本編』(第 3 版)、丸善出版、2008 年（最新版がたびたび出版されるので、当該年度の最新版を使います）

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

講義室での質疑応答を通じて受講生にフィードバックする。

成績評価の方法

期末試験100%（学部学生には研究を行う上でマーケティングの知識の基本レベルの習得を目指して評価を行う。大学院生には研究を行う上でさらに高いレベルのマーケティングの知識のレベルの取得を目指して評価を行う。）

その他

特になし

科目ナンバー：(CO) CMM591J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	特別テーマ研究特論B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

春学期に学んだ多文化・多民族社会のラテンアメリカの特異性をより深く理解するため、歴史に関する考察をおこなう。
それにより、多様で複雑な現代世界に対応するための、より実践的な知識の習得を目標とする。
地理的にとおい地域ではあるが、歴史的にみることで、外交関係・経済交流・日系人社会など、日本との関わりの深さが理解できるようになる。

授業内容

1）イントロダクション（所康弘）
2）大航海時代 ～植民地支配とキリスト教～（敦賀公子）
3）大航海時代 ～日本からの使節団、南蛮文化～（敦賀公子）
4）コーヒー産業とラテンアメリカ（敦賀公子）
5）バナナ産業とラテンアメリカ（敦賀公子）
6）日本・メキシコ修好通商条約と日本人移民の始まり（敦賀公子）
7）日系社会となにか？ ～南米の日系社会～（敦賀公子）
8）日系社会とはなにか？ ～南米から日本へ～（敦賀公子）
9）日本の政府開発援助（敦賀公子）
10）ラテンアメリカと日本の経済関係（敦賀公子）
11）1950から60年代 ～チェ・ゲバラとキューバ革命～（敦賀公子）
12）1970から1990年代 ～貧困と内戦、移民～（敦賀公子）
13）2000年代以降 ～北米のラティーノ社会のいま～（敦賀公子）
14/aモジュール）講評と総括（所康弘）

履修上の注意

受け身ではなく主体的に授業に参加すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

各回テーマに関する教科書の該当箇所を読み、新しい項目について可能な限り調べること。最新のニュースなどから世界情勢にも精通すること。

教科書

『ラテンアメリカ500年』清水透著、岩波書店、2017年
『物語ラテン・アメリカの歴史』増田義郎著、中央公論社、1998年
ただし、毎授業、パワーポイント資料を配布する。

参考書

『ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫、落合一泰他監修、平凡社、2013年
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021年
外務省、JICAなどのホームページ

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー課題を出した後は、授業内で講評を行う。

成績評価の方法

毎回の授業後のリアクションペーパー（30%）、事例研究発表とレポート(50%)、平常点(20%)
全授業の2/3以上の出席をもって評価対象とする。詳細は初回授業で説明する。

その他

特になし。

博 士 後 期 課 程

博士後期課程

I　履修方法・修了要件

1. 本研究科の博士後期課程の標準修業年限は 3 年とする。
2. 授業科目の中から専修科目（出願時に選定した科目 A・B）を選定し、その専修科目の研究指導担当者を指導教員とする。
3. 指導教員による必要な研究指導を受けなければならない。
4. 指導教員が担当する授業科目 2 科目 4 単位を含む 12 単位以上を修得しなければならない。
5. 指導教員による必要な研究指導を受けたうえ、専修科目によって博士学位請求論文を作成するものとする。
6. 指導教員が必要と認められるときは、研究科間共通科目を履修することができる。ただし研究科間共通科目の修得単位数は、修了要件に含めない。

II　履修にあたっての注意事項

自己の研究計画に従って、当該年度の履修計画書を届け出なければならない。

授業科目及び担当者

（1）経済系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
計量経済学特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　水野勝之	
計量経済学特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　水野勝之	
財政学特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
経済政策論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　山田知明	
経済政策論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)　山田知明	
国際経済学特殊研究A	2		○		専任教授　高浜光信	
国際経済学特殊研究B	2			○	専任教授　高浜光信	
計量経済学特殊演習C		2	○		専任教授　博士(商学)　水野勝之	
計量経済学特殊演習D		2		○	専任教授　博士(商学)　水野勝之	
財政学特殊演習A		2	○		専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	
財政学特殊演習B		2		○	専任教授　博士(経済学)　畑農鋭矢	

（2）商業系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
商業理論特殊研究A	2		○		専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業理論特殊研究B	2			○	専任教授　Ph.D (management)　竹村正明	
商業経営論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商品学特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
商品学特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　高橋昭夫	
日本流通史特殊研究A	2		○		専任教授　商学博士　若林幸男	
日本流通史特殊研究B	2			○	専任教授　商学博士　若林幸男	
市場調査論特殊研究A	2		○		専任教授　福田康典	
市場調査論特殊研究B	2			○	専任教授　福田康典	
商業経営論特殊演習C		2	○		専任教授　博士(商学)　菊池一夫	
商業経営論特殊演習D		2		○	専任教授　博士(商学)　菊池一夫	

（3）経営系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
生産管理論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
経営情報システム論特殊研究A	2		○		専任教授　村田潔	
経営情報システム論特殊研究B	2			○	専任教授　村田潔	
情報管理論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
情報管理論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(工学)・博士(商学)　山下洋史	
経営哲学特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　出見世信之	
クリエイティブ・ビジネス論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　水野誠	
クリエイティブ・ビジネス論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)　水野誠	
生産管理論特殊演習C		2	○		専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
生産管理論特殊演習D		2		○	専任教授　博士(経済学)　富野貴弘	
経営情報システム論特殊演習A		2	○		専任教授　村田潔	
経営情報システム論特殊演習B		2		○	専任教授　村田潔	
経営哲学特殊演習C		2	○		専任教授　博士(商学)　出見世信之	
経営哲学特殊演習D		2		○	専任教授　博士(商学)　出見世信之	

（4）会計系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
原価計算論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　千葉修身	
原価計算論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　千葉修身	
意思決定会計論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　前田陽	
意思決定会計論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　前田陽	
業績管理会計論特殊研究A	2		○		兼担教授　博士(経済学)　山口不二夫	
業績管理会計論特殊研究B	2			○	兼担教授　博士(経済学)　山口不二夫	
監査論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
監査論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　加藤達彦	
経営分析論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　王志	
経営分析論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　王志	
国際会計論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　山本昌弘	2026年度開講せず
国際会計論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　山本昌弘	
会計情報論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　名越洋子	
会計情報論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　名越洋子	
租税法特殊研究A	2		○		専任教授　Dr.jur.　松原有里	
租税法特殊研究B	2			○	専任教授　Dr.jur.　松原有里	

（５）金融・証券系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
金融理論特殊研究A	2		○		専任教授　Ph.D (Economics) 土屋陽一	
金融理論特殊研究B	2			○	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋陽一	
金融機関論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤隆康	
金融機関論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤隆康	
証券市場論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
証券市場論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　野田顕彦	
機関投資家論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
機関投資家論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　三和裕美子	
金融取引論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	
金融取引論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(経済学)　萩原統宏	

（６）保険系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
保険理論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　中林真理子	
保険理論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　中林真理子	
保険リスクマネジメント論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(経済学)　浅井義裕	
保険リスクマネジメント論特殊研究B	2		○		専任教授　博士(経済学)　浅井義裕	

（７）交通系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
交通理論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　藤井秀登	
交通理論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　藤井秀登	

（８）貿易系列

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
貿易理論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(商学)　所康弘	
貿易理論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(商学)　所康弘	
世界経済論特殊研究A	2		○		専任教授　小林尚朗	
世界経済論特殊研究B	2			○	専任教授　小林尚朗	
国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究A	2		○		専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	
国際ビジネス・コミュニケーション論特殊研究B	2			○	専任教授　博士(学術)　塩澤恵理	

（９）系列共通研究

授業科目	単位		開講期		担当教員	備考
	講義	演習	春	秋		
実践商学研究A	2		○		兼任講師　藤森浩樹	
実践商学研究B	2			○	兼任講師　藤森浩樹	

科目ナンバー：(CO) ECN711J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

後期課程では創造性が求められる。物価指数の理論を学び，それを経済理論にどのように生かせるかの研究の基礎を築く。様々な分野でこの方法を生かせるようにできる力をつける。

授業内容

〔経済指数の理論の計量経済学への適用〕

計量経済学にも新しい方向が求められている。ここでは，経済指数の理論を計量経済理論とリンクさせることにより新たな分野の開拓を試みる。

第１回　イントロダクション
第２回　ディビジア指数(1)
第３回　ディビジア指数(2)
第４回　ディビジア指数(3)
第５回　ディビジア指数(4)
第６回　ディビジア指数(5)
第７回　ディビジア指数の応用理論(1)
第８回　ディビジア指数の応用理論(2)
第９回　ディビジア指数の応用理論(3)
第10回　ディビジア指数の応用理論(4)
第11回　ディビジア指数の応用理論(5)
第12回　ディビジア指数の応用理論(6)
第13回　ディビジア指数の応用理論(7)
第14回　フリッシュ指数

履修上の注意

授業は自分で論点を見つけ出し，それをまとめるという形で進める。論文としての起承転結の筋立てを身につけるようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に基づいての学会報告を義務付ける。各自で，自主的に報告準備の作業を行うこと。

教科書

受講者の特性を見て随時指示する。

参考書

受講者の特性を見て随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

100点満点で履修上の注意点の実行を点数化していく。ただし，学会での報告をオブリゲーションとする。学会報告はそのうちの60点とし，内容が評価の重要なポイントになる。その他，授業への貢献度を40点とする。

その他

独自に学会報告ができる力を身につけること

科目ナンバー：(CO) ECN711J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標

後期課程では創造性が求められる。物価指数の理論を学び，それを経済理論にどのように生かせるかの研究の基礎を築く。様々な分野でこの方法を生かせるようにできる力をつける。

授業内容

〔ディビジア指数等経済指数と計量経済学モデルのリンク〕

計量経済学にも新しい方向が求められている。ここでは，ディビジア指数およびフリッシュ指数の理論を計量経済理論とリンクさせることにより新たな分野の開拓を試みる。

第１回　フリッシュ指数の応用理論(1)
第２回　フリッシュ指数の応用理論(2)
第３回　フリッシュ指数の応用理論(3)
第４回　フリッシュ指数の応用理論(4)
第５回　システム･ワイド―アプローチの応用(1)
第６回　システム･ワイド―アプローチの応用(2)
第７回　システム･ワイド―アプローチの応用(3)
第８回　システム･ワイド―アプローチの応用(4)
第９回　システム･ワイド―アプローチの応用(5)
第10回　システム･ワイド―アプローチの応用(6)
第11回　システム･ワイド―アプローチの応用(7)
第12回　自分で理論を作る(1)
第13回　自分で理論を作る(2)
第14回　自分で理論を作る(3)

履修上の注意

授業は自分で論点を見つけ出し，それをまとめるという形で進める。論文としての起承転結の筋立てを身につけるようにする。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業に基づいての学会報告を義務付ける。各自で，自主的に報告準備の作業を行うこと。

教科書

受講者の特性を見て随時指示する。

参考書

受講者の特性を見て随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

100点満点で履修上の注意点の実行を点数化していく。ただし，学会での報告をオブリゲーションとする。学会報告はそのうちの60点とし，内容が評価の重要なポイントになる。その他，授業への貢献度を40点とする。

その他

独自に学会報告ができる力を身につけること

科目ナンバー：(CO) ECN751J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
第1に，ミクロ経済学の数理モデルの基礎を理解し，自らモデル構築ができるようになることが目的である。
第2に，その経済モデルに基づき，財政の諸問題を数学的な手法により分析するための能力を養う。

授業内容
各トピックに関連する代表的な英語文献を輪読する。
第１回　財政学とミクロ経済理論(1)
第２回　財政学とミクロ経済理論(2)
第３回　財政学とミクロ経済理論(3)
第４回　最適課税論(1)
第５回　最適課税論(2)
第６回　最適課税論(3)
第７回　最適課税論(4)
第８回　不完全情報と社会保険(1)
第９回　不完全情報と社会保険(2)
第10回　不完全情報と社会保険(3)
第11回　不完全情報と社会保険(4)
第12回　費用便益分析(1)
第13回　費用便益分析(2)
第14回　費用便益分析(3)

履修上の注意
財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
博士前期課程レベルの講義を履修済みであることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017)『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018)『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一・照山博司(2023)『マクロ経済学・入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司・稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一・堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する。

参考書
Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz (2015) *Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.
Geoffrey A. Jehle and Philip J. Reny, (2001) *Advanced Microeconomic Theory* 2nd Edition, Addison Wesley.
Andreu Mas-Colell, Michael D. Whinston and Jerry R. Green, (1995) *Microeconomic Theory*, Oxford University Press.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN751J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
第1に，マクロ経済学の数理モデルの基礎を理解し，自らモデル構築ができるようになることが目的である。
第2に，その経済モデルに基づき，財政の諸問題を数学的な手法により分析するための能力を養う。

授業内容
各トピックに関連する代表的な英語文献を輪読する。
第１回　財政学とマクロ経済理論(1)
第２回　財政学とマクロ経済理論(2)
第３回　財政学とマクロ経済理論(3)
第４回　内生的成長と政府の役割(1)
第５回　内生的成長と政府の役割(2)
第６回　内生的成長と政府の役割(3)
第７回　内生的成長と政府の役割(4)
第８回　世代間移転と社会保障(1)
第９回　世代間移転と社会保障(2)
第10回　世代間移転と社会保障(3)
第11回　世代間移転と社会保障(4)
第12回　動学的非整合性と財政運営(1)
第13回　動学的非整合性と財政運営(2)
第14回　動学的非整合性と財政運営(3)

履修上の注意
財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。
博士前期課程レベルの講義を履修済みであることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩　新版』有斐閣ストゥディア.
レヴィット／グールズビー（2017)『ミクロ経済学 基礎編』東洋経済新報社.
レヴィット／グールズビー（2018)『ミクロ経済学 発展編』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一・照山博司(2023)『マクロ経済学・入門 第6版』有斐閣アルマ.
平口良司・稲葉大(2023)『マクロ経済学　第3版』有斐閣.
二神孝一・堀敬一(2017)『マクロ経済学 第2版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する場合がある。

参考書
Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz (2015) *Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.
Daron Acemoglu (2009) *Introduction To Modern Economic Growth*, Princeton University Press.
David Romer, (2011) *Advanced Macroeconomics* 4th Edition, McGraw-Hill.
齊藤　誠(2006)『新しいマクロ経済学[新版]』有斐閣.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN741J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

I will distribute the reading assignment based on the research interests of each Ph.D. candidate.
The followings are tentative.
1. Numerical Methods (1)
2. Numerical Methods (2)
3. Numerical Methods (3)
4. Numerical Methods (4)
5. Numerical Methods (5)
6. Numerical Methods (6)
7. Numerical Methods (7)
8. Numerical Methods (8)
9. Numerical Dynamic Programming (1)
10. Numerical Dynamic Programming (2)
11. Numerical Dynamic Programming (3)
12. Numerical Dynamic Programming (4)
13. Numerical Dynamic Programming (5)
14. Numerical Dynamic Programming (6)

履修上の注意

I assume to have a working knowledge of undergraduate level macroeconomics, microeconomics, and mathematics, such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for “mathematics for economics” in advance.
For example,

1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): “Mathematics for Economists,” WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), “Essential Mathematics for Economic Analysis,” Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), “Further Mathematics for Economic Analysis,” Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), “Introductory Real Analysis,” Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): “A First Course in Optimization Theory,” Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): “Real Analysis With Economic Applications,” Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): “An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics,” Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): “Numerical Methods in Economics,” The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): “Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications,” Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): “Recursive Macroeconomic Theory,” The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), “Recursive Methods in Economic Dynamics,” Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN741J			
経済系列		備 考	
科 目 名	経済政策論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　山田　知明		

授業の概要・到達目標

Currently, dynamic stochastic general equilibrium (DSGE) models are becoming useful tools for academics, government research institutes, and central banks. The course aims to study solving and applying the DSGE models analytically/numerically. For this purpose, students are required to read and present recent academic papers on related topics. I will distribute the reading list in the first class: the reading list will be available on my HP linked below.
The final goal of this course is to acquire skills to solve problems of your research interest with the DSGE models.

授業内容

I will distribute the reading assignment based on the research interests of each Ph.D. candidate.
The followings are tentative.
1. Dynamic General Equilibrium Analysis (1)
2. Dynamic General Equilibrium Analysis (2)
3. Dynamic General Equilibrium Analysis (3)
4. Dynamic General Equilibrium Analysis (4)
5. Dynamic General Equilibrium Analysis (5)
6. Dynamic General Equilibrium Analysis (6)
7. Dynamic General Equilibrium Analysis (7)
8. Dynamic General Equilibrium Analysis (8)
9. Structural Estimation (1)
10. Structural Estimation (2)
11. Structural Estimation (3)
12. Structural Estimation (4)
13. Structural Estimation (5)
14. Structural Estimation (6)

履修上の注意

I assume to have a working knowledge of undergraduate level macroeconomics, microeconomics, and mathematics, such as linear algebra, real analysis, optimization theory and probability.

準備学習（予習・復習等）の内容

Students are required to read a textbook for “mathematics for economics” in advance.
For example,

1. Simon, Carl P. and Lawrence Blume (2010): “Mathematics for Economists,” WW Norton & Co.
2. Sydsaeter and Hammond (2008), “Essential Mathematics for Economic Analysis,” Prentice Hall.
3. Sydsaeter, Hammond, Seierstad and Strom (2008), “Further Mathematics for Economic Analysis,” Prentice Hall.
4. Kolmogorov and Fomin (1970), “Introductory Real Analysis,” Dover
5. Sundaram, Rangarajan (1996): “A First Course in Optimization Theory,” Cambridge University Press

1. Ok, Efe (2000): “Real Analysis With Economic Applications,” Princeton University Press.
2. Corbae, Dean, Maxwell B. Stinchcombe, Juraj Zeman (2009): “An Introduction to Mathematical Analysis for Economic Theory and Econometrics,” Princeton University Press.

are also good references, although these two books cover more advanced topics.

教科書

* Judd, Kenneth L. (1998): “Numerical Methods in Economics,” The MIT Press.
* Heer, Burkhard and Alfred Maussner (2009): “Dynamic General Equilibrium Modeling: Computational Methods and Applications,” Springer.

参考書

* Ljungqvist, Lars and Thomas J. Sargent (2018): “Recursive Macroeconomic Theory,” The MIT Press.
* Stokey, Nancy L., Robert E. Lucas Jr., with E.C. Prescott (1989), “Recursive Methods in Economic Dynamics,” Harvard University Press.

課題に対するフィードバックの方法

Via Oh-o! Meiji.

成績評価の方法

The course grade will be a combination of presentations (30%) and term paper (70%). I strongly encourage students to write the term paper in English.

その他

https://tomoakiyamada.github.io/

科目ナンバー：(CO) ECN721J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際マクロ経済学分野での論文作成能力を養成し、研究論文の完成を目標とする。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究課題の確認
第３回　研究計画概要の作成
第４回　文献リストの作成
第５回　先行研究の検討
第６回　マクロ経済学の最新動向検討
第７回　国際マクロ経済学体系の最新動向検討
第８回　国際収支理論の最新動向検討
第９回　為替レート動学の最新動向検討
第10回　履修者の学会発表や論文投稿など研究成果発表を踏まえた報告
第11回　履修者の学会発表や論文投稿など研究成果発表を踏まえた検討
第12回　今後の研究課題の検討
第13回　研究課題の再検証
第14回　まとめ

履修上の注意
国際マクロ経済学、国際金融論に関するテーマで論文を作成したいと考えている学生を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容
他の履修者の報告概要について、互いに事前チェックしておくこと。

教科書
内外の論文を使用する。特定のテキストは使用しない。

参考書
授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度(50%)と研究成果(50%)で評価する。

その他
履修者のプレゼンテーションの際、他の履修者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN721J			
経済系列		備 考	
科 目 名	国際経済学特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		高浜　光信

授業の概要・到達目標
国際経済学分野での研究論文の完成を目標とする。

授業内容
第１回　イントロダクション
第２回　研究課題の確認
第３回　研究計画概要の検討
第４回　ミクロ経済学の最新動向検討
第５回　マクロ経済学の最新動向検討
第６回　経済成長論の最新動向検討
第７回　国際貿易理論の最新動向検討
第８回　貿易と成長に関する理論の最新動向検討
第９回　紀要論文への成果報告の公表を踏まえた報告
第10回　学会発表など研究成果発表を踏まえた報告
第11回　報告後の論文の再検証
第12回　今後の研究課題の検討
第13回　研究課題の再検証
第14回　まとめ

履修上の注意
国際経済学に関するテーマで論文を作成したいと考えている学生を希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容
他の履修者の報告概要について、互いに事前チェックしておくこと。

教科書
内外の論文を使用する。特定のテキストは使用しない。

参考書
授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度(50%)と研究成果(50%)で評価する。

その他
履修者のプレゼンテーションの際、他の履修者も予習を怠らないことを強く希望する。

科目ナンバー：(CO) ECN712J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特殊演習C		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標
経済統計学的研究方法の指導を行う。経済統計学的研究方法が理解できることを到達目標とする。

授業内容
第 1 回：経済統計学的研究方法の指導 1
第 2 回：経済統計学的研究方法の指導 2
第 3 回：経済統計学的研究方法の指導 3
第 4 回：経済統計学的研究方法の指導 4
第 5 回：経済統計学的研究方法の指導 5
第 6 回：経済統計学的研究方法の指導 6
第 7 回：経済統計学的研究方法の指導 7
第 8 回：経済統計学的研究方法の指導 8
第 9 回：経済統計学的研究方法の指導 9
第10回：経済統計学的研究方法の指導10
第11回：経済統計学的研究方法の指導11
第12回：経済統計学的研究方法の指導12
第13回：経済統計学的研究方法の指導13
第14回：経済統計学的研究方法の指導14

履修上の注意
根気が必要

準備学習（予習・復習等）の内容
自宅で準備すること

教科書
授業で指示する。

参考書
授業で指示

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
理解の努力に応じて評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN712J			
経済系列		備 考	
科 目 名	計量経済学特殊演習D		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　水野　勝之		

授業の概要・到達目標
応用計量経済学的研究方法の指導を行う。それを身につけることを到達目標とする。

授業内容
第 1 回：応用計量経済学的研究方法の指導 1
第 2 回：応用計量経済学的研究方法の指導 2
第 3 回：応用計量経済学的研究方法の指導 3
第 4 回：応用計量経済学的研究方法の指導 4
第 5 回：応用計量経済学的研究方法の指導 5
第 6 回：応用計量経済学的研究方法の指導 6
第 7 回：応用計量経済学的研究方法の指導 7
第 8 回：応用計量経済学的研究方法の指導 8
第 9 回：応用計量経済学的研究方法の指導 9
第10回：応用計量経済学的研究方法の指導10
第11回：応用計量経済学的研究方法の指導11
第12回：応用計量経済学的研究方法の指導12
第13回：応用計量経済学的研究方法の指導13
第14回：応用計量経済学的研究方法の指導14

履修上の注意
根気が必要

準備学習（予習・復習等）の内容
自宅で準備すること

教科書
授業で指示する。

参考書
授業で指示

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
応用計量経済学の理解の努力に応じて評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN752J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特殊演習A		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
公的部門の経済活動に関わる理論的・実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。また，学んだ知識を基に実証研究を行い，査読付き学術誌への論文投稿を目指す。

授業内容
経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学･ミクロ経済学の関連項目について学習する。
第１回　研究の方法(1)
第２回　研究の方法(2)
第３回　研究の方法(3)
第４回　財政学とミクロ経済学(1)
第５回　財政学とミクロ経済学(2)
第６回　財政学とマクロ経済学(1)
第７回　財政学とマクロ経済学(2)
第８回　財政学と計量経済学(1)
第９回　財政学と計量経済学(2)
第10回　研究テーマの事例(1)
第11回　研究テーマの事例(2)
第12回　研究テーマの事例(3)
第13回　既存研究の輪読(1)
第14回　既存研究の輪読(2)

履修上の注意
財政学･公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学･マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。並行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩〔新版〕』有斐閣ストゥディア.
アセモグル/レイブソン/リスト (2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2016)『マクロ経済学･入門 第5版』有斐閣アルマ.
アセモグル/レイブソン/リスト (2019)『マクロ経済学』東洋経済新報社.
齊藤誠･岩本康志･太田聰一･柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣.

教科書
特定の教科書は使用しない。
受講者の興味を考慮して必読文献を提示する場合がある。

参考書
Anthony B. Atkinson and Joseph E. Stiglitz (2015)*Lectures on Public Economics*, Princeton University Press.
Gareth D. Myles, (1995)*Public Economics*, Cambridge University Press.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN752J			
経済系列		備 考	
科 目 名	財政学特殊演習B		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）畑農　鋭矢		

授業の概要・到達目標
公的部門の経済活動に関わる理論的・実証的研究の重要文献を学び，分析手続きと分析手法について理解を深める。また，学んだ知識を基に自ら具体的にテーマを定めて，実証分析を行い，査読付き学術雑誌への論文投稿を目指す。

授業内容
経済における公的部門の役割についての知識を深めるため，マクロ経済学・ミクロ経済学の知識をベースに計量経済学の関連項目について学習する。
第１回　研究テーマの調査報告(1)
第２回　研究テーマの調査報告(2)
第３回　計量分析の演習(1)
第４回　計量分析の演習(2)
第５回　計量分析の演習(3)
第６回　計量分析の演習(4)
第７回　関連研究の紹介(1)
第８回　関連研究の紹介(2)
第９回　計量分析の演習(5)
第10回　計量分析の演習(6)
第11回　研究テーマの分析報告(1)
第12回　研究テーマの分析報告(2)
第13回　残された課題の検討(1)
第14回　残された課題の検討(2)

履修上の注意
財政学・公共経済学の他に，関連分野としてミクロ経済学・マクロ経済学，計量経済学の知識が重要である。平行して関連の講義を受講することを勧める。

準備学習（予習・復習等）の内容
ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉
安藤至大(2021)『ミクロ経済学の第一歩〔新版〕』有斐閣ストゥディア.
アセモグル/レイブソン/リスト (2020)『ミクロ経済学』東洋経済新報社.
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社.
〈マクロ経済学〉
福田慎一･照山博司(2016)『マクロ経済学･入門 第5版』有斐閣アルマ.
アセモグル/レイブソン/リスト (2019)『マクロ経済学』東洋経済新報社.
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣.

計量手法については次の図書を参照すること。
伊藤公一朗 (2017)『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書.
畑農鋭矢・水落正明(2022)『データ分析をマスターする12のレッスン〔新版〕』有斐閣アルマ.

教科書
受講者の興味を考慮して適宜指示する。

参考書
Jeffrey M. Wooldridge, (2012)*Introductory Econometrics: A Modern Approach*5th Edition, South-Western College Publishing.
James H. Stock and Mark W. Watson, (2010)*Introduction to Econometrics*3rd Edition, Prentice Hall.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
発表50%
授業への貢献50%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

商業理論の発展について、最新の方法論を多様に渉猟する。商業は商品流通の一様式であり、現代では（そして主にアメリカでは）2つの様式が支配的である。にもかかわらず、商業が不要であることがたびたび指摘される。それらの主張は、商品流通の効率化と商業様式を混同しているだけであるが、そういった理解は枚挙に暇がない。本講義では、主に商業の発生、構造、変容についての理論的な理解をし、それら俗流の意見に論理的に反論できる理解を獲得することを目的とする。

授業内容

第１回　商業論の射程
第２回　構造の発生と維持についての基礎理論
第３回　経済合理性についての基本的命題
第４回　商業の構造発生
第５回　商業の構造維持
第６回　商業の構造変動
第７回　商品流通の経済合理性
第８回　商品販売の様式
第９回　商品販売の構造発生
第10回　商品販売の構造変動
第11回　小売様式と卸様式
第12回　小売業態の発生
第13回　小売業態の構造変動
第14回　卸様式の発生

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

本講義は課題発表と質疑応答様式で課題を進めるので、テキストの事前予習は不可欠である。15時間程度の時間を準備するとよいだろう。

教科書

風呂勉『流通論パラダイム』碩学舎、2015年

参考書

森下二次也『改訂現代商業経済論』有斐閣、1977年
田村正紀『流通原理』千倉書房、2001年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義中において、課題の発表(40%)、講義中の発言(10%)、質疑応答の正解度（50%）の3点を評価する。この講義中の評価は最終評価において50%のウェイトを与える。最終評価の50%は試験期間中の定期試験による。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (management) 竹村　正明		

授業の概要・到達目標

商品流通の理論について、主に、小売業態と消費者の購買行動について、最新の方法論を多面的に渉猟することを課題とする。現代の商品流通構造は、消費者行動に適応することで規定されるのが一般的になってきている。消費者が相対する流通機関は小売業であり、その業態発展が流通成果と企業業績を規定すると考えるのが論理的である。この分析手法について、心理学、経済学、そして社会学で主に方法論が開発されいている。それらをマスターすることを目的とする。

授業内容

第１回　商品流通研究の射程
第２回　商品流通分析のための心理学的基礎
第３回　商品流通分析のための社会学的基礎
第４回　商品流通分析のための経済学的基礎
第５回　小売店頭における消費者意思決定の分析
第６回　小売店頭における社会的相互作用の分析
第７回　小売店頭における経済合理的消費者行動の分析
第８回　商品流通の経済合理性分析
第９回　商品品揃え構造の心理学的分析
第10回　商品選択の社会学的分析
第11回　商品品揃えの競争合理性の分析
第12回　業態発展の消費者心理学分析
第13回　業態発展の社会的相互作用の分析
第14回　消費者社会的相互作用の分析

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

主に課題発表と質疑応答様式で講義を進めるので、テキストの事前予習は不可欠である。15時間程度を想定するとよいだろう。

教科書

亀田達也･村田光二『社会心理学』有斐閣、2010年
山岸俊男『信頼の構造』東京大学出版、1998年

参考書

山岸俊男『信頼社会から安心社会へ』中央公論社
山岸俊男･吉開範章『ネット評判社会』NTT出版

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義においては課題の発表（40%）、講義中の発言（10%）、質疑応答の正解度（50%）を評価する。この各評価を合計し、最終評価の50%のウェイトを与える。残りの50%は試験期間中の定期試験による。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

（授業の概要）
　商業経営論特殊研究Aでは、急速に変化する小売ビジネス・卸売ビジネスを対象にして、その理論的なフレームワークの再検討を行っていく。受講者は当該領域のマーケティング現象を踏まえて先行研究を行い、自らの仮説を立ててテストするという研究方法を実践する。受講者は自らの研究の進度や問題点を確認するために報告を行い、議論をする。

（授業の到達目標）
　研究論文の作成を通じて、
　・研究テーマの設定
　・仮説の設定
　・研究アプローチ
などの習得と理解を図っていく。

授業内容

第１回　小売ビジネス・卸売ビジネスの動向
第２回　先行研究の検討―小売ビジネス必読文献
第３回　先行研究の検討―卸売ビジネス必読文献
第４回　先行研究の検討―小売ビジネス（オムニチャネル）
第５回　先行研究の検討―小売ビジネス（調達）
第６回　先行研究の検討―小売ビジネス（価値共創・経験価）
第７回　仮説の設定―上記分野から設定
第８回　仮説の設定―上記分野の仮説の検討
第９回　仮説の設定―上記分野での仮説の操作的定義
第10回　研究方法の検討と実践，結果の議論
第11回　研究方法の検討―研究結果の妥当性の検討
第12回　研究方法の検討―他の手法の採用の検討
第13回　結果の議論―学説上の位置づけ
第14回　結果の議論―実践的な示唆

履修上の注意

　報告者は自らの研究テーマに即したうえで問題意識をもち、毎回の報告・議論を通じて進度を確認するとともに研究の方向性、方法を検討することが求められる。報告の準備・先行研究の確認が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞典等で調べること。復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

“Customer Relationship Management,3rd Edition,” V.Kumar. and W.Reinartz (Springer) 2018

参考書

『社会科学のリサーチ・デザイン: 定性的研究における科学的推論』G.キングほか（勁草書房）2004年。

課題に対するフィードバックの方法

　割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

　報告者の報告（70％）、議論の内容（30％）を判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

（授業の概要）
　商業経営論特殊研究Bでは、急速に変化する小売ビジネス・卸売ビジネスを対象にして、その理論的なフレームワークの再検討を行っていく。特に「サービス」という視点からの再構築を検討する。受講者は当該領域のマーケティング現象を踏まえて先行研究を行い、自らの仮説を立ててテストするという研究方法を実践する。受講者は自らの研究の進度や問題点を確認するために報告を行い、議論をする。

（授業の到達目標）
　研究論文の作成を通じて、
　・文献探索方法
　・仮説の設定と検証
　・研究アプローチ
などの理解と習得を目的とする。

授業内容

第１回　小売ビジネスとサービス・ビジネスの動向
第２回　先行研究の検討―小売ビジネス必読文献
第３回　先行研究の検討―サービス・ビジネス必読文献
第４回　先行研究の検討―小売ビジネス
第５回　先行研究の検討―サービス・ビジネス
第６回　先行研究の検討―サービスサプライチェーン
第７回　仮説の設定―上記分野から設定
第８回　仮説の設定―上記分野の仮説の検討
第９回　仮説の設定―上記分野での仮説の操作的定義
第10回　研究方法の検討と実践，結果の議論
第11回　研究方法の検討―研究結果の妥当性の検討
第12回　研究方法の検討―他の手法の採用の検討
第13回　結果の議論―学説上の位置づけ
第14回　結果の議論―実践的な示唆

履修上の注意

　報告者は自らの研究テーマに即した問題意識をもち、毎回の報告・議論を通じて進度を確認するとともに研究の方向性、方法を検討することが求められる。報告の準備・先行研究の確認が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

　事前に、教科書の該当箇所を読み、次回の講義内容に関する専門用語について辞書等で調べること。復習として、教科書及び参考書の該当箇所を読むこと。

教科書

“Service Management-The New Paradigm in Retailing”Jay Landampully (ed), (Springer) 2012

参考書

『リサーチ・デザイン』田村正紀（白桃書房）2006年。

課題に対するフィードバックの方法

　割り当てられた報告内容や議論の仕方については講義時間の最後に振り返りを行い、講評を報告者や参加者にフィードバックする。

成績評価の方法

　報告者の報告（70％）、議論の内容（30％）を判断して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

クオリティ・オブ・ライフとマーケティングに関する研究を行います。Journal of Macromarketingなどの論文を批判的に検討できるレベルの研究力を身につけることを目標とします。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　QOLの概念(1)
第３回　QOLの概念(2)
第４回　QOLの理論(1)
第５回　QOLの理論(2)
第６回　QOLの理論(3)
第７回　QOLの測度と測定(1)
第８回　QOLの測度と測定(2)
第９回　QOLの測度と測定(3)
第10回　マクロ･マーケティングとQOL
第11回　マクロ･マーケティングとQOL
第12回　戦略的マーケティングとQOL
第13回　戦略的マーケティングとQOL
第14回　ソーシャル･マーケティングとQOL

履修上の注意

履修に当たっては，修士レベルのマーケティング理論を理解していること，および多変量解析の基本を理解していることが，必要条件となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

M. Joseph Sirgy, (2001) HANDBOOK OF QUALITY-OF-LIFE RESEARCH, Kluwer Academic Publishers.高橋・藤井・福田訳(2005)『QOL リサーチ･ハンドブック』同友館。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商品学特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　高橋　昭夫		

授業の概要・到達目標

リレーションシップ・クオリティについて研究を行います。Journal of Service Managementなどの論文を批判的に検討できるレベルの研究力を身につけることを目標とします。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　SERVQUAL(1)
第３回　SERVQUAL(2)
第４回　知覚リスクと知覚品質(1)
第５回　知覚リスクと知覚品質(2)
第６回　知覚リスクと知覚品質(3)
第７回　サービスとリレーションシップ概念(1)
第８回　サービスとリレーションシップ概念(2)
第９回　サービスとリレーションシップ概念(3)
第10回　営業とリレーションシップ(1)
第11回　営業とリレーションシップ(2)
第12回　営業とリレーションシップ(3)
第13回　ケース･スタディ(1)
第14回　ケース･スタディ(2)

履修上の注意

履修に当たっては，修士レベルのマーケティング理論を理解していること，および多変量解析の基本を理解していることが，必要条件となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習では，内容を鵜呑みにするのではなく，批判的に内容を検討すること。

教科書

・Doney, P. M. and J. P. Cannon (1997), “An Examination of Nature of Trust in Buyer-Seller Relationship,” Journal of Marketing, Vol. 61, April. pp. 35-51.
・Dwyer, F. R., P. H. Schurr, and S. Oh, (1987), “Developing Buyer Buyer-Seller Relationship,” Journal of Marketing, Vol. 51, April. pp. 11-27.
・Morgan, R. M. and S. D. Hunt, (1994), “The Commitment-Trust Theory of Relationship Marketing,” Journal of Marketing, Vol. 58, July. pp. 20-38.
・Selnes, F (1998), “Antecedents and Consequences of Trust and Satisfaction in Buyer-Seller Relationship,” European Journal of Marketing, Vol. 32, No. 2-4. pp. 305-322.

参考書

・高橋昭夫（2001），「注文型商品における売り手と買い手の長期的関係形成について」『明大社会研究所紀要』，第39巻，第1号，15-47頁。
・山本昭二『サービス･クオリティ』千倉書房
・南知恵子『リレーションシップ･マーケティング』

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（30%），報告内容（30%），それに期末のリポート(40%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM741J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

戦中，戦後の流通業界の大きな転換を，戦時の経済政策，特に経済新体制による統制経済の実施，大店法の施行，その後の商店街へのアーケード類補助などの流通政策史を機軸に観察する視点を確定し，これにより，経済各セグメントにおける流通の変化を分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　学術論文作成に向けて(1)
第２回　学術論文作成に向けて(2)
第３回　発表とその検討･評価(1)
第４回　発表とその検討･評価(2)
第５回　発表とその検討･評価(3)
第６回　発表とその検討･評価(4)
第７回　発表とその検討･評価(5)
第８回　発表とその検討･評価(6)
第９回　グループ学習(1)
第10回　グループ学習(2)
第11回　グループ学習(3)
第12回　グループ学習(4)
第13回　グループ学習現地踏査(1)
第14回　グループ学習現地踏査(2)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

石井寛治『近代日本流通史』東京堂書店などの基礎的な文献は読破しておいて頂きたい。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50/50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM741J			
商業系列		備 考	
科 目 名	日本流通史特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　商学博士　　若林　幸男		

授業の概要・到達目標

日本の流通・交通・通信・教育等インフラシステムの史的分析を通じて，日本経済の特殊性について外国と比較可能なレベルまでの認識に高めることを本講義の目的とし，同時に到達目標とする。

授業内容

日本流通史特殊研究Aに引き続き，経済各セグメントにおける流通の変化を相対的に分析したい。

従来経済の暗黒大陸と言われていた流通部面は，歴史的分析による客観的な事実認識を構築する科学的メスが入ることが少なかった。そのため，一概に問屋や卸を悪玉にする「問屋無用論」や，製販統合への無批判的な賛意，メーカーによる販売チャンネル構築と消費者のニーズの合致という不思議な仮説が論証されることなく一人歩きしてしまった。

本講義では，これらの欠陥を一つでも多く克服すべく，学生と一緒に，理論仮説の構築と実証分析のための現地踏査調査を含めた研究活動を予定したい。以下が授業の主な内容である。

第１回　博士論文の中間報告(1)
第２回　博士論文の中間報告(2)
第３回　博士論文の中間報告(3)
第４回　博士論文の中間報告(4)
第５回　博士論文の中間報告(5)
第６回　博士論文の中間報告(6)
第７回　テーマ学習(1)
第８回　テーマ学習(2)
第９回　博士論文のためのテーマ学習(1)
第10回　博士論文のためのテーマ学習(2)
第11回　博士論文のためのテーマ学習(3)
第12回　博士論文のためのテーマ学習(4)
第13回　博士論文のためのテーマ学習(5)
第14回　博士論文のためのテーマ学習(6)

履修上の注意

履修に際しては，まず，自分の関心を明確に表現すること，そして，さらに探求の姿勢を示すこと，これにより，指導のポイントが明確に浮かびあがるため，常に問題意識の「表現」に心がけてほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

『マーケティング戦略』有斐閣などの書物を読破しておくこと。

教科書

特に指定しないが，年度単位で設定される調査項目にそったテーマに関係する諸文献は読破を必須とする。

参考書

教科書と同様である。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

各位の研究の進展と講師の指導姿勢を相互評価して決定する。(50/50)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　福田　康典		

授業の概要・到達目標

マーケティングを含む多くの社会科学において，現在様々なリサーチ方法が提唱されている。これまでの定量的研究と定性的研究の方法論議では，それぞれのメリットとデメリットが議論されてきたが，最近はこれらを組み合わせる研究方法も提唱され始めている。この授業では，国際会議での報告や海外の学術誌への投稿を念頭に置きつつ，Mixed Methods Researchについて，Creswell and Plano-Clark (2011), Designing and Conducting Mixed Methods Research, 2nd edition, SAGE Publications, Inc.をベースに学んでいく。

授業内容

第１回：導入部分（Prefaceなど）の輪読とまとめ
第２回：第１章の概要把握
第３回：第１章の精読（MMRとは何か，方法の特徴）
第４回：第１章の精読（方法上のメリット，デメリット，問題）
第５回：第２章の概要把握
第６回：第２章の精読（MMRの発展経緯）
第７回：第２章の精読（MMRの背景にある哲学や科学観）
第８回：第３章の概要把握
第９回：第３章の精読（MMRの基本デザイン）
第10回：第３章の精読（MMRのキーとなる次元）
第11回：第３章の精読（MMRのデザイン例）①：定性から定量へ向かう統合例
第12回：第３章の精読（MMRのデザイン例）②：定量から定性へ向かう統合例
第13回：第４章の精読（研究事例からMMRを学ぶ）①：心理学領域の例
第14回：第４章の精読（研究事例からMMRを学ぶ）②：教育学領域の例

履修上の注意

授業は，事前に割り当てておいた箇所についての履修者による発表をベースに進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，授業終了時に次回の授業で勉強する範囲を明示するので，発表担当者でない者も含めた履修者全員が，当該範囲について事前にさまざまな資料（指定教科書，他の参考文献，論文等）を読んでから授業に参加すること。

教科書

Creswell and Plano-Clark (2011), Designing and Conducting Mixed Methods Research, 2nd edition, SAGE Publications, Inc.（各自で購入すること）

参考書

King, G., R.O. Keohane and S. Verba, Designing Social Inquiry, Princeton University Press, 1994（訳書あり）
Silverman, D., Interpreting Qualitative Data, 4th ed, Sage Publications Inc. 2011など適宜指定する。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や議論60%，課題への取り組みに対する評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
商業系列		備 考	
科 目 名	市場調査論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　福田　康典		

授業の概要・到達目標

マーケティングを含む多くの社会科学において，現在様々なリサーチ方法が提唱されている。これまでの定量的研究と定性的研究の方法論議では，それぞれのメリットとデメリットが議論されてきたが，最近はこれらを組み合わせる研究方法も提唱され始めている。この授業では，国際会議での報告や海外の学術誌への投稿を念頭に置きつつ，Mixed Methods Researchについて，Creswell and Plano-Clark (2011), Designing and Conducting Mixed Methods Research, 2nd edition, SAGE Publications, Inc.をベースに学んでいく。

授業内容

第１回：第５章の概要把握
第２回：第５章の精読（MMRにおける問題の所在の示し方）
第３回：第５章の精読（MMRにおける研究仮説の示し方）
第４回：第６章の概要把握
第５回：第６章の精読（MMRにおけるデータの収集）
第６回：第６章の精読（MMRにおけるデータ収集デザイン）①：定性部分を中心に
第７回：第６章の精読（MMRにおけるデータ収集デザイン）②：定量部分を中心に
第８回：第７章の概要把握
第９回：第７章の精読（MMRにおけるデータの分析と解釈）①：定性データのコーディング
第10回：第７章の精読（MMRにおけるデータの分析と解釈）②：定量データの解析
第11回：第８章の概要把握
第12回：第８章の精読（MMRを採用した研究の執筆）
第13回：第８章の精読（MMRを採用した研究の評価）
第14回：第９章（終章）の輪読とまとめ

履修上の注意

授業は，事前に割り当てておいた箇所についての履修者による発表をベースに進めていく。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回，授業終了時に次回の授業で勉強する範囲を明示するので，発表担当者でない者も含めた履修者全員が，当該範囲について事前にさまざまな資料（指定教科書，他の参考文献，論文等）を読んでから授業に参加すること。

教科書

Creswell and Plano-Clark (2011), Designing and Conducting Mixed Methods Research, 2nd edition, SAGE Publications, Inc.（各自で購入すること）

参考書

King, G., R.O. Keohane and S. Verba, Designing Social Inquiry, Princeton University Press, 1994（訳書あり）
Silverman, D., Interpreting Qualitative Data, 4th ed, Sage Publications Inc. 2011など適宜指定する。

課題に対するフィードバックの方法

課題提示の次の授業の冒頭時に解答例の提示や解説を行う。また適宜授業内で解説を行う場合もある。

成績評価の方法

授業における積極的な発言や議論60%，課題への取り組みに対する評価40%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM712J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特殊演習C		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　商業経営論特論演習では、小売ビジネス・卸売ビジネスを対象に研究を進めていく。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化、情報通信技術の発展、法的規制の緩和による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する問題意識と研究方法をもって論文の作成に取り組んでいく。そして博士論文の完成に向けて各章の整合性やフローについても検討していく。
〈授業の到達目標〉
　商業経営を対象にした論文の作成に向けて、
・文献収集方法
・仮説の設定
・仮説の検証
・示唆導出に向けての議論
への理解と習得

授業内容

第 1 回　小売戦略の全体像
第 2 回　小売戦略に関わるマーチャンダイジングの意思決定問題（品揃え）
第 3 回　小売戦略に関わるマーチャンダイジングの意思決定問題（価格）
第 4 回　小売戦略に関わる立地戦略の意思決定問題
第 5 回　小売戦略に関わるプロモーション戦略の意思決定問題
第 6 回　小売戦略に関わる顧客サービス戦略の意思決定問題
第 7 回　小売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第 8 回　小売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第 9 回　卸売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第10回　卸売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第11回　研究論文作成の進め方
第12回　仮説の設定
第13回　仮説の検証
第14回　検証結果と議論

履修上の注意

　履修者には事前に報告部分を割り当てる。履修者は論文作成にあたり、文献収集，論文構成，発表を繰り返し行う。マーケティング管理論特論・消費者行動論特論・市場調査論特論・流通システム論特論などの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の講義範囲について、事前に教科書等で調べてくること。講義で紹介した内容については文献等で調べておくこと。

教科書

　田村正紀（2006）『リサーチデザイン』千倉書房
　Grewal,G (2019) Retail Marketing Management 5th edition, Sage Publication Ltd.

参考書

　高島克義他編著（2010）『小売業革新』千倉書房。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への貢献度（60%）、発表内容（40%）を総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM712J			
商業系列		備 考	
科 目 名	商業経営論特殊演習D		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　菊池　一夫		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　商業経営論特論演習では、小売ビジネス・卸売ビジネスを対象に研究を進めていく。近年、わが国の流通業界を取り巻く環境は大きく変化している。流通のグローバル化，情報通信技術の発展，法的規制の緩和による競争の激化である。卸売業者同士の合併や、新しい小売営業形態の開発、プライベートブランド商品の開発が活発に行われている。こうした状況を踏まえて、商業経営への科学的な理解の必要性が高まっている。こうした流通現象を把握し、解明する問題意識と研究方法をもって論文の作成に取り組んでいく。つまり、研究方法の選択、仮説の設定と検証、示唆の導出に向けた議論、結論へのまとめに取り組んでいく。
〈授業の到達目標〉
　商業経営を対象にした論文の作成に向けて、
・文献収集方法
・研究テーマの設定
・研究アプローチ
・仮説の設定と検証
・結果と議論からの示唆の導出
・結論に向けてのまとめ
への理解と習得

授業内容

第 1 回　小売戦略の全体像
第 2 回　小売戦略に関わるマーチャンダイジングの意思決定問題（品揃え）
第 3 回　小売戦略に関わるマーチャンダイジングの意思決定問題（価格）
第 4 回　小売戦略に関わる立地戦略の意思決定問題
第 5 回　小売戦略に関わるプロモーション戦略の意思決定問題
第 6 回　小売戦略に関わる顧客サービス戦略の意思決定問題
第 7 回　小売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第 8 回　小売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第 9 回　卸売業の学説史的展開の確認（英米文献）
第10回　卸売業の学説史的展開の確認（日本文献）
第11回　研究論文作成の進め方
第12回　研究方法論
第13回　仮説の設定と検証
第14回　示唆の導出と議論、結論に向けてのまとめ

履修上の注意

　履修者には事前に報告部分を割り当てる。履修者は論文作成にあたり、文献収集、論文構成、発表を繰り返し行う。マーケティング管理論特論・消費者行動論特論・市場調査論特論・流通システム論特論などの関連科目の履修が好ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の講義範囲について、事前に教科書等で調べてくること。講義で紹介した内容については文献等で調べておくこと。

教科書

　田村正紀（2006）『リサーチデザイン』千倉書房
　Grewal,D (2019) Retail Marketing Management, 5th, Sage publishing LTD.

参考書

　高島克義他編著（2010）『小売業革新』千倉書房。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への貢献度（60%）、発表内容（40%）を判断して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN721J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　製品開発やイノベーションに関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら、今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。とりわけ、ものづくりとデザインとの関係や付加価値創出の問題、時間サイクルと競争力との関係について履修生と一緒に議論し今後の製造業のあり方について考えていきたいと思っています。
〈授業の到達目標〉
　製造企業の競争力という視点を軸に、生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学びます。

授業内容

第１回　今後の進め方、輪読文献に関する話し合い。
第２回　生産管理の文献輪読その１
第３回　生産管理の文献輪読その２
第４回　生産管理の文献輪読その３
第５回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その１
第６回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その２
第７回　サプライヤーシステムに関する文献輪読その３
第８回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その１
第９回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その２
第10回　製品アーキテクチャに関する文献輪読その３
第11回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その１
第12回　サプライチェーンマネジメントに関する文献輪読その２
第13回　ケーススタディ・ディスカッションその１
第14回　ケーススタディ・ディスカッションその２

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　Journal of Operations Manegementの掲載論文に常に眼を通しておくこと。

教科書

　履修者との相談の上、決定するため事前には指定しない。

参考書

　『生産システムの市場適応力：時間をめぐる競争』富野貴弘著（同文館出版）2012年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への出席態度（50％）、発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN721J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
　製品開発やイノベーションに関する古今東西の文献・論文・ケーススタディを輪読しながら、今日の製造業が抱えている問題について履修生と一緒に議論し考えていきたいと思います。とりわけ、ものづくりとデザインとの関係や付加価値創出という問題について履修生と一緒に議論し今後の製造業のあり方について考えていきたいと思っています。
〈授業の到達目標〉
　製造企業の競争力という視点を軸に、生産管理という学問領域を広義に捉えながら企業のものづくり手法について理論的・実証的に学びます。

授業内容

第１回　今後の進め方、輪読文献に関する話し合い。
第２回　製品開発に関する文献輪読その１
第３回　製品開発に関する文献輪読その２
第４回　製品開発に関する文献輪読その３
第５回　製品開発に関する文献輪読その４
第６回　イノベーションに関する文献輪読その１
第７回　イノベーションに関する文献輪読その２
第８回　イノベーションに関する文献輪読その３
第９回　イノベーションに関する文献輪読その４
第10回　製品デザインに関する文献輪読その１
第11回　製品デザインに関する文献輪読その２
第12回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その１
第13回　ものづくりの付加価値創出に関する文献輪読その２
第14回　ケーススタディ・ディスカッション

履修上の注意

　履修者は、経営学に関する基礎的な知識と理論を習得していることを前提とします。

準備学習（予習・復習等）の内容

　Journal of Operations Manegementの掲載論文に常に眼を通しておくこと。

教科書

　履修者との相談の上決定するため、事前には指定しない。

参考書

　『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文館出版）2012年
　『増補版　製品開発力』藤本隆宏、キム・B・クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
　『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年
　『イノベーション・マネジメント入門』一橋大学イノベーション研究センター編（日本経済新聞社）2001年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への出席態度（50％）、発表内容（50％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN751J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
1990年代半ば以降におけるインターネットの爆発的普及は，サイバースペースをビジネスの場へと変化させ，企業とステークホルダーとの取引きの多くをインターネットを介して行うeビジネス環境を出現させた。
本講義では，eビジネス環境における企業経営に関する研究が行われる。具体的に取り上げられる内容は，ビジネスプロセス革新手法，バーチャル組織設計，ブリック＆クリック組織，グローバル競争環境，先端的情報通信技術（ビッグデータ，IoT，人工知能，ロボット）などである。
《授業の到達目標》
情報通信技術を利用して，いかにビジネス革新を実現するのかについて，理論と実例の双方からアプローチし，研究者として第一線の業績を上げることができるための基礎知識の獲得を目指す。

授業内容

第１回　eビジネス（B to B）に関する課題論文についてのディスカッション
第２回　eビジネス（B to C）に関する課題論文についてのディスカッション
第３回　eビジネス（C to C）に関する課題論文についてのディスカッション
第４回　ディベート形式のワークショップ:eビジネス
第５回　検索エンジンに関する課題論文についてのディスカッション
第６回　ソシアルメディアに関する課題論文についてのディスカッション
第７回　モバイルビジネスに関する課題論文についてのディスカッション
第８回　受講生によるショートエッセイ報告(eビジネス)
第９回　eビジネスのビジネスモデルに関する課題論文についてのディスカッション
第10回　ビッグデータに関する課題論文についてのディスカッション
第11回　IoTに関する課題論文についてのディスカッション
第12回　人工知能とロボットに関する課題論文についてのディスカッション
第13回　ディベート形式のワークショップ:先端的情報通信技術とeビジネス
第14回　受講生によるショートエッセイ報告(ソシアルメディア)

履修上の注意

この講義は，事前に指定文献を読んでくることを前提としたディスカッションによって構成される。事前学習を怠る者には出席の資格がない。また，ディスカッションはプロの研究者を目指す者として論理的に行わなければならないことを認識すること。どのような専攻分野の学生であっても歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題論文には必ず事前に目を通し，教員を交えたディスカッションに十分耐えうるだけの理解と問題意識をもって講義に臨まなければならない。
また，課題として，ショートエッセイの作成・提出と，その内容に関する報告を求めることになる。

教科書

『現代経営情報論』遠山暁･村田潔･古賀広志著(有斐閣)

参考書

『Management Information Systems: Managing the Digital Firm』Laudon, K. C. and Laudon, J. P.（Pearson Education）

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，ショートエッセイ報告20%，ショートエッセイ50%

その他

受講生が研究者として自立できるよう，できる限りの支援をしていきます。

科目ナンバー：(CO) MAN751J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
情報倫理という研究分野では，1980年代半ばから，コンピュータ技術の社会への浸透を背景にして，コンピュータ科学者，哲学者を中心に多様な研究が行われてきている。
本講義では，これと商学・経営学を結びつけたビジネス情報倫理に関する研究が行われる。現在，多くの企業で行われている，顧客個人情報の利用および共有に基づくビジネス革新手法とプライバシーの関係，情報化組織における職場環境の変化と人的資源管理の関係，eビジネス環境における企業の信頼・評判とネット/モバイル社会の特性との関係といったテーマについて，情報倫理研究の知見を活用しながら，経営学的にアプローチする。
また，IIE（Intercultural Information Ethics）の研究も奨励される。これは特に留学生にとって興味ある研究テーマになるであろう。
《授業の到達目標》
受講生には，企業経営の文脈の中でどのような情報倫理問題が存在し，それに対して企業がどのように対処することが求められているのかを理解することが期待される。

授業内容

第１回　ビジネス情報倫理とは何か―イントロダクション
第２回　情報倫理概説
第３回　個人情報活用とプライバシー保護に関する課題文献についてのディスカッション
第４回　個人情報活用とプライバシー保護に関するケーススタディ
第５回　監視に関する課題文献についてのディスカッション
第６回　監視に関するケーススタディ
第７回　受講生によるショートエッセイ報告(プライバシー)
第８回　ITプロフェッショナリズムに関する課題文献についてのディスカッション
第９回　ITプロフェッショナリズムに関するケーススタディ
第10回　コミュニケーション倫理に関する課題文献についてのディスカッション
第11回　コミュニケーション倫理に関するケーススタディ
第12回　グローバル環境における情報倫理
第13回　受講生によるショートエッセイ報告（ITプロフェッショナリズム）
第14回　変化する情報通信技術環境とビジネス情報倫理の課題

履修上の注意

受講生が経営学の十分な知識があることを前提として講義が行われる。情報技術ならびに情報倫理に関する知識については講義の中で担当者が適宜解説し，理解をうながす。ケースメソッドを採用するため，議論への積極的な関与が要求される。どのような専攻分野の学生であっても歓迎する。

準備学習（予習・復習等）の内容

課題文献とケースには必ず事前に目を通し，教員を交えたディスカッションに十分耐えうるだけの理解と問題意識をもって講義に臨まなければならない。
また，課題として，ショートエッセイの作成・提出と，その内容に関する報告を求めることになる。

教科書

『情報倫理入門：ICT社会におけるウェルビーイングの探求』村田潔･折戸洋子編(ミネルヴァ書房)

参考書

『AI Ethics』Coeckelbergh, M. (MIT Press)

課題に対するフィードバックの方法

受講生の課題に対する取り組みへの講評を適宜実施する。

成績評価の方法

授業への貢献度30%，ショートエッセイ報告20%，ショートエッセイ50%

その他

国内でビジネス情報倫理研究ができるのは本講義のみです。この分野の国内外でのパイオニアを目指す受講生の参加を期待しています。

科目ナンバー：(CO) MAN751J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（工学）・博士（商学）山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本科目は、人間や組織の情報処理過程において「情報と知識はどのように位置づけられるのか？」、また「知識の価値は何によって特徴づけられるのか？」について論じるものである。そこで、支援学、IBC（Information Based Complexity：情報複雑性の理論），情報理論，組織設計論を理論的基盤としながら、「情報と知識に関する概念フレームワーク」を提示する。そして、このフレームワークに沿って、断片的で汚れている情報の不十分さ、状態を推測するための写像としての知識の位置づけ、組織における情報共有と知識共有の重要性、組織における知識の価値の定式化、情報の構造化と共有化における高-低エントロピーの両立、模倣の合理性と拡散、情報引力モデル等のテーマについて解説していく。

さらに、上記のテーマとBPR (Business Process Reengineering)、SCM (Supply Chain Management)、KM (Knowledge Management)、KCM (Knowledge Chain Management)、ベンチマーキングといったマネジメント・コンセプトとの関係について論じることにする。これらにより、情報の不十分さと知識の価値、情報共有と知識共有による市場競争力の向上、組織におけるエンパワーメントの必要性についての理解を深めることを目的（到達目標）とする。

授業内容

第１回　情報と知識に関する概念フレームワーク
第２回　情報の価値と知識の価値
第３回　IBC（Information Based Complexity：情報複雑性）の理論（1）
第４回　IBC（Information Based Complexity：情報複雑性）の理論（2）
第５回　情報の構造化と共有化
第６回　低エネルギーと高エントロピーの調和問題（1）
第７回　低エネルギーと高エントロピーの調和問題（2）
第８回　情報引力モデル
第９回　模倣の合理性とベンチマーキング（1）
第10回　模倣の合理性とベンチマーキング（2）
第11回　BPRと代替的双対モデル
第12回　SCMと拡張代替的双対モデル（1）
第13回　SCMと拡張代替的双対モデル（2）
第14回　ファジィ・エントロピー最大化モデル
＊履修者の人数や専門分野等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

これまでの経営モデル論や組織論では見落とされがちであったが、組織設計や組織行動モデル・学習モデル、さらには業績評価情報の分析において、システム的思考の研究アプローチが重要な役割を果たす。そこで、履修者にはこのような基盤を身に着けるべく、必ず予習・復習を行うよう希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回，自身の見解を整理しておく。

教科書

山下洋史：情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル，東京経済情報出版，2005

参考書

山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，金子勝一編著：情報化時代の経営システム，東京経済情報出版，2001
山下洋史，諸上茂登，村田潔編著：グローバルSCM，有斐閣，2003
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、授業での発言の積極性（50%）

その他

情報管理論特殊研究Aの履修者は、情報管理論特殊研究Bを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) MAN751J			
経営系列		備 考	
科 目 名	情報管理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（工学）・博士（商学）山下　洋史		

授業の概要・到達目標

本講義は、企業・公共機関等の経営組織において、人的資源に関する情報をいかにして定量化し活用していくかについて論じるものである。この人的資源に関する最も代表的な情報は「評価情報」であろう。この評価情報は、基本的に非計量情報（ノンメトリック・データ）であるという点と、心理的なバイアスが介入しやすいという点に、これを活用していく上での難しさがある。ノンメトリック・データであることが定量化を難しくし、心理的なバイアスがかかりやすいことが客観的な価値判断を難しくしているのである。

本講義では、この厄介な評価情報に対して「非計量評価情報の計量情報管理論」を展開していくことにする。そこでの課題は、上記のように、①非計量情報としての評価情報の定量化（スケーリング）と②評価情報の背後に潜むバイアスの抽出である。①の課題に対しては心理統計学と多変量解析からのアプローチを、また②の課題に対しては情報量統計学とファジィ理論からのアプローチを試みることにする。

これにより、非計量的であいまいで心理的バイアスが介入しやすい評価情報の有効活用を図るためのアプローチについての理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

第１回　非計量情報（ノンメトリック・データ）としての評価情報と尺度水準
第２回　評定尺度法の種類と特徴
第３回　照合法と多項目総合的考課法
第４回　寛大化傾向
第５回　中央化傾向
第６回　厳格化傾向と二極化傾向
第７回　ハロー効果（1）
第８回　ハロー効果（2）
第９回　評定傾向分析モデル（1）
第10回　評定傾向分析モデル（2）
第11回　自己評定と同僚間相互評定（1）
第12回　自己評定と同僚間相互評定（2）
第13回　評定データのスケーリング・モデル（1）
第14回　評定データのスケーリング・モデル（2）
＊履修者の人数や専門分野等により，授業内容が変わることがある。

履修上の注意

これまでの経営モデル論や組織論では見落とされがちであったが、組織設計や組織行動モデル・学習モデル、さらには業績評価情報の分析において、システム的思考の研究アプローチが重要な役割を果たす。そこで、履修者にはこのような基盤を身に着けるべく、必ず予習・復習を行うよう希望する。

準備学習（予習・復習等）の内容

予習：次回の授業テーマについて、予め基本概念を理解しておく。
復習：授業で説明した理論・枠組みやモデルの妥当性と問題点について、毎回，自身の見解を整理しておく。

教科書

随時、資料を配付する予定

参考書

山下洋史：情報・知識共有を基礎としたマネジメント・モデル，東京経済情報出版，2005
山下洋史『人事情報管理のための評定傾向分析モデル』経林書房，2000
山下洋史『人的資源管理と日本の組織』同文舘，2016
山下洋史，金子勝一編著：情報化時代の経営システム，東京経済情報出版，2001
山下洋史，諸上茂登，村田潔編著：グローバルSCM，有斐閣，2003
山下洋史，諸上茂登編著『企業のサステナビリティ戦略とビジネス・クォリティ』同文舘，2017

課題に対するフィードバックの方法

授業中に提示した課題については、次回の授業の中で解説する。

成績評価の方法

授業での質問に対する回答の妥当性（50%）、授業での発言の積極性（50%）

その他

情報管理論特殊研究Bの履修者は、情報管理論特殊研究Aを併せて履修することが望ましい。

科目ナンバー：(CO) MAN711J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から学びながら，企業の社会性を考慮した研究ができるようにすることを到達目標とする。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，企業倫理を中心に取り上げる。
第１回　企業倫理の意義を学ぶ
第２回　企業倫理に関するテキストの輪読
第３回　企業倫理に関するテキストの輪読
第４回　企業倫理に関するテキストの輪読
第５回　企業倫理に関するテキストの輪読
第６回　企業倫理に関するテキストの輪読
第７回　企業倫理に関するテキストの輪読
第８回　CSRに関するテキストの輪読
第９回　CSRに関するテキストの輪読
第10回　CSRに関するテキストの輪読
第11回　CSRに関するテキストの輪読
第12回　CSRに関するテキストの輪読
第13回　CSRに関するテキストの輪読
第14回　CSRに関するテキストの輪読
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に受講者の必要に合わせ指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，受講生の積極的参加が望まれる。

科目ナンバー：(CO) MAN711J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標

経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，課題事項管理等の観点から学びながら，企業の社会性を考慮した研究ができるようにすることを到達目標とする。

授業内容

本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，課題事項管理および倫理的リーダーシップを中心に取り上げる。
第１回　ガイダンス―課題事項管理の意義―
第２回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第３回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第４回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第５回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第６回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第７回　課題事項管理に関するテキストの輪読
第８回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第９回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第10回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第11回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第12回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第13回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
第14回　倫理的リーダーシップに関するテキストの輪読
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に出席するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容

現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書

開講時に指示する。教材は，配布する。

参考書

開講時に受講者の必要に合わせ指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度により評価する。

その他

ショート・ケースやグループ討論を行う予定なので，受講生の積極的参加が望まれる。

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標

クリエイティブ･ビジネスとは，狭義にはコンテンツ･メディア･広告･ファッション・アートなどのビジネスを指すが，広義にはあらゆる分野での創造的な新製品・新サービスの創出と普及に関わる事業活動を指す。ここではその両方を視野に入れて，企業と消費者の両面からこうしたビジネスの原理を科学的に探求することを目指す。

そのための方法論として，大規模データ解析やエージェントベース･モデリングからなる計算社会科学(CSS)に注目し，既存研究を広くレビューするとともに，プログラミングを通じて分析スキルの向上を図る。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 CSSの基礎原理
第３回 CSSの古典的研究
第４回 CSSプログラミング基礎実習(1)
第５回 CSSプログラミング基礎実習(2)
第６回 マーケティングにおけるCSS(1)
第７回 マーケティングにおけるCSS(2)
第８回 経営科学におけるCSS
第９回 社会心理学におけるCSS
第10回 経済学におけるCSS
第11回 政治学におけるCSS
第12回 CSSプログラミング応用実習(1)
第13回 CSSプログラミング応用実習(2)
第14回 総括
＊受講者と相談の上，内容が変更される可能性がある。

履修上の注意

「クリエイティブ･ビジネス論特論Ａ･Ｂ」「クリエイティブ･ビジネス論特論演習ＩＡ・Ｂ」を履修済みか同レベルの知識・スキルを持つこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は指定された課題(計算，文献講読等)を事前に行い，発表が割り当てられた場合はその準備を行う。事後的な課題が課された場合はそれを行い，指定された日に報告を行う。

教科書

特になし。

参考書

演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法

授業への参加態度と貢献（30%），発表あるいは提出された課題の内容（40%），最終試験（あるいはレポート）の結果(30%)

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
経営系列		備 考	
科 目 名	クリエイティブ･ビジネス論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）　水野　誠		

授業の概要・到達目標

「クリエイティブ・ビジネス論特論演習ＩＡ」での学習を踏まえ､自らの修士課程での研究の方向性を設定する。それに沿って主要な関連文献を講読し、発表する。次いで採用する研究の方法論を選び、自分が不足するスキルについては教員の指導のもと、実習を通じて学んでいく。

授業内容

第１回 研究テーマの設定(1)
第２回 研究テーマの設定(2)
第３回 主要関連文献の講読(1)
第４回 主要関連文献の講読(2)
第５回 主要関連文献の講読(3)
第６回 主要関連文献の講読(4)
第７回 主要関連文献の講読(5)
第８回 主要関連文献の講読(6)
第９回 研究の方法論的課題の確認
第10回 分析手法の学習(1)
第11回 分析手法の学習(2)
第12回 分析手法の学習(3)
第13回 分析手法の学習(4)
第14回 分析手法の学習(5)
＊受講者と相談の上，内容が変更される可能性がある。

履修上の注意

「クリエイティブ・ビジネス論特殊研究Ａ」を履修済みであること。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は指定された課題(計算，文献講読等)を事前に行い，発表が割り当てられた場合はその準備を行う。事後的な課題が課された場合はそれを行い，指定された日に報告を行う。

教科書

特になし。

参考書

演習中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の発表に対して講評と助言を行う。

成績評価の方法

受講者は指定された課題(計算，文献講読等)を事前に行い，発表が割り当てられた場合はその準備を行う。事後的な課題が課された場合はそれを行い，指定された日に報告を行う。

その他

科目ナンバー：(CO) MAN722J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特殊演習C		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略、経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では、フィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。
〈到達目標〉
経営学と生産管理論に関する理論の習得および、それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第 1 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導①
第 2 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導②
第 3 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導③
第 4 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導④
第 5 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑤
第 6 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑥
第 7 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑦
第 8 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑧
第 9 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑨
第10回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑩
第11回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑪
第12回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑫
第13回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑬
第14回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑭

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の文献を事前に読んでおくこと。
『生産管理の基本』富野貴弘著（日本実業出版社）2017年
『生産マネジメント入門』藤本隆宏著（日本経済新聞社）2001年
『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文舘出版）2012年
『増補版 製品開発力』藤本隆宏、キム・B・クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究発表内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN722J			
経営系列		備 考	
科 目 名	生産管理論特殊演習D		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）富野　貴弘		

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
現代の製造企業の技術戦略、経営戦略，イノベーション等に関連した研究を行う。履修者の問題関心に沿った「ものづくりと経営学」に関連する研究テーマにもとづき指導（発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導）をする。なお，本演習では、フィールドワーク（国内外問わず）を通じた定性研究が必須となる。
〈到達目標〉
経営学と生産管理論に関する理論の習得および、それを応用した製造企業の経営現象の分析と論文執筆ができるようになること。

授業内容

第 1 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導①
第 2 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導②
第 3 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導③
第 4 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導④
第 5 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑤
第 6 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑥
第 7 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑦
第 8 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑧
第 9 回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑨
第10回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑩
第11回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑪
第12回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑫
第13回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑬
第14回：発表指導、論文執筆指導、フィールドワーク指導⑭

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

下記の文献を事前に読んでおくこと。
『生産管理の基本』富野貴弘著（日本実業出版社）2017年
『生産マネジメント入門』藤本隆宏著（日本経済新聞社）2001年
『生産システムの市場適応力』富野貴弘著（同文舘出版）2012年
『増補版 製品開発力』藤本隆宏、キム・B・クラーク著（ダイヤモンド社）2009年
『ビジネス・アーキテクチャ』藤本隆宏・武石彰・青島矢一編（有斐閣）2001年

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

研究発表内容（100％）

その他

科目ナンバー：(CO) MAN752J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特殊演習A		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　経営情報システム論あるいは経営情報学分野における、オリジナリティにあふれ、学問的・実務的有用性のある博士論文の作成に向けた研究指導を行う。
《授業の到達目標》
　博士論文を構成する章あるいは節に対応する論文をアウトプット志向で作成する。このことによって、英文・和文学術雑誌への投稿や、国内学会大会での研究報告、国際会議での研究報告実績が積み重ねられることが期待される。

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:研究課題の設定
第 3 回:研究進捗計画(論文投稿･研究報告の予定を含む)の作成
第 4 回:関連文献リストの作成
第 5 回:先行研究等の検討
第 6 回:参考事例の検討
第 7 回:学会報告テーマの決定と予稿の作成
第 8 回:学会報告スライドの作成
第 9 回:学会報告の質疑応答を踏まえた投稿論文内容の検討
第10回:投稿論文の作成
第11回:博士論文における投稿論文の位置づけの検討
第12回:研究進捗状況の確認
第13回:今後に向けての研究計画の検証
第14回:夏季休暇中の研究活動計画の策定

履修上の注意

　受講生は、プロの研究者になることを自覚して、常に生産性の高い学問的議論ができるよう、十分な準備をした上で、緊張感をもって演習に臨んでほしい。教員とは研究者として対等の立場にあることを意識して、積極的に自説を展開してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　この演習の受講生は、プロの研究者になることを目指しているのであるから、日々、予習・復習を怠らないようにしなければならない。予習と復習の間の境界線を明確に引くことは難しいが、自分が論文や研究報告の形で研究成果を積極的にアウトプットを常に意識して、演習の前に関連する書籍・論文に目を通しておくことはもちろんのこと、演習の中で疑問に思ったことについては、担当教員と議論を交わし、さらに必要な関連文献にあたって、疑問の解消をするよう不断の努力をすることが望まれる。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文･研究報告のアウトプット状況70%

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) MAN752J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営情報システム論特殊演習B		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授		村田　潔

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
　経営情報システム論あるいは経営情報学分野における、オリジナリティにあふれ、学問的・実務的有用性のある博士論文の作成に向けた研究指導を行う。
《授業の到達目標》
　博士論文を構成する章あるいは節に対応する論文をアウトプット志向で作成する。このことによって、英文・和文学術雑誌への投稿や、国内学会大会での研究報告、国際会議での研究報告実績が積み重ねられることが期待される。

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:夏季休暇中における研究の進捗報告
第 3 回:探索的研究のためのアンケート調査票の開発
第 4 回:探索的研究のための半構造化聞き取り調査票の開発
第 5 回:国際会議報告テーマの決定とアブストラクトの作成
第 6 回:参考文献ならびに参考事例の検討
第 7 回:アンケート調査結果の分析
第 8 回:聞き取り調査結果の分析
第 9 回:フォローアップ調査の設定
第10回:国際会議報告用の予稿作成
第11回:国際会議報告用のスライド作成
第12回:国際会議での質疑応答を踏まえた投稿論文の作成
第13回:投稿論文の博士論文における位置づけの確認
第14回:次年度に向けての研究活動計画の検証

履修上の注意

　受講生は、プロの研究者になることを自覚して、常に生産性の高い学問的議論ができるよう、十分な準備をした上で、緊張感をもって演習に臨んでほしい。教員とは研究者として対等の立場にあることを意識して、積極的に自説を展開してほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

　この演習の受講生は、プロの研究者になることを目指しているのであるから、日々、予習・復習を怠らないようにしなければならない。予習と復習の間の境界線を明確に引くことは難しいが、自分が論文や研究報告の形で研究成果を積極的にアウトプットを常に意識して、演習の前に関連する書籍・論文に目を通しておくことはもちろんのこと、演習の中で疑問に思ったことについては、担当教員と議論を交わし、さらに必要な関連文献にあたって、疑問の解消をするよう不断の努力をすることが望まれる。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度30%、論文･研究報告のアウトプット状況70%

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) MAN712J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特殊演習C		
開 講 期	春学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から学びながら，企業の社会性を考慮した研究により博士論文を完成ができるようにすることを到達目標とする。

授業内容
本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，社会性のある企業理念を中心に取り上げる。
第１回　企業理念の意義を学ぶ
第２回　企業理念に関するテキストの輪読
第３回　企業理念に関するテキストの輪読
第４回　企業理念に関するテキストの輪読
第５回　企業理念に関するテキストの輪読
第６回　企業理念に関するテキストの輪読
第７回　企業理念に関するテキストの輪読
第８回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第９回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第10回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第11回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第12回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第13回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
第14回　企業理念の浸透に関するテキストの輪読
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に参加するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，基本的に配布する予定。

参考書
開講時に受講者の必要に合わせ指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他
博士論文作成のため、積極的に取り組むことが大切です。

科目ナンバー：(CO) MAN712J			
経営系列		備 考	
科 目 名	経営哲学特殊演習D		
開 講 期	秋学期	単 位	演2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　出見世　信之		

授業の概要・到達目標
経営哲学について，企業倫理，企業の社会的責任，企業統治等の観点から学びながら，企業の社会性を考慮した研究により博士論文を完成ができるようにすることを到達目標とする。

授業内容
本講義では，経営哲学の主要なテーマの中で，B&SとCSVの領域を中心に取り上げる。
第１回　B&SとCSVの意義を学ぶ
第２回　B&Sに関するテキストの輪読
第３回　B&Sに関するテキストの輪読
第４回　B&Sに関するテキストの輪読
第５回　B&Sに関するテキストの輪読
第６回　B&Sに関するテキストの輪読
第７回　B&Sに関するテキストの輪読
第８回　CSVに関するテキストの輪読
第９回　CSVに関するテキストの輪読
第10回　CSVに関するテキストの輪読
第11回　CSRVに関するテキストの輪読
第12回　CSVに関するテキストの輪読
第13回　CSRに関するテキストの輪読
第14回　CSRに関するテキストの輪読
＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
授業に参加するための十分な準備を心がけること。

準備学習（予習・復習等）の内容
現実の企業経営との関わりが深いので，企業関連のニュースや雑誌記事を読み，企業経営に関する知識を高めることを準備学習とする。

教科書
開講時に指示する。教材は，基本的に配布する予定。

参考書
開講時に受講者の必要に合わせ指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
授業への貢献度により評価する。

その他
博士論文作成のため、積極的に取り組むことが大切です。

科目ナンバー：(CO) ACC721J			
会計系列		備 考	
科 目 名	原価計算論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

近年、ドイツにおいては会計制度の大改革が遂行された。それは、ドイツの企業・会計制度の国際的競争力・先進性を高めるべく企図された、極めて戦略的色彩の強い改革であった。同時に、現代会計の特色が色濃く反映されている。そこで、本特殊研究では、先ず、こうした現代会計の性質を基礎として、「製作原価」規定を含む「貸借対照表法現代化法」(BilMoG)にみる現代の「会計規定」の制度的機能を究明とその意義を明らかにし、次に、この認識を基礎として、ファイナンス型会計に対する制度的対応の進展を考察することを到達目標としている。

授業内容

第01回　BilMoG前の貸借対照表法
第02回　BilMoG後の貸借対照表法
第03回　BilMoGの目標
第04回　BilMoGの背景事情
第05回　BilMoG制定の経緯その1（措置一覧）
第06回　BilMoG制定の経緯その2（参事官草案）
第07回　BilMoG制定の経緯その3（政府草案）
第08回　BilMoG制定の経緯その4（法務委員会）
第09回　参事官草案と政府草案の相違1（相殺命令）
第10回　参事官草案と政府草案の相違2（無形固定資産）
第11回　参事官草案と政府草案の相違3（時価評価と配当禁止）
第12回　参事官草案と政府草案の相違4（時価評価と基準性原則）
第13回　参事官草案と政府草案の相違5（引当金の割引）
第14回　参事官草案と政府草案の相違6（擬制財産対象物）

履修上の注意

ドイツ語の素養の有無は問わない。現代会計の研究上、その対象と方法の在り方に極めて高い問題意識を有することが肝要である。したがって、履修にあたっては、かかる問題意識を自ら発展させようとする意欲をもって臨むことが重要である。現代会計の特色は、その虚構性を高度化させている点にあるといっても過言ではない。本特殊研究は、こうした現代会計の性質を基礎として、BilMoGの論理を究明する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項については、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

ドイツにおいて2007年以降に公表された貸借対照表法現代化法(BilMoG)に係る連邦司法省参事官草案および政府草案の原文、さらには関連する多くのハンドブックや学術論文等を研究対象(教科書)として取上げる。

参考書

・鈴木義夫・千葉修身著『会計研究入門―“会計はお化けだ！”―』(森山書店、2015年)
・鈴木義夫著『ドイツ会計制度改革論』(森山書店、2000年)
・千葉修身著『現代ドイツ原価計算制度論』(森山書店、1996年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への積極姿勢の有無によってその参加度を確定し、
②これに講義時における報告とその基礎としたレジュメ内容を勘案して、総合的に評価する。
③期末においては講義内容の理解を確認するためのレポートを提出させる予定である。
④その割合は、①が20%、②が30%、③が50%である。

その他

ドイツ会計の知識を広めたいとの意欲ある学生の受講を希望する。

科目ナンバー：(CO) ACC721J			
会計系列		備 考	
科 目 名	原価計算論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　千葉　修身		

授業の概要・到達目標

近年、ドイツにおいては会計制度の大改革が遂行された。それは、ドイツの企業・会計制度の国際的競争力・先進性を高めるべく企図された、極めて戦略的色彩の強い改革であった。同時に、現代会計の特色が色濃く反映されている。そこで、本特殊研究では、こうした現代会計の性質を基礎として、「製作原価」規定を含む「貸借対照表法現代化法」(BilMoG)にみる現代の「会計規定」の制度的機能を究明し、その意義を明らかにした上で、現代会計の特色を示すとみなし得るファイナンス型会計の制度的対応の進行状況を踏まえ、現代会計の性質を把握することを到達目標としている。

授業内容

第01回　参事官草案と政府草案の相違の意味
第02回　参事官草案と政府草案の相違1（研究開発費）
第03回　参事官草案と政府草案の相違2（通貨換算）
第04回　参事官草案と政府草案の相違3（IFRS年度決算書）
第05回　参事官草案と政府草案の相違4（潜在的租税）
第06回　参事官草案と政府草案の相違5（附属説明書）
第07回　参事官草案と政府草案の相違6（付すべき時価）
第08回　参事官草案と政府草案の相違7（年金引当金）
第09回　ドイツ会計の国際化の歩み（再論）
第10回　BilMoGと税法1（基準性「通達」）
第11回　BilMoGと税法2（評価単位）
第12回　BilMoGと税法3（無形経済財）
第13回　BilMoGと会計写像
第14回　BilMoGに対する回顧と展望
＊履修者の人数等により授業内容が変わることがある。

履修上の注意

ドイツ語の素養の有無は問わない。現代会計の研究上、その対象と方法の在り方に極めて高い問題意識を有することが肝要である。したがって、履修にあたっては、かかる問題意識を自ら発展させようとする意欲をもって臨むことが重要である。現代会計の特色は、その虚構性を高度化させている点にあるといっても過言ではない。本特殊研究は、こうした現代会計の性質を基礎として、BilMoGの論理を究明する。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に紹介した文献や指摘した事項について、必ず図書館等で確認の上、質問事項を用意しておくこと。

教科書

ドイツにおいて2007年以降に公表された貸借対照表法現代化法(BilMoG)に係る連邦司法省参事官草案および政府草案の原文、さらには関連する多くのハンドブックや学術論文等を研究対象(教科書)として取上げる。

参考書

・鈴木義夫・千葉修身著『会計研究入門―“会計はお化けだ！”―』(森山書店、2015年)
・鈴木義夫著『ドイツ会計制度改革論』(森山書店、2000年)
・千葉修身著『現代ドイツ原価計算制度論』(森山書店、1996年)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①授業への積極姿勢の有無によってその参加度を確定し、
②これに講義時における報告とその基礎としたレジュメ内容を勘案して、総合的に評価する。
③期末においては講義内容の理解を確認するためのレポートを提出させる予定である。
④その割合は、①が20%、②が30%、③が50%である。

その他

ドイツ会計の知識を広めたいとの意欲ある学生の受講を希望する。

科目ナンバー：(CO) ACC741J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では博士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究報告とその検討①
第３回　研究報告とその検討②
第４回　研究報告とその検討③
第５回　研究報告とその検討④
第６回　研究報告とその検討⑤
第７回　研究報告とその検討⑥
第８回　研究報告とその検討⑦
第９回　研究報告とその検討⑧
第10回　研究報告とその検討⑨
第11回　研究報告とその検討⑩
第12回　研究報告とその検討⑪
第13回　研究報告とその検討⑫
第14回　春学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

各自の研究テーマに基づきオリエンテーションで指示する。

参考書

・Kenneth A. Merchant (2023) *Management Control Systems: Performance Measurement, Evaluation and Incentives, 5th ed.*, Pearson.

それ以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

履修を希望するものは、必ず初回授業前までに sun@meiji.ac.jp にメールし、履修予定である旨の連絡をすること。

科目ナンバー：(CO) ACC741J			
会計系列		備 考	
科 目 名	意思決定会計論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　前田　陽		

授業の概要・到達目標

本講義では管理会計をより深く理解するために，現代における管理会計研究の文献を輪読する。

管理会計にはマネジャーの意思決定に資するという役割が期待されている。本講義では，企業におけるマネジャーが日々の経営活動を行なう上で直面する諸問題に資する管理会計についての理解を深める。

本講義では博士論文等の研究を進めるために必要な管理会計研究における先行研究を輪読し，その知見を得ることを到達目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　研究報告とその検討①
第３回　研究報告とその検討②
第４回　研究報告とその検討③
第５回　研究報告とその検討④
第６回　研究報告とその検討⑤
第７回　研究報告とその検討⑥
第８回　研究報告とその検討⑦
第９回　研究報告とその検討⑧
第10回　研究報告とその検討⑨
第11回　研究報告とその検討⑩
第12回　研究報告とその検討⑪
第13回　研究報告とその検討⑫
第14回　秋学期の総括
＊履修者数等により内容が変更することがある。

履修上の注意

本講義では，経営及び管理会計の知識を得るため，経営・会計に関する研究書等を輪読する。しかし，指定された文献・資料のみを読むのではなく，討論に耐えうるよう必要な周辺知識を事前に各々身につけることを期待する。

本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

教科書

各自の研究テーマに基づきオリエンテーションで指示する。

参考書

・Cheryl S. McWatters, Jerold L. Zimmerman. 2016. Management Accounting in a Dynamic Environment, Routledge.

上記以外の参考書等は適宜示す。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

講義への貢献度（60％）を重視し，さらに研究発表や課題などの成績（40％）によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC741J			
会計系列		備 考	
科 目 名	業績管理会計論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼担教授　博士（経済学）　山口　不二夫		

授業の概要・到達目標

本講義の目的は，管理会計研究のために，現時点での実務と研究状況の確認を行い，受講生の研究の手助けを行うことにある。

そのために講義，テキストの輪読，専門書･専門論文の講読，資料の検討，受講生の研究報告，討論などをおりまぜて，授業を進める。

管理会計は何より，会計の一分野であるから，会計とはなにか，会計の基礎概念の確認，管理会計と財務会計の差異などを考察する。その上で，管理会計の各技法の検討を行う。とくにそのなかでも，部門（子会社）評価，非営利組織の業績評価と経営，病院の経営分析などは重視したい。さらにはそれらを総合した企業・組織価値評価につながるような研究を行う。

非営利組織としては，病院，老人施設，学校法人，自治体，公社公団などをイメージしている。

また，担当者は長年，わが国企業の管理会計技法の発展を研究してきたので，希望者には，それらの講義あるいは，研究方法を議論したい。

受講生が会計専門でない場合は、企業の財務評価のケースを学習を交える。その際には、『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科、に掲載された、ケースを学習する。

授業内容

第１回　ガイダンス:授業の進め方
第２回　管理会計と財務会計について
第３回　会計の基礎概念:資本と利益の概念
第４回　各種利益概念と企業価値の関係
第５回　価格変動下の利益と企業価値
第６回　簿記のシステムと原価計算，配賦の問題
第７回　収益の認識基準
第８回　評価の問題
第９回　企業評価の方法
第10回　企業･組織･部門･子会社評価のケース１
第11回　ケース２　NHKなど
第12回　ケース３　病院など
第13回　非営利組織の会計と管理
第14回　会計の歴史の研究方法

履修上の注意

履修者の学習レベルに合わせた指導を行うので，各自が何を学びたいかという意識だけは明確にしておいてほしい。また各自の研究報告の報告とディスカッションは必ず行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

必要な場合があるが，その場合は授業時に指示する。

教科書

講義時に参加者と相談して決定する。

参考書

その都度指示する。
山口不二夫ケース論文『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での貢献(50%)
報告･提出課題の評価(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC741J			
会計系列		備 考	
科 目 名	業績管理会計論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼担教授　博士（経済学）　山口　不二夫		

授業の概要・到達目標

本講義の目的は，管理会計研究のための現時での実務と研究状況の確認を行うことにある。

そのために講義，テキストの輪読，専門書･専門論文の講読，資料の検討，討論などをおりまぜて，授業を進める。

管理会計は何より，会計の一分野であるから，会計とはなにか，会計の基礎概念の確認，管理会計と財務会計の差異などを考察する。その上で，管理会計の各技法の検討を行う。とくにそのなかでも，部門（子会社）評価，非営利組織の業績評価と経営，ライセンスビジネスなどは重視したい。さらにはそれらを総合した企業・組織価値評価につながるような研究を行う。

非営利組織としては，病院，老人施設，学校法人，自治体，公社公団などをイメージしている。

また，担当者は長年，わが国企業の管理会計技法の発展を研究してきたので，希望者には，それらの講義あるいは，研究方法を議論したい。

受講生が会計専門でない場合は、企業の財務評価のケースを学習を交える。その際には、『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科、に掲載された、ケースを学習する。

授業内容

第１回　ガイダンス:授業の進め方の相談
第２回　日本の成長戦略について
第３回　企業の国際化と管理会計
第４回　企業と部門評価の方法
第５回　業界分析の方法と定性分析の方法
第６回　医療業界の経営分析１
第７回　同　２
第８回　ケースの報告と分析１
第９回　ケースの報告と分析２
第10回　ケースの報告と分析３
第11回　学校法人の管理と経営１
第12回　学校法人の管理と経営２
第13回　地域の活性化と自治体のバランスシート１
第14回　まとめと今後の展望

履修上の注意

履修者の学習レベルに合わせた指導を行うので，各自が何を学びたいかという意識だけは明確にしておいてほしい。また各自の研究報告の報告とディスカッションは必ず行う。

準備学習（予習・復習等）の内容

必要な場合があるが，その場合は授業時に指示する。

教科書

その都度指示する。

参考書

その都度指示する。
山口不二夫のケース論文『MBSレビュー』明治大学グローバルビジネス研究科

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での貢献(50%)
報告･提出課題の評価(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC761J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		加藤　達彦

授業の概要・到達目標

講義の目的は，主に監査に関する最新の学術論文について理解を深め，受講学生の博士論文への応用の可能性を探ることである。

授業内容

第１回　Kinney（2005）によるアメリカの監査の規制緩和と規制強化の歴史
第２回　Magee and Tseng（1990）による監査人の独立性の微妙さの考察
第３回　Dewatripont and Tirole（1994）による間接金融の効果の研究
第４回　Fudenberg and Tirole（1995）による会計や配当の平準化の研究
第５回　Glaeser et al.（2001）による損害賠償訴訟と行政処分の効果分析
第６回　加藤(2008)の学生を被実験者とした損害賠償訴訟と行政処分の実験
第７回　Libby et al.（2006）による，監査判断を公認会計士にさせる実験
第８回　Lu（2006）による強制監査法人交代の有効性に関する数学的分析
第９回　Dopuch et al.（2001）による強制監査法人交代の有効性の実験
第10回　加藤(2011)による学生を被験者とした強制監査法人交代の実験
第11回　Bloomfield（1995・1997)によるリスク・アプローチの数学的分析
第12回　柳川(2007)のモデルを応用した市場の監視方法と会計士の役割の分析
第13回　Tirole（1986）・Kofman and Lawaree（1993）・Demarzo et al.（2005)による監査人の癒着と監督機関の監視の有効性に関する数学的検証
第14回　加藤(2010・2015)による監査難民問題と監査人の独立性の実験

履修上の注意

高校の理系程度の数学以外に最低偏微分・包絡線・重積分などの知識が前もって必要である。また統計学(重回帰分析・t検定・ANOVA・ノンパラメトリック検定など)の知識も不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

前回配布した資料を参考にして次の講義の準備をする必要がある。

教科書

加藤達彦著「監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―」森山書店(2005)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業における発言(50%)と授業における研究報告(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC761J			
会計系列		備 考	
科 目 名	監査論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		加藤　達彦

授業の概要・到達目標

監査の分野における論文の最新動向について詳説し，一通りの理解を得ることを目標とする。

授業内容

第１回　非監査業務の供与と監査の品質に関する研究(1)　加藤(2005)の数学モデル
第２回　非監査業務の供与と監査の品質に関する研究(2)　Friedman and Mahieux（2021)の数学モデル
第３回　非監査業務の供与と監査の品質に関する研究(3)　Lisic et al.（2019)とBeardsley et al.（2021)の実証的研究
第４回　非監査業務の供与と監査の品質に関する研究(4)　Kowaleski et al.（2018)の実験的研究
第５回　監査人の任期継続と監査の品質に関する研究　Patterson et al.（2019)の数学モデル
第６回　監査法人の強制交代と監査の品質に関する研究　Bleibtreu and Stefan（2018)の数学モデル
第７回　監査の戦略リスク(不正リスク)に関する研究(1)　Hoffman ad Zimbelman（2009)の会計士を被験者とした実験
第８回　監査の戦略リスク(不正リスク)に関する研究(2)　Bowlin（2011)のゲーム理論に基づく実験
第９回　監査の戦略リスク(不正リスク)に関する研究(3)　Kachelmeier（2014）のリスク評価の機械化に関する実験
第10回　ビジネスリスクの評価に関する研究O'Donnell and Schultz（2005)のハロー効果に関する実験
第11回　会計士の倫理性の阻害要因に関する研究(1)　Kachelmeier and Van Landuyt（2022）の親密性と曖昧性に関する実験
第12回　会計士の倫理性の阻害要因に関する研究(2)　Hurley et al.（2019)の強いつながりに関する実験
第13回　会計士の倫理性の阻害要因に関する研究(3)　Kachelmeier and Rimkus（2022）の肯定優先主義に関する実験
第14回　会計士の倫理性の阻害要因に関する研究(4)　Bonner et al.（2022)のマインドセットに関する実験

履修上の注意

高校の理系程度の数学以外に最低偏微分・包絡線・重積分などの知識が前もって必要である。また統計学(重回帰分析・t検定・ANOVA・ノンパラメトリック検定など)の知識も不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

講義で配布した資料を参考にして必ず次の講義の準備をすることが必要である。

教科書

加藤達彦著「監査制度デザイン論―戦略的アプローチと実験的アプローチの応用―」森山書店(2005)

参考書

P. Bolton and M. Dewatripont, Contract Theory, MIT Press, (2004)
J. Tirole, The Theory of Corporate Finance, Princeton University Press, (2005)

課題に対するフィードバックの方法

課題の提出を求めた場合には，提出物の評価やその評価の根拠を含めて授業の際に詳しく説明する

成績評価の方法

授業業における発言(50%)と報告の内容(50%)

その他

科目ナンバー：(CO) ACC751J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
企業における経営活動の結果が財務諸表という具体的な数値となって表れてくる。本授業では、財務諸表にある会計数値がどのように作られているか、またそれらをどのように改善するかについて深く考えていく。こうした会計数値の裏にあるリアルな経営をイメージできるようにしていく。
また、会計数値の分析に際して、統計学が必要となる場合があるため、統計学を学習することがある。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 研究とはなにか
第 3 回 財務諸表の理論体系(1)
第 4 回 財務諸表の理論体系(2)
第 5 回 財務諸表の理論体系(3)
第 6 回 ROEの分解
第 7 回 トヨタ生産方式とキャッシュフロー経営(1)
第 8 回 トヨタ生産方式とキャッシュフロー経営(2)
第 9 回 トヨタ生産方式とキャッシュフロー経営(3)
第10回 Cash Conversion Cycle(1)
第11回 Cash Conversion Cycle(2)
第12回 アメーバ経営(1)
第13回 アメーバ経営(2)
第14回 授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
K.G.パレプほか『企業分析入門(第2版)』東京大学出版会2001年。
渋谷武夫(2011)『ベーシック経営分析(第2版)』中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC751J			
会計系列		備 考	
科 目 名	経営分析論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）		王　志

授業の概要・到達目標
企業における経営活動の結果が財務諸表という具体的な数値となって表れてくる。本授業では、財務諸表にある会計数値がどのように作られているか、またそれらをどのように改善するかについて深く考えていく。こうした会計数値の裏にあるリアルな経営をイメージできるようにしていく。
また、会計数値の分析に際して、統計学が必要となる場合があるため、統計学を学習することがある。
基本的には毎週グループ単位で報告してもらう。

授業内容
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 顧客収益性分析(1)
第 3 回 顧客収益性分析(2)
第 4 回 顧客収益性分析(3)
第 5 回 原価企画における販売価格の設定(1)
第 6 回 原価企画における目標原価の設定(2)
第 7 回 原価企画における目標原価の達成(3)
第 8 回 サービス業における原価企画
第 9 回 キャパシティ管理(1)
第10回 キャパシティ管理(2)
第11回 キャパシティ管理(3)
第12回 リードタイム管理(1)
第13回 リードタイム管理(2)
第14回 授業のまとめ

履修上の注意
本講義は毎回参加することが前提であり，無断で欠席することを固く禁じる。

準備学習（予習・復習等）の内容
授業用の資料や範囲については事前に伝えるので、予習して議論に参加できるようにすること。

教科書
特定の教科書がありません。

参考書
K.G.パレプほか『企業分析入門(第2版)』東京大学出版会2001年。
渋谷武夫(2011)『ベーシック経営分析(第2版)』中央経済社。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
講義における議論への参加度・貢献度（60%），研究発表や課題レポートなどの成績(40%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC771J			
会計系列		備 考	2026年度開講せず
科 目 名	国際会計論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特殊研究では，年間を通じて実証会計学に取り組む。国際会計論特殊研究Aでは，日本の会計制度の特徴とそのコンテクストにおける日本企業の会計政策のあり方に焦点を当てる。そしてそれらについて仮説を立て，実際の財務データによって検証を行うことによって，漸進的に会計理論を構築していく。抽象的に表現される会計理論は，経験的基礎付けを得てはじめて有効性を持ちうるからである。そのために，利益管理やキャッシュ・フロー指標（CFROIやEVA，FCFなど）について取り上げる。ただしこれらの会計現象を検討する作業は，あくまでも実証会計学による会計理論構築のための基礎であって，学説研究それ自体が目的ではないことに注意されたい。

講義では，日本企業における具体的な事例を考察しながら，日本における会計制度や日本企業の会計政策の特性について実証的に検討を進める。この分野は，ファイナンスにおいても豊富な研究成果が蓄積されており，日経NEEDSや東洋経済財務カルテなどの財務データベースを活用しながら実証的に研究を進めるため，ファイナンス理論及び多変量解析に関する一定程度の知識が求められる。

授業内容

第１回　国際会計論特殊講義A講義内容のガイダンス
第２回　会計学研究における経済学的アプローチ(1)
第３回　会計学研究における経済学的アプローチ(2)
第４回　会計学研究における経済学的アプローチ(3)
第５回　会計学研究における経済学的アプローチ(4)
第６回　会計制度の実証研究(1)
第７回　会計制度の実証研究(2)
第８回　会計制度の実証研究(3)
第９回　企業の会計政策の実証研究(1)
第10回　企業の会計政策の実証研究(2)
第11回　企業の会計政策の実証研究(3)
第12回　実証会計学に関するトピックス(1)
第13回　実証会計学に関するトピックス(2)
第14回　実証会計学に関するトピックス(3)

履修上の注意

国際会計論特殊研究はAとBによって成立するが、2025年度秋学期から2026年度春学期に向けて担当者が在外研究のため、2025年度秋学期の国際会計論特殊研究B及び2026年度春学期の国際会計論特殊研究Aは未開講となります。受講生は注意して履修して下さい。従って2026年度は国際会計論特殊研究Bのみの開講となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Paul B. Miller and Paul R. Bahnson, Quality Financial Reporting（McGraw-Hill，2002）あたりから始めたい。

参考書

山本昌弘『株とは何か』講談社，2011年。山本昌弘『実証会計学で考える企業価値と株価』東洋経済新報社，2009年。山本昌弘『会計制度の経済学』日本評論社，2006年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC771J			
会計系列		備 考	
科 目 名	国際会計論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　山本　昌弘		

授業の概要・到達目標

国際会計論特殊研究Ｂでは，国際会計基準への会計基準の世界統合，ユーロネクストなど資本市場の国際統合などを視野に入れて，国際会計論特殊研究Ａで学んだ実証会計学の体系を国際会計へと拡張する。実証会計理論（Positive Accounting Theory）に依拠しながら，その知見を国際的なコンテクストへと理論的かつ実証的に拡張していくものである。その際には，連結決算の対象は国内外を問わないこと，包括利益か純利益かといった差異が依然として国単位で残っていることなど，各国会計制度と企業の会計政策との相互作用に注目しながら，会計の経済的帰結にまで踏み込んで国際会計の理論構築を目指したい。

講義では，外国企業の英文Annual Reportsを活用する。欧米では，この分野は国際ファイナンスにおいて豊富な研究成果が蓄積されているため，国際ファイナンスについても触れることになる。さらにMergentやLexisNexisなどの世界的財務データベースを活用しながら実証的に研究を進めるため，ファイナンス理論及び多変量解析に関する一定程度の知識が求められる。

授業内容

第１回　国際会計論特殊講義Ｂ講義内容のガイダンス
第２回　一元的VS多元的な企業評価(1)
第３回　一元的VS多元的な企業評価(2)
第４回　一元的VS多元的な企業評価(3)
第５回　一元的VS多元的な企業評価(4)
第６回　各国会計制度の実証研究(1)
第７回　各国会計制度の実証研究(2)
第８回　各国会計制度の実証研究(3)
第９回　グローバル企業の会計政策の実証研究(1)
第10回　グローバル企業の会計政策の実証研究(2)
第11回　グローバル企業の会計政策の実証研究(3)
第12回　国際会計の実証研究に関するトピックス(1)
第13回　国際会計の実証研究に関するトピックス(2)
第14回　国際会計の実証研究に関するトピックス(3)

履修上の注意

国際会計論特殊研究はAとBによって成立するが、2025年度秋学期から2026年度春学期に向けて担当者が在外研究のため、2025年度秋学期の国際会計論特殊研究B及び2026年度春学期の国際会計論特殊研究Aは未開講となります。受講生は注意して履修して下さい。従って2026年度は国際会計論特殊研究Bのみの開講となります。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。復習として配布資料と教科書の突合せを行うこと。

教科書

Kees Camfferman and Stephen A. Zeff, Financial Reporting and Global Markets（Oxford University Press, 2007）あたりを考えている。

参考書

山本昌弘『多元的評価と国際会計の理論』文眞堂，2002年。山本昌弘『戦略的投資決定の経営学』文眞堂，1998年。山本昌弘他『行動経済学の理論と実証』勁草書房，2010年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度（発言内容など）を重視して評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC731J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

博士論文を執筆するため，また博士後期課程修了後のアカデミックあるいは実務のプロフェッショナルな職業に携わるのにふさわしいよう，金融や環境，コーポレートガバナンスなどの議論を重ねていく。

学術論文や会計基準(原文)などを読み，報告形式で行う。

授業内容

第１回　何が問題となっているのか
第２回　エクイティ・ファイナンス(新株予約権，転換社債型新株予約権付社債)
第３回　ストック・オプション
第４回　優先株式
第５回　負債と持分の区分
第６回　負債と持分の区分
第７回　退職給付
第８回　退職給付
第９回　金融商品
第10回　金融商品
第11回　排出権取引
第12回　排出権取引
第13回　デリバティブとヘッジ会計
第14回　デリバティブとヘッジ会計

会計基準の設定が，理論的な枠組みを考慮されて行われるだけではなく，投資家の要求に応える必要があるのかについて，考えていく。

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。博士論文のテーマは狭い範囲に留まるだけではなく，周辺に広げて論点を設定してほしい。受講者には文献講読や研究成果の報告を行っていただく。米国の会計基準や国際財務報告基準を原文で読解できる程度の英語力を必須とする。

なお，受講者には，文献講読や研究成果の報告を中心に行っていただく予定である。米国の会計基準や国際財務報告基準を原文で読解できる程度の英語力を必須とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文の準備のための調査や下調べは必ず行ってほしい。

教科書

IFRSや米国会計基準の他，ジャーナルを素材にする予定である。英文も含まれる。開講時に指定する。

参考書

開講時に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容で100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ACC731J			
会計系列		備 考	
科 目 名	会計情報論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　名越　洋子		

授業の概要・到達目標

博士論文を執筆するため，また博士後期課程修了後のアカデミックあるいは実務のプロフェッショナルな職業に携わるのにふさわしいよう，金融，連結，企業結合，コーポレートガバナンスなどの議論を重ねていく。

学術論文や会計基準(原文)などを読み，報告形式で行う。

授業内容

ここでは，投資家の要求など外部からの動きが会計基準の設定に影響を与えるのか，また後者が前者を意識して受容するようになるのか，さらに企業行動と会計基準の設定の間に相互関係はあるのかなどを分析する。

第１回　何が問題なのか
第２回　連結に含める範囲(親会社と子会社)
第３回　証券化と特別目的会社
第４回　証券化と特別目的会社
第５回　連結会計(投資と資本の相殺消去)
第６回　連結会計(子会社株式の売却)
第７回　特別目的会社の連結をめぐる国際的な動向
第８回　負債の概念の変化
第９回　負債の概念の変化
第10回　企業結合会計(株式移転による持株会社方式の経営統合)
第11回　企業結合会計(事例研究)
第12回　無形資産
第13回　無形資産
第14回　持株会社のコーポレートガバナンス

なお，受講者の文献講読や研究成果の報告を中心に行っていただく予定である。

履修上の注意

報告について積極的な姿勢を示してほしい。博士論文のテーマは狭い範囲に留まるだけではなく，周辺に広げて論点を設定してほしい。受講者には文献講読や研究成果の報告を行っていただく。米国の会計基準や国際財務報告基準を原文で読解できる程度の英語力を必須とする。

準備学習（予習・復習等）の内容

博士論文執筆のための調査や下調べは，必ず行ってほしい。

教科書

IFRSや米国会計基準の他，ジャーナルを素材にする予定である。英文も含まれる。開講時に指定する。

参考書

開講時に指定する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告時の内容で100％評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW721J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

OECDから公表されている移転価格税制のガイドライン(OECD TP Guideline)について読んでいく。本ガイドラインは数度にわたり改訂されており、現在も改訂作業が続いている。最新版は2025年1月に公表されるが、実務上、どのよう問題が改善されたかについて、これまでのバージョン毎に比較しながら議論を深めていく。

授業内容

第１回　イントロダクション　背景の説明および分担決め
第２回　OECD TP Guideline 2025 Chap 1
第３回　OECD TP Guideline 2025 Chap 2
第４回　OECD TP Guideline 2025 Chap 3
第５回　OECD TP Guideline 2025 Chap 4
第６回　OECD TP Guideline 2025 Chap 5
第７回　中間レポート作成
第８回　OECD TP Guideline 2025 Chap 6
第９回　OECD TP Guideline 2025 Chap 7
第10回　OECD TP Guideline 2025 Chap 8
第11回　OECD TP Guideline 2025 Chap 9
第12回　OECD TP Guideline 2025 Chap 10
第13回　まとめのレポート作成
第14回　総括

履修上の注意

英語の知識（読解能力）が十分にあることが望ましい。無断欠席は厳禁。

準備学習（予習・復習等）の内容

報告者以外も必ず予習してくること。また，日本語の参考文献の他に，必ず英語文献も参照すること。邦語の資料には往々にして，アップトゥーデートできていない情報もあるためである。

教科書

OECD, Transfer Pricing Guideline 2025

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度（20%），発表（30%）および期末レポート（50%）で評価する。レポート執筆は日本語でも英語でも可。

その他

科目ナンバー：(CO) LAW721J			
会計系列		備 考	
科 目 名	租税法特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Dr. jur.		松原　有里

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、OECD租税委員会が2020年3月に作成した租税行政のデジタル化についての最新レポート（“OECD Tax Administration 3.0:The Digital Transformation of Tax Administration”）を読む。ポストコロナ時代に、税務行政のデジタル化が世界各国で進んだが、そのスタンダードを決めたのが本レポートである。2025年現在、このレポートを基軸に、官と民の税務の専門家がそれぞれ、どのような対策をとってきているかについても検証する。検証対象は、例えば、E-invoicingや税務調査へのAIの活用などである。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　Chapter 1-1
第３回　Chapter 1-2
第４回　Chapter 2-1
第５回　Chapter 2-2
第６回　中間まとめ
第７回　Chapter 3-1
第８回　Chapter 3-2
第９回　Chapter 4-1
第10回　Chapter 4-2
第11回　総括
第12回　E-invoicing
第13回　Tax Investigation with AI
第14回　まとめ

履修上の注意

日本語だけでなく，英語の読解能力を十分に有すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

必要に応じて，授業中に個別に指示する。

教科書

www.oecd.org/ctp/beps-explanatory-statement-2015.pdfを各自ダウンロードすること。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加態度（20%），個別発表（30%），および期末レポート（50%）で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標

〈概要〉
金融論・貨幣理論の理論を学修する．具体的には、貨幣、貨幣と財政の関係、情報、裁量的政策と動学的不整合性、賃金の下方硬直性、ニューケインジアン・モデル、開放経済下の金融政策、金融市場と金融政策、近年の金融政策などを扱う．
〈到達目標〉
関連する最近の学術論文を自力で理解・追試できるようになることを目標とする．

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　準備(1)
第３回　準備(2)
第４回　準備(3)
第５回　準備(4)
第６回　準備(5)
第７回　準備(6)
第８回　文献報告・発表(1)
第９回　文献報告・発表(2)
第10回　文献報告・発表(3)
第11回　文献報告・発表(4)
第12回　文献報告・発表(5)
第13回　文献報告・発表(6)
第14回　文献報告・発表(7)

履修上の注意

輪読する文献は近年の学術誌に掲載された論文から、履修者と相談の上で決定する。また、学部程度の数学、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習は各自で行うことが求められる．

準備学習（予習・復習等）の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉安藤至大 (2013)『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア．
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社．
〈マクロ経済学〉二神孝一 (2017)『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社．
福田慎一・照山博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ．
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣．

教科書

特に指定しない．

参考書

Carl Walsh. Monetary Theory and Policy, fourth edition (The MIT Press), 2017
Enders, Walter (2010) “Applied Econometric Time Series,” Wiley.
Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom, Andrés Carvajal(2021)“Essential Mathematics for Economic Analysis”, Pearson.
Romer, David. 2018. Advanced Macroeconomics. 5th edition. McGraw-Hill Higher Education.
蓮見亮. 2020. 動学マクロ経済学へのいざない. 日本評論社.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での報告・発表(100%)で評価する．

その他

講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある．

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　Ph.D (Economics) 土屋　陽一		

授業の概要・到達目標

〈概要〉
金融論・貨幣理論の理論を学修する．具体的には、貨幣、貨幣と財政の関係、情報、裁量的政策と動学的不整合性、賃金の下方硬直性、ニューケインジアン・モデル、開放経済下の金融政策、金融市場と金融政策、近年の金融政策などを扱う．
〈到達目標〉
関連する最近の学術論文を自力で理解・追試できるようになることを目標とする．

授業内容

第１回　文献報告・発表(1)
第２回　文献報告・発表(2)
第３回　文献報告・発表(3)
第４回　文献報告・発表(4)
第５回　文献報告・発表(5)
第６回　文献報告・発表(6)
第７回　文献報告・発表(7)
第８回　文献報告・発表(8)
第９回　文献報告・発表(9)
第10回　文献報告・発表(10)
第11回　文献報告・発表(11)
第12回　文献報告・発表(12)
第13回　文献報告・発表(13)
第14回　文献報告・発表(14)

履修上の注意

輪読する文献は近年の学術誌に掲載された論文から、履修者と相談の上で決定する。また、学部程度の数学、ミクロ経済学、マクロ経済学の復習は各自で行うことが求められる．

準備学習（予習・復習等）の内容

ミクロ経済学とマクロ経済学の復習のための参考図書は以下のとおりである。
〈ミクロ経済学〉安藤至大 (2013)『ミクロ経済学の第一歩』有斐閣ストゥディア．
神取道宏(2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社．
〈マクロ経済学〉二神孝一 (2017)『マクロ経済学入門 第3版』日本評論社．
福田慎一・照山博司(2016)『マクロ経済学・入門 第5版』有斐閣アルマ．
齊藤誠・岩本康志・太田聰一・柴田章久(2016)『マクロ経済学 新版』有斐閣．

教科書

特に指定しない．

参考書

Carl Walsh. Monetary Theory and Policy, fourth edition (The MIT Press), 2017
Enders, Walter (2010) “Applied Econometric Time Series,” Wiley.
Knut Sydsaeter, Peter Hammond, Arne Strom, Andrés Carvajal(2021)“Essential Mathematics for Economic Analysis”, Pearson.
Romer, David. 2018. Advanced Macroeconomics. 5th edition. McGraw-Hill Higher Education.
蓮見亮. 2020. 動学マクロ経済学へのいざない. 日本評論社.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業内での報告・発表(100%)で評価する．

その他

講義は原則として上記計画に沿って進めるが、受講者の理解度に応じて内容や進度を調整することがある．

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

中央銀行や金融機関と金融システム，金融市場等に絡んだ学術論文を批判的に輪読する。そのプロセスで，学生は自ら研究すべきテーマを絞りこむことを目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　学術論文の輪読
第３回　学術論文の輪読
第４回　学術論文の輪読
第５回　学術論文の輪読
第６回　学術論文の輪読
第７回　学術論文の輪読
第８回　学術論文の輪読
第９回　学術論文の輪読
第10回　学術論文の輪読
第11回　学術論文の輪読
第12回　学術論文の輪読
第13回　学術論文の輪読
第14回　学術論文の輪読

履修上の注意

対象となる学術論文の多くは，英語で書かれたものである。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を熟読すること。

教科書

学生の研究分野を考慮の上，輪読する論文を指定する。

参考書

別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)と授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融機関論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士(経済学)・博士(経営学) 伊藤　隆康		

授業の概要・到達目標

中央銀行や金融機関と金融システム，金融市場等に絡んだ学術論文を批判的に輪読する。そのプロセスで，学生は自ら研究すべきテーマを絞りこむことを目標とする。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　学術論文の輪読
第３回　学術論文の輪読
第４回　学術論文の輪読
第５回　学術論文の輪読
第６回　学術論文の輪読
第７回　学術論文の輪読
第８回　学術論文の輪読
第９回　学術論文の輪読
第10回　学術論文の輪読
第11回　学術論文の輪読
第12回　学術論文の輪読
第13回　学術論文の輪読
第14回　学術論文の輪読

履修上の注意

対象となる学術論文の多くは，英語で書かれたものである。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に論文を熟読すること。

教科書

学生の研究分野を考慮の上，輪読する論文を指定する。

参考書

別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

レポート(50%)や授業への貢献度(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their PhD dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.
1-2. Discussions on preliminary results on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the final results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in graduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of graduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:
1) Hansen, B. (2022) Econometrics, Princeton University Press.
2) Hamilton, J. (1994) Time Series Analysis, Princeton University Press.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	証券市場論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　野田　顕彦		

授業の概要・到達目標

The purpose of this seminar is to provide advice to students writing their PhD dissertations and deepen students' understanding of financial econometrics as it applies to empirical work. The goal of this seminar is to enable students to criticize constructively other researchers' empirical research. Students will make presentations on their own research, on papers related to their own research, or financial econometrics textbooks.

授業内容

Schedules are subject to change. In such cases, announcements will be made in class.
1-2. Discussions on preliminary results on the dissertation
3-7. Reading related previous studies
8-12. Discussions on seminar participants' analysis on their thesis
13-14. Presentation of the final results of their theses

履修上の注意

I assume to have working knowledge in graduate-level microeconomics, macroeconomics, and econometrics, especially time series analysis.

準備学習（予習・復習等）の内容

This course assumes that students are required the basic knowledge and understanding of graduate-level econometrics. Students have to read the following textbooks to obtain the basic knowledge before they have this course:
1) Hansen, B. (2022) Econometrics, Princeton University Press.
2) Hamilton, J. (1994) Time Series Analysis, Princeton University Press.

教科書

There is no textbook for this class.

参考書

Details of relevant references will be handed out in the first class.

課題に対するフィードバックの方法

I will give students feedback on assignments or presentations at the beginning of each class.

成績評価の方法

Your course grade will be based on: reporting (50%) and contribution to class discussion

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

本講義では，機関投資家によるコーポレート・ガバナンスへの影響を理論的かつ実証的に考える。機関投資家のエンゲージメントの方法と効果について検討する。

授業内容

第１回　機関投資家のエンゲージメント分野のガイダンス
第２回　各国の機関投資家とコーポレート･ガバナンス比較(1)
第３回　各国の機関投資家とコーポレート･ガバナンス比較(2)
第４回　各国の機関投資家とコーポレート･ガバナンス比較(3)
第５回　各国の機関投資家とコーポレート･ガバナンス比較(4)
第６回　各国の機関投資家とコーポレート･ガバナンス比較(5)
第７回　事例研究(1) Hershey
第８回　事例研究(2) Honeywell
第９回　事例研究(3) Disney
第10回　事例研究(4) Coca-Cola
第11回　事例研究(5) Exxon
第12回　事例研究(6) Compaq
第13回　事例研究(7) Olympus
第14回　講義のまとめ

履修上の注意

機関投資家とコーポレート・ガバナンスに関する資料やニュースなどを積極的に調べること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に指示した内容については文献等で調べておくこと。

教科書

授業時に指示する。

参考書

授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度，貢献(50%)および課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	機関投資家論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）三和　裕美子		

授業の概要・到達目標

先進資本主義諸国の年金制度は、少子高齢化のもと財政における課題を抱えている。そのため公的・私的年金を問わず資金運用の問題の重要度が増している。本講義では、表的な機関投資家である年金基金に焦点をあて、その運用の方法論について獲得することを目標とする。

授業内容

第１回　年金基金における資産運用の意義
第２回　年金運用を取り巻く環境
第３回　年金運用におけるPlan-Do-Seeプロセス
第４回　ポートフォリオ理論
第５回　政策アセット･ミックス
第６回　各資産クラスの運用手法
第７回　コーポレート･ガバナンス
第８回　社会的責任投資
第９回　マネジャー･ストラクチャー
第10回　リバランスと運用評価
第11回　投資決定に関わる諸問題
第12回　資産運用業者の特質
第13回　年金運用とし投資先企業の社会的責任
第14回　講義内容の振り返り

履修上の注意

年金基金などの機関投資家に関する資料，ニュースなどを積極的に調べること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に指示した内容について文献などで調べておくこと。

教科書

授業時に指示する。

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加態度，貢献度(50%)および課題(50%)により総合的に評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業の概要

金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。資産運用の基礎的理論、日本の資本市場の実態を研究することを目的として、ポートフォリオ理論や資産評価理論の日本市場への応用可能性について、データを用いて検討する。数学的知識、統計分析の作業についても、必要に応じて、並行して学習する。

到達目標

金融取引論の分野における論文作成に資すると思われる知識を取得する。

授業内容

第１回　a　修士論文の内容に基づく学習計画に関する議論
　　b　学位請求論文作成に向けた具体的作業方針に関する議論
第２回　学会発表の方針に関する議論
第３回　学会発表に関する独創的な研究側面に関する議論
第４回　学会発表に関する統計的手法に関する議論
第５回　学会発表に関する先行研究の選定
第６回　学会発表に関する先行研究の精読･報告
第７回　学会発表に関するデータベース構築に関する議論
第８回　学会発表に関する最終確認と投稿作業
第９回　学会発表に関する投稿課題へのコメントに関する検討
第10回　学会発表に関する発展作業に関する検討
第11回　学会発表に関する先行研究の増補･選定
第12回　学会発表に関する統計的手法に関する改善
第13回　学会発表に関するデータベースの増補
第14回　a　今年度の学会発表に関する総括
　　b　次年度に向けての作業方針に関する議論

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50%
レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

科目ナンバー：(CO) ECN761J			
金融・証券系列		備 考	
科 目 名	金融取引論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）萩原　統宏		

授業の概要・到達目標

授業の概要

金融取引（投資・資金調達）の比較的最近の理論について学ぶ。資産運用の基礎的理論、日本の資本市場の実態を研究することを目的として、ポートフォリオ理論や資産評価理論の日本市場への応用可能性について、データを用いて検討する。数学的知識、統計分析の作業についても、必要に応じて、同時並行して学習する。

到達目標

金融取引論の分野における論文作成に資すると思われる知識を取得する。

授業内容

第１回　a　学位請求論文作成に向けた過去の作業履歴に関する振り返り
　　b　学位請求論文作成に向けた今年度の作業方針に関する議論
第２回　学術雑誌への投稿方針に関する議論
第３回　学術雑誌への投稿論文に関する独創的な研究側面に関する議論
第４回　学術雑誌への投稿論文に関する統計的手法に関する議論
第５回　学術雑誌への投稿論文に関する先行研究の選定
第６回　学術雑誌への投稿論文に関する先行研究の精読･報告
第７回　学術雑誌への投稿論文に関するデータベース構築に関する議論
第８回　学術雑誌への投稿論文に関する最終確認と投稿作業
第９回　学術雑誌への投稿論文に関するコメントに関する検討
第10回　学術雑誌への投稿論文に関する発展作業に関する検討
第11回　学術雑誌への投稿論文に関する先行研究の増補･選定
第12回　学術雑誌への投稿論文に関する統計的手法に関する改善
第13回　学術雑誌への投稿論文に関するデータベースの増補
第14回　a　今年度の学術雑誌への投稿作業に関する総括
　　b　次年度の作業方針に関する議論

履修上の注意

ある程度の数学的知識を要求するため、学部において数学関連の講義を履修していることが望ましい。また、修士論文作成において必要となる統計的手法を学ぶため、大学院において統計分析の手法を学ぶ講義を履修することが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容

毎回、プレゼンテーションを行いながら精読するため、資料作成･配布を通じて、毎回の予習復習を習慣づける。

教科書

『フィナンシャルエンジニアリング〔第9版〕―デリバティブ取引とリスク管理の総体系』ジョン ハル（きんざい）
『金融工学入門 第2版』デービッド･G.ルーエンバーガー（日本経済新聞出版社）
『企業価値評価 第6版[上][下]―バリュエーションの理論と実践』マッキンゼー･アンド･カンパニー（ダイヤモンド社）

参考書

使用する予定は無い。

課題に対するフィードバックの方法

適切な頻度で、学習内容についてまとめたレポートを作成･提出する。

成績評価の方法

授業への参加態度･貢献度　50%
レポート･プレゼンテーションのレベル　50%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM781J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

保険はリスクファイナンスの中心的手法である。そして，保険以外の代替的なリスクファイナンス（Alternative Risk Finance：ARF）手法と比較しより効果的なリスク処理手法を選択すべき局面が近年多くなってきていた。AIを活用してインシュアテックが進展する中で，リスクの証券化をはじめとしたリスクファイナンスのあり方そのものが新たな段階に入っている。

本授業ではまずは文献研究とケーススタディを通じて，現在のリスクマネジメント戦略とはどのようなものか検証していく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　保険とリスクマネジメントに関する文献紹介
第３回　保険理論
第４回　リスクマネジメントの進展
第５回　リスクと効用：経済学概念と意思決定ルール
第６回　モラルハザードと逆選択
第７回　ポートフォリオ理論とリスクマネジメント
第８回　資本市場理論
第９回　デリバティブとオプション：デリバティブの概要
第10回　デリバティブとオプション：オプションの概要
第11回　ケーススタディ part1：国内の事例
第12回　ケーススタディ part2：欧米の事例
第13回　ケーススタディ part3：新興国の事例
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

「保険とリスクマネジメント」を学ぶ上で，統計学や経済学など隣接分野との関連性が一段と深まっている。また，企業のリスクマネジメント戦略の枠組みを明らかにする上で，保険の領域からもコーポレート・ファイナンスの領域からもアプローチ可能になっている。これらの点を踏まえ，隣接領域にも関心を向けながら本授業に臨んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

受講生と相談の上で決定する。

参考書

N. Doherty, Integrated Risk Management, McGrawHill, 2000
ニール・ドハーティ著，米山高生＝森平爽一郎監訳『統合リスクマネジメント』中央経済社，2012年。
柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』(ベーシックプラス・シリーズ)，中央経済社，2018年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況(30％)により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM781J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　中林　真理子		

授業の概要・到達目標

保険はリスクファイナンスの中心的手法である。そして，保険以外の代替的なリスクファイナンス（Alternative Risk Finance：ARF）手法と比較しより効果的なリスク処理手法を選択すべき局面が近年多くなってきていた。AIを活用してインシュアテックが進展する中で，リスクの証券化をはじめとしたリスクファイナンスのあり方そのものが新たな段階に入っている。

本授業ではまずは文献研究とケーススタディを通じて，現在のリスクマネジメント戦略とはどのようなものか検証していく。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　リスクマネジメントのコスト
第３回　リスクマネジメントの導入のための意思決定
第４回　損失発生後の投資決定と損失の測定
第５回　損失発生後の資金調達
第６回　コンティンジェント・ファイナンス
第７回　コンティンジェント・レバレッジ戦略とハイブリッド負債
第８回　ヘッジと保険
第９回　組織形態とリスクマネジメント
第10回　ケーススタディ part1：大災害リスクの証券化
第11回　ケーススタディ part2：ウェザーデリバティブ
第12回　ケーススタディ part3：ファイナイト保険
第13回　ケーススタディ part4：財務再保険
第14回　全体のまとめ
※状況により授業内容は変更することがある。

履修上の注意

「保険とリスクマネジメント」を学ぶ上で，統計学や経済学など隣接分野との関連性が一段と深まっている。また，企業のリスクマネジメント戦略の枠組みを明らかにする上で，保険の領域からもコーポレート・ファイナンスの領域からもアプローチ可能になっている。これらの点を踏まえ，隣接領域にも関心を向けながら本授業に臨んでほしい。

準備学習（予習・復習等）の内容

・次回の授業で扱う内容については，事前に参考文献等で調べておくこと。
・授業で紹介した内容については，文献等で調べておくこと。

教科書

受講生と相談の上で決定する。

参考書

N. Doherty, Integrated Risk Management, McGrawHill, 2000
ニール・ドハーティ著，米山高生＝森平爽一郎監訳『統合リスクマネジメント』中央経済社，2012年。
柳瀬典由・石坂元一・山﨑尚志『リスクマネジメント』(ベーシックプラス・シリーズ)，中央経済社，2018年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加状況（70％）ならびの担当箇所の報告状況(30％)により評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM781J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本講義では、博士論文の作成を念頭において、博士論文の核となる論文を執筆する力を養成することを目標とします。具体的には、先行研究に基づいて研究テーマを設定し、データを分析します。その結果を論文として執筆し、国内の学術雑誌に投稿し、学術論文として公刊していく力を養成します。また、学術的貢献だけではなく、政策的含意について考える力を育成します。
本講義では、「企業と保険」、もしくは「家計と保険」を主な研究領域として想定していますが、受講生のバックグラウンド、関心次第では、受講生の研究分野における重要な学術論文、最先端の学術論文を読み進めていき、それらの分野でも学術論文を執筆できるようになることを目標とします。

授業内容
第 1 回 日本の読者に向けて論文を書く
第 2 回 研究分野のトップジャーナル･コアジャーナル
第 3 回 引用回数の多い論文を見つける
第 4 回 先行する研究をまとめる
第 5 回 先行する研究から研究課題を設定する
第 6 回 イントロダクションの書き方(国内の学術雑誌)
第 7 回 データの見つけ方、作り方(もしくは理論の構築)
第 8 回 データ分析(もしくは理論分析)
第 9 回 先行研究と変数の設定の仕方
第10回 結果の解釈の仕方
第11回 含意について考える
第12回 他の分野との接点について考える
第13回 国内の学術雑誌の編集の方針を見比べてみる
第14回 本講義に基づき執筆した論文の報告

履修上の注意
修士論文の執筆を通じて、受講者の関心のある学術領域における、先行研究のサーベイ（20本～ 50本の論文を読み進めてあること)が進んでいることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者の専攻する分野で論文を執筆する際に必要となる、実証分析、もしくは理論分析の手法に準備しておいてください。

教科書
本講義では、教科書は指定しません。国内外の学術論文（Journal of Risk and Insurance、Journal of Banking and Finance、Journal of Financial Economics、Journal of Financial Intermediationや金融経済研究、現代ファイナンス、生活経済学研究、保険学雑誌、損害保険研究、生命保険論集など）に掲載されていて、保険･金融･中小企業金融分野で、重要な学術論文となっている研究をもとにしながら講義を進めます。本講義内では、受講生の研究テーマに基づいて、論文リストを作成します。

参考書
参考書は指定しません。先行研究のサーベイの進め方の参考として、講義担当者の専門分野である、中小企業金融、保険需要分野、もしくは金融・保険教育分野で、重要な学術論文リストを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
本講義への貢献度（50%）、発表の内容（50%）に基づいて評価します。

その他
受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで、相談して進めていきます。

科目ナンバー：(CO) CMM781J			
保険系列		備 考	
科 目 名	保険リスクマネジメント論特殊研究B		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（経済学）浅井　義裕		

授業の概要・到達目標
本講義では、博士論文の作成を念頭に、博士論文の核となる論文を執筆する力を養成することを目標とします。具体的には、「先行研究から研究テーマ、仮説を設定する力」、「分析する力」、「学術的貢献、政策的含意を導く力」を養成し、学術雑誌、特に海外の学術雑誌に論文を投稿し、学術論文として公刊していく力を育成します。
また、先行研究が明らかにしてきたことと、その限界をうまく指摘できるようになることで、受講者の執筆した論文の学術的貢献が読者に伝わりやすくなることを学習します。さらに、得られた結果をより多くの分野の学術的貢献があるものとすること、政策的な含意のあるものとする力を育成します。

授業内容
第 1 回 海外の読者に向けて論文を書く
第 2 回 英文雑誌でのイントロダクションの書き方 1
第 3 回 英文雑誌でのイントロダクションの書き方 2
第 4 回 先行研究のまとめ方
第 5 回 データについて
第 6 回 分析
第 7 回 先行研究と変数の設定の仕方
第 9 回 結果の解釈の仕方
第10回 含意について考える
第11回 他の分野との接点について考える
第12回 海外の学術雑誌の編集の方針を見比べてみる
第13回 本講義を通じて執筆してみた論文の報告
第14回 Editor, Reviewerとのやり取りについて

履修上の注意
修士論文の執筆を通じて、受講者の関心のある学術領域における、先行研究のサーベイ（20本～ 50本の論文を読み進めてあること)が進んでいることが望ましい。

準備学習（予習・復習等）の内容
受講者の専攻する分野で論文を執筆する際に必要となる、実証分析、もしくは理論分析の手法を準備しておいてください。

教科書
本講義では、教科書は指定しません。主に、海外の学術論文（Journal of Risk and Insurance、Journal of Risk and Uncertainty、Journal of Banking and Finance、Journal of Financial Economics、Journal of Finance、Review of Financial StudiesやAmerican Economic Review、Journal of Political Economy、Quarterly Journal of Economics）などに掲載されていて、保険･金融･中小企業金融分野、金融･保険教育分野で、重要な学術論文となっている研究をもとにしながら講義を進めます。本講義内では、受講生の研究テーマに基づいて、論文リストを作成します。

参考書
参考書は指定しません。先行研究のサーベイの進め方の参考として、講義担当者の専門分野である、中小企業金融、保険需要分野、もしくは金融・保険教育分野で、重要な学術論文リストを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
本講義への貢献度（50%）、発表の内容（50%）に基づいて評価します。

その他
本講義では、受講生の研究テーマや希望を聞いたうえで、相談して進めていきます。

科目ナンバー：(CO) CMM761J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

≪授業の概要≫
　批判的実在論の視点から、交通理論のあり方を検討していきます。
≪到達目標≫
　主流派の交通理論に代替する批判的実在論に基づく交通理論の構築に向けた方向性を明確化していきます。

授業内容

第１回　方法論的個人主義の検討
第２回　方法論的集合主義の検討
第３回　構造とエイジェンシーの検討
第４回　合成論の検討
第５回　実在論の検討
第６回　構造化論の検討
第７回　形態転換モデルの検討
第８回　分離不可能性の検討
第９回　形態生成論の検討
第10回　システムと社会統合の検討
第11回　創発性の検討
第12回　形態生成論の二重性の検討
第13回　構造と文化の検討
第14回　まとめ

履修上の注意

　多様な視点から交通理論を検討するため，周到な報告準備が必要です。

準備学習（予習・復習等）の内容

　授業内容について、事前に疑問点を明らかにしてください。授業中に疑問点の理解を深め、復習に役立ててください。

教科書

『実在論的社会理論』マーガレット･アーチャー（青木書店）。

参考書

『弁証法』ロイ･バスカー（作品社）。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度(50%)と報告内容(50%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM761J			
交通系列		備 考	
科 目 名	交通理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　藤井　秀登		

授業の概要・到達目標

≪授業の概要≫
　交通理論の体系化に向けて、批判的実在論の視点からの考察を深めていきます。
≪到達目標≫
　本質論、構造論、体系論の三層構造から成る交通理論を確立していきます。

授業内容

第１回　知識の実践的文脈に関する検討
第２回　コミュニケーション的相互行為の検討
第３回　指示と意味の検討
第４回　理論化の検討
第５回　構造の検討
第６回　主体の検討
第７回　再生産の検討
第８回　因果作用と因果分析の検討
第９回　階層の検討
第10回　閉鎖系と開放系の検討
第11回　演繹主義の検討
第12回　量的方法の検討
第13回　反証主義の検討
第14回　まとめ

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

　授業内容について、自身の見解を整理しておいてください。復習時に、その内容を再確認して理解を深めてください。

教科書

『社会科学の方法』アンドリュー･セイヤー（ナカニシヤ出版）。

参考書

『弁証法』ロイ･バスカー（作品社）。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　参加態度(50%)と研究成果報告(50%)を総合して評価します。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

本特殊研究Aは新興国経済の貿易，ならびに貿易政策に関する学習を行う。

とりわけ，自由貿易協定（FTA）に代表される2国間協定や貿易統合，そして米中貿易戦争など，今日の貿易問題の課題を明らかにする。

授業内容

第１回　地域貿易統合の歴史Ⅰ
第２回　地域貿易統合の歴史Ⅱ
第３回　二国間貿易協定の特徴Ⅰ
第４回　二国間貿易協定の推移Ⅱ
第５回　CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定）Ⅰ
第６回　CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定）Ⅱ
第７回　CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定）Ⅲ
第８回　CPTPP（環太平洋パートナーシップに関する包括的および先進的な協定）Ⅳ
第９回　USMCA（米国･メキシコ･カナダ貿易協定）Ⅰ
第10回　USMCA（米国･メキシコ･カナダ貿易協定）Ⅱ
第11回　USMCA（米国･メキシコ･カナダ貿易協定）Ⅲ
第12回　USMCA（米国･メキシコ･カナダ貿易協定）Ⅳ
第13回　RCEP（東アジア地域包括的経済連携）Ⅰ
第14回　RCEP（東アジア地域包括的経済連携）Ⅱ

履修上の注意

国際貿易や世界経済に関する基礎的文献を講読すること。

準備学習（予習・復習等）の内容

受講者は毎週，指定した本を熟読し，予習してくること。

教科書

初回の授業中に話し合って決定する。履修生の各自の関心に沿って，教科書を選定する。

参考書

『米州の貿易・開発と地域統合』，所康弘，法律文化社，2017年。
『北米地域統合と途上国経済』，所康弘，西田書店，2009年。
『貿易入門』，所康弘ほか編，大月書店，2017年。

課題に対するフィードバックの方法

そのつど，回答する。

成績評価の方法

授業への貢献度・レジュメ発表や討論中の発言など(50%)，レポート提出(50%)で総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	貿易理論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（商学）　所　康弘		

授業の概要・到達目標

本特殊研究Bは現代の貿易問題を中心とした講義である。

とくに米中貿易戦争が持つ貿易史・世界史的な意味について，歴史的文脈の中で明らかにする。

授業内容

第１回　米中貿易戦争とは(事象面)Ⅰ
第２回　米中貿易戦争とは(事象面)Ⅱ
第３回　米中貿易戦争とは(事象面)Ⅲ
第４回　米国経済と貿易(背景面)Ⅰ
第５回　米国経済と貿易(背景面)Ⅱ
第６回　中国経済と貿易(背景面)Ⅰ
第７回　中国経済と貿易(背景面)Ⅱ
第８回　世界システム論から考える貿易戦争(理論面)Ⅰ
第９回　世界システム論から考える貿易戦争(理論面)Ⅱ
第10回　世界システム論から考える貿易戦争(理論面)Ⅲ
第11回　覇権論から考える貿易戦争(政治面)Ⅰ
第12回　覇権論から考える貿易戦争(政治面)Ⅱ
第13回　覇権論から考える貿易戦争(政治面)Ⅲ
第14回　講義のまとめ

履修上の注意

グローバリゼーションと貿易，貿易の歴史，貿易の世界史に関心をもつこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

事前に指定された本を熟読しておくこと。

教科書

初回の授業中に話し合って決定する。履修生各自の関心に沿って，教科書を選定する。

参考書

『米州の貿易・開発と地域統合』，所康弘，法律文化社，2017年。
『貿易入門』，所康弘ほか編，大月書店，2017年。
『北米地域統合と途上国経済』，所康弘，西田書店，2009年。

課題に対するフィードバックの方法

そのつど，回答する。

成績評価の方法

授業への貢献度を総合的に判断（50%），レポート課題の提出(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
　履修者各自の研究テーマに関する博士論文の執筆に向けて、おもに世界経済論関連の先行研究文献を講読、プレゼンや議論を通じて諸課題を明らかにしていく。具体的なテーマ内容は履修者の関心に応じて柔軟に対応する。
[到達目標]
　博士論文のテーマを固めていくことが、この授業の最大の目標である。

授業内容

第１回　研究テーマ･関心事項の報告１
第２回　文献講読と討論１
第３回　文献講読と討論２
第４回　文献講読と討論３
第５回　文献講読と討論４
第６回　研究テーマ･関心事項の報告２
第７回　文献講読と討論５
第８回　文献講読と討論６
第９回　文献講読と討論７
第10回　文献講読と討論８
第11回　研究テーマ･関心事項の報告３
第12回　文献講読と討論９
第13回　文献講読と討論10
第14回　文献講読と討論11

履修上の注意

　原則として毎回の発表が必要となる。決められた文献をまとめるだけでなく、関連研究などによる補足的な説明など、周到な準備を要求する。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回の発表のため、周到な準備をする。
　具体的には、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが中心となる。

教科書

　履修者の関心により決定するが、差しあたり次の文献を挙げておく。
　リチャード･フォーク『パワー・シフト－新しい世界秩序に向かって－』岩波書店。

参考書

　その都度、関連文献を数多く使用する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への貢献度　100％。

その他

　一研究者としての自覚をしっかりと持って下さい。

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	世界経済論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授		小林　尚朗

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
　履修者各自の研究テーマに関する博士論文の執筆に向けて、おもに世界経済論関連の先行研究文献を講読し、プレゼンや議論を通じて諸課題を明らかにしていく。具体的なテーマ内容は履修者の関心に応じて柔軟に対応する。
[到達目標]
　博士論文のテーマを固めていくことが、この授業の最大の目標である。

授業内容

第１回　博士論文の仮テーマ発表･討論
第２回　博士論文の中間報告
第３回　博士論文の中間報告
第４回　博士論文の中間報告
第５回　主要関連文献の講読と討論
第６回　主要関連文献の講読と討論
第７回　主要関連文献の講読と討論
第８回　博士論文の中間報告
第９回　博士論文の中間報告
第10回　主要関連文献の講読と討論
第11回　主要関連文献の講読と討論
第12回　主要関連文献の講読と討論
第13回　博士論文の中間報告
第14回　博士論文の中間報告

履修上の注意

　原則として毎回の発表が必要となる。周到な準備を要求する。

準備学習（予習・復習等）の内容

　毎回の発表のため、周到な準備をする。
　具体的には、先行研究の確認、最新の学術研究動向、現実社会の動向や学際研究の確認などが中心となる。

教科書

　履修者と相談の上決定する。

参考書

　随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

　授業への貢献度　100％。

その他

　一研究者としての自覚をしっかり持つとともに、世界経済の様々な側面に関心を持つようにしてください。

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特殊研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に博士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションを行い博士論文の研究を始める。

授業内容

春学期
第１回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第２回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第３回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第４回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第５回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第６回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第７回　課題選びのための先行研究･プレゼンテーション
第８回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第９回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第10回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第11回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第12回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第13回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第14回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

基本的に英語中心である。

科目ナンバー：(CO) CMM751J			
貿易系列		備 考	
科 目 名	国際ビジネス･コミュニケーション論特殊研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	専任教授　博士（学術）　塩澤　恵理		

授業の概要・到達目標

国際ビジネス・コミュニケーションの研究に必要な専門的知識を習得すると同時に博士論文のテーマ選定に必要な文献研究を行う。国内外の最新の研究成果をジャーナル及び最新の出版物をもとにプレゼンテーションを行い博士論文の研究を引き続きすすめる。成果を発表し，論文執筆を開始する。

授業内容

秋学期
第１回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第２回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第３回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第４回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第５回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第６回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第７回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第８回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第９回　課題及び仮説の絞り込み･プレゼンテーション
第10回　論文執筆･プレゼンテーション
第11回　論文執筆･プレゼンテーション
第12回　論文執筆･プレゼンテーション
第13回　論文執筆･プレゼンテーション
第14回　論文執筆･プレゼンテーション

履修上の注意

事前の準備は不可欠である。

準備学習（予習・復習等）の内容

新しい着眼点を次回の授業中で発表できるように予習，復習は不可欠である。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

積極的な参加態度　50%
発表，ディスカッション　50%を総合的に判定する。

その他

基本的に英語中心である。

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	実践商学研究A		
開 講 期	春学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師　藤森　浩樹		

授業の概要・到達目標

グローバル企業について，その経営戦略の策定プロセスを具体例なケースを解説し，その策定における実践的な要諦を理解していく。企業は，常時変化する経営環境の下に置かれ，グローバルな企業活動を展開。その中における多様なビジネス機会，リスクや問題について，実例を通じて把握する。加えて，これらのビジネス機会の実現，リスクや問題の改善や解消を迅速に円滑に図るべく，その最適な対応策や採るべき選択肢を検討していく。

現実のビジネス世界における経営戦略の策定プロセスを実感した上で，それに携わる人材となることを目指すもの。

授業内容

第１回　講義概要とイントロダクション
第２回　グローバルな経営環境とその認識：世界潮流：世界の主要ビジネストレンド
第３回　グローバルな経営環境とその認識：世界潮流におけるビジネスチャンス創出とリスク予見
第４回　グローバルな経営環境とその認識：ケース：バラスト水管理条約に伴う中東・豪州向け水輸出ビジネス案
第５回　経営戦略の策定プロセス・中長期の経営理念と将来像としてビジョンの策定
第６回　経営戦略の策定プロセス・事業領域ならびにグローバル・ポートフォリオ/新規事業参入並びに撤退
第７回　経営戦略の策定プロセス・グローバル化と事業ポートフォリオに対応した業態変革・組織変革
第８回　経営戦略の策定プロセス・事業領域別ビジネスチャンスとリスク予見/対応策(例：新型インフルエンザ対策等)
第９回　経営戦略の策定プロセス・最新国際経営トレンド(経営手法：クロスボーダー M & A，CSR，環境経営，IR・ブランド確立)・ケース：日系総合商社(乃至米系多国籍企業)の中期経営戦略
第10回　海外戦略の概要と課題：進出国の政治，法律，経済システムへの実践的な対応
第11回　海外戦略の概要と課題：直面する主な障害（インフラ，労働，社会文化，慣習）
第12回　海外戦略の概要と課題：直接投資(販売・生産拠点設置)における提携，買収進出に関わる課題
第13回　海外戦略と企業文化の移転と国際マネジメントにおける課題・本社－海外子会社関係：現地化とグローバル化のバランス
第14回　海外戦略と企業文化の移転と国際マネジメントにおける課題・グローバルな人的資源管理/国際人事システム，国際R & Dへの取り組み・グローバル・マーケティング，グローバル・サプライ・チェーン形成と強化

履修上の注意

可能な限り，担当講師による実践商学特論A，Bの受講を求める。ただし，履修要件とはしない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講師が手交する資料を熟読するほか，積極的に関連項目やデータ収集の作業を必要とする。

関連資料を自ら調べること。関連資料については適宜紹介する。

講師が授業にて指示した内容については，文献を調べたり，データを確認したりしておくこと。

教科書

講師の作成資料を手交する。
その他適宜開講時に指示する。

参考書

同上
早稲田大学出版部
現代総合商社論
三菱商事・ビジネスの創造と革新

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業における討論への参加姿勢や課題への取組姿勢，グループ内での意見取りまとめといった授業への貢献度を評価の対象とする。

当然ながら講師への質問・意見の内容も含む。最終レポートなどの内容を評価する。

授業への参加度　10%
授業における積極性(参加姿勢や課題への取組姿勢)　40%
授業への貢献度(グループ内の意見取りまとめ等)　30%
レポートや課題　20%

その他

科目ナンバー：(CO) CMM711J			
系列共通研究		備 考	
科 目 名	実践商学研究B		
開 講 期	秋学期	単 位	講2
担 当 者	兼任講師　藤森　浩樹		

授業の概要・到達目標

冷戦後に自由経済化へ政策転換したインドやその成長性持続が着目される東南アジア，潤沢な原油・天然ガスを背景に産業多角化を目指す中東を採り上げ，各地域経済の経営環境を概観，その躍動するビジネス潮流に焦点をあてる。特に，日本企業が関係する産業分野の中からケーススタディーし，その成否を把握する。成功事例で成功要因の貢献度を分析。失敗事例では，リスク回避の方策や進出国政府への改善要請といった対応策を検討する。最終，可能限り，具体的な事業におけるビジネスチャンスとリスクにつき，その事業戦略の立案乃至修正の提言を試みる。

現実のビジネス世界における経営戦略の策定プロセスをケーススタディを通じ，具体的な戦略を検討することを目指すもの。

授業内容

第１回　イントロダクション
第２回　インドの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース①　小型車セグメントで強みを生かす日系自動車大
第３回　インドの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース②　生産拡大もインドで労務問題に直面する韓国自動車大手
第４回　インドの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース③　日系と提携しつつ海外展開にも着手するインド携帯電話事業大手
第５回　インドの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース④　日系企業を追い抜き，トップシェアを維持する韓国電子大手
第６回　中東の経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑤　通貨危機で戦略転換したトルコ進出の日系自動車企業
第７回　中東の経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑥　グローバル人材と地政学的位置を活用するUAE大手航空
第８回　中東の経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑦　天然ガスの利用拡大で受注を増やす日系プラント企業
第９回　東南アジアの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑧　国家戦略を担いアジア投資を重視するシンガポールの国家ファンド
第10回　東南アジアの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑨　マレーシアでイスラム金融に取り組む大手日系損保
第11回　東南アジアの経営環境とビジネスチャンス/リスク：ケース⑩　日系総合商社の対東南アジア戦略
第12回　総括：インドのケースの討論と総括
第13回　総括：中東のケースの討論と総括
第14回　総括：東南アジアのケース討論と総括

履修上の注意

可能な限り，担当講師による実践商学特論A，Bの受講を求める。ただし，履修要件とはしない。

準備学習（予習・復習等）の内容

講師が手交する資料を熟読するほか，積極的に関連項目やデータ収集の作業を必要とする。

関連資料を自ら調べること。関連資料については適宜紹介する。

講師が授業にて指示した内容については，文献を調べたり，データを確認したりしておくこと。

教科書

講師の作成資料を手交する。
その他適宜開講時に指示する。

参考書

同上
早稲田大学出版部
現代総合商社論
三菱商事・ビジネスの創造と革新

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業における討論への参加姿勢や課題への取組姿勢，グループ内での意見取りまとめといった授業への貢献度を評価の対象とする。

当然ながら講師への質問・意見の内容も含む。最終レポートの内容を評価する。

授業への参加度　10%
授業における積極性(参加姿勢や課題への取組姿勢)　40%
授業への貢献度(グループ内の意見取りまとめ)　30%
レポートや課題　20%

その他

交通遅延発生時の授業等の措置について

緊急時には、Oh-o! Meiji システム又は本学ホームページ等でお知らせを配信しますので、必ず確認するようにしてください。

1　悪天候等により大規模な交通遅延が予想される場合

悪天候等により、授業日に大規模な交通遅延が予想され、授業の臨時休講等の特別な措置を講じる場合には、当該授業開始時間の3時間前までを目途に、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。

2　本学への通学における主要交通機関に遅延が生じた場合

本学の各キャンパスへの通学における主要路線に大規模な遅れや運休が生じた場合は、急遽特別な措置を講じる場合があります。その場合には、本学ホームページ・Oh-o! Meijiシステムを通じてお知らせします。

なお、自身が利用する交通機関の遅延・運休により、授業を遅刻または欠席せざるを得なかった場合は、交通機関にて遅延証明書等を入手したうえで、各授業担当教員にご相談ください。

大規模地震等災害発生時の対応について

1　大規模地震発生時の行動

授業中に大規模地震が発生した場合は、あわてず次のような安全行動をとり、館内放送の指示に従ってください。本学の建物は耐震建築又は耐震補強がなされており、容易に倒壊することはないと想定しています。

（1）地震発生時の行動

身の安全を図り、揺れがおさまるまで次の事項に留意し、冷静に行動してください。（大きな地震でも１～２分で揺れはおさまります。）

・机の下に隠れる、衣類や鞄等で頭を覆う等の安全行動をはかり、落下物から身を守ってください。
・自動販売機、ロッカー等は倒れたり、窓ガラスが割れたりすることでケガをする恐れがあるため、近寄らないでください。

（2）地震直後の行動

大きな地震の後には、必ず余震が来ると思ってください。余震を念頭におきながら、次の事項に留意し、冷静に行動してください。

・余震に注意し、避難口を確保してください。避難口確保の際は、各教室に備え付けのドアストッパーを利用してください。あわてて外に出るとかえって危険な場合があります。
・ガスの元栓・コンセント等、火の元を確認してください。出火した場合は、消火器等を利用した初期消火活動を行うとともに、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。
・教室内の安全を確認してください。

（3）地震後の行動

・傷病者がいる場合、最寄りの防災センター・守衛所に連絡してください。
・教室内の安全の再確認及び周囲の状況の確認をしてください。

（４）避難行動

・地震が発生しても身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災、壁に大きな亀裂が入るなど躯体への影響が懸念される場合、薬品漏出、実験機器転倒の恐れ等がある場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により、各建物ごとに指定された「一時集合場所」へ移動してください。

・授業中の場合は、授業の受講者単位で移動してください。

・傷病者や身体障がい者の避難をサポートしてください。

・屋外に避難する時は、衣類や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守ってください。地面の亀裂や陥没、隆起及び塀や電柱の倒壊に注意してください。

・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

・各キャンパスの一時集合場所は、明治大学ＨＰ内にある「明治大学防災ガイド」（https://www.meiji.ac.jp/koho/disaster/guide/index.html）を確認してください。

（５）帰宅困難対策について

大規模地震が発生した場合、交通機関が麻痺し帰宅困難となる場合があります。無理に帰宅せず、大学施設等の安全な場所に留まるようにしてください。なお、大学では、非常用の食料等を備蓄しています。

2　火災発生時の対応

（１）火災を発見した場合の行動

・大声で「火事だ」と叫び、周りの人に知らせてください。

・最寄りの防災センター・守衛所・事務室に連絡してください。

・消火栓の火災報知器ボタンを押してください。

・消火できそうな火災は、消火器等を利用して初期消火にあたってください。

（２）初期消火のポイント

・炎や煙に惑わされず、燃えているものを確かめてください。

・燃えているものに適した消火器等を使用し、適切な距離（3～5m）から消火してください。

・出来るだけ多くの人で消火器等を集めて、一気に消火してください。

・２か所以上から同時に出火していたら、人命に影響を及ぼす場所の消火を優先してください。

（３）避難行動

・煙が発生した場合には、姿勢を低くし、ハンカチを口と鼻にあてるなどして煙を吸わないようにしてください。

・建物内で火災が発生した場合、その煙・熱等で感知器が作動し、自動で防火戸・防火シャッターが閉鎖します。避難する前に防火戸が閉まった場合は、避難方向に出られるよう開けられます。

・防火戸・防火シャッターが自動で閉鎖しない場合は、煙の拡散を防ぐために必ず手動で閉めるようにしてください。

・避難には必ず階段を利用し、エレベーター及びエスカレーターは使用しないでください。

3　災害発生時の連絡方法

（1）非常時には、電話線の切断、故障、電話パニック等のため、電話がつながりにくくなります。また、大学では家族から学生の安否の問い合わせがあっても、個別の確認には即座に対応できないことがあります。普段から、非常時の連絡方法について、家族、友人又はクラス・ゼミ単位で話し合っておいてください。(遠方の親戚や友人を安否確認の中継点にする・災害用伝言ダイヤル・災害用伝言板（Web171）・Google パーソンファインダー等を利用するなど。)

（2）大学からの情報の伝達・安否確認については地震発生後、体制が整い次第、ＨＰ及び所属の学部事務室等から「Oh-o！Meiji システム」を通じてお知らせしますので、その指示に従ってください。

また、補助的手段として、X（旧 Twitter）からも情報発信を行います。以下の大学のアカウントをフォローしておくことをお勧めします。

明治大学公式アカウント(@Meiji_Univ_PR)

《参考》

‥**災害発生時の公衆電話**‥

災害が発生し、加入電話の発信が規制されると、緊急通報（１１９）も含めて電話がかかりにくくなります。そうした時は、比較的公衆電話がつながるようです。あらかじめ公衆電話がどこにあるか確かめておきましょう。災害救助法が適用される規模の災害が発生した際に運用されますが、電力会社からの送電が止まっても、ＮＴＴ回線がつながっていれば、無料で電話がかけられます。

4　平常時の備え

（1）大学ＨＰに掲出の「明治大学防災ガイド」には避難マニュアル、避難場所、備蓄品、帰宅困難時の対応、応急手当など災害時に必要な情報が載っています。必ず確認をしてください。

（2）非常時に備え、避難経路、避難先等を確認しておいてください。避難路（通路、階段等）には物を置かないようにし、出入口周辺のロッカー、戸棚等の転倒防止などを実施してください。また、落下物防止の観点から、ロッカー、戸棚等の上には物を置かないようにしてください。

（3）火災の発生に備え、消火器・消火栓の位置、使用方法を確認しておいてください。

（4）実験室や研究室では化学薬品や発火物等の危険物の安全対策を施してください。

（5）応急手当の方法を身につけてください。また、機会を見つけて防災訓練、救急救命訓練等に参加してください。

大規模地震発生時の避難マニュアル（駿河台キャンパス）【学生用】

大規模地震発生時の初動マニュアル

地震発生時の行動

（1）身の安全の確保！（落下物に注意）

机の下などへ！書棚・ロッカー等の備品から離れる。

地震直後の行動

（1）余震に注意

天吊りプロジェクターやガラスからは離れる。

（2）火の元確認。初期消火！

出火した時は、落ち着いて消火活動と各建物の防災センター／守衛所に通報する。

（3）避難口の確保、避難場所の確認

出入口等を開け、逃げ道を確保する。

あわてて外部に出るとかえって危険な場合がある。

（4）館内放送に注意、その指示に従う。

（5）教室の安全を確認

声をかける、傷病人がいないか確認する。

地震後の行動

（1）館内放送の指示に従う。

（2）教室の安全を再確認

傷病人がいないか再度確認し、いた場合は、各建物の防災センター／守衛所に通報する。

（3）周囲の状況を確認する。

火の元を確認する。

以下、大規模地震発生時の避難フローへ

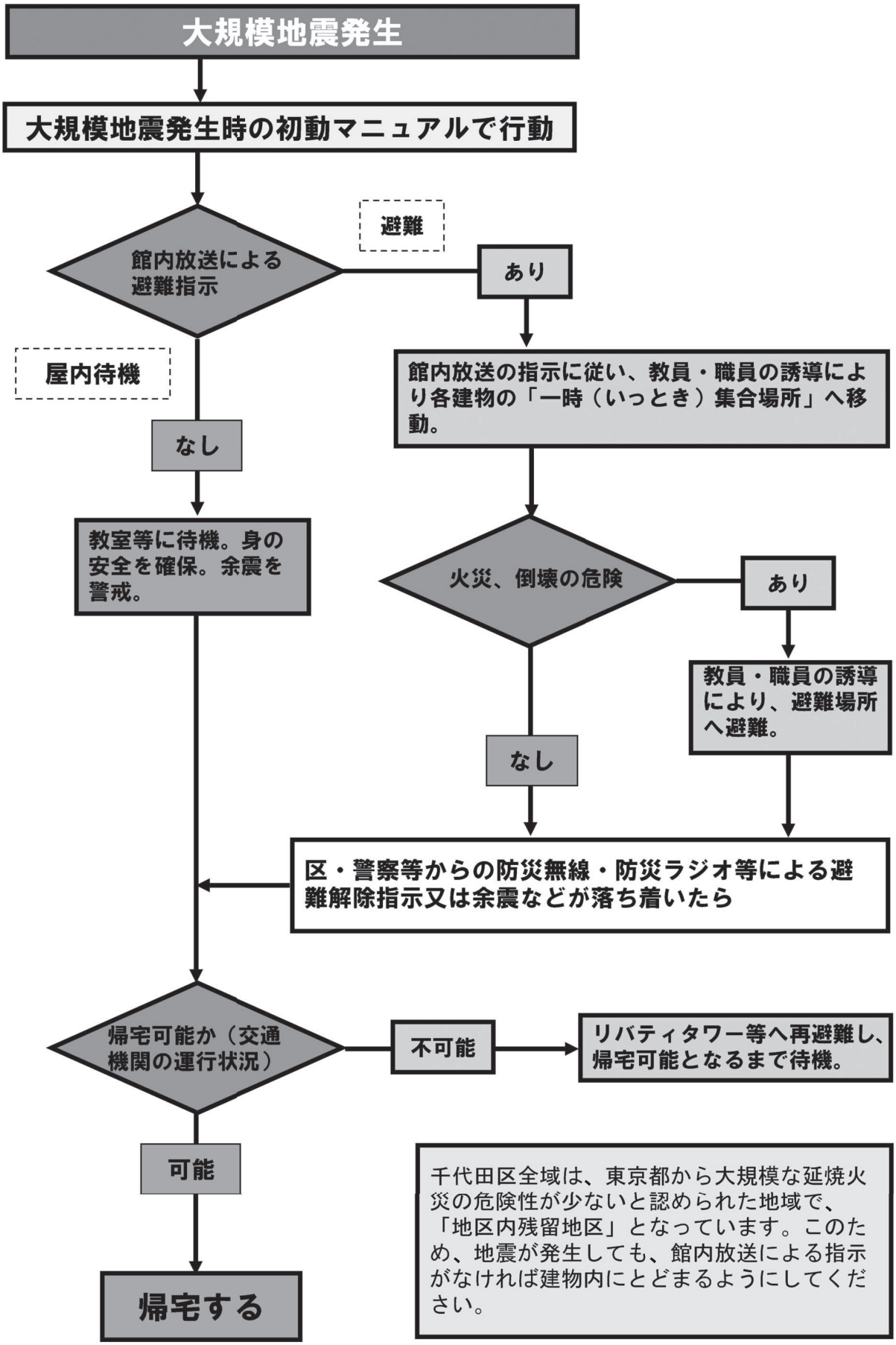
緊急連絡先：

リバティタワー防災センター（03-3296-4445）

アカデミーコモン防災センター（03-3296-4498）

2018年4月改訂　明治大学

大規模地震発生時の避難フロー



大規模地震発生時にはこうしよう

【日常的な備え】
教室内に、①大地震・火災が発生した場合の対応、②避難経路図を掲出していますので確認してください。リバティタワーやアカデミーコモンの非常用エレベーター付近の消火栓扉内には、防災センターに通じる非常電話を設置しています。教室内の電話と併せて確認してください。

【地震時の心構え】－落ち着いて行動－
地震時の生命の危険性は、発生した瞬間とその後に起こる火事にあると言われています。大きな揺れでも１～２分です。まずは、身の安全を確保して、落ち着いて行動をしてください。本学の建物は、耐震建築又は耐震補強がなされており、建物が容易に倒壊するということはないと想定しています。

【地震発生時の行動】－身の安全確保－　＜自助＞
落下物や転倒物から身の安全を確保するため、机の下に隠れたり、天吊りプロジェクター、窓ガラス、自動販売機、ロッカーなどから離れるようにしてください。

【地震直後の行動】－避難口の確保と火の始末－
小さな揺れのときや大きな揺れがおさまったときに、出入口を開けて避難口を確保するとともに、速やかに火の始末を行ってください。

【地震後の行動】－状況確認と救出・消火－　＜共助＞
余震に注意しながら、周りの状況を確認し、傷病人等助けを必要とする人や、火災を発見したら、周りの人と協力して対応するとともに、最寄りの事務室や防災センター／守衛所にも連絡をしてください。（事務室等から１１９番通報します。）消火の際は、身の安全を第一に考え、消火器では消えないような火災のときは、無理に消そうとせず、直ちに避難してください。

【エレベーター】
大きな地震の時は最寄り階に止まるように設定されていますが、乗っているときに地震に気づいた際は、全ての階のボタンを押して、停止した階で降りてください。また、万が一、降りられなくなったら、エレベーター内の非常ボタンを数秒間押して警備員に連絡した後、エレベーター保守業者による救助を待ってください。（閉じ込めの発生しているエレベーターは業者の最優先対応となります。）

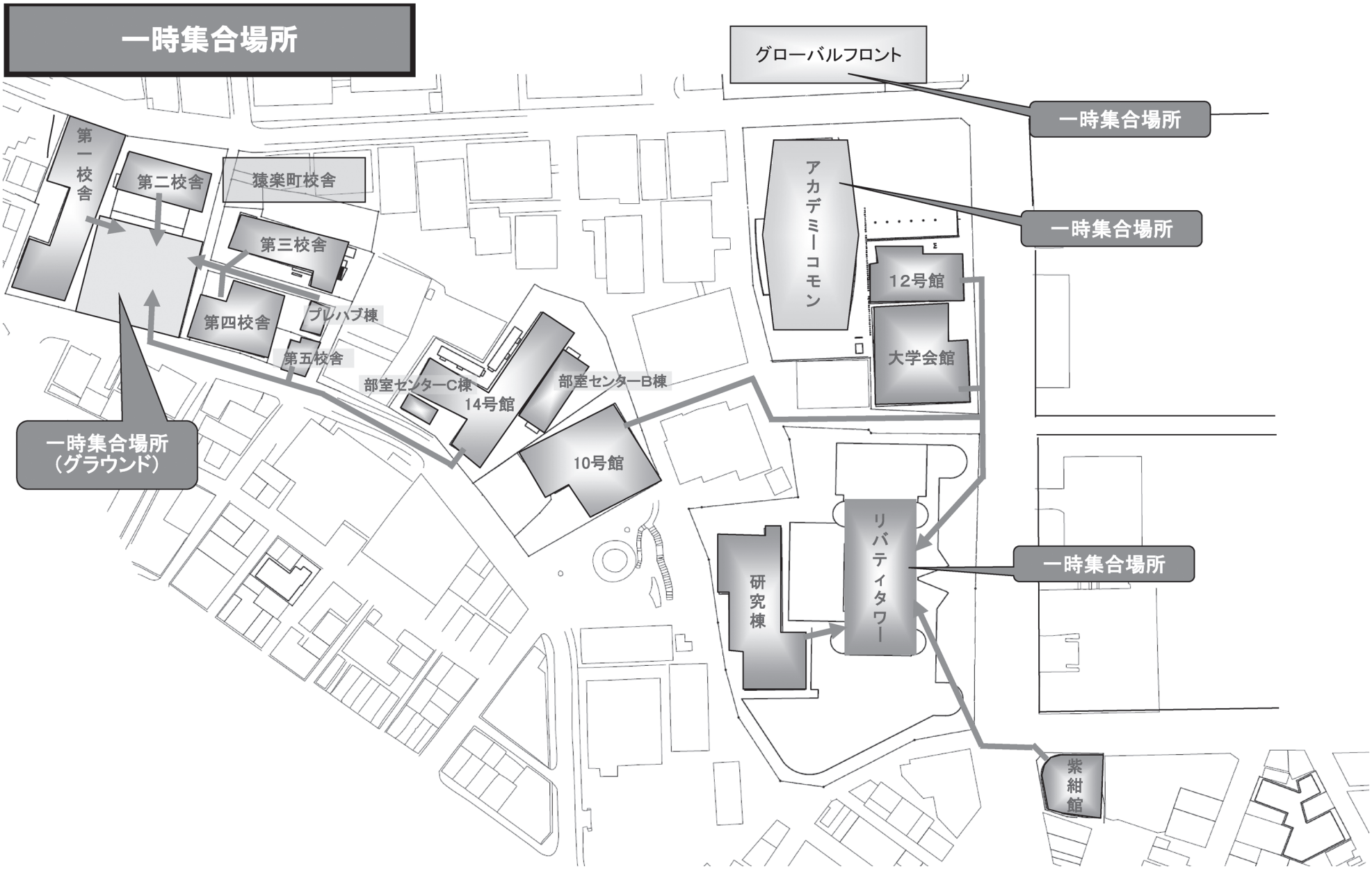
【屋外避難】
地震が発生しても、身近に危険がなければ避難する必要はありません。しかし、館内や近隣での火災や、壁に大きな亀裂が走るなど躯体への影響が懸念される場合には、屋外へ避難することになります。その際は、館内放送の指示に従い、教員・職員の誘導により各建物で指定する「一時（いっとき）集合場所」へ移動してください。その後、千代田区指定の避難場所に移動します。なお、授業中に地震が発生した場合は、授業単位で避難するようにしてください。
※駿河台キャンパスでは、原則　大きな揺れがあった際は、各建物の防災センター／守衛所から館内放送を行います。（なお、猿楽町第五校舎は館内放送設備がないためハンドマイク等で対応します。）

【本学の一時（いっとき）集合場所の指定】
各建物の一時集合場所は、原則として次のように指定します。ただし、状況に応じて変えることもありますので、館内放送に注意してください。
○リバティタワー、研究棟、大学会館、12号館、紫紺館、10号館
　⇒リバティタワー（低層階教室）
○アカデミーコモン⇒A1～A6会議室（2階）
○グローバルフロント⇒グローバルホール、多目的室（1階）
○14号館、猿楽町校舎⇒猿楽町第一校舎グラウンド

【千代田区内の避難場所】
千代田区は、全域が東京都の調査により建物の不燃化が進み、大規模な延焼火災の危険性が少ないと認められた地域のため、「地区内残留地区」となっています。このため、地震発生の際はすぐに避難を開始するのではなく、建物内にとどまり、被災状況を把握し、万が一危険を感じた場合は、に避難することとなっています。
本学では、千代田区内で指定された、「災害時退避場所」のうち、次の場所を「避難場所」とします。
①北の丸公園、②皇居東御苑、③皇居外苑
※避難時には、①～③のいずれかを指定し、館内放送、避難誘導により周知します。

【大学からの情報の伝達・安否確認】
地震発生後、体制が整い次第、大学ＨＰ及び所属の学部事務室から「Oh-o！Meiji システム」を通じてお知らせします。その際に大学への安否連絡方法もお知らせしますので、その指示に従って御連絡ください。Ｘ（公式アカウント@Meiji_Univ_PR）でも情報発信を行います。

一時集合場所


グローバルフロント
一時集合場所
第一校舎
第二校舎
猿楽町校舎
第三校舎
第四校舎
プレハブ棟
第五校舎
部室センターC棟
14号館
部室センターB棟
10号館
一時集合場所
（グラウンド）
アカデミーコモン
一時集合場所
12号館
大学会館
研究棟
リバティタワー
一時集合場所
紫紺館

明治大学大学院
商学研究科 ☎03-3296-4704

〒101-8301　東京都千代田区神田駿河台 1-1
明治大学大学院事務室